

平成 2 7 年度

〔 2 0 1 5 〕

履 修 の 手 引

【 大 学 院 】

本手引の内容は Web ポータルにも登載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。
(トップページの「大学インフォメーションから
「教育プログラム」へ進んでください。)

本手引の第 2 章「講義概要」は抜粋版です。
詳しい「講義概要」については、Web ポータルで確認してください。

<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/syllabusgaku/>

この冊子は 2015（平成 27）年度入学生用です。2014（平成 26）年度以前入学生は「自分の入学した年度の履修要件（修了要件を含む）」を確認してください。

また、この冊子に記載された授業担当者は、2015（平成 27）年度の担当者です。2016（平成 28）年度以降、変更される可能性があります。

滋賀県立大学大学院 学位授与方針（ディプロマポリシー）

滋賀県立大学大学院では、修了時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を以下のとおり定めます。これらの能力を獲得するとともに、所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した学生に、学位を授与します。

学位：修士 【博士前期課程・修士課程】

博士前期課程・修士課程は、学術の理論および応用を十分に理解し、文化の進展に寄与する
とした目的に沿って研究を行い、高い倫理観と高度な専門知識を身につけ、専門分野における
高い研究能力、あるいは職務遂行能力を身につける。

学位：博士 【博士後期課程】

博士後期課程は、学術の理論および応用を十分に理解し、文化の進展に寄与する
とした目的に沿って研究を行い、専門分野において研究者として自立した研究活動を行うための高い倫理
観と高度な研究能力、あるいは、より高い専門性が要求される職務を遂行するに十分な能力を
身につける。

滋賀県立大学大学院 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

滋賀県立大学大学院は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」として、高度な研究能力と専門
知識を持つ人材の養成をめざすとともに、社会人の再教育機関として、独創性、広い視野をあわ
せもつ次世代の研究者を養成するため、環境科学研究科、工学研究科、人間文化科学研究科、人間
看護学研究科を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

A. 専門科目

幅広い知識、基礎学力と学際的・国際的な視野を身につけ、生涯にわたり社会に貢献でき
る態度と、より高度で専門的な知識と卓越した技術・技能を修得するための講義科目や演習
科目を配置します。

B. 特別演習・特別研究

国内外の著書・論文等の資料収集や輪講を行い、研究分野における概念や技術を学ぶとと
もに、研究を遂行する上で必要となる基礎的・応用的知識、調査能力や問題解決能力、研究
手法などを修得し、高度な研究能力とその成果を学位論文としてまとめる能力を養います。

C. 副専攻

高い専門性の上に、幅広い視野に立って様々な問題を解決へ導く学際的・総合的な知識と
実践力を修得するための教育システムとして、全研究科共通の副専攻である近江環人地域再
生学座を設置します。

学座では、豊かな自然・歴史・文化に根ざし、環境と調和した持続可能な循環型地域社会
の実現を担うリーダー、コーディネーターであるコミュニティ・アーキテクト（近江環人）
としての知識とスキルの修得を目指します。

目 次

第1章 科目履修の手引

1	学期および授業	1
2	履修の登録	2
3	成績評価および単位の認定	2
	滋賀県立大学大学院履修規程	4
	滋賀県立大学学位規程	6

第2章 博士前期課程講義概要

環境科学研究科博士前期課程	科目履修の手引	11
	◆環境動態学専攻	13
	◆環境計画学専攻	14
	開講科目の講義概要	19
工学研究科博士前期課程	科目履修の手引	41
	◆材料科学専攻	41
	◆機械システム工学専攻	45
	◆電子システム工学専攻	48
	開講科目の講義概要	52
人間文化科学研究科博士前期課程	科目履修の手引	75
	◆地域文化学専攻	75
	◆生活文化学専攻	78
	開講科目の講義概要	86
人間看護学研究科修士課程	科目履修の手引	115
	◆人間看護学専攻	115
	開講科目の講義概要	127
副専攻近江環人地域再生学座の履修について		147
	開講科目の講義概要	149

第3章 博士後期課程講義概要

環境科学研究科博士後期課程	科目履修の手引	153
	開講科目の講義概要	156
工学研究科博士後期課程	科目履修の手引	163
	開講科目の講義概要	165
人間文化科学研究科博士後期課程	科目履修の手引	169
	開講科目の講義概要	172

第4章 資格取得等の手引

1	本学における教育職員専修免許の取得について	177
2	建築士試験の受験資格にかかる大学院での実務経験について	185
3	近江環人（コミュニティ・アーキテクト）の称号取得について	185
4	キャリア教育について	186
	開講科目の講義概要	188

科目索引	189
------	-----

【第 1 章 科目履修の手引】

1 学期および授業

(1) 学期

本学は、1 学年を前期と後期に分ける**前期・後期制**を採用しています。

授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ◆ **前期科目**：前期のみで授業を完結する科目
- ◆ **後期科目**：後期のみで授業を完結する科目
- ◆ **通年科目**：前期と後期を通じて授業を行う科目
(※ 科目によっては2年間を通じて開講される場合もあります)

また、実施方法によって、次のように区分されます。

- ◆ **通常授業**：原則として毎週行われる授業
- ◆ **集中授業**：一定時期に集中的に連続して行われる授業

(2) 授業時間

本学の授業時間帯は次のとおりです。ただし、実験などでは次の時間帯とは異なる場合があります。

1 限	9 時 0 0 分～1 0 時 3 0 分
2 限	1 0 時 4 0 分～1 2 時 1 0 分
休 憩	
3 限	1 3 時 1 0 分～1 4 時 4 0 分
4 限	1 4 時 5 0 分～1 6 時 2 0 分
5 限	1 6 時 3 0 分～1 8 時 0 0 分
6 限	1 8 時 1 0 分～1 9 時 4 0 分
7 限	1 9 時 5 0 分～2 1 時 2 0 分

(3) 気象警報の発令・公共交通機関の不通と授業についての措置

暴風警報等が発令された場合または公共交通機関が全面運行停止（※）となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象・交通状況	授業についての措置
彦根市域または彦根市域を含む地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報が発令されたとき	①発令中は休講（授業中に発令の場合、その次の授業から休講） ②午前 7 時現在発令中の場合、午前中休講 ③午前 10 時現在発令中の場合、午後も休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき（ストライキ、災害、事故等）	①午前 7 時までに解除・開通の場合は、平常通り授業 ②午前 8 時 30 分までに解除・開通の場合は 2 時限目より授業開始 ③午前 10 時までに解除・開通の場合は 3 時限目より授業開始 ④正午までに解除・開通の場合は 4 時限目より授業開始 ⑤正午をすぎても解除・開通しない場合は全時限休講

※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、JR 西日本琵琶湖線（京都―米原間）の全線または一部線区が全便不通の場合をさします。

○ 休講情報については随時更新されますので、掲示板や Web ポータルで確認してください。

2 履修の登録

授業を履修して単位を修得するためには、**履修登録の手続きをする必要があります。**

これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないことになりますので、慎重に行ってください。履修する科目の決定は、履修の手引や授業時間割表などを熟読の上、指導教員の指導を受けて行ってください。

(1) 履修関係資料の配付

履修関係資料は、授業時間割表と共に、学年当初のオリエンテーション時または教務グループカウンターで配付します。

(2) Web 履修登録・確認

＜博士前期課程＞

各学期初めに設定される履修登録期間中に、Web ポータル上で Web 履修登録を行ってください。

＜博士後期課程＞

各学期初めに設定される履修登録期間中に、Web ポータル上で Web 履修登録を行ってください。（時間割表を作成していないため、全ての科目は実習・集中講義等として表示されます。）

※履修科目の追加および変更がある学生には、履修登録確認期間中に限り「履修登録願」（担当教員の捺印を要する）を提出することで、変更・追加登録を認めます。ただし、取消のみの変更は認めません。履修登録確認期間後の追加登録・変更は一切できません。

(3) 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください（滋賀県立大学大学院履修規程第3条）。

- ① 登録をしていない授業科目
- ② 既に単位を修得した授業科目
- ③ 授業時間が重複する科目

3 成績評価および単位の認定

(1) 成績評価

成績の評価の基準は次のとおりで、成績証明書の評価欄には、優・良・可・不可のみで記載します。

評 点	評 価
80点以上	優
70点以上80点未満	良
60点以上70点未満	可
60点未満	不可

そのほかに、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」で表示することがあります。

（２）単位の認定

優、良、可および合格ならびに認定の場合は、単位の修得が認められます。
不可および不合格の場合は、単位の修得は認められません。

（３）成績通知

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務グループから本人に対し Web ポータルを通じて行います。

なお、前期の成績通知書には、前期に履修した科目（一部集中講義科目等を除く。）の成績を記載しています。後期の成績通知書には、前期と後期を合わせた年間の成績を記載しています。

（４）成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について

本学では、学生は自らの成績評価に疑義のある場合、その成績の根拠等について当該科目の担当教員に対して開示を求めることができます。

① 疑義申し立てができる場合

- ・出席、課題提出、試験等に照らして、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法と基準等から、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・その他、具体的かつ明確な理由をもって成績評価に疑義があると思われる場合

② 手続き等について

まずは当該科目の担当教員に対し、直接確認を求めてください。オフィスアワー等を活用して担当教員を訪ねましょう。

担当教員から教示がない場合、あった場合でも説明が足りない、明確な根拠が示されていない等の事由により疑義が解消されない場合、または非常勤講師等により直接の確認が困難な場合に限り、「成績評価の疑義申し立ておよび根拠等にかかる開示の願出書」により、学生支援センター長（学生支援センター教務担当）を通じて成績評価の根拠等について文書により開示するようお願いすることができます。

③ 制度による願出ができる期間

担当教員への確認および願出書の提出ができる期間は、成績が通知された日から原則として３週間以内とします。成績保留等により成績通知書に記載されなかった科目については、当該科目の成績の確定について掲示された日から原則として３週間以内とします。期限を過ぎたものは受付できません。

願出書の様式や、その他詳細については、教務担当までご相談ください。

※ 次ページ以降に本学大学院履修規程および本学学位規程を掲載しています。

詳細については、それらを参考にするとともに、研究科・専攻ならびに指導教員の指示に従ってください。

公立大学法人滋賀県立大学大学院履修規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、公立大学法人滋賀県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第19条第4項の規定に基づき、授業科目の種類等および履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(履修の登録)

第2条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期日までに履修登録を行わなければならない。

(履修の禁止)

第3条 次に掲げる授業科目は、履修することができない。

- (1) 登録をしていない授業科目
- (2) 既に単位を修得した授業科目
- (3) 授業時間が重複する科目

(授業科目等)

第4条 授業科目の種類、配当年次、単位数、必修・選択の別および修了要件は、別表1のとおりとする。

2 教育職員の免許取得に必要な教科に関する科目の種類、単位数および必修・選択の別は、別表2のとおりとする。

(学部等の授業科目の履修)

第5条 修士課程および博士前期課程の学生は研究科会議の議を経て、研究科長の認めるところにより、授業科目担当教員の承認を得て、学部の授業科目を履修することができる。

2 博士後期課程の学生は、研究科会議の議を経て、研究科長の認めるところにより、授業科目担当教員の承認を得て、学部、修士課程および博士前期課程の授業科目を履修することができる。

3 前2項の規定により修得した単位は、修了の要件となる単位に算入しない。

(修士論文および博士論文の提出)

第6条 修士課程および博士前期課程において、所定の授業科目を30単位以上修得した者または修得見込みの者は、修士論文を提出することができる。

2 博士後期課程において、所定の授業科目を4単位以上修得した者または修得見込みの者は、博士論文を提出することができる。

(試 験)

第7条 定期試験は、学期末に期間を定めて行う。ただし、実験、演習等については、試験を行わずに成績を定めることがある。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によっては随時試験を行うことがある。

(成績評価)

第8条 授業科目の成績の評点は、試験の成績および平常の成績等を総合して、100点満点で採点する。

2 成績の表示は次のとおりとし、優、良および可を合格とし所定の単位を与える。

評 価	評 点
優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

3 前項のほか、評点を付さない授業科目については、合格、不合格をもって表す。

4 修士論文の審査、博士論文の審査および最終試験の成績評価は、合格または不合格をもって表す。

(委任)

第9条 この規定に定めるもののほか、授業科目の履修方法等に関し必要な事項は、研究科会議が定める。

付 則 略

公立大学法人滋賀県立大学学位規程

(趣旨)

第1条 この規程は公立大学法人滋賀県立大学学則第49条第2項および公立大学法人滋賀県立大学大学院学則第25条第4項の規定に基づき、学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士および博士とする。

(授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、本学大学院の修士課程または博士前期課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 前項に規定するもののほか、博士の学位は、大学院学則第25条第3項に規定する者にも授与する。

(学位授与の申請)

第4条 前条第2項の規定による修士の学位の授与を申請する者は、所定の学位申請書に修士論文を添えて、研究科長に提出しなければならない。

2 前条第3項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、所定の学位申請書に博士論文、博士論文の要旨、論文目録および履歴書を添えて、研究科長に提出しなければならない。

3 本学大学院の博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた後退学した者については、退学後3年以内に限り、前項の規定を準用する。この場合において、同項に規定する書類のほか、単位修得証明書および研究指導認定書を添え、当該者が在学していた研究科の研究科長に提出するものとする。

4 前条第4項の規定による博士の学位の授与を申請する者は、第2項に規定する書類に学位論文審査手数料を添えて、研究科長を経由して学長に提出しなければならない。

(学位論文)

第5条 修士論文または博士論文（以下「学位論文」という。）は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 前項の学位論文の審査のため必要があるときは、学位論文の訳本、学位論文の内容に関連のある模型、標本および参考資料等を提出させることができる。

3 受理した学位論文および学位論文審査手数料は、返還しない。

(学位論文の付託)

第6条 第4条に規定する学位申請書を受理したときは、研究科長または学長は、その審査を研究科会議に付託するものとする。

(学位論文の審査)

第7条 学位論文の審査は、研究科会議において審査委員会を設けて行う。

2 審査委員会は、研究科会議を構成する教授3人以上の委員で組織する。

3 前項の規定にかかわらず、研究科会議が必要と認めたときは、2人以内に限り、本学大学院の教授、准教授、講師および助教をもって委員に充てることができる。

4 前2項に規定する者のほか、研究科会議が必要と認めたときは、他の大学の大学院または研究所等の教員等を委員として加えることができる。

(最終試験)

第8条 最終試験（第3条第4項の規定による学位の授与を申請した者にあつては、試験をいう。以下同じ。）は、審査委員会が学位論文および当該論文に関連する事項について、口頭または筆記により行う。

(学力の確認)

第9条 第3条第4項の規定による学位の授与を申請した者については、審査委員会が論文審査および最終試験に併せて、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認（以下「学力の確認」という。）を行うものとする。

2 学力の確認は、学位論文に関連のある専門分野および外国語について、口頭および筆記により行うものとする。ただし、研究科会議において必要と認める場合は、他の方法によることができる。

(審査期間)

第10条 修士論文の審査および最終試験の時期は、申請書受理後1月以内とし、博士論文の審査および最終試験ならびに学力の確認は、申請書受理後1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、研究科会議の議を経て、期間を定めて延長することができる。

(審査結果の報告)

第11条 審査委員会は学位論文の審査および最終試験ならびに学力の確認を終了したときは、論文内容および審査結果の要旨ならびに最終試験の結果ならびに学力の確認の結果を研究科会議に報告しなければならない。

(審査結果の議決)

第12条 研究科会議は、前条の報告に基づき、学位授与の可否について、議決する。

2 前項の議決は、研究科会議の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

(学長への報告)

第 13 条 研究科長は、研究科会議が前条第 1 項の議決を行ったときは、その結果を学長に報告しなければならない。

(学位授与)

第 14 条 学長は、前条の報告に基づき、修士または博士の学位を授与すると決定された者には学位記を交付して学位を授与し、修士または博士の学位を授与しないと決定された者にはその旨を通知する。

(専攻分野等の名称)

第 15 条 本学において授与する学位に付記する専攻分野の名称および英文による学位の名称は、次のとおりとする。

学位の別	学部および研究科の名称	専攻分野の名称	英文による学位の名称
学 士	環 境 科 学 部	環 境 科 学	Bachelor of Environmental Science
	工 学 部	工 学	Bachelor of Engineering
	人 間 文 化 学 部	人間文化学	Bachelor of Human Cultures
	人 間 看 護 学 部	看 護 学	Bachelor of Nursing
修 士	環境科学研究科	環 境 科 学	Master of Environmental Science
	工 学 研 究 科	工 学	Master of Engineering
	人間文化学研究科	人間文化学	Master of Human Cultures
	人間看護学研究科	看 護 学	Master of Nursing
博 士	環境科学研究科	環 境 科 学	Doctor of Environmental Science
		学 術	Doctor of Philosophy
	工 学 研 究 科	工 学	Doctor of Engineering
	人間文化学研究科	人間文化学	Doctor of Human Cultures
		学 術	Doctor of Philosophy

(学位の名称)

第 16 条 本学において学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「滋賀県立大学」と付記する。

(学位授与の取消)

第 17 条 本学において学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または、その名誉を汚辱する行為があったときは、学長は、学士の学位については教授会の議を経て、修士および博士の学位については研究科会議の議を経て、学位を取り消し、学位記を返納させ、かつ、その旨を公表する。

2 前項に規定する議決は、第 12 条第 2 項の規定を準用する。

(学位記の様式)

第 18 条 学位記の様式は、別記様式第 1 号、様式第 2 号、様式第 3 号および様式第 4 号のとおりとする。

(論文要旨等の公表)

第 19 条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から 3 月以内に、当該博士の学位の授与に係る学位論文の内容の要旨および学位論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第 20 条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る学位論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事情がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学は、その学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前 2 項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

4 前 3 項の規定により学位論文または学位論文の内容を要約したものを公表する場合は、本学審査学位論文またはその要約である旨を明記しなければならない。

(学位授与の報告)

第 21 条 学長は、博士の学位を授与したときは、学位簿に登録し、文部科学大臣に報告するものとする。

(委 任)

第 22 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則 略

【第2章 博士前期課程の講義概要】

本手引の「講義概要」は抜粋版です

詳しい「講義概要」については、Web ポータルで確認してください

環境科学研究科博士前期課程 科目履修の手引

(※ 項目3～5については、環境動態学専攻と環境計画学専攻の両方に共通)

1 学位授与方針

(1) 環境動態学専攻

環境動態学専攻は、自然生態系の保全あるいは持続可能な生物生産や資源利用に関して提言できる人材を育成する目的に立ち、下記の通り課程修了時において学生が身につけるべき能力を定めます。所定の単位を修得し、提出された修士あるいは博士論文の審査および最終試験の合格により、修士(環境科学)の学位を授与します。

- A. 研究を遂行するのに必要な、専門的知見を理解する。(知識・理解)
- B. 系統的に調査・観測・実験を行い、論理的な結論を導くことができる。(知識・理解、思考・判断、技術・技能)
- C. 研究成果を国内外の学会で発表する能力を有する。(知識・理解、技術・技能)
- D. 研究成果を論文としてまとめることができる。(知識・理解、技術・技能、思考・判断)

(2) 環境計画学専攻

< 環境意匠研究部門 >

環境計画学専攻環境意匠研究部門は、博士前期課程の修了時点において学生が身につけるべき能力(教育研究上の目的)を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境計画学専攻・環境意匠研究部門の定める学位論文審査基準を充足する学位論文を提出した者、修士設計を提出した者に修士(環境科学)の学位を授与します。

- A. 本専攻入学までに修得した専門知識を基に、環境科学に関わる高度な調査・実験・分析技術を身につける。(技能・技術)
- B. 環境意匠の各専門分野における最先端の学識を習得し、学術的に有意な研究あるいは社会的に有用な環境建築デザインを行うことができる。(知識・理解)(思考・判断)(技能・技術)
- C. 環境建築デザインに関する実務実習または演習を通じて建築デザイン、コミュニティデザイン、歴史理論、計画、環境設備、構造、施工、監理等の専門職能についての実践的な知識を身につける。(技能・技術)(興味・関心)
- D. 明確な目的と独創性、新規性をもつ研究テーマについて適切な実験・調査データあるいは文献資料に基づいて、論理的に考察し妥当な結論を導くことができ、論文または設計としてまとめることができる。(思考・判断)(技能・技術)

< 地域環境経営研究部門 >

環境計画学専攻地域環境経営研究部門は、人材の養成の目的を達成するため、下記のとおり、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

所定単位の修得と論文等の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、修士学位を授与します。

- A. 持続可能な地域環境をマネジメントできる専門知識を身につける。
- B. 地域環境マネジメントに関する新規性のある学術研究を行い、論文としてまとめ、的確な発表・質疑ができる。

2 教育課程の編成・実施方針

(1) 環境動態学専攻

環境動態学専攻は、自然生態系の保全あるいは持続可能な生物生産や資源利用に関して提言できる人材を育成するため、下記の教育課程を編成しています。

研究の遂行に必要な専門的知識を学ぶための講義科目を配置しています。系統的に調査・観測・実験を行い、論理的な結論を導き、その成果を論文としてまとめるため、環境動態学特別演習および特別研究を配置しています。また、研究成果を国内外の学会等で発表できる水準にするため、環境動態学プレゼンテーションを配置しています。

(2)環境計画学専攻

<環境意匠研究部門>

環境計画学専攻環境意匠研究部門は、自然環境と調和し、持続可能な社会の実現に資することができる人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成しています。

- A.デザイン、歴史・理論、計画、エンジニアリングの科目および演習を配置し、これらの部門科目・演習および研究科共通科目や専攻共通科目および近江環人地域再生学座科目を総合的に修学する。
- B.上記の科目および演習で習得した専門的・先端的な知見や技術をもとに、独創性・新規性をもつ修士論文もしくは修士設計としてまとめる。

<地域環境経営研究部門>

環境計画学専攻地域環境経営研究部門は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

部門科目として、環境システム、資源・環境経済、環境政策に関する科目を配置している。これらの部門科目と、研究科共通科目や専攻共通科目および近江環人地域再生学座科目の体系的・選択的な学修により、人材の養成に関する目標を達成する。

3 科目履修上の注意

- ① 科目履修にあたっては、各学生ごとに設置されるコミティ（下記参照）の主・副指導教員による指導を受けること。
- ② 科目の配当年次に記された「1・2」の意味は1年次、2年次のいずれかで履修が可能という意味で、両年次にわたって履修するという意味ではない。「1～2」と記された科目については1、2年次とも通年で履修しなければならない。

4 環境科学研究科博士前期課程修了要件

年次別配当表に記された科目から、環境動態学専攻は、必修科目 18 単位、選択科目 12 単位以上の計 30 単位以上を、環境計画学専攻は、必修科目 16 単位、選択科目 14 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し、論文審査に合格すること。

ただし、所属する専攻が認める場合、他専攻および他研究科の科目を選択科目の単位に含めることができる。

なお、他の研究科または他の大学の大学院の授業科目を履修できる場合があるので、事前に主指導教員に相談すること。これにより修得した単位については、合わせて10単位を超えない範囲で修了の要件となる単位とみなすことができる。（大学院学則第20条）

また、大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P.147を参照すること。

5 コミティ制について

学生は、入学時に選択した研究領域の教員の中から主指導教員を選び、その教員と相談の上研究テーマを決定する。

主指導教員は、学生の研究の意図や方法などを考慮しながら、複数の副指導教員を選び、学生の合意を得て研究指導のためのコミティを設置する。コミティは、学生の研究のみならず、講義科目履修についても学生に助言し、研究を推進するための幅広いバックグラウンドをもたせるよう指導する。コミティの副指導教員には、他研究領域の教員だけでなく、他専攻あるいは他研究科の教員等をも委嘱できる。

6 (1) 環境動態学専攻 年次別配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年 次	期 間	単 位 数			備 考
				必 修	選 択	自 由	
(研究科共通)							
G I S / リモートセンシング論	岩間、香川	1・2	前期		2		
環境リスク論	井手	1・2	後期		2		
Environmental Sciences in Japan	井手、村上(修)、高橋、丸尾、 伴、堂満、杉浦、林	1・2	前期		2		
国際環境マネジメント特論	高橋、原田、丸尾	1・2	後期		2		
(生物圏環境研究部門)							
水資源環境論(*2)	金木	1・2	前期		2		
地圏環境論	倉茂、堂満	1・2	前期		2		
陸面過程論(*1)	大久保	1・2	前期		2		
土壌環境論(*1)	皆川	1・2	前期		2		
化学物質動態論(*2)	須戸	1・2	前期		2		
生物圏環境論	柳、堀野	1・2	前期		2		
(生態系保全研究部門)							
物質循環論	永淵、倉茂、未定、尾坂	1・2	前期		2		
水圏生態系動態論	伴、永淵、北澤	1・2	前期		2		
森林生態学特論	野間、未定	1・2	前期		2		
集水域環境論	細井、肥田、後藤	1・2	後期		2		
生態系影響論	浦部、丸尾	1・2	後期		2		
生物社会共生論	西田	1・2	後期		2		
生物多様性論	本庄	1・2	後期		2		
生態系保全特別講義	未定	1・2	前期		2		
(生物生産研究部門)							
持続的生物生産論	泉、畑	1・2	後期		2		
植物遺伝資源論	清水、原田	1・2	前期		2		
動物生産環境論	平山(琢)	1・2	後期		2		
生産環境管理論	鈴木、高倉	1・2	前期		2		
植物資源管理論	泉、上町	1・2	前期		2		
微生物学特論	入江、泉津	1・2	後期		2		
魚類栄養学特論	杉浦	1・2	後期		2		
(専攻共通)							
環境動態学特別演習Ⅰ	専攻教員全員	1	通年	4			
環境動態学特別演習Ⅱ	専攻教員全員	1・2	通年	4			
環境動態学特別研究Ⅰ	専攻教員全員	1	通年	4			
環境動態学特別研究Ⅱ	専攻教員全員	1・2	通年	4			
環境動態学プレゼンテーションⅠ	専攻教員全員	1	通年	1			
環境動態学プレゼンテーションⅡ	専攻教員全員	1・2	通年	1			
(キャリア教育関連)							
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

* 1 奇数年度(H27, H29, ...)に開講される。

* 2 偶数年度(H28, H30, ...)に開講される。

- ・ 平成25年度以前の入学生については、生物生産研究部門の「微生物学特論」を「遺伝子工学特論」に読み替える。
- ・ 環境動態学専攻の「環境動態学プレゼンテーションⅠ, Ⅱ」は、平成20年度入学生より適用される。
- ・ 平成24年度以前の入学生については、生物圏環境研究部門の「地圏環境論」を「大気水圏環境論」に読み替える。

6 (2) 環境計画学専攻 年次別配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年次	期 間	単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
(研究科共通)							
G I S / リモートセンシング論	岩間、香川	1・2	前期		2		
環境リスク論	井手	1・2	後期		2		
Environmental Sciences in Japan	井手、村上(修)、高橋、丸尾、伴、堂満、杉浦、林	1・2	前期		2		
国際環境マネジメント特論 (環境意匠研究部門)	高橋、原田、丸尾	1・2	後期		2		
環境造形特論	松岡	1・2	前期		2		
建築設計特論	芦澤	1・2	前期		2		
建築デザイン特論	高柳	1・2	前期		2		
ランドスケープデザイン特論	村上(修)	1・2	後期		2		
都市計画特論	轟	1・2	後期		2		
建築パッシブデザイン特論	未定	1・2	後期		2		
建築史特論	未定	1・2	後期		2		
建築論特論	迫田	1・2	前期		2		
建築計画特論	ヒメス ヘルデホ ホアン ラモン	1・2	後期		2		
構造設計特論	永井	1・2	前期		2		
居住環境工学	伊丹	1・2	前期		2		
建築構造特論	高田	1・2	後期		2		
建築技術特論	陶器	1・2	前期		2		
環境設計特論	川井	1・2	後期		2		
環境計画学特別演習ⅠA	部門教員全員	1	通年	4			ⅠA、ⅠBの いずれかを選択 ⅡA、ⅡBの いずれかを選択
環境計画学特別演習ⅠB	部門教員全員	1	通年				
環境計画学特別演習ⅡA	部門教員全員	1・2	通年	4			
環境計画学特別演習ⅡB	部門教員全員	1・2	通年				
(地域環境経営研究部門)							
国際農林環境政策論	高橋、増田(清)	1・2	後期		2		
廃棄物とリサイクル	金谷	1・2	前期		2		
地域資源経営論	増田(佳)	1・2	後期		2		
資源循環と国際貿易	林、村上(一)	1・2	前期		2		
参加型計画運営論	近藤、小野	1・2	後期		2		
環境政策形成過程論	松本、平山	1・2	後期		2		
環境開発論	秋山	1・2	前期		2		
環境計画学特別演習Ⅲ	部門教員全員	1	通年	4			
環境計画学特別演習Ⅳ	部門教員全員	1・2	通年	4			
(専攻共通)							
環境計画学特別研究Ⅰ	専攻教員全員	1	通年	4			
環境計画学特別研究Ⅱ	専攻教員全員	1・2	通年	4			
(キャリア教育関連)							
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

- 平成 20 年度以前の入学生については、環境意匠研究部門の「環境計画学特別演習ⅠA、ⅠB」を「環境計画学特別演習Ⅰ」に、「環境計画学特別演習ⅡA、ⅡB」を「環境計画学特別演習Ⅱ」に、地域環境経営研究部門の「国際農林環境政策論」を「国際生物資源開発論」に、「廃棄物とリサイクル」を「地域環境連関論」に、「資源循環と国際貿易」を「地域資源経済論」に、「環境政策形成過程論」を「環境政策運営論」にそれぞれ読み替える。
- 環境意匠研究部門の「建築論特論」を「生活空間計画学」に読み替える。
- 平成 25 年度以前の入学生については、環境意匠研究部門の「都市計画特論」を「地域空間計画学」に、を「建築パッシブデザイン特論」を「環境設計特論」に、「構造設計特論」を「安全防災計画学」にそれぞれ読み替える。
- 環境意匠研究部門の「環境設計特論」は、平成 27 年度入学生より適用される。

7 環境科学研究科における学位論文審査基準

環境科学研究科の学位論文(博士前期課程)に係る審査は、以下のとおりとする。

- (1) 学位論文(環境意匠研究部門については設計を含む)の審査は、大学院学則第23条第1項および第2項の条件を満たす者について、審査委員会が行う。
- (2) 審査委員会は、学位規程第7条に基づいて3名以上の委員で構成する。
- (3) 審査は、各研究分野における新たな知見を含み、学位に相当する水準にあると判断される研究成果について執筆されている学位論文について行う。審査の内容については専攻または研究部門において別途定める。
- (4) 審査の過程で学位論文の内容に誤りが指摘された場合、審査委員長は、期日までに再提出させる。
- (5) 最終試験は、学位規程第8条に基づいて審査委員会が学位論文に関する事項について、学位論文発表会または報告会で口頭により行う。

環境動態学専攻 審査の内容

- ① 論文の体裁(構成、書式)が整っており、論理展開が明快であること。
- ② 研究の目的・方法が明確で、新たな知見を含んでいること。
- ③ 十分な調査・実験に基づき、結果の分析と考察が十分に行われていること。
- ④ 内容が国内外の学会で発表できる学問的水準に達していること。
- ⑤ 発表会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問に対して的確に答えられたこと。

環境計画学専攻環境意匠研究部門 審査の内容

- ① 研究の目的が明確で、内容が独創性や新規性を有していること。
- ② 研究が学術的に有意な知見、あるいは社会的有用性を含んでいること。
- ③ 実験・調査データや文献資料等が信頼性を有し、分析、考察が適切であること。
- ④ 論文の論理構成・展開が明解で、妥当な結論が得られていること。
- ⑤ その他審査委員会が別に定める審査項目について要件を満たしていること。
- ⑥ 報告会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質疑の際の応答が的確であること。

環境計画学専攻地域環境経営研究部門 審査の内容

- ① 研究の目的が明確で、研究としての新規性があること(先行研究の十分なレビューを含む)。
- ② 論文(目的から調査分析、結論までの流れ)の論理展開が明快で、不整合や飛躍がないこと。
- ③ 研究の目的達成のために十分な調査がなされていること。
- ④ 調査結果の分析と調査分析結果の考察が十分になされていること。
- ⑤ 結論が社会的あるいは学術的に意義のある(有用な)知見を含んでいること。
- ⑥ 論文が、わかりやすく、指定された書式に従って書かれていること。
- ⑦ 報告会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問にも的確に答えられたこと。

環境動態学専攻生物生産研究部門博士前期課程履修モデル

生物生産研究部門は環境問題と両立した有用生物生産のあり方、農学で培われた知識の環境問題への展開を研究・教育の柱としています。科目履修は、別表を参考としてコミティの主旨指導および副指導の教員と相談しながら、以下の点に留意して決定するように。なお、ここで示す履修モデルは、博士前期課程修了後は就職を希望する者、博士後期課程に進学して研究者をめざす者に共通です。

1. 生産環境管理研究領域で昆虫生態学分野の院生以外は、生物生産系モデルに従って履修し、必修科目の他に選択Aの科目からは3科目・6単位以上を履修し、それ以外の選択A科目と選択Bの科目から3科目・6単位以上を履修する。選択A科目でどの科目を履修するかについては主旨指導教員とよく相談すること。
2. 生産環境管理研究領域で昆虫生態学分野の院生は、生態管理系モデルに従って履修し、必修科目の他に選択Aの科目からは3科目・6単位以上を履修し、それ以外の選択A科目と選択Bの科目から3科目・6単位以上を履修する。

生物生産研究部門は環境問題と両立した有用生物生産のあり方、農学で培われた知識の環境問題への展開を研究・教育の柱としています。生物生産系と生態管理系として以下の履修を推薦する。

選択 A：履修が望ましい 選択 B:余裕があれば履修を勧める

生物生産系

科目	配当年次	区分	単位数	備考
環境動態学特別演習Ⅰ	1	必修	4	
環境動態学特別演習Ⅱ	1・2	必修	4	
環境動態学プレゼンテーションⅠ	1	必修	1	
環境動態学プレゼンテーションⅡ	1・2	必修	1	
環境動態学特別研究Ⅰ	1	必修	4	
環境動態学特別研究Ⅱ	1・2	必修	4	
植物遺伝資源論	1・2	選択A	2	
植物資源管理論	1・2	選択A	2	
持続的生物生産論	1・2	選択A	2	
動物生産環境論	1・2	選択A	2	
魚類栄養学特論	1・2	選択A	2	
生産環境管理論	1・2	選択A	2	
微生物学特論	1・2	選択B	2	
水資源環境論	1・2	選択B	2	
土壌圏環境論	1・2	選択B	2	
化学物質動態論	1・2	選択B	2	
生物多様性論	1・2	選択B	2	
栄養制御論	1・2	選択B	2	人間文化研究科科目
食素材特論	1・2	選択B	2	人間文化研究科科目
遺伝子生化学	1・2	選択B	1	工学研究科科目

生態管理系

科目	配当年次	区分	単位数	備考
環境動態学特別演習Ⅰ	1	必修	4	
環境動態学特別演習Ⅱ	1・2	必修	4	
環境動態学プレゼンテーションⅠ	1	必修	1	
環境動態学プレゼンテーションⅡ	1・2	必修	1	
環境動態学特別研究Ⅰ	1	必修	4	
環境動態学特別研究Ⅱ	1・2	必修	4	
生産環境管理論	1・2	選択A	2	
動物生産環境論	1・2	選択A	2	
持続的生物生産論	1・2	選択A	2	
生物社会共生論	1・2	選択A	2	
生物多様性論	1・2	選択A	2	
微生物学特論	1・2	選択B	2	
植物遺伝資源論	1・2	選択B	2	
植物資源管理論	1・2	選択B	2	
魚類栄養学特論	1・2	選択B	2	
化学物質動態論	1・2	選択B	2	
水圏生態系動態論	1・2	選択B	2	
生態系影響論	1・2	選択B	2	

環境科学研究科環境計画学専攻地域環境経営研究部門
博士前期課程履修モデル

地域環境経営研究部門は、持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方を探るとともに、それを実現するための地域環境計画とその運用について教育・研究を行う。研究内容の将来の展望を重視し、環境システム、地域経済、環境政策の3つの研究領域の緩やかな結合のなかで、課題研究を進める。

以下の標準的なモデルに従った単位履修を推奨する。

1. 3領域の学生いずれも、履修ガイドで◎印のついている必修科目(4科目16単位)を履修すること。
2. 3領域の学生いずれも、できれば履修ガイドで○印のついている研究科共通科目(2科目4単位)を履修することが望ましい。
3. 環境システム領域の学生は履修ガイドでA印のついている選択科目(2科目4単位)を履修することが望ましい。残り3科目6単位は、自身の研究に資する科目を自由に選択すること。
4. 資源・環境経済領域の学生は履修ガイドでB印のついている選択科目の内から3科目6単位を履修することが望ましい。残り2科目4単位は、自身の研究に資する科目を自由に選択すること。
5. 環境政策領域の学生は履修ガイドでC印のついている選択科目(3科目6単位)を履修することが望ましい。残り2科目4単位は、自身の研究に資する科目を自由に選択すること。
6. なお、副専攻「近江環人地域再生学座」を履修している学生は、D印のついている学座科目(7科目14単位)を領域ごとに推奨されている科目(2科目4単位または3科目6単位)に充てることができる。

科目種類	科目名	配当年次	期間	区分	単位数	領域別履修ガイド
研究科共通科目	GIS/リモートセンシング論	1・2	前期	選択	2	○
	環境リスク論	1・2	後期	選択	2	○
	Environmental Sciences in Japan	1・2	前期	選択	2	A
専攻共通科目	環境計画学特別研究Ⅰ	1	通年	必修	4	◎
	環境計画学特別研究Ⅱ	1・2	通年	必修	4	◎
部門科目	国際農林環境政策論	1・2	後期	選択	2	B
	廃棄物とリサイクル	1・2	前期	選択	2	A
	地域資源経営論	1・2	後期	選択	2	B
	資源循環と国際貿易	1・2	前期	選択	2	B
	参加型計画運営論	1・2	後期	選択	2	C
	環境政策形成過程論	1・2	後期	選択	2	C
	環境開発論	1・2	前期	選択	2	C
	環境計画学特別演習Ⅲ	1	通年	必修	4	◎
	環境計画学特別演習Ⅳ	1・2	通年	必修	4	◎
近江環人地域再生学座科目	地域再生学特論	1・2	後期	選択	2	D
	コミュニティ・マネジメント特論	1・2	前期	選択	2	D
	エコ・テクノロジー特論	1・2	後期	選択	2	D
	地域診断法特論	1・2	前期	選択	2	D
	地域再生システム特論	1・2	前期	選択	2	D
	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ	1・2	後期	選択	2	D
	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ	1・2	前期	選択	2	D

科目名	Environmental Sciences in Japan	2単位 前期
担当教員	井手 慎司・村上 修一・高橋 卓也・丸尾 雅啓・伴 修平・杉浦 省三・林 幸司・堂満 華子・上河原 献二	
授業概要	This course is an introduction to the environmental issues of the Lake Biwa basin and those of East Asia. In order to understand the mechanisms and propose solutions for ongoing environmental problems, there will be multilateral lectures conducted from the perspectives of the fields of geo-chemistry, physical-geography, social-economics, and water-system engineering.	
到達目標	(1) The students can explain the past and present environmental problems in the Lake Biwa basin and East Asia. (2) The students can propose solutions for the present environmental problems in the Lake Biwa basin and East Asia.	
成績評価	Assignments (Reports) (50%), Quizzes(50%)	
テキスト 指定図書 参考書	No textbook, Handouts	
履修資格		

科目名	G I S／リモートセンシング論	2単位 前期
担当教員	岩間 憲治・井上 一宇※	
授業概要	GIS(地理情報システム)およびリモートセンシング(RS)は、地球上のあらゆる地物・事象を統合的に管理・分析できます。このため、自然科学・社会科学を中心に様々な分野において、総合的な環境分析ツールとして現在広く利用されています。本学でもそのためのソフトウェアが整備され、誰もが研究に利用できます。本講では、まず地形情報データやGISおよびRSの基礎を学びます。次に、GISソフト(ArcGIS)およびRSソフト(ERDAS IMAGINE)の使用法を習得し、それぞれの研究分野でGISやRSを自ら活用できる技術を身につけることを目指します。	
到達目標	GIS、リモートセンシングの概念を理解します。また、一般に使用されている専用ソフトウェアを使いこなして初歩的な作業ができるようになります。さらに本授業を手がかりとして、修士論文のための研究にこれらの技術を応用できるようになります。	
成績評価	レポート課題(100%)	
テキスト 指定図書 参考書	佐土原聡編 吉田聡・古屋貴司・稲垣景子著、図解！ArcGIS 10 Part1 身近な事例で学ぼう、古今書院 川崎昭如・吉田聡、図解 ArcGIS Part2 GIS 実践に向けてのステップアップ、古今書院 他にも適宜紹介およびプリント配布	
履修資格		

科目名	化学物質動態論	2単位 前期
担当教員	須戸 幹	
授業概要	化学物質の環境問題を考える上で、それらが発生源から汚染地域に至るまでの運命を明らかにすることは必須である。この講義では農薬やトリハロメタンなどの化学物質について、大気、水、土壌における分解・消失・流出過程とそのモデル化の考え方について論じる。	
到達目標	1)環境中で化学物質を受ける作用を列挙し、その内容を説明できる。 2)化学物質の運命モデルをいくつか挙げて、その内容を説明できる。	
成績評価	到達目標の1)環境中で化学物質を受ける作用を列挙しその内容を説明できる、2)化学物質の運命モデルをいくつか挙げてその内容を説明できるについては、課題レポート(100%、1)50%、2)50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布指定図書：適宜紹介	
履修資格		

科目名	環境開発論	2 単位	前期
担当教員	高橋 卓也 ・ 未定		
授業概要	既往の地域開発が経済開発の性格を強く帯びていた点を概観したのち、現在の持続可能な発展論に至る系譜を追うことにより、国際関係、国家と国民との関係、経済構造、社会関係、環境資源の利用密度などと開発理念とがもつ関係を講述する。それを前提に、開発と保全の総合化という視点から、先進国と発展途上国の事例をもとに実証分析と政策形成をつなぐ経路を講述する。		
到達目標	地域開発の理論・歴史・政策について、学部で提供している地域開発論より進んだ主要事項が理解できるようにする。日本と外国の事例を比較しつつ、環境保全をベースにすえた開発のあり方が理解できるようにする。		
成績評価	授業中のレポート（50%）、 最終レポート（50%）		
テキスト 指定図書 参考書	・テキストは用いない。 ・参考文献等は、講義中に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別演習 I A（環境意匠）	4 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	関連する既往研究やテーマに関わる地域（国際も含む）フィールドワークの課題を設定し、事例などを通して、計画学的な分析能力および環境と社会を統合する能力を身につけるため、ならびにそれに必要な専門的知見を養うための実践的な演習を行う。		
到達目標	(1)環境意匠研究にかかる適切な研究テーマを設定し、明確な研究目的と調査計画を立てる能力を身につけること (2)設定した調査計画を具体的な手法を立案し、着実に調査結果を得て、分析を行う能力を身につけること		
成績評価	到達目標の(1)に関する理解度・習熟度を 50%、(2)の理解度・習熟度を 50%として、合計で 100%の評価を付与する。		
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別演習 I B（環境意匠）	4 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	建築設計・工事監理に資する実務を行う企業現場を体験し、専門職能の体得を目的とする。受入先事業所との連携を図りつつ、デザイン、構造、設備、監理に関する認識を高める。インターンシップ期間は通期で 6 週間(30 時間で 1 単位を基準とした 120 時間)以上とする。実習先は一級建築士事務所登録している事業所等とし、建築士資格を有する者が担当する。		
到達目標	(1)建築デザイン、構造設計、設備設計、工事監理の専門職能に対し理解すること (2)上記個別の専門職能の包括的な連携に関する応用知識を身につけること		
成績評価	インターンシップ報告書の内容のうち、学習到達目標の(1)に関する理解度・習熟度を 50%、(2)の理解度・習熟度を 50%として、合計で 100%の評価を付与する。なお、国土交通省「建築大学院課程における一級建築士受験要件」を満たすべく、通算 120 時間以上の現場実習を行うものとする。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし		
履修資格			

科目名	環境計画学特別演習Ⅱ A（環境意匠）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	特別演習Ⅰ Aで設定した課題を学生各自の個別専門領域のテーマとして鮮明にし、具体的な研究方法論との関係で、問題解決の可能性と限界、新しい課題を探究させる。		
到達目標	(1)Ⅰ Aにおいて得られた知見をもとに、更なる課題解決の可能性を見いだす能力を身につけること (2)各自の解決策が社会にあたえるインパクトをはかり、的確な表現方法をもってプレゼンテーションできる能力を身につけること		
成績評価	到達目標の(1)に関する理解度・習熟度を50%、(2)の理解度・習熟度を50%として、合計で100%の評価を付与する。		
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別演習Ⅱ B（環境意匠）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	本演習では、対象となる建築を事業計画から考え、都市・自然環境との相互関係、建築法規、空間計画、各部素材や仕様の決定、ディテール、構造計画、設備計画、施工方法や資材管理等、多岐にわたる専門知識を自ら調べ答えることで建築設計の専門職能に資する総合的視座を得る。		
到達目標	(1)自然環境、都市環境の文脈を読み、適切な建築デザイン、建築計画を立てる能力を身につけること (2)構造計画、設備計画、施工方法を検討し、実現可能な設計提案を行う能力を身につけること		
成績評価	学習到達目標の(1)に関する理解度・習熟度を50%、(2)の理解度・習熟度を50%として、合計で100%の評価を付与する。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし		
履修資格			

科目名	環境計画学特別演習Ⅲ（地域環境経営）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方を探るとともに、それを実現するための地域環境計画とその運用について研究指導を行う。		
到達目標	指導教員により示される。		
成績評価	指導教員により示される。		
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別演習Ⅳ（地域環境経営）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方を探るとともに、それを実現するための地域環境計画とその運用について研究指導を行う。		
到達目標	指導教員により示される。		
成績評価	指導教員により示される。		
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別研究Ⅰ（環境意匠）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	学生の修士論文または修士設計の作成に向けて、研究テーマの深化、テーマに関わる基本的・専門的な学習、既往研究の調査、研究手法など、研究・作業の全過程を見据えながら、綿密な準備的指導を行う。		
到達目標	各学生の指導教員によって示される。		
成績評価	各学生の指導教員によって示される。		
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別研究Ⅱ（環境意匠）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	修士論文または修士設計の作成に向けて、テーマに関わる基本的・専門的な学習、既往研究の調査、研究手法に関する知見の深化を踏まえて、調査・実験・資料分析等、研究を進める。成果を修士論文または修士設計としてまとめる。		
到達目標	各学生の指導教員によって示される。		
成績評価	各学生の指導教員によって示される。		
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別研究Ⅰ（地域環境経営）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方に関する修士論文作成のための研究指導を行う。		
到達目標	指導教員により示される。		
成績評価	指導教員により示される。		
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される。		
履修資格			

科目名	環境計画学特別研究Ⅱ（地域環境経営）	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	持続的な資源利用と地域経営、環境保全を可能にする地域社会のあり方に関する修士論文作成のための研究指導を行う。		
到達目標	指導教員により示される。		
成績評価	指導教員により示される。		
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される。		
履修資格			

科目名	環境政策形成過程論	2単位	後期
担当教員	松本 健一 ・ 平山 奈央子		
授業概要	環境政策が形成される過程を、実例をふまえて講述する。第1回は全体のガイダンスを行う。第2回～第8回は、気候変動分野における政策形成過程について、審議会や委員会、パブリックコメントなどを対象として受講生による事例調査報告と受講生・教員による質疑と議論を通じて学ぶ（松本担当）。第9回～第15回は、湖沼や河川に関する政策形成の過程とそれに関する法律、財政、住民参加などのしくみを踏まえ、受講者の関心分野の政策形成過程について、事前調査およびディスカッションを通じて学ぶ（平山担当）。		
到達目標	講義対象の環境分野における環境政策形成過程の現状について、説明・考察できるようになる。		
成績評価	到達目標について、2名の担当教員それぞれが50%ずつ、事例調査報告・レポートおよび、授業中の質疑応答・議論の内容で評価する。 ・ 中間報告・議論：10%、最終報告・議論：20%、レポート：20%（松本） ・ 中間報告・議論：10%、最終報告・議論：20%、レポート：20%（平山）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：2名の担当教員それぞれが、資料を配付する。 参 考 書：ユージン バーダック『政策立案の技法』 東洋経済新報社（2012）		
履修資格			

科目名	環境設計特論	2単位	後期
担当教員	川井 操		
授業概要	建築環境 Built Environment をどう捉えるか、どう分析するか、その方法について考究し、空間設計、すわなち建築・都市・地域空間の設計計画（建築学・都市計画学）の分野を基礎として環境設計の方法論を展開する。古今東西の建築環境の素材、対象とし、その成り立ち、構成原理を論究するが、とりわけ、アジア地域における住居集落、都市建築の構成手法について解明を試みる。ヴァナキュラー建築からセルフヘルプ・ハウジングまで、主として、都市組織、都市住居のあり方を中心に、文献購読、臨地調査など作業を展開したい。		
到達目標	建築・都市・住居にかかわる環境設計の方法論について、文献読解と臨地調査を基にして、知識体系、解析方法、設計手法の習得を目指す。		
成績評価	レポート 50%+発表 50%		
テキスト 指定図書 参考書	環境構築の意味を読む（エイモス・ラポポート著、高橋鷹志監訳・花里俊広訳） 生きているすまいー東南アジア建築人類学（ロクサーナ・ウオータソン著、布野修司監訳+アジア都市建築研究会） 形の合成に関するノート（クリストファー・アレグザンダー著） アメリカ大都市の死と生（ジェイン・ジェイコブス）		
履修資格			

科目名	環境造形特論	2単位	前期
担当教員	松岡 拓公雄		
授業概要	素材と造形と技術の関係とは何か。新たな造形の視点となる最新の環境技術について考察する。自然素材からハイテク素材が、建築との環境とどう関わっているのかを解説し、これからの可能性を環境科学的な視点で論じる。様々な環境問題に直面している都市、田園における人間と自然との関わり方において、建築は循環型の素材やエネルギーや、サステナビリティな造形などで対応していく未来への提言を考えると同時に、その企画、設計手法、職能倫理など実務での現実の問題を解説し、実践に対応できる環境技術の知識を講義する。		
到達目標	地球温暖化、自然エネルギーなど環境問題を背景に生まれた建築での環境技術の実践事例を通し、技術採用後の実態調査も温めてその効果を理解し、その技術と理論がどのように建築造形を変えて行くのかなど技術との関係、その有用性、必要性を深く理解し、ものづくりのひとつの指針とする。		
成績評価	発表用のパワポを A3 サイズにシート化したものの内容で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：再び健康な建築（彰国社）、モダニズムの系譜（INAX 出版）、地球環境建築の事例		
履修資格			

科目名	環境動態学特別演習 I	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	環境動態の各専門分野に関する国内外の文献を購読させ、これを体系的にまとめ発表させる。その内容について相互に討論を行い、解説を加える。		
到達目標	専門分野の文献の読解と要約および適切な内容評価ができること。		
成績評価	プレゼンテーションおよび質疑応答の内容によって判断する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各教員ごとに決定する。		
履修資格			

科目名	環境動態学特別演習Ⅱ	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	環境動態の各専門分野に関する国内外の文献を購読させ、これを体系的にまとめ発表させる。その内容について相互に討論を行い、解説を加える。		
到達目標	専門分野の文献の読解と要約および適切な内容評価ができること。		
成績評価	プレゼンテーションおよび質疑応答の内容によって判断する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各教員ごとに決定する。		
履修資格			

科目名	環境動態学特別研究Ⅰ	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	環境動態学の各専門分野に関連する特定の研究課題を通し、実験、調査、解析手法を具体的事例に即して習得させ、修士論文作成の指導を行う。		
到達目標	研究課題ごとに設定される。		
成績評価	各研究課題への取り組み状況により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	研究課題ごとに選ばれる。		
履修資格			

科目名	環境動態学特別研究Ⅱ	4単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	環境動態学の各専門分野に関連する特定の研究課題を通し、実験、調査、解析手法を具体的事例に即して習得させ、修士論文作成の指導を行う。		
到達目標	1. 論文の体裁（構成、書式）が整っており、論理展開が明快であること。 2. 研究の目的・方法が明確で、新たな知見を含んでいること。 3. 十分な調査・実験に基づき、結果の分析と考察が十分に行われていること。 4. 内容が国内外の学会で発表できる学問的水準に達していること。 5. 発表会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問に対して的確に答えられたこと。		
成績評価	論文審査および口頭による最終試験（審査会）によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	研究課題ごとに選ばれる。		
履修資格			

科目名	環境動態学プレゼンテーションⅠ	1単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	研究の内容を正確に理解しやすくプレゼンテーションすることは研究者・技術者にとって必須の技能といえる。また、他者のプレゼンテーションを自らの視点で吟味し、意見を戦わせることは研究・開発の進展に貢献する。本演習では研究発表の準備段階として、所属部門の二年生により行われる中間報告会と修士論文発表会に参加し、関連する研究分野についての知識とプレゼンテーション技術について学ぶ。		
到達目標	各研究分野について関連する知識を得るとともに、修士論文審査会に向けてプレゼンテーション技術が向上すること。		
成績評価	発表会への参加態度および質疑応答の内容によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	指定しない。		
履修資格			

科目名	環境動態学プレゼンテーションⅡ	1単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	環境動態学プレゼンテーションⅠに引き続き、プレゼンテーション技術とそれをもとにした議論の方法について学ぶことを主目的とする。本演習では環境動態学特別研究の内容を素材として、所属部門において開催される中間報告会および修士論文発表会という形でプレゼンテーションを行う。		
到達目標	修士論文審査会に向けた十分なプレゼンテーション技術を習得すること。		
成績評価	プレゼンテーションおよび質疑応答の内容によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	指定しない。		
履修資格			

科目名	環境リスク論	2単位	後期
担当教員	井手 慎司		
授業概要	地域環境経営学的立場からみた広義の環境リスク管理を対象として、ハザードの同定からリスク評価・分析に至る最近の成果を紹介するとともに、人々のリスク認知やリスクコミュニケーションに関する知見を踏まえたリスク管理のあり方について講述する。		
到達目標	(1)環境リスクの概念・定義について説明できる。 (2)リスク分析を計算できる。 (3)リスク分析の結果について説明できる。 (4)リスク問題に対する科学の限界を説明できる。 (5)リスク管理のあり方について自らの考えを述べることができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)(2)(3)(4)(5)については、定期試験(100%:(1)30%、(2)10%、(3)20%、(4)15%、(5)25%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書等を適宜授業中に紹介する。		
履修資格			

科目名	居住環境工学	2単位	前期
担当教員	伊丹 清		
授業概要	すまいに関わる種々の省エネルギー手法や環境共生手法のいくつかを取りあげながら専門的理解を深めるとともに、様々な環境問題と我々の居住環境との関わりや、地域の気候特性を活かした居住のありかた等について論述をおこなう。これらにより、建築設計実務での設備計画・設計に資する専門知識と社会的視座を得ることをめざすとともに快適かつ安全な居住環境のあるべき姿や、それを実現化する住まい・住まい方について具体的に考察できることをめざす。		
到達目標	(1)具体的な地域の気候特性を抽出して説明ができること。 (2)建築にかかわる伝熱現象・拡散現象の基礎理論を理解した上でこれら気候変動が建物内に与える影響を予測することができること。 (3)建築設計実務での設備計画・設計に資するため専門知識を応用することができる。		
成績評価	小テスト (50%) ... (1):20%、(2):20%、(3):10% レポート (50%) ... (1):20%、(2):20%、(3):10%		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：随時紹介する		
履修資格			

科目名	魚類栄養学特論	2単位	後期
担当教員	杉浦 省三		
授業概要	魚類の栄養学と飼料学に関する専門知識と研究技法を学ぶ。具体的内容は、魚類の栄養要求、代謝、生理応答、飼料の設計と製造、魚類の飼育実験、各種分析など、大学院における実験・研究を遂行するための実践力を身につける。また、当該分野の研究論文を精査することで、研究の要点を理解するとともに論文作成力と科学的思考力を養成する。		
到達目標	1. 魚類の栄養と飼料に関わる実験・研究を遂行するための実践力を身につける。 2. 研究論文を批判的に読み、長所、短所、改善点、改善方法等について論説できる。		
成績評価	定期試験 100% (到達目標 1, 2、各 50%) なお、定期試験をレポート提出に置き換えることがある		
テキスト 指定図書 参考書	Fish Nutrition, 3rd Edition (2002) Academic Press. Nutrient Requirements of Fish and Shrimp (2011) National Academies Press. その他、適宜、論文を配付・紹介する。		
履修資格			

科目名	建築技術特論	2単位	前期
担当教員	陶器 浩一		
授業概要	学部で習得した知識を構造計画の実務に応用できるよう、建築構造材料の特徴や最新の建築工法について、それらの応用事例を紹介し、構造計画への展開について議論する。また、環境共生のための構造技術の手法について講義する。さらに新しい建築デザインのなりたちが、構造工学の発展とどのように関連、補完し合っているのか、その意義について議論を深める。各種建築工法を利用した構造計画の演習も併せて行い、建築設計実務での構造計画に資する専門知識と応用能力を得ることをめざす。		
到達目標	各種建築工法を利用した構造計画の演習行い、建築設計実務での構造計画に資する専門知識と応用能力を得ることをめざす。		
成績評価	講義におけるレポート課題		
テキスト 指定図書 参考書	なし		
履修資格			

科目名	建築計画特論	2単位	後期
担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon		
授業概要	設計実務における建築計画の妥当性は、都市と建築の相互関係を深く理解することが必要である。本講義ではそれぞれの文明の発展について、都市空間や建築様式を考察し、宗教的思想と建築の関係、それぞれの文明がどう関連しているかを分析、解説する。		
到達目標	建築設計実務におけるデザインならびに建築計画に資する専門知識と社会的視座を得ることをめざす。		
成績評価	発表（30％）適宜即日レポート（70％）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布参考書：授業で適宜紹介する		
履修資格			

科目名	建築構造特論	2単位	後期
担当教員	高田 豊文		
授業概要	本特論では、高度な構造解析や構造設計に必要な構造力学の基礎およびこれらに関連する数学理論を学習し、構造物の振動特性、地震応答性状や構造安全性の考え方などを理解し、建築物の振動解析の数値計算技術を修得することをねらいとしている。具体的には、1自由度系および多自由度系の線形応答解析、動力学の構造設計への応用について、数学理論の講義および演習を行い、建築設計実務での構造計画・設計に資する専門知識と社会的視座を得ることを目指す。		
到達目標	(1)建築構造・地震防災に関する講演会等について建築構造の視点から批評できること。 (2)1自由度系・多自由度系の振動の概要を理解すること。 (3)1自由度系の地震応答解析の数値計算技術を修得すること。		
成績評価	到達目標で示す各項目について、演習レポート（(1)20%,(2)40%,(3)40%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。なお、6回以上欠席した者は、単位を認めない。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：西川孝夫他 著、「建築の振動－初歩から学ぶ建物の揺れ」，朝倉書店 参考書：西川孝夫他 著、「建築の振動－応用編」，朝倉書店		
履修資格			

科目名	建築史特論	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	未定		
到達目標	未定		
成績評価	未定		
テキスト 指定図書 参考書	未定		
履修資格			

科目名	建築設計特論	2単位	前期
担当教員	芦澤 竜一		
授業概要	持続可能な建築の設計方法論を考察する。過去から現代まで、実例より学びながら、都市や地域に於いて、各場所の環境要素や特性を分析し、いかにそれらの要素を用いて設計を行うかを考察する。環境、素材、技術の特性を見抜き、建築の社会性を考慮しながら、新たな環境、建築空間を創出するための設計方法論を講義し、議論する。		
到達目標	建築設計に於ける建築デザインの専門知識と理論、それらを用いる実践的設計能力を身につける。		
成績評価	講義におけるレポート課題 70% 出席 30%		
テキスト 指定図書 参考書	特になし		
履修資格			

科目名	建築デザイン特論	2単位	前期
担当教員	高柳 英明		
授業概要	本授業は、建築を生み出すプロセスで最も根幹的かつ重要な視点である事業モデル化～建築を企画すること～について議論する。建築事業の企画・立案に始まり、コストマネジメントと事業計画の関係、建築プロデュース業務とコンセプトメイキングなどについて、実例(集合住宅・市庁舎再開発・レジャー施設開発・駅空間再開発等)をあげながら詳細に解説する。		
到達目標	(1)建築設計に至る前の企画立案について、専門知識を得ること。 (2)実際の敷地、地域を対象として、建築企画を立て、事業モデルの提案ができること。		
成績評価	到達目標のそれぞれの項目について、前半の(1)で建築企画の立案を行い企画書に纏めプレゼンテーションを行う。この内容 (50%) を評価する。後半の(2)では、各自建築事業モデルの提案を行い、プレゼンテーションを行う。この内容 (50%) を評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。なお、各回の出席点を 30%、課題の合計点を 70%として評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：『スマートライフ(早稲田大学理工研叢書シリーズ)』 参考書：『建築設計ノート・集合住宅(彰国社)』		
履修資格			

科目名	建築パッシブデザイン特論	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	・ 建築デザインと持続可能性の関係について述べる。 ・ パッシブ建築の基礎理論を述べる。 ・ パッシブヒーティングの手法と実例について概説する。 ・ パッシブクーリングの手法と実例について概説する。 ・ 昼光照明の手法と実例について概説する。 ・ 建築の総合的パッシブデザイン手法を論述する。		
到達目標	(1)建築デザインと持続可能性の関係が理解できる。 (2)パッシブ建築の基礎理論が理解できる。 (3)パッシブヒーティングとパッシブクーリングの手法の基本原則を理解し、応用できる。 (4)昼光照明の手法が理解できる。 (5)建築の総合的パッシブデザイン手法を応用できる。		
成績評価	英文参考書『Heating, Cooling, Lighting, Sustainable Design Methods for Architects』の輪読(60%)とレポート(40%)によって評価を行う。 到達目標に示す(1)～(4)については、英文参考書輪読(60%:(1)10%,(2)10%,(3)20%,(4)20%)、(5)については課題レポート(40%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書:『Heating, Cooling, Lighting, Sustainable Design Methods for Architects』, John Wiley & Sons, 2009.		
履修資格			

科目名	建築論特論	2単位	前期
担当教員	迫田 正美		
授業概要	本講義では西洋の古代から現代にいたる建築論（Theory of Architecture）の歴史と内容について、その概要と変遷について講述するとともに、近現代の建築論とその動向及び展望について講義する。また、社会システム論、生命システム論などの知見を踏まえて、建築論における環境と人間の行動との相互性の位置づけについて論述する。		
到達目標	古代から現代に連なる建築論の歴史的展開についての知識を習得すること ルネッサンスから今日までの思想的展開と建築論との関係性を理解すること 環境と人間行動との相互関係に関する知見を理解すること		
成績評価	各回の小レポート30% レポート試験70%		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『人間と空間—生態学的であることについて—』滋賀県立大学環境ブックレット 参考書：『かくれた次元』E. T. ホール、みすず書房、『生態学的視覚論』J. J. ギブソン、 『オートポイエーシスシステム』マトゥラーナ、ヴァレーラ、国土社		
履修資格			

科目名	構造設計特論	2単位	前期
担当教員	永井 拓生		
授業概要	・現代の構造デザインや構造技術、建築工法が生まれるに至った歴史的経緯を、建築学・工学・社会学等を含む総合的な視座のもとに論じる。 ・鉄、コンクリート、木といった現在一般的に使用される構造材料に加え、アルミや竹、土といった素材の可能性について論じる。 ・山林資源に恵まれた地域における、林業・林産業と建築の経済的、社会的関係について考察する。 ・構造設計者が果たすべき役割、責任、技術について、防災および安全計画の観点から論じる。		
到達目標	(1) 建築と構造技術・工法・産業の関係を、工学的・歴史的観点の双方において理解する (2) 構造設計者の役割と責任、職能を理解する		
成績評価	出席 50%（但し、3回以上欠席した場合は成績不可とする） レポート 50% 以上合計 100%で評価する		
テキスト 指定図書 参考書	資料は授業中に配布する		
履修資格			

科目名	国際環境マネジメント特論	2単位	後期
担当教員	丸尾 雅啓・原田 英美子・高橋 卓也		
授業概要	このコースで受講生は、国際的な学部教育の企画・運営に主導的に携わる。対象となる学部教育科目（「国際環境マネジメントⅠ、Ⅱ」）では、アジアの環境問題をそれが生起している場の自然条件および社会条件と合わせて理解し、その解決策を検討する能力を養成することを目指している。その企画・運営に携わるなかで、国際的なプロジェクトを推進する能力の養成を目指す。企画段階においては、アジアの環境問題を各自の問題意識に応じて学術的に調査し、授業の内容に反映させる。運営段階では、講義、フィールドワーク、ワークショップに参加し、学部生を主導するとともに、国際的なフィールドワーク、ワークショップの運営の技法を修得する。		
到達目標	(1) アジアの環境問題を自然条件、社会条件を踏まえ俯瞰的にとらえることができる。 (2) アジアの学生と具体的な問題を通じてコミュニケーションできる。 (3) アジアの環境問題について学術的知見に基づいて説明することができる。 (4) 本コースで学んだ知識を具体的な環境問題解決に応用することができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)、(2)、(3)、(4)については、授業の最後に実施するプレゼンテーション（50%:(1)10%, (2)10%, (3)20%, (4)10%）とワークショップにおける合意形成への貢献（50%:(1)10%, (2)10%, (3)20%, (4)10%）により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	Environmental Studies in Asia（非売品/配布予定）		
履修資格			

科目名	国際農林環境政策論	2単位	後期
担当教員	高橋 卓也・増田 清敬		
授業概要	農地は人間の生存に不可欠な食料をはじめとする農産物を供給するとともに、さまざまな環境便益を提供している。また、陸上最大のバイオマス資源である森林は、人間生活に深く結びつくとともに、持続可能な社会の実現のための構成要素として大きな可能性を有している。日本国内の農地・森林問題を考えるためには、国際的な問題状況・構造の理解は必須のものである。本講義においては、基礎的な知識を得たうえで、農林業と環境との関連について自身の筋道だった見解を形成できる能力を養成することを目的とする。第1回～第8回は高橋が、第9回～第15回は増田が担当する。		
到達目標	(1) 農林環境政策について国際的視野から理解している。 (2) 農林環境政策はどうあるべきかについて国際的視野から、説得力のある提案を行うことができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)についてはプレゼンテーション・レスポンスペーパー(50%)、(2)については、レポート(50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし 指定図書：なし 参考書：講義の際に紹介する。		
履修資格			

科目名	参加型計画運営論	2単位	後期
担当教員	近藤 隆二郎・小野 奈々		
授業概要	もはや参加が目標である時代は終わり、実践的な参加の枠組みが必要となってきた。環境マネジメントやまちづくりへの住民参画／合意形成／自主管理手法について、実例をふまえて講述する。コミュニティのつながりという基盤が希薄化し、一方で情報化社会がネットを介して爆発的に進行している中で、参加はどのようにゆらぎ、そして何が起きているだろうか。		
到達目標	(1)市民参加の変遷と現状の仕組みについて説明できること。 (2)参加型計画運営のコツについて体得すること。		
成績評価	到達目標(1)は、課題評価50% 到達目標(2)は、試験50%		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：原科幸彦編「市民参加と合意形成 ー都市と環境の計画づくりー」学芸出版社,2005 参考書：木下勇「ワークショップー住民主体のまちづくりへの方法論」学芸出版社,2007／ロバート チェンバース「参加型ワークショップ入門」明石書店,2004		
履修資格			

科目名	資源循環と国際貿易	2単位	前期
担当教員	林 幸司・村上 一真		
授業概要	資源循環と国際貿易に関する現状の理解と理論的分析手法を学ぶ。前半では産業連関表分析を中心に資源循環の分析方法を学ぶ。後半では、共分散構造分析を中心に、企業の国際貿易と環境経営の関係、個人の環境に配慮した資源利用に関する分析手法を学ぶ。		
到達目標	(1)国際貿易を通じた資源循環のメカニズムを理解し、説明できるようになること。 (2)統計データを理解し、統計的手法により定量的に貿易に関連する経済現象を分析・評価できること。		
成績評価	到達目標で示す(1)国際貿易を通じた資源循環のメカニズムを理解し、説明できるようになること、および(2)統計データを理解し、統計的手法により定量的に貿易に関連する経済現象を分析・評価できること、について各回の課題作業(50%:(1)25%, (2)25%)、中間まとめ課題(25%:(1)12.5%, (2)12.5%)、期末まとめ課題(25%:(1)12.5%, (2)12.5%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書については適宜指示する。		
履修資格			

科目名	持続的生物生産論	2単位	後期
担当教員	泉 泰弘・畑 直樹		
授業概要	農業、林業、漁業などの農業生産における栽培環境側面からの生産管理により、環境への負荷の小さい持続的生産システムを論じる。		
到達目標	今日の農業問題について理解を深めて、今後の課題を知り、これらの研究の手法を学ぶ。 今日の施肥農業の問題点と方向性を知ることができる。 耕地や山林の土壌管理の問題点と方向性について理解を深めることができる。 植物の生長に適した環境を制御する生産技術について理解を深めることができる。		
成績評価	三分の二以上の出席とレポートで評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	プリントの配布を行う。		
履修資格			

科目名	集水域環境論	2単位	後期
担当教員	後藤 直成・肥田 嘉文・細井 祥子		
授業概要	環境中における化学物質濃度とその予測について暴露評価の観点から論じるとともに、湖沼生態系における微生物の役割およびそれら微生物を利用した環境保全について講述する。また、流域図の作成法および流域諸元の算出法についても解説を加える。		
到達目標	(1) 流域図および流域諸元を作成・算出することができる。 (2) 化学物質の環境中濃度の予測とリスクの算出ができる。 (3) 湖沼生態系における微生物の役割および微生物を利用した環境保全に関する基礎知識を理解し、説明できる。		
成績評価	到達目標 (1) と (2) については、課題レポート (60%) で評価する。到達目標 (3) については、小テストと課題レポート (30%) で評価する。また、各授業における質疑応答・議論の内容 (10%) を成績評価に加える。以上を 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	講義時にプリントを配布する。参考書：講義時に紹介する。		
履修資格			

科目名	植物遺伝資源論	2単位	前期
担当教員	清水 顕史・原田 英美子		
授業概要	(植物)遺伝資源を活用する様々な研究技術についてより深く学び、各自の修士論文研究を向上させるためにはどんな知識が必要か自力で考え、解決策の習得を目指す。[清水、担当分]R など汎用情報ツールを用いたデータ解析技術について学ぶ。各自の研究テーマに関する学術論文に記載されている解析手順の文章化を通じて、仕組みを深く理解する。[原田、担当分]植物資源利用の新しい可能性を最新の技術動向を示して論ずるとともに、このような資源利用を可能にする植物の生理・生化学メカニズムについて取り扱う。		
到達目標	[清水、担当分](1)問題解決のための情報収集手順を1つ以上挙げることができる、(2)情報処理ツールを用いたデータ解析処理例を1つ以上説明できる、(3)データ解析技術1つ以上について、解析手順を文章化し提出する。[原田、担当分](4)植物の生理に関する知見を様々な視点からとらえ、系統立てて理解し説明できる、(5)植物に関するトピックを取り上げ、わかりやすく説明できる。		
成績評価	以下の教員ごとの評価を合算し、60 点以上を合格とする。 [清水、担当分]50% 到達目標はレポートおよび講義内発表で評価する。内訳は(1)10%、(2)10%、(3)30%。[原田、担当分]50% 内訳はショートプレゼンテーション (25%)、講義後の確認問題および中間レポート (25%)。		
テキスト 指定図書 参考書	[清水、担当分] 授業のなかで紹介する。[原田、担当分] テキスト:配布資料;参考書:L.Taiz、E.Zeiger 著、西谷和彦・島崎健一郎 監訳 「テイツ・ザイガー 植物生理学 第3版」(培風館);他にも講義中に紹介する。		
履修資格			

科目名	植物資源管理論	2単位	前期
担当教員	泉 泰弘 ・ 上町 達也		
授業概要	農作物の収量性や品質の向上を目的とした、栽培管理技術や育種に関する最近の研究成果について学ぶ。いくつかの最近の研究事例を通して、研究課題を見だし、解決策を模索するプロセスを理解する。		
到達目標	(1)食用作物及び園芸作物に関する最近の研究の動向を理解する。 (2)研究課題を見だし、解決策を模索するプロセスを理解する。 (3)いくつかの研究事例をまとめて、文章化し、わかりやすく伝える技術を習得する。		
成績評価	プレゼンテーション（50%）およびレポート(50%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：配布資料		
履修資格			

科目名	森林生態学特論	2単位	前期
担当教員	野間 直彦 ・ 未定		
授業概要	地球温暖化・生物多様性などの地球環境問題に深く関係する、植物がつくる生態系の役割と意義を論じる。陸域では森林群落、湖内では沈水植物群落といった各景観域で大きな生物量を持つ群落を取りあげ、それらの生物量の実際の推定法を講義するとともに、それら群落の有無が各生態系・流域生態系に及ぼす影響を考える。群落の構造、地形・水分などの環境との関係、遷移や更新、人為との関係、里山・里湖の問題、鳥獣害、動物などとの共生関係について講義し、生態系の保全と修復のために取るべき方策を考察する。		
到達目標	野外に出た時、それがどのような植物群落なのか読み取れるようになること。その群落の保全、（それに加え必要な場合には）修復の方針を理解できるようになること。		
成績評価	レポート(100%)		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：マッカーサー「地理生態学」蒼樹書房、「植物生態学」朝倉書店、堤利夫編「森林生態学」朝倉書店、菊沢喜八郎「植物の繁殖生態学」蒼樹書房、西野・浜端編「内湖からのメッセージ 琵琶湖周辺の湿地再生と生物多様性保全」サンライズ出版 他にも講義中に紹介する。		
履修資格			

科目名	水圏生態系動態論	2単位	前期
担当教員	伴 修平 ・ 永淵 修 ・ 北澤 大輔※		
授業概要	本講義では、湖沼生態系および海洋生態系における生物群集の動態と物質循環、およびそれらを取りまく物理・化学的環境について学ぶ。内容は、物理、化学、生物に大きく分かれ、それぞれの動的側面について理解する。		
到達目標	水圏生態系の動力的側面を理解し、その変動要因について解析する基礎的知識を身につける。		
成績評価	それぞれに要求されるレポートによって評価する。環境を動的にとらえることの意味を十分に理解していることが重要。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし。授業に関連した資料を配付する。		
履修資格			

科目名	生産環境管理論	2単位	前期
担当教員	鈴木 一実 ・ 高倉 耕一		
授業概要	農地及び自然の生態系における有害生物管理の理論と技術について論述する。農作物の病害を防除し、高位生産を維持するために用いられる殺菌剤等の種類と特性、それらによってもたらされる生態系の攪乱および薬剤耐性菌の出現等生物の反応とその対策について、地球環境の保全を視野に入れて論ずる（鈴木）。動物の大発生や個体数変動の実態とそのメカニズムについて個体群生態学の視点から論述するとともに、その生物間相互作用の側面および進化生物学的側面について、内外の研究成果・実例を参照しつつ議論する（高倉）。		
到達目標	(1) 農業用殺菌剤の種類と特性について理解することができる。 (2) 薬剤耐性菌の出現と対策について理解することができる。 (3) 総合的病害虫管理（IPM）について理解することができる。 (4) 害虫管理における生物間相互作用と進化について理解することができる。		
成績評価	到達目標（1）～（4）について、課題レポートで評価する。評価比率はそれぞれ 25%とする。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布する。 指定図書：講義の中で適宜紹介する。 参考書：講義の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	生態系影響論	2単位	後期
担当教員	浦部 美佐子 ・ 丸尾 雅啓		
授業概要	生態系は、生物体の直接の収奪、ハビタットの改変、汚染物質の放出などの人為的改変によりさまざま影響を受ける。これらに対して生態系がどのように応答するかについて、生物群集の構造面と、化学物質の特性の両面から論じる。		
到達目標	生態系に関する英文文献を読解することができ、基本的な学術用語を説明できること。		
成績評価	(浦部) 毎週の課題（70%）および授業終了後に提出する要約(30%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Richardson, D. M. (ed) (2011) Fifty years of invasion ecology: the legacy of Charles Elton. Wiley-Blackwell. Sigeo D.C. (2004) Freshwater Microbiology, Wiley.		
履修資格			

科目名	生態系保全特別講義	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	生態系保全に関わる科学は、環境問題の多様化のため研究分野が専門化・細分化されつつあり、総合的理解が難しくなっている。このために環境科学の第一線で活躍している研究者を非常勤講師として委嘱し、それぞれの分野で最先端の話題について集中講義を行う。		
到達目標	生態系保全に関する実践的な理解を通して、それぞれの分野ごとに実際的な方法論を習得する。		
成績評価	各講師によって、試験・レポートなどが課され、これらによって評価がなされる。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし。それぞれの授業で資料が配付される。		
履修資格			

科目名	生物圏環境論	2単位	前期
担当教員	堀野 治彦※・柳 哲雄※		
授業概要	（堀野講師）水を中心とした地域の循環プロセス・動態に注目し、大気や土壌との関わりを含めその管理や制御に関わる技術や考え方を解説する。地域資源としての水・土・大気環境や生態系および人の生活との関わりについても紹介する。（柳講師）赤潮・青潮など沿岸海域における環境問題の特性を論じ、地球温暖化が沿岸海域環境に与える影響を述べ、人為的影響と比較してどのような程度か示す。沿岸海域における生態系サービスの変遷を概観し、今後我々が沿岸海域の豊かさを享受するための里海という視点の重要性を指摘する。		
到達目標	水文・水循環、海洋学をはじめとする地球上の物質循環に関する諸問題に対応できる知識を習得することを目指します。		
成績評価	平常点（予習状況、授業中のパフォーマンス、宿題など）40点、レポート60点		
テキスト 指定図書 参考書	丸山利輔・三野 徹編：地域環境水文学、朝倉書店、水収支研究グループ編：地下水資源・環境論、共立出版柳 哲雄：海の科学－海洋学入門、恒星社厚生閣、柳 哲雄：里海論、恒星社厚生閣		
履修資格			

科目名	生物社会共生論	2単位	後期
担当教員	西田 隆義		
授業概要	生物群集の中ではさまざまな生態的相互作用が働いて、その結果、自然のバランスが保たれていると考えられている。本講義では、生物群集の構造を決める上で骨格となる食物連鎖を通じた縦の関係（捕食-被食関係）と共通の資源を介した横の関係（競争）について解説し、生物群集の理解を深めることを目指す。		
到達目標	生物群集における安定と変動の機構について、基本的な理解を得ること。		
成績評価	授業中の小テスト（60%）、プレゼンテーション（40%）		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：天敵なんてこわくない（西田隆義著・2008年）八坂書房 行動生態学（日本生態学会編・2012年）共立出版		
履修資格			

科目名	生物多様性論	2単位	後期
担当教員	本庄 三恵※		
授業概要	生物多様性の基本となる生物の種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性の3つのレベルでの多様性の概念、ならびに多様性創出・維持・喪失機構について取り扱う。最近の研究や多様性保全に向けた方策についても併せて紹介する。		
到達目標	(1) 3つのレベルでの多様性ならびに多様性創出・維持・喪失機構に関する基礎的な知識を習得し、これらの概念を理解する。 (2) 生物多様性に関わる現状、応用研究や対策をもとに、生物多様性を維持するための適切な方法を評価する力を身につける。		
成績評価	講義後の確認問題と課題（30%）・課題レポート（70%）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：資料プリントを配布する。参考書：講義中に紹介する。		
履修資格			

科目名	地域資源経営論	2 単位	後期
担当教員	増田 佳昭		
授業概要	本講義では、農村地域資源を対象に、その現状と課題、分析方法について学ぶ。森林や農地、水路の荒廃など、現在その管理の困難が大きな社会問題となっている。他方、農村の風景や文化などは都市生活者にとって、魅力的な地域資源でもある。前半では農村地域資源問題について理論と現状を概観し、その保全と活用のあり方と協同組合などの管理主体について考える。後半では、英文文献の講読を中心に海外における地域資源管理の現状、手法について学ぶ。		
到達目標	(1) 地域資源の経営経済的特徴について理解できる。 (2) 地域資源が未利用、遊休化する条件について理解でき、あわせて活用のための経営経済的条件について理解できる。 (3) 地域資源活用のための管理主体について、問題の所在と望ましい姿を説明できる。		
成績評価	到達目標ごとの評価配分割合は以下の通り。 (1) 30%、(2) 30%、(3) 40% 評価方法は、毎回の報告と質疑によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	開講時に指定する。		
履修資格			

科目名	地圏環境論	2 単位	前期
担当教員	倉茂 好匡・堂満 華子		
授業概要	本講義では、特に大気圏や水圏での環境にかかわる物理的・地学的諸過程について論ずる。		
到達目標	(1)環境科学のさまざまな場面で、流体力学を利用するための基礎的な学力をつける。 (2)現在そして将来の気候変動を考えるための基礎的知識を身につける。		
成績評価	(1) レポートおよび宿題 (50%)、授業のための準備 (予習) 状況 (50%) で評価する。 (2) 予習・宿題 (50%)、レポート (50%) で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	(倉茂教授) とくに指定はない。 (堂満助教) テキストとしてプリントを配布予定。参考書は適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	動物生産環境論	2 単位	後期
担当教員	平山 琢二		
授業概要	動物における栄養素の消化、吸収、代謝機構について講述し、動物栄養生理学の視点から環境問題の解明を探り、持続可能な動物生産のあり方について論じる。		
到達目標	(1) 反芻動物および単胃動物の栄養生理を理解し、説明できる。 (2) 反芻家畜および単胃動物が引き起こす環境問題を理解する。 (3) 持続可能な家畜生産方法ならびにそれらの研究手法を修得できる。		
成績評価	到達目標 1～3 のいずれも、定期試験 (50%) とレポート (50%) によって評価する。到達目標ごとの評価比率は均等 (各 1/3) とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義の中でプリントを配布する。		
履修資格			

科目名	都市計画特論	2単位	後期
担当教員	轟 慎一		
授業概要	都市計画学・地域計画学とは、都市・農山漁村の空間・コミュニティ・環境の構造と、その計画論・まちづくりについて探究する分野である。本講では、地域の将来像を構想し、その生活空間と地域環境を実現する方法の一つである、都市計画法制度について論考する。日本の都市計画・まちづくりの根幹をなす都市計画法は、高度経済成長期に都市化が急激に進展する中、1968年に制定された。都市計画区域には日本の総人口の9割以上が住まい、都市計画制度の態様は、国民生活に多大な影響を与える。現代日本においては、少子高齢社会の到来に伴い、都市縮小の時代を迎えている。本講では、都市計画システムの理解を通して、これからの都市計画・まちづくりを担っていくための基本を会得する。		
到達目標	(1) 都市計画システムを理解し、説明することができる。		
成績評価	(1) 発表 (50%)、研究レポート (50%)		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：適宜紹介		
履修資格			

科目名	土壌圏環境論	2単位	前期
担当教員	皆川 明子		
授業概要	土壌圏環境における水・物質と生物の関係について学ぶ。 1)英語の文献を指定し、各回の担当者が訳してまとめ発表する。 2)水理実験模型を用いた実験を行う。 3)学外実習を行う。 ※必要に応じて関連分野の解説を行う。		
到達目標	1)専門分野の英語文献を読みこなすために必要な語彙力を備える。 2)農地を中心とした水利施設の名称と役割を説明できる。 3)農業水利システムと生物の関係について理解する。		
成績評価	1)講義での発表 30% 2)実験のレポート 30% 3)実習のレポート 40% ※学外実習に参加しなかった場合は成績評価の対象外とする。		
テキスト 指定図書 参考書	講義時に適宜指定・配布する。		
履修資格			

科目名	廃棄物とリサイクル	2単位	前期
担当教員	金谷 健		
授業概要	前半（第1回～7回）は、廃棄物の処理・リサイクルについての制度的視点からの講述を、受講生による関心分野ごとの文献調査報告を踏まえて行う。後半（第8回～15回）は廃棄物分野での政策形成過程の講述を、特に審議会やパブリックコメントを対象に、受講者による事例調査報告を踏まえて行う。		
到達目標	①前半：廃棄物分野の学会誌の特集に記載内容を要約でき、当該分野の到達点や課題を説明できること。 ②後半：廃棄物分野における環境政策形成過程の現状について、説明できること。		
成績評価	到達目標①、②それぞれ、授業への積極性、報告、最終レポートで評価する。①が50%、②も50%である。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし（授業で適宜資料配布）。		
履修資格			

科目名	微生物学特論	2単位 後期
担当教員	入江 俊一・泉津 弘佑	
授業概要	地球環境下の至る所に微生物は存在し、分解者、寄生者、生産者として多様な働きを行う。微生物の機能を考えることは環境問題が発生する仕組みを理解する上で重要であり、微生物の利用、防除、制御が環境問題解決の具体的な手段となる場合も多い。本講義では、微生物を用いたバイオレメディエーション、バイオリファインリーのための微生物的前処理工程の開発、植物病原菌の環境応答機構など、持続可能社会実現のための最新の微生物利用技術、および微生物研究のために必要な実験手法について解説する。	
到達目標	(1) 微生物を利用した最新の環境技術について知識を得る。 (2) 微生物研究手段、特に遺伝子工学的実験手法について理解する。 (3) 農業やその他の産業に重要な二核菌亜界に属する菌類の環境応答機構を理解する。	
成績評価	レポートにより評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	特になし	
履修資格		

科目名	物質循環論	2単位 前期
担当教員	永淵 修・未定・倉茂 好匡・尾坂 兼一	
授業概要	自然生態系から農業生態系、都市生態系を循環する物質の挙動および動態に関わる生物地球化学、生物地球物理過程について考察し、環境科学の課題に取り組む際の学際性、総合性について理解させるため、森林生態系の物質循環、河川系における物質動態と水環境保全のための管理技術、海洋内部と大気圏、陸圏の物質循環の化学過程、水・エネルギーの相互作用、陸水の営力についてオムニバス方式で講述する。	
到達目標		
成績評価	担当する4名の教員それぞれが宿題・レポート等を課す。各担当教員がそれをもとに評価し、4名の教員による評価を平均したものををもって最終的な成績評価とする。	
テキスト 指定図書 参考書		
履修資格		

科目名	水資源環境論	2単位 前期
担当教員	金木 亮一※	
授業概要	世界的に逼迫しつつある水資源の現状、その保全・管理に関わる諸問題の量的解決方法、水質の管理手法などについて考える。	
到達目標	(1) 世界の水資源に関する諸問題を理解し、解決策を例示できる。 (2) 水質の管理手法を修得し、応用できる。	
成績評価	レポート 50%、プレゼンテーション 50%	
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介	
履修資格		

科目名	ランドスケープデザイン特論	2単位	後期
担当教員	村上 修一		
授業概要	ランドスケープデザインは、生活空間を豊かにするために人間が生み出した創造行為である。この視点から、滋賀および京都の庭園を対象とし、現地調査や図面資料調査をとおして空間構成を分析し、空間美や背景思想について考究する。受講生は単に知識を学ぶだけでなく、未来社会にふさわしい新たなデザインのあり方を会得する。		
到達目標	庭園の空間を客観的に分析し、空間美や背景思想について知見を得ることができるようになる。		
成績評価	到達目標を分析成果（個人課題）の発表の内容（100%）で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜配布・紹介する。		
履修資格			

科目名	陸面過程論	2単位	前期
担当教員	大久保 卓也		
授業概要	陸地表面における水・物質・エネルギーの輸送と移動過程の基礎理論について論じる。具体的な場として森林、農地、市街地等を対象に、その表面における水・物質・エネルギーの移動過程について既往の研究成果に基づき説明する。		
到達目標	(1)地表面における物質・エネルギーの輸送・移動の基礎メカニズムが理解できる。 (2)気象、土地利用等の環境条件のちがいによって物質・エネルギーの輸送・移動過程がどのように変化するか理解する。		
成績評価	到達目標で示す(1)(2)については、課題レポート(100%:(1)50%,(2)50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：斎藤恭一著、道具としての微分方程式―「みようみまね」で使ってみよう（ブルーバックス）新書		
履修資格			

工学研究科博士前期課程 科目履修の手引

◆材料科学専攻

1 学位授与方針

材料科学専攻は、人材の養成の目的を達成するため、下記のとおり、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

本専攻において、所定単位の修得と論文および最終試験の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、修士学位を授与します。

- A.材料科学に関する深い学識に裏打ちされた幅広い知識および視野を身につける。(知識・理解)
- B.材料科学の分野において、人間社会にとって有意義な新規課題の研究に自らの手法を提案して取り組み、全国的に通用する水準の課題解決を迅速に行える能力を、身につける。(技術・技能、思考・判断)
- C.自らの行った研究について、その学術的および工学的意義を説明できる。(興味・関心)
- D.自らの行った研究について、その内容を科学的・論理的かつ判り易く纏め上げて説明・報告できる能力を、身につける。(技術・技能)

2 教育課程の編成・実施方針

材料科学専攻は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

材料科学に関する深い学識に裏打ちされた幅広い知識および視野を身につけるために、無機材料部門開講科目として11科目、有機材料部門開講科目として10科目、部門共通1科目の選択科目を配置している。これらの中の4科目は、部門を問わず履修することが望ましい科目として配置している。

また、材料科学の分野において、新規課題の研究に自らの手法を提案し遂行できる能力を身につけるために、必修科目として「材料科学特別実験」を配置している。

さらに、自らの行った研究の学術的および工学的意義を説明でき、また研究の内容を科学的・論理的かつ判り易く纏め上げ、説明・報告できる能力を身につけるために、必修科目として「材料科学特別演習」を配置している。

これらの科目の体系的な学修により、人材の育成に関する目標を達成する。

3 博士前期課程修了要件

- ① 材料科学専攻の科目配当表の必修2科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位を修得すること。ただし、表中の選択科目から6科目12単位以上を修得すること。
- ② 修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること。
- ③ 他専攻（機械システム工学専攻、電子システム工学専攻）および他研究科の配当科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。なお、他研究科の配当科目を履修するときは、所属専攻長の許可を得ること。
- ④ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P.147を参照すること。

4 年次別科目配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年次	期 間	単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
(専攻共通) 先端複合材料科学	嘉数隆敬	1・2	前期		1		集中講義
(無機材料部門) 金属材料物性	未定	1・2	前期		2		
金属機能材料プロセッシング	宮村 弘	1・2	後期		2		
非晶質無機材料(*1)	松岡 純	1・2	前期		2		
構造・化学機能セラミックス(*1)	吉田 智	1・2	後期		2		
材料プロセス熱力学(*2)	松岡 純	1・2	前期		2		
電子・光機能セラミックス(*2)	吉田 智	1・2	後期		2		
光子物性論	奥 健夫	1・2	後期		2		
無機ナノ粒子工学	バラチャンドラン・ジャヤデワン	1・2	後期		2		
機能界面化学	秋山 毅	1・2	後期		2		
先端無機材料科学	高橋亮治	1・2	前期		1		集中講義
(有機材料部門) 高分子材料物性	徳満勝久	1・2	前期		2		
高分子固体構造	竹下宏樹	1・2	前期		2		
複合材料工学	山下義裕	1・2	後期		2		
天然高分子材料	廣川能嗣	1・2	前期		2		
高分子材料合成	谷本智史	1・2	後期		2		
環境機能材料	北村千寿	1・2	前期		2		
有機材料設計	井上吉教	1・2	後期		2		
酵素化学(*2)	北村千寿 竹原宗範	1・2	前期		2		
生体機能化学特論	井上善晴	1・2	後期		1		集中講義
遺伝子生化学	松岡 健	1・2	前期		1		集中講義
先端有機材料科学	山下敬郎	1・2	前期		1		集中講義
材料科学特別実験(*3)	専攻教員全員	1～2	通年	5			
材料科学特別演習(*3)	専攻教員全員	1～2	通年	5			
(キャリア教育関連)(*4) ナノテクノロジーキャリアア ップ特論(*5)	柳澤淳一	1・2	前期			2	
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

* 1 奇数年度（H27, H29, . . .）に開講される。

* 2 偶数年度（H28, H30, . . .）に開講される。

* 3 1年次と2年次の合わせて2年間の履修が必要です。ただし、1年間の履修のみで単位を認定する場合もあります。

* 4 キャリア教育関連の科目の修得単位は、修了要件単位に含めることはできない。

平成 26 年度以前の入学生については、以下の読み替えを行う。

①「高分子固体構造」（2単位）を「エネルギー変換材料」（2単位）に読み替える。

5 修士の学位審査基準

1 学位審査基準

- ① 大学院学則第 23 条の条件を満たすこと。ただし修士論文および最終試験については、次の 2 および 3 の基準を満たすこと。最終試験は主に修士論文の内容について、口頭試問で行う。
- ② 修士論文は、材料科学の分野において新規な知見を含み、その内容は全国規模または国際的な学術集会において発表できる学問的水準にあると判断されること。
- ③ 最終試験により、材料科学に関する広い視野と深い学識を有し、これらに基づく研究能力を有すると認められること。

2 学位審査プロセス

- ① 修士論文の審査は、審査を申請した者に対し、主査 1 名および副査 2 名による審査委員により、提出された論文の審査、および、論文内容の発表と口頭試問による最終試験で行う。
- ② 審査の際に不備が指摘された場合には、修士論文の再提出、または最終試験の再試験により、再審査を行うことがある。
- ③ 修士論文の審査結果およびそれ以外で大学院学則第 23 条に定める条件に基づき、工学研究科会議で学位授与の可否を決定する。

工学研究科材料科学専攻博士前期課程履修モデル

”材料科学”とは、”あらゆる物質を人間社会に役立てるための科学”と換言でき、その歴史は長きにわたる。そして今、材料科学の役割は今まで以上に重要性を増し、今後の人類の歴史を左右するキーテクノロジーの一つに挙げられている。そのような状況下において本専攻博士前期課程の教育目標は、人間と環境への配慮を基盤とし、材料の“科学・技術”の進歩に貢献する高度な専門的知識と能力を有する人材を養成することある。そのために、学部において修得した学問の基礎と実験・演習などの知識を基に、最先端技術を支える無機から有機までの幅広い物質、新エネルギー材料や環境材料などの様々な利用技術について、多面的かつ知識を深耕するための教育と研究を行う。その具現化のために本専攻では、次の科目配当表に基づいたカリキュラムを設定している。必修科目として「材料科学特別実験」と「材料科学特別実習」を設置し、先端的な研究課題に取り組む。それら以外の科目は選択科目であり、様々な分野の科目を積極的に履修してできる限り広い視野を持たせるためにも1年次と2年次に開講する。

科目 種類	分類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数	備考
材料科学専攻	無機材料部門	金属材料物性	未定	1・2	前期	選択	2	
		金属機能材料プロセッシング	宮村弘	1・2	後期	選択	2	
		非晶質無機材料 ※1	松岡純	1・2	前期	選択	2	
		構造・化学機能セラミックス ※1	吉田智	1・2	後期	選択	2	*
		材料プロセス熱力学 ※2	松岡純	1・2	前期	選択	2	*
		電子・光機能セラミックス ※2	吉田智	1・2	後期	選択	2	
		光量子物性論	奥健夫	1・2	後期	選択	2	
		無機ナノ粒子工学	バラチャンドラン・ジャヤデワン	1・2	後期	選択	2	
		機能界面化学	秋山毅	1・2	後期	選択	2	
		先端無機材料科学 ※3	高橋亮治※5	1・2	前期	選択	1	
	有機材料部門	高分子材料物性	徳満勝久	1・2	前期	選択	2	*
		高分子固体構造	竹下宏樹	1・2	前期	選択	2	
		複合材料工学	山下義裕	1・2	後期	選択	2	
		天然高分子材料	廣川能嗣	1・2	前期	選択	2	
		高分子材料合成	谷本智史	1・2	後期	選択	2	
		環境機能材料	北村千寿	1・2	前期	選択	2	
		有機材料設計	井上吉教	1・2	後期	選択	2	*
		酵素化学 ※2	北村千寿 竹原宗範	1・2	前期	選択	2	
		生体機能化学特論 ※3	井上善晴※5	1・2	後期	選択	1	
		遺伝子生化学 ※3	松岡健※5	1・2	前期	選択	1	
		先端有機材料科学 ※3	山下敬郎※5	1・2	前期	選択	1	
	専攻共通	先端複合材料科学 ※3	嘉数隆敬※5	1・2	前期	選択	1	
	—	材料科学特別実験 ※4	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	
		材料科学特別演習 ※4	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	

※1 奇数年度開講

※2 偶数年度開講

※3 集中講義

※4 1年次と2年次の合わせて2年間の履修が必要です。ただし、2年間の履修のみで単位を認定する場合があります。

※5 非常勤講師

備考欄*：部門を問わず履修することが望ましい科目

◆機械システム工学専攻

1 学位授与方針

機械システム工学専攻は、修了時点において学生が身につけるべき能力(教育研究上の目的)を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得し、論文および最終試験の審査に合格した者に、修士の学位を授与します。

- A. 機械システム工学に関する幅広い知識および視野を身につける。(知識・理解)
- B. 機械システム工学の分野における社会に寄与する研究課題を見出し、必要な知識を獲得して研究を遂行し、自らの力で課題を解決できる能力を身につける。(技術・技能、思考・判断、興味・関心)
- C. 自らの行った研究の成果を纏め、発表・議論して、研究を発展させる能力を身につける。(技術・技能、思考・判断)

2 教育課程の編成・実施方針

機械システム工学専攻では、機械全体を一つのシステムとしてとらえ、機械工学と他の工学分野との融合を図りながら、その構築に際して、機能、効率のみならず使用する人間をも考慮できる総合力のある人材を養成します。この目的の達成のため、下記のようにカリキュラム(教育課程)を編成しています。

機械システム工学に関する幅広い知識および視野を身につけるために、講義科目を配置する。

自ら研究課題を見出し、研究遂行に必要な知識を自ら獲得して、高い水準の研究を遂行できる能力を身につけるために、「機械システム工学特別演習」を配置する。

自ら見出した研究課題を解決するために、研究計画を立案して、実験あるいは理論的研究を実行し、研究の成果を論理的に纏め、広範な人に説明・議論して、研究を発展させる能力を身につけるために、「機械システム工学特別実験」を配置する。

修士論文の作成および発表によって、論理的な思考能力、論文および口頭発表による表現能力を身につける。

3 博士前期課程修了要件

- ① 機械システム工学専攻の科目配当表の必修2科目10単位、選択科目20単位以上の計30単位を修得すること。ただし、表中の選択科目から6科目12単位以上を修得すること。
- ② 修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること。
- ③ 他専攻(材料科学専攻、電子システム工学専攻)および他研究科の配当科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。なお、他研究科の配当科目を履修するときは、所属専攻長の許可を得ること。
- ④ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P. 147を参照すること。

4 年次別科目配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年 次	期 間	単 位			備 考
				必修	選択	自由	
(機械システム工学部門)							
熱システム工学 (※2)	山根浩二	1・2	前期		2		
バイオマスエネルギー変換論 (※1)	山根浩二	1・2	後期		2		
応用流体力学	安田孝宏	1・2	後期		2		
燃焼工学	河崎 澄	1・2	前期		2		
混相流工学 (※2)	南川久人	1・2	前期		2		
応用流体機械 (※1)	南川久人	1・2	前期		2		
強度設計工学	田邊裕貴	1・2	後期		2		
機械運動論	栗田 裕	1・2	後期		2		
応用メカトロニクス論	安田寿彦、山野光裕	1・2	後期		2		
非線形制御論	安田寿彦	1・2	前期		2		
最適化システム論※	安田寿彦	1・2	後期		1		
信頼性工学	高松 徹	1・2	前期		2		
動的システム論	大浦靖典	1・2	前期		2		
NC工作機械	未定	1・2	前期		2		
切削加工学	未定	1・2	前期		2		
トライボロジー特論	熊田喜生、神谷荘司	1・2	前期		1		
機械システム工学特別実験 (※3)	専攻教員全員	1～2	通年	5			
機械システム工学特別演習 (※3)	専攻教員全員	1～2	通年	5			
(キャリア教育関連) (※4)							
ナノテクノロジーキャリアアップ特論	柳澤淳一	1・2	前期			2	
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

※1 奇数年度 (H27, H29, . . .) に開講される。

※2 偶数年度 (H28, H30, . . .) に開講される。

※3 1年次と2年次の合わせて2年間の履修が必要である。ただし、1年間の履修のみで単位を認定する場合もある。

※4 キャリア教育関連の科目の修得単位は、修了要件単位に含めることはできない。

5 修士の学位審査基準

○ 論文の審査基準

- ① 本人が主になって研究を遂行し、本人が学会等で在学期間中に発表、あるいは在学期間中に発表申し込みが終了している内容を主として執筆されていること。なお、受託・共同研究等における特許など知的財産に関わる内容のため、受託・共同研究元との契約上、学会等で発表できない場合は、受託・共同研究元と交わした契約書あるいは覚書などの書類を修士論文に添付すること。
- ② 工学系の学術論文としての体裁を整えていること。
- ③ 重大な誤りがないこと。ただし、提出後誤りが見つかった場合には修正後再提出できる。

○ 学位審査プロセス

- ① 審査を申請した者に対して、大学院指導資格を有する主査1名および副査2名からなる審査委員により、修士論文の審査基準に従い論文を審査、さらに、修士論文審査会において論文内容の発表と口頭試問による最終試験を行う。
- ② 論文審査において不備等があった場合は、修士論文の再提出をもとめ、再度審査をおこなう。
- ③ 修士論文の最終試験の結果および大学院学則第23条に定める条件に基づき、工学研究科会議において、学位授与の可否を決定する。

工学研究科機械システム工学専攻博士前期課程履修モデル

機械システム工学に関する技術的課題は、時代の流れとともに複雑化・高度化する一方である。そのような状況下において本専攻博士前期課程の教育目標は、幅広い基礎学力と高度な専門知識を有するとともに応用能力にも優れ、「ものづくり」を中心とする産業界において活躍できる人材を養成することである。そのため本専攻では、学部での修得科目を基礎とする発展的な科目にとどまらず、機械システム工学に関係が深い専門科目に関する学力を身につけることに加えて、先端的な研究課題に取り組むことによって、問題を見つけ出してそれを解決し、得られた結果を適切に取り纏めて発表できる能力を育むことに力点を置いている。その具現化のために本専攻では、次の科目配当表に基づいたカリキュラムを設定している。必修科目として「機械システム工学特別実験」と「機械システム工学特別実習」を設置し、先端的な研究課題に取り組む。それら以外の科目は選択科目であり、様々な分野の科目を積極的に履修してできる限り広い視野を持たせるためにも1年次と2年次に開講する。

科目種類	分類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
機械システム工学部門	A	熱システム工学(※2)	山根浩二	1・2	前期	選択	2
		バイオマスエネルギー変換論(※1)	山根浩二	1・2	後期	選択	2
		応用流体力学	安田孝宏	1・2	後期	選択	2
		燃焼工学	河崎 澄	1・2	前期	選択	2
		混相流工学(※2)	南川久人	1・2	前期	選択	2
		応用流体機械(※1)	南川久人	1・2	前期	選択	2
	B	強度設計工学	田邊裕貴	1・2	後期	選択	2
		機械運動論	栗田 裕	1・2	後期	選択	2
		信頼性工学	高松 徹	1・2	前期	選択	2
		動的システム論	大浦靖典	1・2	前期	選択	2
	C	NC工作機械	未定	1・2	前期	選択	2
		切削加工学	未定	1・2	前期	選択	2
	D	応用メカトロニクス論	安田寿彦、山野光裕	1・2	後期	選択	2
		非線形制御論	安田寿彦	1・2	前期	選択	2
		最適化システム論	安田寿彦	1・2	後期	選択	1
		トライボロジー特論	熊田嘉生※, 神谷荘司※	1・2	前期	選択	1
	-	機械システム工学特別実験	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5
		機械システム工学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5

※1 奇数年度(H27, H29, . . .)開講

※2 偶数年度(H28, H30, . . .)開講

※ 非常勤講師

科目分類

A	エネルギーと動力・流体工学関連科目
B	材料力学・機械ダイナミクス関連科目
C	生産工学関連科目
D	メカトロニクス関連科目

◆電子システム工学専攻

1 学位授与方針

電子システム工学専攻では、電気・電子・情報システムの視点から、将来の最先端の科学技術に創造的な役割を果たすことができる有為の人材を養成する目的を達成するため、下記のとおり、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

本専攻において、所定単位の修得と修士論文の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、修士(工学)の学位を授与します。

- A. 幅広い基礎知識を含む高度な専門知識を習得できる。(知識・理解、技術・技能)
- B. 顕在化している多岐にわたる環境問題を解決できる。(興味・関心、技術・技能)
- C. 持続可能な開発につながる機能的電子システムが創成できる。(思考・判断、技術・技能)

2 教育課程の編成・実施方針

電子システム工学専攻では、学位授与方針(ディプロマポリシー)に記載した人材を養成する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

専門科目として、電気・電子システムの視点から電子回路、半導体デバイス、センシング工学、パワーエレクトロニクス関連の科目を、また、情報システムの視点からコンピュータ工学、情報基礎関連の科目を配置しています。環境問題の解決や持続可能な開発につながる機能的電子システム創成のために、電子システム工学特別実験や電子システム工学特別演習も配置しています。これらの科目の体系的な学修により、人材の養成に関する目的を達成します。

3 博士前期課程修了要件

- ① 2年以上在学すること(休学期間は在学期間に含めない)。
- ② 30単位以上を修得すること。ただし、電子システム工学専攻の科目配当表に指定する必修科目2科目10単位(専攻共通科目)、および同選択科目6科目12単位以上(研究科共通科目・電子工学部門科目・電子応用部門科目・情報部門科目)を修得していなければならない。
- ③ 修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること。

註1: 在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

註2: 専攻の科目配当表に指定する科目(研究科共通科目・電子工学部門科目・電子応用部門科目・情報部門科目)以外に、他専攻(材料科学専攻・機械システム工学専攻)および他研究科の配当科目も修了要件単位として算入することができる。ただし、他研究科の配当科目を履修するときは、電子システム工学専攻長の許可を得ること。

註3: 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P.147を参照すること。

4 年次別科目配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年次	期 間	単 位			備 考
				必修	選択	自由	
(電子工学部門)							
電子制御論	稲葉 博美	1・2	後期		2		
集積システム設計論	岸根 桂路	1・2	後期		2		
荷電粒子ビーム工学	柳澤 淳一	1・2	前期		2		
光物性特論	一宮 正義	1・2	後期		2		
光デバイス	山田 逸成	1・2	後期		2		
(電子応用部門)							
超伝導デバイス	作田 健	1・2	前期		2		
電磁応用工学	福岡 克弘	1・2	前期		2		
電力エネルギー工学	乾 義尚	1・2	前期		2		
音響工学	坂本 真一	1・2	前期		2		
(情報部門)							
確率過程論	宮城 茂幸	1・2	前期		2		
人工知能(*1)	奥村 進	1・2	後期		2		
ロバスト設計論(*2)	奥村 進	1・2	後期		2		
画像情報処理	畑中 裕司	1・2	後期		2		
現代数理概論	未定	1・2	前期		2		
複雑ネットワーク概論	酒井 道	1・2	後期		2		
電子システム工学特別実験(*3)	専攻教員全員	1～2	通年	5			
電子システム工学特別演習(*3)	専攻教員全員	1～2	通年	5			
(キャリア教育関連) (*4)							
ナノテクノロジーキャリア アップ特論	柳澤 淳一	1・2	前期			2	
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期			1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期			2	

平成 27 年度不開講

* 1 偶数年度 (H28, H30, . . .) に開講される。

* 2 奇数年度 (H27, H29, . . .) に開講される。

* 3 1 年次と 2 年次の合わせて 2 年間の履修が必要である。ただし、1 年間の履修のみで単位を認定する場合もある。

* 4 キャリア教育関連の科目の修得単位は、修了要件単位に含めることはできない。

5 修士の学位審査基準

1. 修士論文の審査基準:大学院指導資格を有する主査 1 名および副査 2 名から構成される審査委員が、次の基準に照らし合わせて審査する。

- (1) 本人が主になって研究を遂行し、本人が学会等において在学期間中に発表、または在学期間中に発表申し込みが終了している内容を主として執筆されていることを原則とする。ただし、受託・共同研究等における特許など知的財産に関わる内容のため、受託・共同研究との契約上学会等で発表できない場合、そのことを証明する受託・共同研究元と交わした契約書・覚え書き等の書類を修士論文に添付すること。
- (2) 工学系の修士論文としての体裁を整えていること。
- (3) 審査で不備等が指摘された場合、修士論文を再提出し、再度審査を受けること。

2. 修士論文の最終試験:主として修士論文の内容に関して、主査 1 名および副査 2 名から構成される審査委員が口頭試問を行い、「合格」「不合格」を判定する。

3. 学位審査プロセス:

- (1) 大学院指導資格を有する主査 1 名および副査 2 名から構成される審査委員が、
 - i. 修士論文の審査基準に従い論文を審査する。
 - ii. 修士論文審査会において、論文の発表に対して口頭試問による最終試験を行う。
 - iii. 上記の結果より、「合格」「不合格」を判定する。
- (2) 論文審査において不備等があった場合は、修士論文の再提出をもとめ、再度審査をおこなう。
- (3) 修士論文の最終試験の結果および大学院学則第 23 条に定める条件に基づき、工学研究科会議において、学位授与の可否を決定する。

工学研究科電子システム工学専攻博士前期課程履修モデル

電子システム工学に関する技術的課題は、時代の流れとともに複雑化・高度化する一方である。本専攻の教育目標は、電気・電子・情報システムの視点から、将来の最先端の科学技術に創造的な役割を果たすことができるように、幅広い基礎知識を含む高度な専門知識を習得するとともに、顕在化している多岐にわたる環境問題を解決し、持続可能な開発につながる機能的電子システムが創成でき、ものづくりを中心とする産業界において活躍できる人材を養成することである。そのため本専攻では、学部での修得科目を基礎とする発展的な科目にとどまらず、電子システム工学に関係が深い専門科目に関する学力を身につけることに加えて、先端的な研究課題に取り組むことによって、問題を見つけ出してそれを解決し、得られた結果を適切に取り纏めて発表できる能力を育むことに重点を置いている。また、先端的な研究課題に取り組むことによって、問題を見つけ出してそれを解決し、得られた結果を修士論文として適切に取り纏めて発表できる能力を育成する。その具現化のために本専攻では、次の科目配当表に基づいたカリキュラムを設定している。必修科目として「電子システム工学特別実験」と「電子システム工学特別演習」を設置し、修士論文の作成につながる先端的な研究課題に取り組む。それら以外の科目は選択科目であり、様々な分野の科目を積極的に履修してできる限り広い視野を持たせるためにも1年次と2年次に開講する。

科目種類	分類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数	備考
電子システム工学部門	電子工学部門	電子制御論	稲葉 博美	1・2	後期	選択	2	
		集積システム設計論	岸根 桂路	1・2	後期	選択	2	
		荷電粒子ビーム工学	柳澤 淳一	1・2	前期	選択	2	
		光物性特論	一宮 正義	1・2	後期	選択	2	
		光デバイス	山田 逸成	1・2	後期	選択	2	
	電子応用部門	超伝導デバイス	作田 健	1・2	前期	選択	2	
		電磁応用工学	福岡 克弘	1・2	前期	選択	2	
		電力エネルギー工学	乾 義尚	1・2	前期	選択	2	
		音響工学	坂本 眞一	1・2	前期	選択	2	
	情報部門	確率過程論	宮城 茂幸	1・2	前期	選択	2	
		人工知能 ※1	奥村 進	1・2	後期	選択	2	
		ロボasts設計論 ※2	奥村 進	1・2	後期	選択	2	
		画像情報処理	畑中 裕司	1・2	後期	選択	2	
		現代数理概論 ※4	未定	1・2	前期	選択	2	
		複雑ネットワーク概論	酒井 道	1・2	後期	選択	2	
	—	電子システム工学特別実験 ※3	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	
		電子システム工学特別演習 ※3	専攻教員全員	1～2	通年	必修	5	

※1 偶数年度（H28, H30,・・・）に開講される。

※2 奇数年度（H27, H29,・・・）に開講される

※3 1年次と2年次の合わせて2年間の履修が必要である。ただし、1年間のみの履修で単位を認定する場合もある。

※4 平成27年度不開講

科目名	N C 工作機械	2 単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	金属加工機械、半導体製造設備等工作機械といわれる大部分は、コンピュータによって数値制御されている。熟練していなくてもある程度の精度を持った加工がボタンひとつで加工できるようになっているのも、数値制御のお陰である。ところが、工作機械の中身は非常に複雑で、様々な工夫がなされている。工作機械は1つのシステムであり、様々な分野の研究開発成果が凝縮されている。大学院の講義であるから、英語のテキストを使用し技術専門用語を習得してもらう。		
到達目標	(1)CNC 工作機械のシステムを理解すること (2)英語の専門用語を習得すること (3)日本と海外の研究視点を理解すること (4)工作機械の発達の歴史を習得すること		
成績評価	毎回のプレゼンテーションで評価する		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：別途配布 指定図書：CNC Machining Technology(Springer-Verlag)参考書：Machining Process(Taylor & Francis) 現代切削理論 Microengineering of Metals and Ceramics(Wiley-VCH)		
履修資格			

科目名	遺伝子生化学	1 単位	前期
担当教員	松岡 健※		
授業概要	機能性の生体成分を、遺伝子組換え技術を用いて異種生物で大量に生産したり、生体分子を生物学的に改変し、機能性高分子や有用低分子材料を創出する試みがなされており、これらのうち一部は既に実用化されている。これらの手法を理解する為には、遺伝子の発現制御機構と、遺伝子産物、及びそれによる代謝産物の構造と機能の理解が必須である。そこで本講義では、細胞と生体分子の構造と機能、遺伝子の複製と遺伝子発現機構、及び遺伝子工学、代謝工学、進化分子工学について、基本的な部分とその応用例について講義する。		
到達目標	物質の視点から生命活動を理解すると共に、その応用についての智識を身につける。特に、遺伝子の働きと、その産物であるタンパク質・酵素の働きについての基本原理を理解し、またその応用によるバイオ材料の合成や、遺伝子組換え、進化工学等に関する智識を得る。		
成績評価	レポート 70% 出席 30%		
テキスト 指定図書 参考書	参考書： 鈴木紘一他訳 「ホートン生化学」(東京化学同人) Bruce Alberts 他著 中村桂子他訳 「細胞の分子生物学」第5版 Newton Press		
履修資格			

科目名	応用メカトロニクス論 (2 単位)	2 単位	後期
担当教員	安田 寿彦 ・ 山野 光裕		
授業概要	メカトロニクスシステムの製作方法の学習を通して、メカトロニクスシステムの実現方法を体得する。		
到達目標	(1) 設定された仕様を満たすメカトロニクスシステムのハードウェアを構成できる。 (2) 構築したメカトロニクスシステムのハードウェアとソフトウェアを説明できる。 (3) メカトロニクスシステムを自動化・知能化する方法を理解・実現できる。		
成績評価	到達確認テスト 40%, レポート 30%, プレゼンテーション 30%		
テキスト 指定図書 参考書	授業に必要な資料を配布する。		
履修資格			

科目名	応用流体機械	2 単位	前期
担当教員	南川 久人		
授業概要	流体機械システムはわれわれの生活には欠かせない役割を持っている。それにもかかわらず、一般に流体機械に関する知識や関心は低い。そこで、ポンプ・圧縮機・送風機などの流体機械の概要を示すとともに、環境問題、エネルギー問題に関して注目されている流体機械システム、例えばタービン・風力発電機、火力・水力・原子力発電を取り上げる。本講義では、英文による流体機械システムの解説を受講者が説明するというやり方も取り入れる。		
到達目標	(1)流体機械の分類を明確に説明できる。 (2)ポンプ・圧縮機・送風機などの流体機械の概要を説明できる。 (3)流体機械の効率を算出できる。 (4)環境問題、エネルギー問題に関して注目されている流体機械システムを説明できる。		
成績評価	到達目標に示した(1)流体機械の分類を明確に説明できる(25%), (2)ポンプ・圧縮機・送風機などの流体機械の概要を説明できる(30%), (3)流体機械の効率を算出できる(15%), (4)環境問題、エネルギー問題に関して注目されている流体機械システムを説明できる(30%), についてはレポート(70%), 授業内発表(30%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：別途配布する。		
履修資格			

科目名	応用流体力学	2 単位	後期
担当教員	安田 孝宏		
授業概要	各種構造物や流体機械を設計する際にはその流体力特性の把握や流体関連振動、騒音対策が重要となる。本講義では種々な断面形状を有する物体周りの渦流れと流体力との関連や流体関連振動、騒音について講述する。また、流れの可視化手法や計測技術および数値計算法について述べる。		
到達目標	(1)流体関連振動について理解し、物体形状により異なる流力振動形態を区別できる。 (2)流体騒音に関する基礎方程式や渦流れとの関連が理解できる。 (3)流体の測定技術を理解できる。 (4)流れの数値計算法について理解でき、解析条件の設定ができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)、(2)、(3)、(4)については、レポート課題 (100%:(1)30%,(2)30%,(3)15%,(4)25%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。なお、出席回数が所定の回数を満たしている者のみ定期試験を評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業中にプリントを配付		
履修資格			

科目名	音響工学	2 単位	前期
担当教員	坂本 真一		
授業概要	音はコミュニケーションに欠かせない存在であるが、あまり意識されていない。本科目では、その基礎となる、音の発生、放射、伝搬や聴覚などについて学び、その後、もっとも身近な電気エネルギー変換機器であるスピーカー、マイクロホンなどの機器の動作原理を学ぶ。その後、日常生活において様々に利用されている技術の応用と将来展望について学ぶ。		
到達目標	(1)音の知覚、音の基礎的な振る舞いならびに、音と電気エネルギーの変換について理解し、説明できること (50%). (2)音響技術の応用について理解し、提案、説明できること (50%).		
成績評価	レポート 50%, 授業内の発表および討論 50%として、それらの合計で評価し、70%以上の成績で合格とする。内訳は到達目標に記載項目の(1)50%, (2)50%程度とする。		
テキスト 指定図書 参考書	電気音響概論 西巻正郎 森北出版 音響学入門 鈴木陽一他 コロナ社 必要に応じてプリントを配布する。		
履修資格			

科目名	確率過程論	2単位	前期
担当教員	宮城 茂幸		
授業概要	工学の諸問題で現れる、ゆらぎ、雑音、不規則信号を扱うために必要な確率過程について学ぶ。数学的な厳密性は犠牲にし、工学にとって必要な部分をのみを平易な数学を用いて述べるようにする。確率論の基礎概念から始め、定常過程の性質を学んだ後、定常系列の相関関数、電力スペクトル、スペクトル表現について述べる。また定常系列におけるARモデルと線形予測理論についても取り上げる。		
到達目標	(1) 代表的な相関関数と電力スペクトルの関係を理解すること。 (2) 定常系列のスペクトル表現を理解すること。 (3) AR(autoregressive)モデルのパラメータ推定法を理解すること。		
成績評価	到達目標で示す(1)、(2)についてはそれぞれ演習10%、定期試験30%で、(3)については演習10%で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：小倉久直 著、確率過程入門、森北出版 指定図書：小倉久直 著、物理・工学のための確率過程論、コロナ社		
履修資格			

科目名	画像情報処理	2単位	後期
担当教員	畑中 裕司		
授業概要	生産ラインの検査工程、防犯カメラ、医療検査機器などの広い分野で画像認識、画像解析が利用されている。本講義では、コンピュータによる画像解析手法や画像パターンの認識手法について講述する。さらに、画像解析の産業応用例や研究応用例について講述する。		
到達目標	(1) 基礎知識を活用して画像解析アルゴリズムを説明できる。 (2) 有用な画像解析アルゴリズムを提案できる。 (3) 画像解析アルゴリズムを評価できる。 (4) 画像解析アルゴリズムの信頼性について検討できる。 (5) 画像解析アルゴリズムについて考察できる。		
成績評価	到達目標で示す(1)～(5)については、レポート(100%:(1)30%、(2)15%、(3)15%、(4)15%、(5)25%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリント配布		
履修資格			

科目名	荷電粒子ビーム工学	2単位	前期
担当教員	柳澤 淳一		
授業概要	半導体など固体材料の表面観察・分析や超微細加工を行なうには、細く絞った電子ビームやイオンビームのような微細荷電粒子ビームの利用が欠かせない。本講義では、微細な荷電粒子ビームの生成過程から形成方法までを詳細に講述し、加えて物質との相互作用について述べることにより、微細な荷電粒子ビームを観察、評価、加工などの工学に応用できることを説明する。		
到達目標	(1)微細な荷電粒子ビームの発生、形成方法について理解できる。 (2)電子・イオンと物質表面原子との相互作用について理解できる。 (3)荷電粒子ビームがナノレベルの観察や評価、加工をはじめ、様々な用途に利用できることが理解できる。		
成績評価	レポート(100%)：講義の中で適宜レポート課題を与える。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：使用しない。必要に応じ、資料を配布する。 指定図書：高木俊宜：「電子・イオンビーム工学」電気学会(1995)、裏克己(編)：「電子・イオンビームハンドブック(第3版)」日刊工業(1998)、石川順三：「荷電粒子ビーム工学」コロナ社(2001)、裏克己：「ナノ電子光学」共立出版(2005)		
履修資格			

科目名	環境機能材料	2単位	前期
担当教員	北村 千寿		
授業概要	環境機能材料として有機機能材料を取りあげ、有機分子の機能化を指向した学問分野に焦点を絞り講義を行う。特に、構造有機化学的観点から分子やオリゴマーやポリマーなど有機物質のシステム化を図って、多様な機能性材料の開発を目指す目的で、設計指針、合成、構造解析、物性解析、機能評価、そして材料としての実用化までの一連の過程において展開される課題を、基礎研究から応用研究に渡って幅広く解説を行う。		
到達目標	(1)分子構造に由来する化学的あるいは物理的な性質を理解することができる。 (2)新しい有機材料を説明できる。 (3)まとまった研究を説明できる。		
成績評価	到達目標で示す(1),(2)については小テスト(20%)で、(3)については課題レポートと発表(80%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布。		
履修資格			

科目名	機械運動論	2単位	後期
担当教員	栗田 裕		
授業概要	機械の運動解析と制御の基礎を、講義と実習を通して修得する。多くの機械は、その目的を達成するために、回転運動や往復運動を行う。質量や慣性モーメントをもつ機械に、望みどおりの運動をさせるためには、機構をうまく設計するだけでなく、アクチュエータが発生する力やトルクをうまく制御する必要がある。本講義では、力学や機械力学の知識だけでなく、制御工学や電磁気学、材料力学、流体力学など関連する分野の知識を活用して、機械の運動を解析し制御する技術を身につける。		
到達目標	(1) 動的システムを微分方程式・伝達関数・ブロック線図を用いて表せる。 (2) 極配置・ボード線図を用いてフィードバック制御系を設計できる。 (3) 設計した制御系の性能を評価できる。		
成績評価	到達目標の(1)～(3)を、発表(50%)、定期試験(50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリントを配布する。		
履修資格			

科目名	機械システム工学特別演習(1回生)	5単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	大学院修士課程の一年次～二年次において履修すべき科目で、専攻教員の指導のもとに、各自が内外の著書および論文の輪講を行い、修士の学位論文作成のための演習を実施する。		
到達目標	(1) 研究テーマを適切に設定し、研究遂行に必要な知識を自ら獲得することができる。 (2) 研究成果を学術講演会などにおいて公表し、他の研究者とディスカッションすることによって研究を深めることができる。		
成績評価	日常の研究活動により、可否のみ評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	機械システム工学特別演習（2 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	大学院修士課程の一年次～二年次において履修すべき科目で、専攻教員の指導のもとに、各自が内外の著書および論文の輪講を行い、修士の学位論文作成のための演習を実施する。		
到達目標	研究テーマを適切に設定し、研究遂行に必要な知識を自ら獲得することができる。 研究成果を学術講演会などにおいて公表し、他の研究者とディスカッションすることによって研究を深めることができる。		
成績評価	日常の研究活動、修士論文、修士論文審査会でのプレゼンテーションにより、可否のみ評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	機械システム工学特別実験（1 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	大学院修士課程の一年次～二年次において履修すべき科目で、専攻教員の指導のもとに、機械システム工学に関する研究テーマについて実験的・理論的研究を行う。		
到達目標	研究テーマを適切に設定し、研究遂行のための研究計画を立案し、実験あるいは理論的探究によって研究成果を得ることができる。 研究成果を学術講演会などにおいて公表し、他の研究者とディスカッションすることによって研究を深めることができる。		
成績評価	日常の研究活動により、可否のみ評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	機械システム工学特別実験（2 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	大学院修士課程の一年次～二年次において履修すべき科目で、専攻教員の指導のもとに、機械システム工学に関する研究テーマについて実験的・理論的研究を行う。		
到達目標	研究テーマを適切に設定し、研究遂行のための研究計画を立案し、実験あるいは理論的探究によって研究成果を得ることができる。 研究成果を学術講演会などにおいて公表し、他の研究者とディスカッションすることによって研究を深めることができる。		
成績評価	日常の研究活動、修士論文、修士論文審査会でのプレゼンテーションにより、可否のみ評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	機能界面化学	2単位	後期
担当教員	秋山 毅		
授業概要	機能デバイスを構築するプロセスとして重要な、界面・表面の機能化 について講義する。特に、分子が持つ機能を基板や電極表面に付与する手法を中心に紹介し、関連するデバイス構築などについて述べる。		
到達目標	(1) 自己集合単分子膜・Langmuir-Blodgett 膜について理解し、その応用について説明できる。 (2) 水面展開膜・交互積層膜について理解し、その応用について説明できる。 (3) 電気化学重合法・メッキ法・電着法・スピコート法・ディップコート法を用いた製膜について理解し、その応用について説明できる。		
成績評価	到達目標の(1)についてはレポート(40%)で評価する。(2), (3)については、それぞれレポート(30%)で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	強度設計工学	2単位	後期
担当教員	田邊 裕貴		
授業概要	機械構造物の強度設計ならびに保守管理に必要となる材料の強度特性、部材の損傷の種類、機構、評価技術などに関する知識や理論を講述する。また、CVD, PVD をはじめとする各種表面改質技術を紹介し、材料の高強度・高機能化法の基本的な考え方や適切な利用方法について解説する。		
到達目標	(1)破壊力学の基礎について説明できる。 (2)疲労の基礎的内容について説明できる。 (3)損傷評価技術に関する基礎的内容について説明できる。 (4)表面改質技術の基礎的内容について説明できる。 (5)破壊力学、疲労、損傷評価技術、表面改質技術と、機械構造物の強度設計や保守管理との関連を説明できる。		
成績評価	到達目標で示す(1), (2), (3), (4), (5)について、レポート (100% : (1)20%, (2)20%, (3)20%, (4)20%, (5)20%) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキストなし (資料配付)、参考書「材料強度学」(日本材料学会)		
履修資格			

科目名	金属機能材料プロセッシング	2単位	後期
担当教員	宮村 弘		
授業概要	合金や金属間化合物の結晶構造について、対称性による分類法を述べ、格子欠陥を含めてミクロな構造が材料機能に与える影響について概説する。次に、金属材料のプロセッシング法のひとつである粉末冶金の応用について述べ、複合化による強化の原理と種々の手法について学習する。特に、金属間化合物を用いた IMC (金属間化合物-金属複合材料) の特徴について解説する。		
到達目標	(1)化学量論組成からずれた化合物について、原子空孔の濃度を予想し、物性に与える影響を結晶学的に考察することができる。 (2)メカニカルアロイング、急冷凝固などのプロセスによる非平衡金属間化合物の作製の原理、手法について理解する。 (3)種々の金属系材料の複合を作製する際の指針を立てることができる。 (4)材料の複合則により、材料強度を予想できる。		
成績評価	到達目標で示す(1)、(2)、(3)、(4)の各々について、レポート (15%)、講義中の発表内容 (10%) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布		
履修資格			

科目名	金属材料物性	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	金属材料の物性は構成元素、結晶構造、微細組織、材料形状等に依存するが、特に結晶格子欠陥、欠陥構造、結晶粒界といった微細組織に大きく依存し、また多種多様な微細組織を示すのが他の材料と異なる特徴である。本講義では、格子欠陥の種類、対称性、記述法を解説するとともに、格子欠陥と金属材料の強度を中心とした諸物性との関係、さらには物質テンソルの概念を説明し、物質テンソル量としての格子欠陥や、格子欠陥と物質テンソルの関係の例を解説する。		
到達目標	(1) 格子欠陥の種類と格子欠陥が結晶に及ぼす影響の概要を理解し、転位論の基礎と転位論による強化機構の解釈をいくつか理解する。 (2) 物質テンソルの概念といくつかの例を理解する。		
成績評価	前半は講義形式で行い、講義内容毎に適宜演習問題などのレポートを課し(50%((1)50%))、後半はゼミナール形式で行い、発表点(25%((2)25%))とゼミナールへの参加貢献度(25%((2)25%))で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布、 指定図書：加藤雅治著『入門転位論』(裳華房)、日本金属学会編『材料強度の原子論』(日本金属学会)、 参考書：木村宏著『材料強度の考え方』(アグネ技術センター)、キッテル著『固体物理学入門(下)』(丸善)		
履修資格			

科目名	現代数理概論	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	数理科学は近年、工学の分野にも著しく展開しつつある。この科目では現代数理科学に特徴的な考え方を紹介する。論理記号の解説から始めて、集合論への入門を解説する。		
到達目標	(1) 論理記号と集合の基本事項が正しく運用できる。 (2) 厳密な論証ができる。		
成績評価	全体に対して、(1)80%(2)20%で評価する。 これをレポートによって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし。 参考書・参考資料等：授業時に配布する。		
履修資格			

科目名	構造・化学機能セラミックス	2単位	後期
担当教員	吉田 智		
授業概要	セラミックスは身の回りのさまざまな分野で利用されている。セラミックス材料に特定の機能を付与させることは、構成する原子あるいはイオン間の化学結合の状態および微構造を制御することに他ならない。本講義では、セラミックス材料の諸物性、特に力学的特性、化学的特性について、その発現機構を理解することを目的とする。毎年、構造あるいは機能性に関する一つのテーマを設定し、そのテーマを深く理解することを目指す。		
到達目標	(1)セラミックスの原子構造と物性について、英文解説の内容を理解し説明できること。 (2)セラミックスの力学的性質と化学的性質について、英文解説の内容を理解し説明できること。		
成績評価	到達目標に示す(1),(2)について、発表((1)35%,(2)35%)＋レポート((1)15%,(2)15%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布		
履修資格			

科目名	酵素化学	2単位	前期
担当教員	北村 千寿 ・ 竹原 宗範		
授業概要	酵素がいかにして強大な触媒作用能力を発揮するのかを明らかにすべく触媒作用機能を中心に、酵素の構造、活性中心、および活性調節など酵素パワーの本質を理解するのに必要な項目を学び、酵素の理解に努める。さらには酵素の性質の解析には必要不可欠なバイオテクノロジーの基礎を理解するとともに、この生体触媒がもたらす地球環境保全への寄与を学ぶ。		
到達目標	(1) 酵素の反応特異性と反応機構に重要な知見を与える速度論的パラメーターのもつ意味を理解する。 (2) 酵素触媒反応における遷移状態と中間体の構造を理解し、反応機構を説明できること。		
成績評価	プレゼンテーション (70%) ・ レポート (30%)		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：鈴木紘一他訳「ホートン生化学」(東京化学同人)		
履修資格			

科目名	高分子固体構造	2単位	前期
担当教員	竹下 宏樹		
授業概要	固体高分子は、分子量の高い鎖状分子ゆえに現れる様々な特徴的な高次構造を有する。これらは高分子材料の物性と密接に関係するため、材料の物性制御にはこれら集合体構造とその形成機構の理解が不可欠である。 本講義では、単一高分子鎖の構造の復習から始め、高分子の結晶構造と結晶高次構造、高分子混合系の相分離構造、ガラス状態にある高分子の特徴、ブロック共重合体やグラフト共重合体とそれらが形成するマイクロ相分離構造、複数の相転移が競合する高分子混合系における構造形成機構を、この分野に特徴的な最新の測定手法紹介しながら講述する。		
到達目標	(1) 非晶、結晶、液晶状態における高分子の特徴的な高次構造とその形成機構を理解している。 (2) 高分子混合系の相溶性、相分離構造、ブロック共重合体が形成するマイクロ相分離構造に関する知識を習得している。 (3) 高分子固体の物性を構造の立場から考察することが出来る。		
成績評価	到達目標 (1) (3) および (2) (3) について、それぞれレポート (各 50%) で評価する。最終的に 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業内で適宜配布・紹介する。 参考書：高分子の構造と物性 (松下裕秀 他、講談社)		
履修資格			

科目名	高分子材料合成	2単位	後期
担当教員	谷本 智史		
授業概要	新規高分子材料を開発するための基礎として、構造や分子量が精密に制御された高分子を合成する方法における最近の進展状況について講義する。特に高分子の生成手法として広く用いられている付加重合 (ラジカル重合、イオン重合、配位重合など) を中心とする高分子の精密合成について述べるとともに、生成高分子の構造解析法についても解説する。		
到達目標	(1) リビング重合の反応機構を理解できるようになる。 (2) 様々な共重合体の重合設計ができるようになる。		
成績評価	到達目標に示した (1) および (2) について、レポート (80%) と授業内発表 (20%) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布		
履修資格			

科目名	高分子材料物性	2単位	前期
担当教員	徳満 勝久		
授業概要	「レオロジー基礎論」村上謙吉著（産業図書）を用い、各章の分担を決めて毎週プレゼンテーション形式で発表を行い、内容のディスカッションを行う。		
到達目標	①高分子材料のレオロジー的特性に関する基礎的内容が理解できている、 ②高分子材料の広範な変形挙動と力学物性に関する知識が修得できていること。		
成績評価	到達目標に示した①および②について、プレゼンテーションとディスカッション（80%）、さらには最終レポート課題（20%）で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	「レオロジー基礎論」村上謙吉著（産業図書）		
履修資格			

科目名	混相流工学	2単位	前期
担当教員	南川 久人		
授業概要	各種工業で扱う流れをはじめ、人間生活環境あるいは自然界に存在する流れの大部分は、気体・液体・固体が混在する混相流状態にある。本講義では混相流の分類、混相流を用いた流体機械、各種物理量の定義、基礎方程式とモデル、流動様式、体積率、圧力降下等に関して講述する。さらに混相流の計測技術と気泡工学について述べる。		
到達目標	(1)工業分野や自然界にどのような混相流が存在するかを例示し、説明できる。 (2)円管内混相流の流動様式について説明でき、流動条件から流動様式を推定できる。 (3)コンピューター言語を用いて、反復法を用いた簡単なプログラミングができる。 (4)円管内混相流の流動条件から、ボイド率、圧力降下を推算できる。 (5)気泡の形状や上昇速度、マイクロバブルの特徴を説明できる。		
成績評価	到達目標に示した(1)については通常レポート(10%)、(2)、(3)、(4)、については通常レポートと最終レポート(70%：(2)20%、(3)20%、(4)30%)で、(5)、については最終レポート(20%)で評価する。通常レポート(40%)は講義期間に2回程度、最終レポート(60%)は、15回の講義終了後に提出する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書「気液二相流技術ハンドブック」（コロナ社）		
履修資格			

科目名	最適化システム論（1単位）	1単位	後期
担当教員	安田 寿彦		
授業概要	システム制御の立場から最適性について論考する。最適性の原理、ダイナミック・プログラミング、ロバスト制御やH-無限大制御などについて講義する。		
到達目標	(1)システムの制御系設計問題を最適制御問題として定式化できる。 (2)制御システムにおける最適性の原理を説明できる。 (3)ダイナミック・プログラミングの手法を理解してハミルトン-ヤコビ方程式を導くことができる。 (4)最適制御問題の基本問題を解くことができる。 (5)ロバスト制御やH ∞ 制御の概念を説明できる。 (6)システムの制御系設計問題をロバスト制御問題やH ∞ 制御問題として定式化できる。		
成績評価	演習レポート(40%)、講義内での課題の演習を授業終了時にレポートとして提出する。最終レポート試験(60%)、講義終了時に講義の全範囲に関する課題を課する。これらの課題を全て解答し、期限までに提出することが求められる。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：吉川恒夫、井村順一共著 「現代制御論」（昭晃堂）		
履修資格			

科目名	材料科学特別演習（1 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	材料科学の分野の中で、学生の修士論文のテーマに関連した諸分野の相互関連について体系的に教授すると共に、演習を行って応用の能力を養う。更に、研究成果を纏め上げ学内外で発表することで、自らの研究成果を異なった観点からも見つめ発展させる能力を養う。		
到達目標	(1)研究を行うための多様な実験方法および定量的データ解析方法に習熟する。 (2)研究テーマについて自ら問題点を見だし、計画的に研究を遂行し、論理的に纏め上げられる能力を養う。 (3)自らの得た研究成果について、文章、図表（英文表記を含む）および口頭で、他の人に明確に伝えられる能力を養う。		
成績評価	(1)実験およびデータ解析の能力（研究報告書 15%, 研究発表 15%） (2)研究テーマを取り扱う能力（研究報告書 20%, 研究発表 15%） (3)研究成果を他の人に伝える能力（研究報告書 15%, 研究発表 20%）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：関連論文など		
履修資格			

科目名	材料科学特別演習（2 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	材料科学の分野の中で、学生の修士論文のテーマに関連した諸分野の相互関連について体系的に教授するとともに、演習を行って応用の能力を養う。さらに、研究成果をまとめあげ、学内外で発表することで、自らの研究成果を異なった観点からも見つめ発展させる能力を養う。		
到達目標	(1)研究を行うための多様な実験方法および定量的データ解析方法に習熟する。 (2)研究テーマについて自ら問題点を見だし、計画的に研究を遂行し、論理的に纏め上げられる能力を養う。 (3)自らの得た研究成果について、文章、図表（英文表記を含む）および口頭で、他の人に明確に伝えられる能力を養う。		
成績評価	(1)実験およびデータ解析の能力（修士論文 15%, 修士論文発表審査 15%） (2)研究テーマを取り扱う能力（修士論文 20%, 修士論文発表審査 15%） (3)研究成果を他の人に伝える能力（修士論文 15%, 修士論文発表審査 20%）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：関連論文など		
履修資格			

科目名	材料科学特別実験（1 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	材料科学の分野の中で、学生の修士論文のテーマに関連した学識の基礎について体系的に教授すると共に、実験を行って応用の能力を養う。更に、実験結果を系統的に処理し解釈することで研究テーマについての問題点を自ら見出し、これを解決する能力を養う。		
到達目標	(1)研究計画を自ら立案できる。 (2)自らの計画した研究を遂行し、その結果について評価できる。		
成績評価	(1)研究計画の立案（研究報告書 15%, 研究へ取り組む姿勢 15%） (2)研究の遂行と結果の評価（研究報告書 35%, 研究へ取り組む姿勢 35%）		
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する		
履修資格			

科目名	材料科学特別実験（2 回生）	5 単位 通年
担当教員	専攻教員	
授業概要	材料科学の分野の中で、学生の修士論文のテーマに関連した学識の基礎について体系的に教授するとともに、実験を行って応用力を養う。さらに、実験結果を系統的に処理し時解釈することで、研究テーマについて問題点を自ら見出し、これを解決する能力を養う。	
到達目標	(1)客観的に望ましい研究計画を自ら立案できる。 (2)自らの計画した研究を遂行し、その結果について総合的に評価できる。	
成績評価	(1)研究計画の立案（修士論文 15%，研究へ取り組む姿勢 15%） (2)研究の遂行と結果の評価（修士論文 35%，研究へ取り組む姿勢 35%）	
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する	
履修資格		

科目名	材料プロセス熱力学	2 単位 前期
担当教員	松岡 純	
授業概要	材料の構造形成を支配している平衡および非平衡系の熱力学や、それに関連する輸送現象について、理論的背景と、簡単なモデルに基づく記述とを中心に講述する。	
到達目標	(1) 凝縮系における時間に依存する現象や構造変化の概要を理解する (2) 時間に依存する現象の熱力学に基づくモデル化について理解する	
成績評価	下記のレポート（25%×3 回）と毎回の小テスト（計 25%）による。 (1) 状態変化と時間依存現象の基礎 (2 回) (2) 構造形成のモデル化 (1 回)	
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布	
履修資格		

科目名	集積システム設計論	2 単位 後期
担当教員	岸根 桂路	
授業概要	システム高性能化のために、システムに対応した集積回路の実現が必須である。本講義において、微細デバイスの物理特性が回路に与える影響、ならびにそれらを考慮した回路構成法について学習する。さらに、高性能集積回路のシステムへの応用・展開手法についても解説し、デバイスレベルからシステムレベルまでの垂直統合的設計手法についても学ぶ。	
到達目標	(1) トランジスタの動作をキャリアの動きの観点から説明できること。 (2) 小信号等価回路解析により、トランジスタの回路動作を説明できること。	
成績評価	(1) トランジスタの動作をキャリアの動きの観点から説明できること (50%)。 (2) 小信号等価回路解析により、トランジスタの回路動作を説明できること (50%)。 プレゼンテーション(60%)，レポート (40%)	
テキスト 指定図書 参考書	必要に応じて指定する。適時プリントを配布する。	
履修資格		

科目名	人工知能	2 単位	後期
担当教員	奥村 進		
授業概要	知的システムの実現には人工知能の応用が不可欠であるが、人工知能に関する研究は歴史が浅いものの取り扱う範囲は極めて広い。本講義では、人工知能を応用する際に必要となる要素技術の習得を目的とする。とくに、探索による問題解決、知識と推論、ファジィ、ニューラルネット、遺伝的アルゴリズム、およびエージェントに関する基礎的事項を講述する。		
到達目標	人工知能を構成している各種要素に関する概念と技術を理解して基本的事項について説明できるとともに、基礎的な演習問題が解ける。		
成績評価	レポート(100%)		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：溝口理一郎・石田 亨 共編『人工知能』（オーム社）。プリントを適宜配布する。 参考書：荒屋真二著『人工知能概論（第2版）』（共立出版） Stuart Russell・Peter Norvig 著、古川康一 監訳『エージェントアプローチ人工知能』（共立出版）		
履修資格			

科目名	信頼性工学	2 単位	前期
担当教員	高松 徹		
授業概要	機械・構造物の設計においては、環境への負荷をできるだけ小さくすることが必要である。そのためには環境との調和を意識した材料の選択だけでなく、信頼性、機能、コストなどを考慮した設計が必要である。本講義では、信頼性を考慮した設計のための、信頼性工学の基礎、信頼性工学に基づく強度・寿命推定、信頼性工学に基づく設計などに関して講義する。		
到達目標	(1)寿命分布として用いられる様々な確率分布を理解できる。 (2)乱数機能を使って、特定の分布に従うデータを作成することができる。 (3)確率紙を使って、分布形の特定、およびその分布形におけるパラメータを決定できる。 (4)極値分布に基づいて、最大値、最小値の推定ができる。 (5)システムの信頼性が計算できる。 (6)故障解析の手法が理解できる。 (7)材料強度の統計的性質を理解できる。 (8)破損確率に基づく安全係数をもとめることができる。 (9)セラミック部材の強度設計ができる。		
成績評価	講義内容を正確に理解し、説明できることを基準として、到達目標(1)～(5)に関する課題を全て提出すること（各 10%）、および期末試験（各 10%）で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし。講義資料を配付する。		
履修資格			

科目名	生体機能化学特論	1 単位	後期
担当教員	井上 善晴※		
授業概要	生物がもつさまざまな機能を、有用物質生産などの有効利用に結びつけるためには、生体内での遺伝子発現の制御機構や、代謝における生化学反応を理解する必要がある。それらの生体反応は一定ではなく、細胞をとりまく周囲の環境によって大きく変化する。本講義では、微生物、とくにわれわれの日々の生活と関わりの深い産業微生物であり、また分子細胞生物学のモデル生物としても重要な酵母を中心に、産業上での利用と基礎生物学上での利用の両面について、以下のような内容について講述する。		
到達目標	(1)原核生物と真核生物の違いを理解する。 (2)解糖系のメカニズムを理解する。 (3)解糖系が実際のアルコール発酵産業において、どのように利用されているかを理解する。 (4)代謝ストレスと疾患の関係について理解を深める。		
成績評価	到達目標で示した各項目のいずれか一つに関連するテーマを各自で設定し、それについて情報収集、あるいは文献調査を行い、考察したものを課題レポートとして提出してもらい。提出されたレポートを 100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜、プリント等を配布する。		
履修資格			

科目名	切削加工学	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	切削加工における材料の被削性は、加工経費や加工精度など、機械部品の品質に大きな影響を与える重要な性質である。材料の被削性（機械の軽量化に伴って需要の増加しつつある耐熱性・耐摩耗性を有する難削材を含めて）と最適な加工条件について、材料学的な見地から詳しく解説し、講義する。		
到達目標	(1) 主な機械加工の概論を説明できる。 (2) 加工精度と加工誤差の原因について説明できる。 (3) 材料記号による工業材料の表記法と材料特性による材料選択の重要性が説明できる。 (4) 機械加工のシステム評価と最適加工について説明できる。		
成績評価	到達目標に示す(1)～(4)の達成度を確認する宿題と定期試験を40%、60%で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中嶋利勝・鳴瀧則彦共著「機械加工学」（コロナ社）、プリント補助教材 参考書：杉田忠彰、上田完次、稲村豊四朗著「基礎切削加工学」か高額基礎1（共立出版）		
履修資格			

科目名	先端複合材料科学	1単位	前期
担当教員	嘉数 隆敬※		
授業概要	現在、社会的に興味を引いているエネルギー問題について学習する。市販の一般紙、経済紙の記事を採り上げて、その背景から技術的問題点、対応の現状と将来展望について、使用されている材料の視点から考察を加えることによって、次世代エネルギー関連材料の知識や理解を深めることを目的とする。		
到達目標	エネルギー問題を正確に理解し、現実的に対応するために必要な基礎ができ、自分自身の考え方を関連する問題点を掘り起こし、提言までできるようになる。		
成績評価	授業への出席、授業での発言、およびレポートで成績を算出する。授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。		
テキスト 指定図書 参考書	教科書は使用しない。講義プリントを適宜配布する。 参考書は、課題により授業中に随時紹介する。		
履修資格			

科目名	先端無機材料科学	1単位	前期
担当教員	高橋 亮治※		
授業概要	地球環境を理解する上で必要となる予備知識について概説したのち、環境問題に関係した無機材料に関する話題として、光エネルギー利用に関係する材料および触媒プロセスに利用される多孔体・固体触媒に関して授業を行う。特に、エネルギー問題を評価する上で欠かせない効率に関する理解の仕方、実用化を目指すうえで解決すべき課題などを研究と社会が関係するいくつかの話題を取り上げて考える力を身に着ける。		
到達目標	(1) 環境問題について、科学的視点で論じることができる。 (2) エネルギー問題を解決するための技術開発に関してその有効性を科学的に議論することができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)および(2)については、レポートにより総合的に評価する。 100点満点で採点し、60点以上を合格とする。 なお、授業時間数の3分の1を超えて欠席した者は評価対象にしない。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介		
履修資格			

科目名	先端有機材料科学	1 単位	前期
担当教員	山下 敬郎※		
授業概要	近年、有機EL、有機トランジスタ、有機太陽電池などの有機エレクトロニクスが注目を集めている。これらの有機デバイスの利点は、有機分子のデザインによってエレクトロニクス特性を制御できる点であり、革新的なデバイスは新規な分子開発から生まれる。物質開発には有機化学の基礎知識が必要である。有機化合物の構造と機能の関係を理解するために、分子構造と電子構造について構造有機化学の基礎を学習する。		
到達目標	有機エレクトロニクスの分野の進展には革新的な物質開発が極めて重要である。本講義においては有機エレクトロニクスの物質開発の現状を説明し、高性能のデバイスを与える有機分子の分子設計を説明する。この講義により有機化合物の構造と機能の関係を理解出来、分子構造と電子構造についての構造有機化学の基本的概念の理解が深まる。		
成績評価	到達目標について、レポート100%で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布、その他適宜紹介		
履修資格			

科目名	超伝導デバイス	2 単位	前期
担当教員	作田 健		
授業概要	量子力学的な効果がマクロスケールで発現するなど、超伝導は非常に興味深い性質を持っている。この特性を利用した超伝導デバイスは、特徴的な性能を発揮する。本講義では、超伝導現象や超伝導量子効果、また、ジョセフソン素子や超伝導量子干渉素子 (SQUID) などのデバイス、その実用例やセンシング応用などについて理解する。		
到達目標	(1) 超伝導現象について電磁気学的に理解する。 (2) 量子効果について理解し、超伝導現象との関係を理解する。 (3) 超伝導デバイスをふくむ、量子効果デバイスについて理解する。		
成績評価	超伝導現象および量子効果について、レポート (40%)、量子効果デバイスについて、プレゼンテーション (60%) により評価する。 100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを適宜配布する。 参考書：A.C.ローズ-インネス、E.H.ロディリック著、島本進、安河内昂訳「超電導入門」(産業図書)。また、適時参考資料としてプリントを配布する		
履修資格			

科目名	電子・光機能セラミックス	2 単位	後期
担当教員	吉田 智		
授業概要	材料の電子・光機能性は、その電子構造によって決まる。本講義では、セラミックスの電子構造と、外場に対する応答性を理解し、様々な分野で用いられている電子・光機能セラミックスの特徴を理解することを目的とする。毎年、構造あるいは電子・光機能性に関する一つのテーマを設定し、そのテーマを深く理解することを目指す。		
到達目標	(1)セラミックスの原子構造と物性について、英文解説の内容を理解し説明できること。 (2)電子の挙動とセラミックスの諸性質の関係について、英文解説の内容を理解し説明できること。		
成績評価	到達目標に示す(1),(2)について、発表 ((1)35%, (2)35%) + レポート ((1)15%, (2)15%) で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布		
履修資格			

科目名	電磁応用工学	2単位	前期
担当教員	福岡 克弘		
授業概要	電磁気現象は多くの電気機器における動作の源になっており、その現象の理解は重要である。また、近年では超電導体の電磁現象を利用することにより、磁気を使った応用は益々拡がりつつある。本講義では、磁気活用技術に関して理解を深める。さらに、電磁気現象を応用した非破壊検査技術についても考察する。各自がおのこのテーマに関して調査を行い、その結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を養う。また、各発表に関するテーマについて、活発に討論できる能力を養う。		
到達目標	(1) 電磁気現象について理解し、その現象を応用した工業製品について説明できる。 (2) 電磁気現象を利用した非破壊検査技術について説明できる。 (3) 超電導応用機器について説明できる。		
成績評価	到達目標で示す(1) 電磁気現象について理解し・・・(2) 電磁気現象を利用した・・・(3) 超電導応用機器・・・について、プレゼンテーションとディスカッション（50%：(1)20%,(2)15%,(3)15%）と課題レポート(50%：(1)20%,(2)15%,(3)15%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要に応じて適宜指定する。 参考書・参考資料等：能登 宏七監修「入門 磁気活用技術」（工業調査会） 日本非破壊検査協会編「非破壊試験技術総論」（日本非破壊検査協会）		
履修資格			

科目名	電子システム工学特別演習（1回生）	5単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	電子システム工学に関連する特定の研究課題を取り上げ、修士論文の作成に向け、国内外の著書・論文等の資料収集・輪講を行い、基礎的・応用的知識を体系的に教授するとともに、演習を行うことによって理解を深めて応用能力をつける。さらに、学生自身による研究実践の成果報告を通して、高度な研究能力をつける。		
到達目標	(1) 研究テーマについての高度な専門知識を身につけ、それらを駆使して博士前期課程に相応しい課題を探索し、組み立て、解決することができる能力を身につける。 (2) 研究で得られた成果を適切にまとめ、自分の論点や考え方をわかり易く論理的に発表し、博士前期課程に相応しいディスカッションを行うことができる能力を身につける。		
成績評価	成績評価は可否のみとし、評点はつけない。研究活動への日常の取り組み、研究会での発表状況、修士論文の内容、および修士論文審査会でのプレゼンテーションを総合評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	特に設定しないが、適時指示する。		
履修資格			

科目名	電子システム工学特別演習（2回生）	5単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	電子システム工学に関連する特定の研究課題を取り上げ、修士論文の作成に向け、国内外の著書・論文等の資料収集・輪講を行い、基礎的・応用的知識を体系的に教授するとともに、演習を行うことによって理解を深めて応用能力をつける。さらに、学生自身による研究実践の成果報告を通して、高度な研究能力をつける。		
到達目標	(1) 研究テーマについての高度な専門知識を身につけ、それらを駆使して博士前期課程に相応しい課題を探索し、組み立て、解決することができる能力を身につける。 (2) 研究で得られた成果を適切にまとめ、自分の論点や考え方をわかり易く論理的に発表し、博士前期課程に相応しいディスカッションを行うことができる能力を身につける。		
成績評価	成績評価は可否のみとし、評点はつけない。研究活動への日常の取り組み、研究会での発表状況、修士論文の内容、および修士論文審査会でのプレゼンテーションを総合評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	特に設定しないが、適時指示する。		
履修資格			

科目名	電子システム工学特別実験（1 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	電子システム工学に関連する特定の研究課題を取り上げ、修士論文の作成に向け、国内外の著書・論文等の資料収集・輪講を行い、基礎的・応用的知識を体系的に教授するとともに、実験を行うことによって理解を深めて応用能力をつける。さらに、実験結果を系統的に処理・解釈し、研究課題に関する問題点を見いだし、それを解決する能力を養う。		
到達目標	(1) 研究テーマについての高度な専門知識を身につけ、それらを駆使して博士前期課程に相応しい課題を探求し、組み立て、解決することができる能力を身につける。 (2) 博士前期課程に相応しい問題や課題を理解して設定し、実験を計画し、与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけだして計画的に仕事を進め、成果として適切にまとめることができる能力を身につける。		
成績評価	成績評価は可否のみとし、評点はつけない。研究活動への日常の取り組み、および実験的検討、理論解析、数値解析などの結果を総合評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	特に設定しないが、適時指示する。		
履修資格			

科目名	電子システム工学特別実験（2 回生）	5 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	電子システム工学に関連する特定の研究課題を取り上げ、修士論文の作成に向け、国内外の著書・論文等の資料収集・輪講を行い、基礎的・応用的知識を体系的に教授するとともに、実験を行うことによって理解を深めて応用能力をつける。さらに、実験結果を系統的に処理・解釈し、研究課題に関する問題点を見いだし、それを解決する能力を養う。		
到達目標	(1) 研究テーマについての高度な専門知識を身につけ、それらを駆使して博士前期課程に相応しい課題を探求し、組み立て、解決することができる能力を身につける。 (2) 博士前期課程に相応しい問題や課題を理解して設定し、実験を計画し、与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけだして計画的に仕事を進め、成果として適切にまとめることができる能力を身につける。		
成績評価	成績評価は可否のみとし、評点はつけない。研究活動への日常の取り組み、および実験的検討、理論解析、数値解析などの結果を総合評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	特に設定しないが、適時指示する。		
履修資格			

科目名	電子制御論	2 単位	後期
担当教員	稲葉 博美		
授業概要	電子回路（アナログ系：演算増幅器応用，ディジタル系：マイクロコンピュータ応用）により構築するシステム制御系の設計法について講述する。システムのモデル化，制御器の立案，系の安定性判別法，安定性の増加策，そして管理プログラムなどについてアナログ系とディジタル系との対比のもとに示す。最後に，制御系設計用の汎用ツール(Scilab)についてもふれる。		
到達目標	マイクロコンピュータを用いた離散値系の制御系設計法を身につけること。		
成績評価	到達目標で示す，マイクロコンピュータを用いた離散値系の制御系設計法を身につけることについては，課題レポート(100%)で評価する。100 点満点で採点し，60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：雨宮好文，高木章二著『ディジタル制御入門』オーム社 参考書：横田満徳著『Scilab で学ぶフィードバック制御』工学社，兼田雅弘著『ディジタル制御工学』共立出版，武井正彦著『 μ ITRON による組込みシステム入門』森北出版，橋本洋志著『Scilab で学ぶシステム制御の基礎』オーム社		
履修資格			

科目名	天然高分子材料	2単位	前期
担当教員	廣川 能嗣		
授業概要	自然界には、自然の摂理に則り生まれた優れた材料が見られる。例えば、天然高分子は、自然が生み出し自然に同化する高分子であり、その利用は環境保全の観点からも重要と考えられる。本講では、天然高分子材料を中心に、「自然に学ぶこと」をキーワードに、材料の創製プロセスを構造とその作り方の両面から考えることを目的とする。		
到達目標	(1) 代表的な天然高分子を3種類挙げて、その特徴について説明することができる。 (2) 天然高分子の利用分野について、その特徴と関係付けて説明できる。 (3) 天然高分子の構造形成とその機能性について説明できる。		
成績評価	到達目標で示す(1)~(3)について、レポート(30%:(1))、(30%:(2))、(40%:(3))により成績評価を行う。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「自然に学ぶ材料プロセッシング」(三共出版)		
履修資格			

科目名	電力エネルギー工学	2単位	前期
担当教員	乾 義尚		
授業概要	電力エネルギー工学は、電気エネルギーを発生・変換・輸送・貯蔵・利用する技術であり、古い歴史をもつが、パワーエレクトロニクス技術の進展や地球環境に優しい新発電技術の導入等により現在も進歩し続けている。本講義では、直流送電、電動機のインバータドライブ、エネルギー変換、エネルギーシステム等、この電力エネルギー工学に関連した話題について講述する。		
到達目標	(1) 高度なパワーエレクトロニクス利用電力制御技術について説明できる。 (2) エネルギー工学の基礎について説明できる。		
成績評価	到達目標で示す(1)、(2)について、レポート(100%:(1)50%、(2)50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	講義資料を適宜配布する。		
履修資格			

科目名	動的システム論	2単位	前期
担当教員	大浦 靖典		
授業概要	強度、熱、流体、振動、電気などに関する個別の技術を横断的に下支えするモデリング技術は、同一の基盤の上で複合的な問題を解決するための横断型基幹技術として不可欠になりつつある。本講義では、動的システムの例として、①力学システム、②電気・磁気システム、③流体システム、④熱システムを取り上げ、そのモデリング手法を講述する。また、その解析に必要な線形化技術や数値解析手法についても講述する。これらの講義を通して、企業等で必要性が高まっているマルチフィジックス解析へ対応するための基礎力を養うことを目標とする。		
到達目標	(1) 力学システムをモデリング・解析・設計・評価できる。 (2) 電気・磁気システムをモデリング・解析・設計・評価できる。 (3) 流体システムをモデリング・解析・設計・評価できる。 (4) 熱システムをモデリング・解析・設計・評価できる。		
成績評価	到達目標の(1)～(4)を、発表(50%)、定期試験(50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書:増淵・川田, システムのモデリングと非線形制御, コロナ社 古田・野中・畠山, モデリングとフィードバック制御—動的システムの解析, 東京電機大学出版局		
履修資格			

科目名	トライボロジー特論	1 単位	前期
担当教員	熊田 喜生※・神谷 莊司※		
授業概要	トライボロジー(摩擦工学)の基礎と，その応用としてのすべり軸受の特性，材料等について概説する。		
到達目標	(1)摺動面の表面特性と摩擦との関係について理解できる。 (2)さまざまな潤滑形態，およびその特性について理解できる。 (3)摩擦制御(特に低摩擦)，摩擦材料・表面処理の特性と損傷との関連について理解できる。		
成績評価	授業中のレポート(100%)により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	プリントを配布する．工業調査会発行のすべり軸受を配布。		
履修資格			

科目名	熱システム工学	2 単位	前期
担当教員	山根 浩二		
授業概要	熱システムの中で内燃機関を取り上げ，その性能を PC ベースで数値予測するためのエンジンサイクルシミュレーションに関して，ウィーベ関数による燃焼モデリングやサイクルシミュレーションの構造を理解する。本講では，原著論文を翻訳し，理解し，自ら調べた内容とともにプレゼンテーションすることを基本としているが，単に英文和訳ではなく，まとめる能力と発表力を身につけ，自学自習できる能力を養うことを狙いとしている。		
到達目標	(1) 内燃機関の熱力学的サイクルシミュレーションの基礎が理解できる。 (2) サイクルシミュレーションに関する英論文を和訳しまとめることができる。		
成績評価	本講義は，受講者が行うプレゼンテーションのレジメ提出 (50%)，発表(30%)およびレポート提出(20%)によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント		
履修資格			

科目名	燃焼工学	2 単位	前期
担当教員	河崎 澄		
授業概要	燃焼形態や化学量論などの基礎事項のほか，反応速度論や化学平衡などの燃焼の化学，着火過程，層流炎や乱流炎などの構造や安定性に関わる燃焼現象論，燃焼計算，燃焼における有害汚染物質の生成メカニズムなどに関して講述する。		
到達目標	燃焼形態や化学量論などの基礎事項を理解できる。反応速度論や化学平衡などの燃焼の化学を理解できる。着火過程，層流炎や乱流炎などの構造や安定性に関わる燃焼現象論を理解できる。燃焼における有害汚染物質の生成メカニズムを理解できる。		
成績評価	レポート(100%)		
テキスト 指定図書 参考書	指定図書「燃焼工学」(森北出版)		
履修資格			

科目名	バイオマスエネルギー変換論	2単位	後期
担当教員	山根 浩二		
授業概要	バイオマスは発生したままで効率良くエネルギー利用することが困難である。そこで、利用しやすく 2 次エネルギーの形に変換して利用する。その変換技術と利用動向などに関して主にテキストを用いて解説する。		
到達目標	(1) バイオ燃料とは何かが理解できる。 (2) 物理的変換, 熱化学的変換, 生物化学的変換のテクノロジーが理解できる。 (3) バイオ燃料に関して最新情報を収集し解説できる。		
成績評価	到達目標 (1) および (2) に関するレポート課題をそれぞれ 50% として評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	山根浩二監修「自動車用バイオ燃料技術の最前線」＜普及版＞, シーエムシー出版, ISBN978-4-7813-0730-5		
履修資格			

科目名	光デバイス	2単位	後期
担当教員	山田 逸成		
授業概要	この授業では、光デバイスの機能や、製作に必要とする加工技術を学ぶとともに、光の反射・屈折・吸収などがなぜ生じるのか、どうすれば効率や性能が向上するのか、という疑問に答えられるよう、光の波動的性質を中心に様々な光学現象のメカニズムを学ぶ。Maxwell 方程式など数式を用いるが、式の変形だけにとらわれないように、日常目にする現象を取り上げ、常に波の姿を頭に描きながら授業を進める。		
到達目標	様々な光デバイスに関して十分に理解し、(1)論理的に説明、および(2)応用に向けた提案ができること。		
成績評価	到達目標に示す(1)(2)について発表 (50%) とレポート(50%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	必要に応じて、授業の初めにプリントを配布する。		
履修資格			

科目名	光物性特論	2単位	後期
担当教員	一宮 正義		
授業概要	オプトエレクトロニクスデバイスを理解するうえで、必要となる固体物性に関する講義を前半で行う。中盤では引き続き固体内での光と物質との相互作用に関する講義を実施する。後半では、デバイス設計に欠かせない光物性に基づいた評価技術に関する講義を提供する。		
到達目標	(1)オプトエレクトロニクスを理解するために必要な物質と光の相互作用に関する知識を身につけることができる。 (2)基本的な分光測定系を設計できる知識を習得することができる。		
成績評価	到達目標に示す項目ごとにレポートにより評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：中山正昭「半導体の光物性」(コロナ社) 参考書：キッテル「固体物理学入門」(丸善)		
履修資格			

科目名	光子物性論	2 単位	後期
担当教員	奥 健夫		
授業概要	最先端ナノテクノロジーから生命科学、自然環境から宇宙全体にいたるまで幅広い領域において、光と物質の相互作用が観察される。本講義では、我々の周囲にある光や物質がもつ情報を理解するための基礎を量子論的観点から学ぶ。光と原子を理解する物理学の基礎から、実際に身近にある様々な応用についても触れる。		
到達目標	光と原子を理解する物理学の基礎から、実際に身近にある様々な応用まで理解する。		
成績評価	課題レポート評価 100%		
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	非晶質無機材料	2 単位	前期
担当教員	松岡 純		
授業概要	ガラスなどの非晶質無機材料は、光学特性や賦型性に優れ安定性も高いため、電子材料への用途が急増している。この講義では先端分野での応用例を示した後に、構造制御方法と物性発現機構を、物理化学、無機化学、物性論を基に講述する。		
到達目標	(1) 非晶質に固有の基本的な概念を理解する (2) 非晶質の物性支配要因、および、構造と物性の相関に関し、概要を理解する		
成績評価	下記のレポート (25%×3 回) と毎回の小テスト (計 25%) による。 (1) 非晶質の基本的理解 (1 回) (2) 非晶質の物性の理解 (2 回)		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布		
履修資格			

科目名	非線形制御論	2 単位	前期
担当教員	安田 寿彦		
授業概要	制御システムには非線形特性を有する要素が含まれる場合が一般的である。自励振動，分岐現象などの非線形現象について解説し，さらに，非線形システムのモデリング，解析法，安定性およびその制御法について述べる。非線形制御システムの定量的・定性的な解析方法について解説する。		
到達目標	各種の非線形システムの制御方法および解析手法を応用できる。		
成績評価	定期試験（50％），レポート課題（50％）		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書：「非線形システムの解析」（オーム社）		
履修資格			

科目名	複合材料工学	2 単位	後期
担当教員	山下 義裕		
授業概要	複合材料は我々の日常生活の広範囲で利用されている。最新の航空機の総 2 階建てエアバス A380 の自重の 38% は複合材料でできている。ボーイング B787 は 50% である。一般機械分野では超高速印刷機のロールは高弾性炭素繊維がなければ実用不可能な部品である。土木・建築においても耐震レトロフィット構造をはじめ、超高層ビルの外壁は複合材料である。さらにカーボンナノチューブを用いた複合材料や複合系はスペースエレベーターの実現に向けて重要な役割を果たすだろう。このような先端複合材料についての高度な知識と実践について講義す		
到達目標	複合材料の成形方法を説明できる。複合材料の設計ができる。		
成績評価	発表 50%、定期試験 50%		
テキスト 指定図書 参考書	入門複合材料の力学（培風館）		
履修資格			

科目名	複雑ネットワーク概論	2 単位	後期
担当教員	酒井 道		
授業概要	複雑ネットワークの概念と実例、およびその基本的な解釈について理解することを目的とする。まず、複雑ネットワークの例示・導入（一見ランダムに見える構造を形成しており、WWW（World Wide Web）のようなコンピュータネットワークとしてだけではなく、種々の関係性の中に同様の構造が存在する）を行い、その理解の基礎となるグラフ理論等を概説する。さらに、その実例を示しながらそれらが持つトポロジカルな特性について説明する。		
到達目標	複雑ネットワークの概要を理解し説明できるとともに、その考え方を具体例に適用できる。		
成績評価	到達目標で示す内容に関して、定期試験で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	教材として授業中にプリントを配布 参考書：「複素関数要論」田代嘉宏著（森北出版）		
履修資格			

科目名	無機ナノ粒子工学	2 単位	後期
担当教員	Balachandran Jeyadevan		
授業概要	物質を原子分子から構成して新たな人工機能を生み出すことが注目を集めている。そこで本講義では、無機ナノ粒子をそのような幅広い研究開発の一部ととらえ、ナノ粒子効果、ナノ粒子合成の基礎、ナノ粒子合成手法、ナノ粒子分散媒の作製手法、ナノ粒子・構造体の物性評価についての、基礎知識を学ぶとともに、ナノ粒子の中でも重要な無機材料である磁性体および半導体材料の諸特性を理解し、実際に使用するときに必要な工学的な知識を身につける。また、ナノ材料を使用する上で重要と思われる安全性についても講義する。		
到達目標	ナノ粒子効果、ナノ粒子合成の基礎、ナノ粒子合成手法、ナノ粒子分散媒の作製手法、ナノ粒子・構造体の物性評価、安全性についての知識を修得し、実用材料の特性を把握する。		
成績評価	小テスト（40%）、定期試験（60%）		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布、その他適宜紹介		
履修資格			

科目名	有機材料設計	2単位	後期
担当教員	井上 吉教		
授業概要	低分子有機材料については、精密合成反応を理解する上で必要な考え方を、量子化学論により理論的に解説する。また、高分子有機材料については、設計する上で必要な考え方を、例を挙げながら説明する。		
到達目標	低分子については紫外・可視スペクトルに関して量子化学による計算で分子の設計ができる。高分子については最近の機能性分子設計の基本的な考え方などを身につけることができる。		
成績評価	レポート(100%)、機能性材料に関するプレゼンテーション1回		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：機能性色素の分子設計（丸善株式会社）、基礎量子化学（朝倉書店）、図解高分子新素材のすべて（工業調査会）		
履修資格			

科目名	ロバスト設計論	2単位	後期
担当教員	奥村 進		
授業概要	工業製品や製造設備などのシステムの設計・運用において、システムに内在しているパラメータ値を適切に設定することによって、システムの特徴が外乱に対してロバストであるようにすることが重要である。本講義では、技術者が考慮すべきロバスト設計に関する基本的な考え方およびそれを構成する種々の手法について講述する。		
到達目標	ロバスト設計および品質に関する基礎的な概念と技術を理解し、その基本的事項について説明でき、基本的な演習問題が解ける。また、簡単なシステムを対象にしてロバスト設計を実施できる。		
成績評価	レポート(100%)		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを適宜配布する。 参考書：立林和夫著『入門タグチメソッド』（日科技連出版社）		
履修資格			

◆地域文化学専攻

1 学位授与方針

地域文化学専攻は、人材の養成を目的を達成するため、下記の通り、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

所定単位の修得と論文等の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、修士学位を授与します。

- A. 日本とアジアの歴史、そして現在の文化について広範な知識を身につけることができ、地域の歴史・文化を理解することができる。(知識・理解)
- B. 日本とアジアにおける多様な地域文化に関心をもち、博士課程前期で学んだことを基に課題を設定し、それを解決しようとする姿勢を持つ。(思考・判断)
- C. 日本やアジアを中心とする現地調査を通じて、各々の地域社会や地域文化の研究を進め、自らの見解を形成できる。(興味・関心)

2 教育課程の編成・実施方針

地域文化学専攻は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

日本生活文化論、環琵琶湖地域論、日本考古学、美術史特論、社会学特論、朝鮮史特論モンゴル・ディアスポラ論、現代中国論、地域文化遺産・情報論などの科目を配置している。また、セミナー形式での報告・討論などで研究の進展を確認していく観点から地域文化学特別演習、地域文化学特別研究などの科目を配置している。これらの科目の体系的な学修により、人材の養成に関する目標を達成する。

3 博士前期課程修了要件

- ① 科目の履修にあたっては、下記の科目配当表と開講科目の講義概要、ならびに年度当初に行われる所属研究科・専攻単位でのオリエンテーション時の説明を十分聞いた上で、指導教員の承認を得て履修すること。
- ② 修了要件：必修科目 16 単位ならびに選択科目 14 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して論文審査および最終試験に合格すること。なお、所属する専攻が認める場合、他専攻（生活文化学専攻）および他研究科開講科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。
- ③ 教員免許の取得を希望する者は、別掲の選択科目から少なくとも、4 科目 8 単位以上を修得すること。
- ④ 学部開講の授業科目については、指導教員の指示に従い受講することができるが、修得した単位を修了要件単位数に算入することはできないので注意すること。
- ⑤ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P. 147 を参照すること。

4 年次別科目配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年 次	期 間	単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
(共通科目)							
Japanese Culture and Civilization	石田、クリガー、面矢、北村、富島	1・2	後期		2		
異文化接触論	クリガー、呉、小栗、地蔵堂、小熊	1・2	前期		2		
ヨーロッパ地域文化論	外狩、北村、山本、吉村、橋本	1・2	後期		2		
(日本・地域文化論部門)							
日本生活文化論	市川、森	1・2	前期		2		
日本考古学 A *2	定森、中井、花田	1	前期		2		
日本考古学 B *1	定森、中井、花田	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生:「日本考古学」
環琵琶湖地域論 A *2	水野、東、武田	1・2	後期		2		
環琵琶湖地域論 B *1	水野、東、武田	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「環琵琶湖地域論」
女性史・ジェンダー論 A *2	京樂	1・2	後期		2		
女性史・ジェンダー論 B *1	京樂	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「女性史・ジェンダー論」
美術史特論 A *2	亀井	1・2	後期		2		
美術史特論 B *1	亀井	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「美術史特論」、H20 年度以前入学生:「感性学特論」
社会学特論 A *2	武田	1・2	前期		2		
社会学特論 B *1	武田	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生:「周縁文化論」
地域産業論 A *2	塚本	1・2	前期		2		
地域産業論 B *1	塚本	1・2	前期		2		H21 年度以前入学生:「地域産業論」
(アジア・地域文化論部門)							
中国文化史特論	辻	1・2	前期		2		
北東アジア地域史 A *2	田中	1・2	前期		2		
北東アジア地域史 B *1	ブレザン、河	1・2	前期		2		
朝鮮史特論 A *2	河	1・2	前期		2		
朝鮮史特論 B *1	田中	1・2	前期		2		
アジア考古学 A *2	定森、濱崎	1・2	後期		2		
アジア考古学 B *1	定森、濱崎	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「アジア考古学」
モンゴル・ティアスラ論 A *2	ブレザン、島村	1・2	後期		2		
モンゴル・ティアスラ論 B *1	ブレザン、島村	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「モンゴル・ティアスラ論」、H20 年度以前入学生:「遊牧地域文化論」
トランス・ヒマラヤ文化論	棚瀬	1・2	前期		2		
現代中国特論 A *2	横田	1・2	後期		2		
現代中国特論 B *1	横田	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「現代中国特論」
(考現学・保存修景論部門)							
環琵琶湖保存修景計画論 A *2	濱崎、石川	1・2	後期		2		
環琵琶湖保存修景計画論 B *1	濱崎、石川	1・2	後期		2		H21 年度以前入学生:「環琵琶湖保存修景計画論」
地域文化遺産調査・情報論	濱崎、石川	1・2	前期		2		

(特別演習・特別研究)						
地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	8		
地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	8		
(キャリア教育関連)						
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期		1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期		2	

* 1 奇数年度（H27, H29, . . .）に開講される。

* 2 偶数年度（H28, H30, . . .）に開講される。

5 修士の学位審査基準

大学院指導資格を有する該当部門の教員を主査とし、同じく大学院指導資格を有する専攻科の教員（論文の主題に応じて。当該部門に限定しない）2名を副査とする審査委員が熟読したうえで、口頭試問を実施し、下に示す基準に照らし合わせて可否を判断する。

- ① 40000字を基本とし、学史をふまえ、独創的な内容をもつこと。
- ② 各部門における学術論文としての体裁を整えていること。
- ③ 口頭試問において、適切な応対ができていること。
- ④ 修士論文中間報告会において、修士論文の途中経過について報告を行っていること。

◆生活文化学専攻

1 学位授与方針

生活文化学専攻各部門は、人材養成の目的を達成するため、下記の通り、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

所定単位の修得と学位論文等の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、修士学位を授与します。

<生活デザイン部門>

- A. 生活に関わるデザインについて広範な知識を身につけ、適切なデザインを実現する方法について理解することができる。(知識・理解)
- B. 生活に関わるデザインのあり方に広い関心を持ち、自ら学んだことを基に課題を設定し、それを解決しようとする姿勢を持つ。(興味・関心)
- C. 明確な目的をもつ研究テーマについて適切な方法で研究し、論文または制作物としてまとめることができる。(思考・判断)(技能・技術)

<健康栄養部門>

- A. 栄養学とは人が食べた後の食べ物の運命を扱う生物物理化学であることが理解できる。(知識・理解)(興味・関心)
- B. 栄養学の知識と技術を、健康の維持に活用できる。(知識・理解)(技能・技術)
- C. 必要な実験方法を自ら入手できる能力を身につけることができる。(思考・判断)(技能・技術)
- D. 自らが行った研究成果を説明できるプレゼンテーションと研究者間とのコミュニケーションができる。(思考・判断)(技能・技術)

<人間関係部門>

- A. 人間関係論にかかわる心理学・教育学・社会学を中心とする専門的な知識を自ら探求し、身につけることができる。(知識・理解)(興味・関心)
- B. 人間関係論に隣接する諸分野に積極的な興味と関心を持ち、人間にかかわる幅広い考究の一地点に自らのテーマを位置づけることができる。(興味・関心)(思考・判断)
- C. 人間関係論を拓くための定量的／質的に分析するための技法を自ら探求し、身につけることができる。(思考・判断)(技能・技術)
- D. 人間関係論の多様なあり方を議論することができ、それを口頭や文章で表現することができる。(思考・判断)(技能・技術)

2 教育課程の編成・実施方針

生活文化学専攻各部門は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

<生活デザイン部門>

道具デザイン特論、服飾デザイン特論、住環境デザイン特論などの科目を配置する。またセミナー形式での報告・討論などで研究の進展を確認していく観点から、生活文化学特別演習、生活文化学特別研究等の科目を配置する。

<健康栄養部門>

学士課程で得た栄養学の知識と技術を基盤とした上で、次世代の栄養学分野の課題を講義し、解決できる知識・技術を習得するための科目を配置する。

<人間関係部門>

心理学、教育学、社会学など人間関係論にかかわる各分野の知見を専門的かつ学際的に学ぶ科目を配置する。人間の心や社会の諸問題に積極的にかかわるための方法論を習得し、課題解決に資する共同討議のための生活文化学特別演習、生活文化学特別研究、研究方法特論などの科目を配置する。

3 博士前期課程修了要件

- ① 科目の履修にあたっては、下記の科目配当表と開講科目の講義概要、ならびに年度当初に行われる所属研究科・専攻単位でのオリエンテーション時の説明を十分聞いた上で、指導教員の承認を得て履修すること。
- ② 修了要件：必修科目 16 単位ならびに選択科目 14 単位以上の計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して論文審査および最終試験に合格すること。なお、所属する専攻が認める場合、他専攻（地域文化学専攻）および他研究科開講科目の修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。また、平成 25 年度以前入学生も、平成 26 年度新規開講科目を受講することができる。その修得単位を選択科目として修了要件に算入することができる。
- ③ 教員免許の取得を希望する者は、別掲（第 4 章「資格取得等の手引」）の選択科目から必要単位を修得すること。
- ④ 学部開講の授業科目については、指導教員の指示に従い受講することができるが、修得した単位を修了要件単位数に算入することはできないので注意すること。
- ⑤ 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については、P. 147 を参照すること。

4 年次別科目配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当 年 次	期 間	単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
(共通科目)							
Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリガー、北村、富島	1・2	後期		2		
現代生活論Ⅱ	大橋、竹下、細馬、松嶋	1・2	後期		2		*1 (注)
(生活デザイン部門)							
住環境デザイン特論 B	藤木	1・2	前期		2		H25 以前入学生：地域生活空間特論
住環境デザイン特論 A	宮本	1・2	前期		2		H25 以前入学生：室内環境計画特論
住環境デザイン特論 C	佐々木	1・2	後期		2		H25 以前入学生：空間デザイン特論
道具デザイン特論 A	面矢	1・2	前期		2		H25 以前入学生：道具デザイン特論Ⅰ
道具デザイン特論 B	印南	1・2	後期		2		H25 以前入学生：道具デザイン特論Ⅱ
道具デザイン特論 C	南(政)	1・2	後期		2		新規
服飾デザイン特論 A	森下	1・2	前期		2		H25 以前入学生：服飾デザイン特論
服飾デザイン特論 B	横田(尚)	1・2	後期		2		H25 以前入学生：衣料素材・染色科学特論
マーケティング特論	山田	1・2	前期		2		
生活デザインプロジェクト演習	専攻教員	1	後期		2		
生活文化学特別演習(生活デザイン分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8			
生活文化学特別研究(生活デザイン分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8			
(健康栄養部門)							
栄養制御論	柴田(克)	1・2	後期		2		*1 (注)
健康運動学特論	中井(直)	1・2	後期		2		*1 (注)
栄養疫学特論	村上(健)	1・2	前期		2		*1 (注) *3 (注)
栄養応答論	福渡	1・2	後期		2		*2 (注)
病態栄養学特論	矢野	1・2	前期		2		*2 (注)
臨床栄養管理特論	奥村	1・2	前期		2		*2 (注)
栄養教育特論	廣瀬	1・2	前期		2		*1 (注)
食品機能論	今井	1・2	後期		2		*2 (注)
学校栄養教育実践特論	大谷	1・2	前期		2		*2 (注)
調理科学特論	小川	1・2	前期		2		*2 (注)
食品栄養特論	小西、伏木、木戸	1・2	前期		2		*2 (注)
児童健康問題特論	奥村	1・2	後期		2		*1 (注)
運動処方学特論	未定	1・2	後期		2		*2 (注)
行動学特論	上野、細馬	1・2	前期		2		*1 (注)
地域食育実践学特論	未定	1・2	後期		2		*2 (注)
栄養機能科学特論	吉田、吉村、渡辺	1・2	前期		2		*1 (注)
食文化特論	堀越	1・2	前期		2		*1 (注)
小児医学特論	多賀、高野、松井、澤井	1・2	前期		2		*1 (注)
生活文化学特別演習(健康栄養分野)	専攻教員全員	1～2	通年	8			

生活文化学特別研究（健康栄養分野）	専攻教員全員	1～2	通年	8		
（人間関係部門）						
学校教育論特講	木村	1・2	後期	2		*2（注）*3（注）
教育制度論特講	杉浦（由）	1・2	後期	2		*1
比較行動論特講	細馬、上野	1・2	前期	2		*1（注）
行動発達論特講	竹下	1・2	後期	2		*2（注）
社会学特講 B	大橋	1・2	前期	2		*1（注）
社会学特講 A	丸山、中村	1・2	前期	2		*2（注）H22 以前入学生：比較社会文化論特講
フィールド心理学特講	松嶋	1・2	後期	2		*1（注）
生活文化学特別演習（人間関係分野）	専攻教員全員	1～2	通年	8		
生活文化学特別研究（人間関係分野）	専攻教員全員	1～2	通年	8		
（キャリア教育関連）						
インターンシップ C	就職指導担当教員	1	前期		1	
インターンシップ D	就職指導担当教員	1	前期		2	

* 1 奇数年度（H27, H29, . . .）に開講される。

* 2 偶数年度（H28, H30, . . .）に開講される。

（注）隔年開講科目ですので、健康栄養部門、人間関係部門で平成 28 年度不開講科目の履修を希望する者は、今年度必ず履修すること。

* 3 平成 23 年度以前入学生については、「学校教育論特講」を「学校教育・生活指導論特講」に読み替える。
平成 26 年度以前入学生については、「栄養疫学特論」を「食素材特論」に読み替える。

5 修士の学位審査基準

大学院指導資格を有する主査 1 名および副査 2 名からなる審査委員が、下記に照らし合わせ審査を行う。

- ① 修士論文および最終試験については次の②と③の基準を満たすこと。最終試験は主に修士論文の内容について、口頭試問を行う。
- ② 修士論文は生活文化学の新規な知見を含み、その内容が学術的な価値を有すると判断されること。
- ③ 最終試験により、生活文化学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づく研究能力を有すると認められること。

ただし生活デザイン部門では、論文の成果として制作物を提出する場合、制作物も評価の対象とする。

人間文化学研究科博士前期課程履修モデル

A 人材養成目標

「生活」とその生活の場である「地域」を対象とする教育研究、体系的な生活デザイン論の構築と総合的能力の育成、食の総合的スペシャリストの養成と科学的基盤の形成、個と集団の発達のダイナミックスやコミュニケーションにかかわる教育研究といった学部段階の到達点の継承と、さらに人間的な生活文化および生活スタイルの創造に寄与する教育研究を行い、幅広い視野と豊かな人間性、積極的な行動力を身につける研究者および専門的職業人の養成を図ることが当研究科の教育目標である。この教育目標を達成するために、次の2専攻6部門の履修モデルプログラムを設定している。

I 地域文化学専攻

①日本・地域文化論部門履修モデル

本部門は、環琵琶湖地域を中心とする日本を対象とし、それぞれの地域の社会や文化の構造を探る教育研究を行う。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通科目	Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリンガー、リピー、富島	1・2	後期	選択	2
	異文化接触論	呉、クリンガー、小栗、地藏堂、小熊	1・2	前期	選択	2
	ヨーロッパ地域文化論	外狩、リピー、山本、吉村、橋本	1・2	後期	選択	2
	地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	日本生活文化論	市川、森	1・2	前期	選択	2
	日本考古学A	定森、中井、花田	1	前期	選択	2
	日本考古学B	定森、中井、花田	1・2	前期	選択	2
	環琵琶湖地域論A	水野、東、武田	1・2	後期	選択	2
	環琵琶湖地域論B	水野、東、武田	1・2	後期	選択	2
	女性史・ジェンダー論A	京楽	1・2	後期	選択	2
	女性史・ジェンダー論B	京楽	1・2	後期	選択	2
	美術史特論A	亀井	1・2	後期	選択	2
	美術史特論B	亀井	1・2	後期	選択	2
	社会学特論A	武田	1・2	前期	選択	2
	社会学特論B	武田	1・2	前期	選択	2
	地域産業論A	塚本	1・2	前期	選択	2
	地域産業論B	塚本	1・2	前期	選択	2

②アジア・地域文化論部門履修モデル

本部門は、アジア地域に広がるそれぞれ独自の文化を比較し、日本文化との異同性・関連性について教育研究する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通 科目	Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリンガー、リピー、富島	1・2	後期	選択	2
	異文化接触論	呉、クリンガー、小栗、地藏堂、小熊	1・2	前期	選択	2
	ヨーロッパ地域文化論	外狩、リピー、山本、吉村、橋本	1・2	後期	選択	2
	地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	中国文化史特論	辻	1・2	前期	選択	2
	北東アジア地域史A	田中	1・2	前期	選択	2
	北東アジア地域史B	ブレンサイン、河	1・2	前期	選択	2
	朝鮮史特論A	河	1・2	前期	選択	2
	朝鮮史特論B	田中	1・2	前期	選択	2
	女性史・ジェンダー論A	京楽	1・2	後期	選択	2
	女性史・ジェンダー論B	京楽	1・2	後期	選択	2
	アジア考古学A	定森、濱崎	1・2	後期	選択	2
	アジア考古学B	定森、濱崎	1・2	後期	選択	2
	モンゴル・ディアスポラ論A	ブレンサイン、島村	1・2	後期	選択	2
	モンゴル・ディアスポラ論B	ブレンサイン、島村	1・2	後期	選択	2
	トランス・ヒマラヤ文化論	棚瀬	1・2	前期	選択	2
	現代中国特論A	横田	1・2	後期	選択	2
	現代中国特論B	横田	1・2	後期	選択	2

③考現学・保存修景論部門履修モデル

本部門は、地域社会の現状を観察・記録・点検し、その考現学的考察を通じて、地域の生活分野を特色づけている歴史的環境や地域の「文化財」を再評価し、生活空間の活性化をはかるために、その保存と活用の方法を探る教育研究を行う。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通 科目	Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリンガー、リピー、富島	1・2	後期	選択	2
	異文化接触論	呉、クリンガー、小栗、地藏堂、小熊	1・2	前期	選択	2
	ヨーロッパ地域文化論	外狩、リピー、山本、吉村、橋本	1・2	後期	選択	2
	地域文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	地域文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	環琵琶湖保存修景計画論A	濱崎、石川	1・2	後期	選択	2
	環琵琶湖保存修景計画論B	濱崎、石川	1・2	後期	選択	2
	地域文化遺産調査・情報論	濱崎、石川	1・2	前期	選択	2

Ⅱ 生活文化学専攻

①生活デザイン部門履修モデル

本部門は、住環境をはじめとして生活環境のなかでのデザインを扱い、健全なライフスタイルと生活環境をデザインすることを目的とし、実践的な教育研究を展開する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通 科目	Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリンガー、リピー、富島	1・2	後期	選択	2
	現代生活論Ⅱ	大橋、竹下、細馬、松嶋	1・2	後期	選択	2
	生活文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	生活文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	住環境デザイン特論B	藤木	1・2	前期	選択	2
	住環境デザイン特論A	宮本	1・2	前期	選択	2
	道具デザイン特論A	面矢	1・2	前期	選択	2
	道具デザイン特論B	印南	1・2	後期	選択	2
	服飾デザイン特論A	森下	1・2	前期	選択	2
	服飾デザイン特論B	横田(尚)	1・2	後期	選択	2
	住環境デザイン特論C	佐々木	1・2	後期	選択	2
	道具デザイン特論C	南(政)	1・2	後期	選択	2
	マーケティング特論	山田	1・2	前期	選択	2
	生活デザインプロジェクト演習	専攻教員	1	後期	選択	2

②健康栄養部門履修モデル

本部門は、食に関する基礎から応用までの生活科学に運動生理領域をも加え、幅広い諸問題に取り組み、健康生活の実現を目的とした教育研究を行う。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通 科目	Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリンガー、リピー、富島	1・2	後期	選択	2
	現代生活論Ⅱ	大橋、竹下、細馬、松嶋	1・2	後期	選択	2
	生活文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	生活文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	栄養制御論	柴田(克)	1・2	後期	選択	2
	健康運動学特論	中井(直)	1・2	後期	選択	2
	栄養疫学特論	村上(健)	1・2	前期	選択	2
	栄養応答論	福渡	1・2	後期	選択	2
	病態栄養学特論	矢野	1・2	前期	選択	2
	臨床栄養管理特論	奥村	1・2	前期	選択	2
	栄養教育特論	廣瀬	1・2	前期	選択	2
	食品機能論	未定	1・2	後期	選択	2
	学校栄養教育実践特論	大谷	1・2	前期	選択	2
	調理科学特論	小川	1・2	前期	選択	2
	食品栄養特論	小西、伏木、木戸	1・2	前期	選択	2

③人間関係部門履修モデル

本部門は、望ましい生活環境を創造することができる、新たな人間関係を創出することを目的に、人間の発達・形成、「社会化」のメカニズム、および現代社会における人間関係の特性を、心理学・社会学・教育学等の立場から教育研究する。

科目種類	科目名	担当者	配当年次	期間	区分	単位数
専攻共通 科目	Japanese Culture and Civilization	石田、面矢、クリンガー、リピー、富島	1・2	後期	選択	2
	現代生活論Ⅱ	大橋、竹下、細馬、松嶋	1・2	後期	選択	2
	生活文化学特別演習	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
	生活文化学特別研究	専攻教員全員	1～2	通年	必修	8
部門科目	学校教育論特講	木村	1・2	後期	選択	2
	教育制度論特講	杉浦(由)	1・2	後期	選択	2
	比較行動論特講	細馬、上野	1・2	前期	選択	2
	行動発達論特講	竹下	1・2	後期	選択	2
	社会学特講A	丸山、中村	1・2	前期	選択	2
	社会学特講B	大橋	1・2	前期	選択	2
	フィールド心理学特講	松嶋	1・2	後期	選択	2

科目名	Japanese Culture and Civilization	2単位 後期
担当教員	石田 法雄※・富島 義幸※・Walter Klinger・面矢 慎介・John Rippey	
授業概要	This course presents an introduction to specific topics in Japanese culture and society as formed by religious beliefs and practices, especially Buddhism. Classroom lectures and discussions will focus on Buddhist concepts and ideals, both fundamental and those particular to Japan.	
到達目標	By the end of the course, students should be able to demonstrate an understanding of the following key items: •What are the primary concepts, beliefs and ideals of Buddhism, and what did particular Japanese Buddhist leaders contribute to the religion •Where can expressions of Buddhist thought be observed in Japanese lifestyles •Other aspects of Japanese culture and society as they reveal themselves and become relevant to the students' personal and academic lives.	
成績評価	Class participation 30%. Report 70%.	
テキスト 指定図書 参考書	Material will be handed out in class and available for download.	
履修資格		

科目名	アジア考古学A	2単位 後期
担当教員	定森 秀夫・濱崎 一志	
授業概要	シリアから朝鮮半島までの広大なアジア地域の考古学の成果を概述する。パキスタン・シリアの西アジア考古学、モンゴル・朝鮮の東アジア考古学(朝鮮三国時代および中国はアジア考古学Bで講義)の最新の成果から、アジア地域の歴史は一樣ではなく、多様な歴史的過程を経ていること、そしてそれぞれの地域間で様々な交流を通じた文化の融合などが生じてきたことを考察していきたい。アジア考古学の成果は日本考古学の研究にとっても重要な意味があり、アジアの東端である日本の古代史をアジア史・世界史の中で理解していくための思考材料も提供したい。	
到達目標	アジア地域の考古学の内容を理解する。	
成績評価	講義理解度(60%)、レポート等(40%)。	
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。	
履修資格		

科目名	アジア考古学B	2単位 後期
担当教員	定森 秀夫・濱崎 一志	
授業概要	朝鮮半島の三国時代および中国の考古学的成果を概述する。朝鮮三国時代と中国魏晋南北朝時代は時期的に平行し、その前の秦漢時代から、中国と朝鮮は密接な連関関係にある。高句麗・百済・新羅・加耶の考古学の成果を豊富な資料を駆使して、提示していく。また、朝鮮三国時代における各国の相互関係・対中国関係に関しても詳述する。中国考古学では、新石器時代から遼金時代までの考古学的成果を提示し、同時に中国文化の周辺への波及の問題にも触れる。日本古代史は当時の中国・朝鮮の動向抜きには語ることができない。	
到達目標	アジア地域の考古学の内容を理解する。	
成績評価	講義理解度(60%)、レポート等(40%)。	
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。	
履修資格		

科目名	異文化接触論	2単位	前期
担当教員	呉 凌非・Walter Klinger・小栗 裕子・地蔵堂 貞二・小熊 猛		
授業概要	異文化相互の接触、交流、比較を理解し論ずるに当たり、二つの立場が要求される。一つは両者が持つ主観的価値観への造形、一つは差異の認識に先立っての両者の共通項の理解および熟知であろう。言い換えれば、個別性(particularity)と普遍性(universality)の会得である。そのためには、客観的な立場をとりながら、且つ葛藤を伴いながらの、主体的に相手との一致を意味する共感(sympathy)と、相手の中には自分移し入れる感情移入(empathy)が時に要求される。これらの立場・理解をふまえ、異地域文化圏の接触の実体とその意味を、西洋・東洋の比較文化的観点から論究する。		
到達目標	多文化をさまざまな視点から見つめて、急速にグローバル化に向かう現代において重要な「自己を知り、他者への理解」を深めて行くことを追求する。		
成績評価	クラス・パティシペーション(20%)、レポート(80%)		
テキスト 指定図書 参考書	講義中に配布		
履修資格			

科目名	運動処方学特論	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	本講義では、より専門的にライフステージに応じた運動の処方について考察する。発育過程の児童、成人、高齢者などの個別性に対応するためには、年齢や性別に応じた人体の発育・発達・老化や生理学的特徴を理解する必要がある。本講義は、解剖学的、運動生理学およびヘルスプロモーション的（公衆栄養学）視点から運動処方について理解を深める。応用栄養学分野である発育、成長、加齢に伴う生理的变化や特徴について学び、さまざまな社会、環境における状況および発育発達段階の健康管理について提案していく。		
到達目標	ライフステージに応じた運動処方の理解、年齢や性別に応じた人体の発育・発達・老化や生理学的特徴を理解および健康管理		
成績評価	レポート・発表（80%）、毎時間の課題（20%）		
テキスト 指定図書 参考書	参考書・参考資料等：Resource manual for guidelines for exercise testing and prescription, American college of sports medicine		
履修資格			

科目名	栄養疫学特論	2単位	前期
担当教員	村上 健太郎		
授業概要	栄養疫学は、食習慣（各種栄養素・食品摂取量）や食行動が健康状態や疾病発症に与える影響を明らかにすることを目的としている。本講義では、（１）疫学研究のデザイン、（２）疫学研究における測定誤差、（３）疫学研究で使用する主な統計手法を理解したうえで、（４）栄養疫学研究の英語論文を読解できるようになることを目的とする。		
到達目標	（１）疫学研究のデザインを説明できる。 （２）疫学研究における測定誤差を説明できる。 （３）疫学研究で使用する主な統計手法を説明できる。 （４）栄養疫学研究の英語論文を読解できる。		
成績評価	レポートによって評価する。ただし、講義時間数の３分の１以上欠席した者は評価対象にしない。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜指示する 指定図書：適宜指示する 参考書：適宜指示する		
履修資格			

科目名	栄養応答論	2単位	前期
担当教員	福渡 努		
授業概要	栄養素が消化、吸収、代謝され、生理作用を発揮する際に、各刺激に対する情報が細胞内外に伝達され、分子・細胞・組織・生体レベルでそれぞれ調節・制御機構が働く。本講義では、分子レベル・細胞レベルで栄養素と生体が相互作用することによって情報伝達が始まり、その情報が制御・調節機構を介して臓器、さらには生体全体におよぼす影響について、文献を読み、ディスカッションを行うことによって理解する。また、栄養疫学の文献を扱うことにより、科学的根拠に基づいてどのように疫学データを取扱うべきであるのかについて理解する。		
到達目標	栄養素と生体との間の相互作用およびそれに起因する生命現象について説明できる。		
成績評価	到達目標で示した事項について、発表（50%）、レポート評価（50%）で評価する。 100点満点で採点し、60点以上を合格とする。 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布		
履修資格			

科目名	栄養機能科学特論	2単位	前期
担当教員	吉田 宗弘※・渡辺 達夫※・吉村 徹※		
授業概要	生物界に存在する栄養素と非栄養成分の生体調節機構を最新情報を交えて解説する。		
到達目標	生物界には栄養素だけでなく、有用な非栄養成分もあることを理解する。		
成績評価	到達目標について、講義毎のレポート(67%)、小テスト(33%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 参考書・参考資料等：毎回参考となるプリントを配布する		
履修資格			

科目名	栄養教育特論	2単位	前期
担当教員	廣瀬 潤子		
授業概要	健康の維持増進、疾病の発症には、栄養、運動、休養のバランスならびに、遺伝要因・環境要因・加齢が関連しながら深くかかわっている。ヒトの一生における小児期、青年期、壮年期、高齢期等それぞれのライフステージに応じた健康管理の把握とすでに学習した知識の統合能力を基盤に栄養教育のあるべき姿を修得する。何故子どもたちにヘルスプロモーションが必要であるかを、各ライフステージにおける生活習慣病モデルシュミレーションの講義を行い、各人のテーマを決定し、演習と講義で授業を展開する。		
到達目標	健康的な食行動の形成と生活習慣化を図る行動科学理論に基づく栄養教育を演習し、ヘルスプロモーションに寄与する栄養教育の実践力を身につけることを到達目標とする。 (1) 各ライフステージの栄養教育上の問題点を説明できる。 (2) 各ライフステージの栄養教育上の問題点について、解決策を提案できる。 (3) 諸外国での栄養教育の実際の状況を説明できる。 (4) 行動科学理論に基づいた栄養教育のプランニングができる。		
成績評価	レポート(100%)上記到達目標について、(1) 30%、(2) 20%、(3) 30%、(4) 20%		
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布、適宜参考図書等紹介		
履修資格			

科目名	栄養制御論	2単位 後期
担当教員	柴田 克己	
授業概要	今日の栄養学には予防医学というべき面が強い。成人病の予防を含めた健康の維持は、食生活を含めた生活環境によって制御される一面をもっている。そのために、成人病は生活習慣病と呼ぶべきであるとの提唱がされている。栄養素の摂取条件によって、生体内の代謝その他の状態が変動している様相について解説し、健康維持が栄養素の摂取の仕方によってどのように制御しうるかについて論ずる。	
到達目標	栄養素機能の感覚的把握	
成績評価	期末試験 80%、レポート 20%	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：栄養機能化学（朝倉書店）	
履修資格		

科目名	学校栄養教育実践特論	2単位 前期
担当教員	大谷 貴美子※	
授業概要	学童期に見られる食生活が関与している課題とその背景について理解を深めるとともに、それらの課題解決のために教育現場でできる支援のあり方について実例を紹介しながら一緒に考える。そして、自ら課題解決のための授業計画を立て、実践できるように授業を行う。	
到達目標	課題解決のための創造性のある授業計画、指導案が作成できるようになる	
成績評価	授業への参加意欲（30%）、提供した課題への取り組み姿勢(50%)、レポート(20%)	
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】 大谷 貴美子、富田圭子著、知っておきたい食の世界－あけてみよう！食育の玉手箱－ KUMI（2007）	
履修資格		

科目名	学校教育論特講	2単位 後期
担当教員	木村 裕	
授業概要	グローバル化の進行する現代社会において学校内外の教育が直面する課題の様相とそれを克服するための取り組みに注目し、今後のカリキュラム開発や授業づくりのあり方について検討する機会を提供することをめざす。	
到達目標	グローバル化の進行する現代社会において学校内外の教育が直面する課題の様相とそれを克服するための取り組みの実態について知るとともに、今後のカリキュラム開発や授業づくりのあり方について、自分なりの考えを提起できるようになること。	
成績評価	講義中に提出するワークシートなど（60%）とまとめのレポート（40%）をもとに、総合的に判断する。	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：木村裕『オーストラリアのグローバル教育の理論と実践－開発教育研究の継承と新たな展開』東信堂、2014年	
履修資格		

科目名	環琵琶湖地域論 A	2 単位	後期
担当教員	水野 章二 ・ 武田 俊輔 ・ 東 幸代		
授業概要	琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。		
到達目標	(1) 環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から課題を設定できる。 (2) 設定した問題の意味・有効性・可能性などを的確に説明できる。 (3) 他の人の報告に対して、積極的に議論し、認識を深めることができる。		
成績評価	授業における報告および討論 (1) 環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から課題を設定できる。 40% (2) 設定した問題の意味・有効性・可能性などを的確に説明できる。 30% (3) 他の人の報告に対して、積極的に議論し、認識を深めることができる。 30%		
テキスト 指定図書 参考書	特になし		
履修資格			

科目名	環琵琶湖地域論 B	2 単位	後期
担当教員	水野 章二 ・ 武田 俊輔 ・ 東 幸代		
授業概要	琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。		
到達目標	(1) 環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から課題を設定できる。 (2) 設定した問題の意味・有効性・可能性などを的確に説明できる。 (3) 他の人の報告に対して、積極的に議論し、認識を深めることができる。		
成績評価	授業における報告および討論 (1) 環琵琶湖地域における諸問題について、自分自身の観点から課題を設定できる。 40% (2) 設定した問題の意味・有効性・可能性などを的確に説明できる。 30% (3) 他の人の報告に対して、積極的に議論し、認識を深めることができる。 30%		
テキスト 指定図書 参考書	特になし		
履修資格			

科目名	環琵琶湖保存修景計画論 A	2 単位	後期
担当教員	濱崎 一志 ・ 石川 慎治		
授業概要	生活環境が急激に変化しつつある現在、環琵琶湖地域で先人たちがつちかってきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は滋賀県内の町なみ、集落、文化的景観を中心におこなう。		
到達目標	(1) 近江における町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる。 (2) 町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べることができる。 (3) 町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べることができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)近江における町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる(2)町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べることができる(3)町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べることは課題レポート(100%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。		
履修資格			

科目名	環琵琶湖保存修景計画論B	2単位	後期
担当教員	濱崎 一志 ・ 石川 慎治		
授業概要	生活環境が急激に変化しつつある現在、滋賀県周辺で先人たちがつちかってきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は街道、町なみ、集落、文化的景観を中心に、三重県、岐阜県、福井県のなかでも滋賀県に隣接する地域を視野に入れて講義を進める。		
到達目標	(1)町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる。 (2)町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べることができる。 (3)町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べることができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)町なみや文化的景観の現状について理解し、説明できる(2)町なみや文化的景観の保存のあり方について、自らの考えを述べることができる(3)町なみや文化的景観の活用や地域の活性化について、自らの考えを述べることができるについては課題レポート(100%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。		
履修資格			

科目名	教育制度論特講	2単位	後期
担当教員	杉浦 由香里		
授業概要	教育制度をめぐる今日の課題を視野に入れながら、近代日本において教育制度が成立する歴史的過程を分析・考察する。		
到達目標	(1) 教育制度をめぐる歴史的動向や現代的課題について理解する。 (2) 教育制度に関する理論的・実践的諸課題を分析・考察し、論じる力を身につける。 (3) 最新の研究成果および動向を文献・論文の検討、討論を通して把握する。		
成績評価	課題報告および討論への参加（50％）、レポート（50％）をもとに総合的に評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指示する。		
履修資格			

科目名	健康運動学特論	2単位	後期
担当教員	中井 直也		
授業概要	健康生活の確立に必要な「栄養」、「運動」、「休養」の「運動」を中心に一過性の運動によっておこる一時的変化や習慣的な運動によっておこる適応現象のメカニズムを明らかにするとともに、運動の必要性や運動と健康の関係について学ぶ。特に健康の維持・増進に役立つ運動生理学知見に焦点を絞り、運動と栄養摂取、運動とエネルギーの発生および変換、運動と環境適応、運動不足と生活習慣病、運動処方等の内容で生涯にわたる健康生活実現のための運動と健康について考察する。		
到達目標	運動と栄養摂取、運動とエネルギーの発生および変換、運動と環境適応、運動不足と生活習慣病、運動処方等の内容で生涯にわたる健康生活実現のための運動と健康について理解する。		
成績評価	レポート・発表(80%)、毎時間の課題（20%）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布参考書：Exercise Physiology -Energy, Nutrition, and Human Performance- (Williams & Wilkins)		
履修資格			

科目名	現代生活論Ⅱ	2単位	後期
担当教員	大橋 松行・竹下 秀子・細馬 宏通・松嶋 秀明		
授業概要	現代生活における人間関係での諸問題をトピックス方式により、それぞれの専門領域から批判的に検討する。		
到達目標	現代生活における人間関係に関わる諸問題について心理学、社会学の専門領域からアプローチして、人間関係論の発展的な課題と方法について理解を深め、自分の考えを的確に述べることができる。		
成績評価	到達目標に示す「現代社会における人間関係に関わる諸問題について心理学、社会学の専門領域からアプローチして、人間関係論の発展的な課題と方法について理解を深め、自分の考えを的確に述べることができる」について、発表・報告（40%）、課題レポート（60%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特に定めない。必要に応じて資料、文献、論文を配布する。		
履修資格			

科目名	現代中国特論A	2単位	後期
担当教員	横田 祥子		
授業概要	現代中国に生きる人々の生活は、急激な経済発展と中国独自の政治体制や制度により、常に変化を余儀なくされ、様々な社会問題が生みだされている。本授業では、こうした問題に対する分析視角を紹介するとともに、社会問題の理解を深める。		
到達目標	現代中国社会に生じている様々な社会問題について理解を深め、データの収集方法を学ぶ。		
成績評価	成績評価は、授業参加度（40%）、課題レポート（60%）に基づく。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書等は適宜、紹介する。		
履修資格			

科目名	現代中国特論B	2単位	後期
担当教員	横田 祥子		
授業概要	中国は膨大な規模の移民を、鉱山開発、商業活動のために、東南アジアや北米大陸へ送りだしてきた。海外に渡った華僑・華人は、20世紀アジアの政治変動の中で、中国と移住先国の間で翻弄され、近年中国が国際社会でプレゼンスを高めるに伴い、再び中国との新たな結びつきを強めている。本授業では、東南アジアおよび北米の華人社会といった「外側の中国」から、中国を逆照射することによって、国境線内部にとどまらない相互の影響力と結びつきについて検討する。		
到達目標	海外華僑・華人と中国との関係、相互影響力について理解を深める。		
成績評価	成績評価は、授業参加度（40%）、課題レポート（60%）に基づく。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書等は適宜、紹介する。		
履修資格			

科目名	行動学特論	2単位	前期
担当教員	上野 有理 ・ 細馬 宏通		
授業概要	行動学では、行動の至近要因(行動の起こるプロセス)と究極要因(行動の進化の基盤)の双方を研究することが基本となる。この講義では食事場面をはじめとするさまざまな日常場面为例にあげ、至近要因アプローチの一例として参加者の認知とコミュニケーションに注目した研究方法を紹介する。また究極要因アプローチとして人間の進化理論について学ぶ。		
到達目標	(1) 人間のさまざまな行動を、認知とコミュニケーションの点から理解する。 (2) 進化理論を基に人間行動を読み解く視点を身につける。		
成績評価	(1)、(2) いずれも講義時に出される課題 (40% : (1) 20%、(2) 20%) とレポート(60% : (1) 30%、(2) 30%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	講義内で指定する。		
履修資格			

科目名	行動発達論特講	2単位	後期
担当教員	竹下 秀子		
授業概要	人間関係論の立場から、人間行動の発達にかかわる問題点を解明し、講義する。		
到達目標	生涯続く人間としての発達をとらえる視点と方法について、発達心理学および関連領域の成果から学び、人生の各ステージにおける教育的人間関係と支援のあり方について分析・考察し、論じる力を向上させる。		
成績評価	到達目標に示す「生涯続く人間としての発達をとらえる視点と方法について、発達心理学および関連領域の成果から学び、人生の各ステージにおける教育的人間関係と支援のあり方について分析・考察し、論じる力を向上させる」について、発表・報告・討論 (50%) およびレポート (50%) によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特定のものは使用しない。必要に応じて、論文、資料などを配布する。		
履修資格			

科目名	児童健康問題特論	2単位	後期
担当教員	奥村 万寿美		
授業概要	成長・発育期にあたる児童における急性疾患や慢性疾患は、患児の病態や病状等に応じた適切な栄養アセスメント、栄養診断により具体的な栄養ケアを立案し、日々実践することにより疾病の治癒・回復に役立つ栄養マネジメントとなる。患児の社会生活環境や療養環境などの現状を踏まえた栄養治療、実態調査、あるいは症例研究を介して、児童の健康の維持・増進あるいは健康回復の問題点について考える。		
到達目標	(1)児童の心身の健全な成長・発育を阻害する問題点を明らかにすることができる。 (2)患児の社会生活環境や療養環境などの現状を踏まえ、患児の発育段階や病態・病状等に応じた適切な栄養診断・栄養アセスメントにより具体的な栄養ケアを立案することができる。 (3)患児と保護者、学校関係者との関わりについて理解することができる。		
成績評価	課題レポートによる評価 100%。到達目標で示す (1) 20%、(2) 70%、(3) 10%		
テキスト 指定図書 参考書	学部で使用していたテキストや指定図書、参考書など。また、必要に応じて適宜プリントを配付する。		
履修資格			

科目名	社会学特論 A	2 単位	前期
担当教員	武田 俊輔		
授業概要	社会学という学問の概観を把握するべく、社会学の理論、および社会学の各分野に関する講読と講義を踏まえつつ、ディスカッションを通じてその理解を深める。		
到達目標	(1)社会理論に関する知識に基づいた社会学的な思考の仕方を習得できる(50%)。 (2)講義内で取り上げた社会学の個別領域について、社会学的な視点から具体例を挙げて分析し、論述できる(50%)。		
成績評価	(1)社会理論に関する知識に基づいた社会学的な思考の仕方を習得できるについては、毎回の授業における発表・報告・ディスカッション (50%) で評価する。 (2)講義内で取り上げた社会学の個別領域について、社会学的な視点から具体例を挙げて分析し、論述できるについては最終レポート (50%) で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜、紹介する。		
履修資格			

科目名	社会学特論 B	2 単位	前期
担当教員	武田 俊輔		
授業概要	社会学という学問の概観を把握するべく、社会学の理論、および社会学の各分野に関する講読と講義を踏まえつつ、ディスカッションを通じてその理解を深める。		
到達目標	(1)社会理論に関する知識に基づいた社会学的な思考の仕方を習得できる(50%)。 (2)講義内で取り上げた社会学の個別領域について、社会学的な視点から具体例を挙げて分析し、論述できるようになること(50%)。		
成績評価	(1)社会理論に関する知識に基づいた社会学的な思考の仕方を習得できるについては発表・報告・ディスカッションへの参加 (50%)、 (2)講義内で取り上げた社会学の個別領域について、社会学的な視点から具体例を挙げて分析し、論述できるようになることについては最終レポート(50%)で評価する。100 点満点で採点し、60 点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜、紹介する。		
履修資格			

科目名	社会学特講 A	2 単位	前期
担当教員	丸山 真央・大橋 松行・中村 好孝		
授業概要	社会学の各分野の基本文献の講読や講義を通じて、社会学という学問の概観を把握するとともに、その理解を深めることを目標とする。具体的には、社会運動、メディア、福祉などの分野の研究を中心にとりあげ、社会の構造と変動を理論的・実証的に理解する視点と方法を学ぶ。		
到達目標	現代社会の諸事象について、社会学の視点と方法を用いて理解することができる。		
成績評価	発表・報告 50%、レポート 50%。		
テキスト 指定図書 参考書	テキストは使用しない。参考書等はその都度紹介する。		
履修資格			

科目名	社会学特講B	2単位	前期
担当教員	大橋 松行 ・ 中村 好孝 ・ 丸山 真央		
授業概要	社会学の各分野の基本文献の講読や講義を通じて、社会学という学問の概観を把握するとともに、その理解を深めることを目標とする。具体的には、地域、文化、社会問題などの分野の研究を中心にとりあげ、社会の構造と変動を理論的・実証的に理解する視点と方法を学ぶ。		
到達目標	(1) 現代社会の諸事象について、社会学の視点と方法を用いて理解し、自分の考えを的確に述べることができる。		
成績評価	到達目標で示す(1) 現代社会…について、発表・報告(50%)、課題レポート(50%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	テキストは使用しない。 参考書等はその都度紹介する。		
履修資格			

科目名	住環境デザイン特論 A	2単位	前期
担当教員	宮本 雅子		
授業概要	心理的・生理的に快適な室内空間を計画するためには、人間とインテリア・エレメントとの相互関係を捉える必要がある。そのための実験・調査手法を論じるとともに、それらについての研究資料を通じて室内環境計画上の問題点について考察する。また、超高齢社会となった現在、快適な室内環境を計画していくためにはユニバーサルデザインの視点を取り入れていく必要がある。その意義について論じるとともに住居計画での事例を分析する。		
到達目標	(1)室内環境計画の調査手法について理解する。 (2)室内環境にかかわる問題について、その解決策を調査・検討できる。		
成績評価	最終レポート(40%)、課題発表(60%)		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：日本建築学会編「環境心理調査手法入門」技報堂出版、日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成バリアフリー」丸善、他		
履修資格			

科目名	住環境デザイン特論 B	2単位	前期
担当教員	藤木 庸介		
授業概要	都市や地域における生活空間の構成手法について、歴史、文化、社会、経済、技術といった視点から考える。特に、世界の各地域における、地域に固有な生活空間（居住空間、集落空間、都市空間）の形態とその構成原理について、既往研究成果の理解を通して比較考察するとともに、伝統的な生活空間の持つ意味をどのように現代の生活空間計画に継承・反映しうるのか、そのあり方について考える。授業は受講者による発表とその後の議論という形式をとる。		
到達目標	(1) 様々な地域の固有な生活空間（居住空間、集落空間、都市空間）の形態とその構成原理について理解する。 (2) 具体的な地域の生活空間を事例を挙げて自らリサーチし、分析、考察の上、その構成原理を説明することができる。		
成績評価	授業発表（3～4回）(50%)、レポート(50%)		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：藤木庸介（編著）『生きている文化遺産と観光』学芸出版社		
履修資格			

科目名	住環境デザイン特論 C	2 単位	後期
担当教員	佐々木 一泰		
授業概要	年度ごとにテーマを設定し、様々な場所から、空間をデザインしているエレメントを抽出し、地域性や機能性、属性、関係性など、より実践的、専門的な視点から調査・分析する。また、それぞれのエレメントの問題点や、引用、転用の可能性を探り、実践的な空間デザインへの応用を考える。		
到達目標	空間デザインの比較・考察が出来。それを各々具体的な手段によって表現する。		
成績評価	発表内容・レポート(50%), 成果物(50%)		
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	小児医学特論	2 単位	前期
担当教員	多賀 崇※ ・ 高野 知行※ ・ 松井 克之※ ・ 澤井 俊宏※		
授業概要	「子どもは大人のミニチュアではない」。これは小児の疾病を理解するためのキーワードである。小児は生理的な特性が成人とは異なるため、疾病罹患時の病態も成人とは異なる。さらに小児期に特徴的な疾病も存在する。栄養に関連した疾病でも同様であるが、小児期は成長発達の時期でもあるため、これも踏まえて疾病を理解しなければならない。本講義ではこれらの点についての理解が進むよう最新の知見も交えて解説する。		
到達目標	栄養に関連した小児疾患について理解する。		
成績評価	到達目標について講義毎のレポート（100％）で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 参考書：毎回参考となるプリントを配付する		
履修資格			

科目名	食品栄養特論	2 単位	前期
担当教員	小西 洋太郎※ ・ 伏木 亨※ ・ 木戸 康博※		
授業概要	食品学、栄養学に関する最近の話題、最新の知見を取り上げ、解説する。		
到達目標	食品の加工と生理機能、栄養学的側面から見た味覚と嗜好、タンパク質とアミノ酸の必要量についての最新知見を理解することができる。		
成績評価	到達目標はレポート(50%)、発表(30%)、小テスト(20%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	小西：テキストを配布 伏木・木戸：なし 伏木：参考書として、伏木亨著「味覚と嗜好のサイエンス」（丸善）を推薦 木戸：参考書として下記の 2 冊 1 WHO/FAO/UNU. Protein and amino acid requirements in human nutrition. WHO Technical Report Series 935, WHO, Geneva. 2007. 2 岸恭一, 木戸康博 編集. タンパク質・アミノ酸の新栄養学. 講談社. 2005.		
履修資格			

科目名	食品機能論	2単位	後期
担当教員	今井 絵里		
授業概要	食品には、生命を維持する栄養機能（一次機能）、おいしさなどの感覚機能（二次機能）の他に、生体調節機能ともいえるべき三次機能がある。具体的には、生体防御、疾病の予防・回復・体調の調節、老化制御などがある。食品機能論では、これまでに明らかにされた各種食品の生理機能性物質とその作用機構、また評価方法について講述するとともに、適宜新しい機能性研究についても紹介する。さらに、各自が食素材／機能性を選択し、その研究をどのように展開していくかをまとめ発表し、議論する。		
到達目標	（１）食品の有する第３次機能としての生理機能性物質とその作用機構、さらに機能性の評価方法について理解することができる。 （２）食品成分あるいは食素材を選定し、生理機能探求に向けたテーマを設定することができる。さらに、その内容をまとめ、他者に発表・討議することを通して、研究展開への妥当性を見いだす能力を身につけることができる。		
成績評価	到達目標の（１）食品の有する第３次機能としての生理機能性物質とその作用機構、さらに機能性の評価方法について理解することができる、についてはレポート（50%）で評価する。 （２）食品成分あるいは食素材を選定し、生理機能探求に向けたテーマを設定することができる。さらに、その内容をまとめ、他者に発表・討議することを通して、研究展開への妥当性を見いだす能力を身につけることができる、についてはプレゼンテーション（50%）で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 適宜、参考書、論文等を紹介する。		
履修資格			

科目名	食文化特論	2単位	前期
担当教員	堀越 昌子※		
授業概要	琵琶湖を持つ滋賀県の食文化の特徴を世界の食文化と比較しながら学び、その成立背景を探っていく。滋賀の食文化は琵琶湖の湖魚類を発酵させたナレズシ文化があり、栄養バランスの優れた湖周型食生活を形成している。この特色ある食文化を学び継承していく。		
到達目標	・環境、風土に根づいた暮らしとそこで形成されてきた食文化の大事さを理解する。 ・地域の食文化を分析し、持続可能性な生活のあり方を創造していける力を養成する。		
成績評価	理解度と考察力を基準に評価する。 毎回の出席とプレゼンテーション 50%、課題レポート 50%で評価。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：使用せず、毎回プリントで授業を進める。参考書：滋賀の食事文化研究会編「ふなずしの謎」「滋賀の食材」サンライズ出版など。		
履修資格			

科目名	女性史・ジェンダー論A	2単位	後期
担当教員	京楽 真帆子		
授業概要	日本における女性史とジェンダー論を中心としつつ、女性学など他分野との比較研究も行う。例えば、前近代日本は、中国の儒教の影響を受けた。女性観においても同様である。男性に主導された文化によって形作られたイメージ、建前の中に埋没してしまっている女性の現実の姿、ジェンダーの各時代でのあり方、建前的な家父長倫理が現実浸透していく過程等を洞察する。このような過去・現在・未来をとおしての歴史的考察の中で、現在の女性・男性のあり方を相対化し、未来への展望としたい。Aは日本史を中心とする。		
到達目標	（１）歴史学におけるジェンダー分析を自分で行う能力を身につけることができるようになる。 （２）駆け出し研究者にふさわしい文章作成能力を身につけることができるようになる。		
成績評価	講義中の発表（30%） 期末レポート（70%）		
テキスト 指定図書 参考書	テキストは特に指定しない。参考書は適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	女性史・ジェンダー論B	2単位	後期
担当教員	京楽 真帆子		
授業概要	滋賀県の近現代史をジェンダーの視点から理解する。特に、戦時中の地域婦人会の活動について、史料や文献に基づいて議論を行う。		
到達目標	(1) 滋賀県内の地域婦人会史料に関する基礎知識を身につける。 (2) 滋賀県の文化について、ジェンダー分析を行うことが出来る。		
成績評価	課題報告および討論への参加 (100%)		
テキスト 指定図書 参考書	第1回目の授業で、史料のコピーを配布する。さらに、関連文献リストを示す。		
履修資格			

科目名	生活デザインプロジェクト演習	2単位	後期
担当教員	専攻教員		
授業概要	地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。その問題に対して取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、具体的な提案や発表、制作等を行う。		
到達目標	地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす。		
成績評価	レポート・制作物等の提出、発表などにもとづき、学科教員全員の協議により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：授業時間内に適宜紹介		
履修資格			

科目名	生活文化学特別演習（健康栄養分野）（1回生）	8単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。		
成績評価	指導教員が、研究課題の進捗状況報告、レポート、口頭発表などにより評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：指導教員が適宜紹介する		
履修資格			

科目名	生活文化学特別演習（健康栄養分野）（2 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。		
成績評価	指導教員が、研究課題の進捗状況報告、レポート、口頭発表などにより評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書：指導教員が適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別演習（生活デザイン分野）（1 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。		
成績評価	途中の進捗状況、レポート・口頭発表・制作物等によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業時間内に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別演習（生活デザイン分野）（2 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。		
成績評価	途中の進捗状況、レポート・口頭発表・制作物等によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業時間内に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別演習（人間関係分野）（1 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行に必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行に必要な専門知識や技術、関連知識を身につける。		
成績評価	発表や各教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別演習（人間関係分野）（2 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献講読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行に必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行に必要な専門知識や技術、関連知識を身につける。		
成績評価	発表や各教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別研究（健康栄養分野）（1 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。		
到達目標	各自の研究テーマに応じ、研究の遂行に関わる基本的事柄について修得し、最終的に論文を作成する。		
成績評価	提出された論文が、修士論文の水準にあるかどうかについて評価し、合否判定を行う。詳細は「修士論文審査基準に関する内規」による。		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書：指導教員が適宜紹介する		
履修資格			

科目名	生活文化学特別研究（健康栄養分野）（2 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。		
到達目標	各自の研究テーマに応じ、研究の遂行に関わる基本的事柄について修得し、最終的に論文を作成する。		
成績評価	提出された論文が、修士論文の水準にあるかどうかについて評価し、可否判定を行う。詳細は「修士論文審査基準に関する内規」による。		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書：指導教員が適宜紹介する		
履修資格			

科目名	生活文化学特別研究（生活デザイン分野）（1 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。		
到達目標	研究遂行上の必要な専門知識、技術を身につける。		
成績評価	途中の進捗状況、レポート・口頭発表・制作物等によって評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業時間内に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別研究（生活デザイン分野）（2 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、調査、実験、実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文・作品の作成など研究の遂行に関わる基本的事項について指導する。		
到達目標	修士論文・修士制作の完成		
成績評価	提出された論文・作品が、修士研究の水準にあるかどうかを判断し可否判定を行う。研究の成果として制作物を提出することもできる。詳細は修士研究審査基準に関する内規による。		
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書：授業時間内に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別研究（人間関係分野）（1 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の修得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。		
到達目標	各自のテーマに応じ、研究を実施し論文を作成する。		
成績評価	修士論文中間発表と修士論文の内容、および公聴会での状況を総合して評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。		
履修資格			

科目名	生活文化学特別研究（人間関係分野）（2 回生）	8 単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の修得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。		
到達目標	各自のテーマに応じ、研究を実施し論文を作成する。		
成績評価	修士論文中間発表と修士論文の内容、および公聴会での状況を総合して評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。		
履修資格			

科目名	地域産業論 A	2 単位	前期
担当教員	塚本 礼仁		
授業概要	今日、地域の振興方策に関する議論は活発であるが、その中でも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、農林水産業における「売れる」特産品づくりや地元中小企業群による製造業（＝地場産業）の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。なお、隔年開講の地域産業論 B では、第三次産業（商業・サービス業）を扱う。		
到達目標	(1)経済地理学の発展的理論を理解し、農林水産業の動態を説明することができる。 (2)経済地理学の発展的理論を理解し、地場産業の動態を説明することができる。		
成績評価	文献発表 40%：到達目標(1)20%、(2)20% 期末レポート 60%：到達目標(1)30%、(2)30%		
テキスト 指定図書 参考書	特定のものは使用しない。各回、テーマに沿った文献等を配付する。		
履修資格			

科目名	地域産業論B	2単位	前期
担当教員	塚本 礼仁		
授業概要	今日、地域の振興方策に関する議論は活発であるが、その中でも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、都心周辺のインナーシティにおける小売商業や全国各地で多様な形をもって展開する観光事業の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。なお、隔年開講の地域産業論Aでは、第一次産業（農林水産業）と第二次産業（製造業）を扱う。		
到達目標	(1)経済地理学の発展的理論を理解し、都市商業の動態を説明することができる。 (2)経済地理学の発展的理論を理解し、観光地の動態を説明することができる。		
成績評価	文献発表 40%：到達目標(1)20%、(2)20% 期末レポート 60%：到達目標(1)30%、(2)30%		
テキスト 指定図書 参考書	特定のものは使用しない。各回、テーマに沿った文献等を配付する。		
履修資格			

科目名	地域食育実践学特論	2単位	後期
担当教員	小澤 恵子		
授業概要	国民の疾病予防、生涯にわたる健康の保持・増進を目的とした、地域での食育の実践の方法を「人間の健康と食をめぐる問題を地域ぐるみで解決する視点」から論ずる。 食育を通じた地域交流、食の安全・安心の確保、食文化の継承、地産地消の推進など、地域社会に根ざした多種多様な食育推進活動の展開について、事例を紹介しながら講義する。		
到達目標	(1)地域における食育推進の必要性が理解できる。 (2)地域における食育活動の実態が理解できる。		
成績評価	初回講義時に担当教員が説明する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜指示する 指定図書：適宜指示する 参考書：適宜指示する		
履修資格			

科目名	地域文化遺産調査・情報論	2単位	前期
担当教員	濱崎 一志・石川 慎治		
授業概要	歴史的環境を構成する町なみや集落、遺跡や遺構などの地域文化財の調査と情報化について述べる。デジタルデータの作成、編集、発信について具体的に解説する。		
到達目標	(1)遺跡や建造物などを対象とする文化財のデジタル測量の基礎を理解し、実践できる。 (2)デジタル測量により、えられた3次元モデルをCGを用いて表現できる。		
成績評価	到達目標で示す (1)遺跡や建造物などを対象とする文化財のデジタル測量の基礎を理解し、実践できる (2)デジタル測量により、えられた3次元モデルをCGを用いて表現できるについては毎回課する課題(100%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。		
履修資格			

科目名	地域文化学特別演習（1 回生）	8 単位 通年
担当教員	専攻教員	
授業概要	地域の文化にこめられた歴史的伝統や現代的意義を理解し、これらに関する研究を深めていくため、各自が専攻する分野に応じて、文献講読やセミナー形式での報告・討論・評価を行う。	
到達目標	(1)修士論文の作成において欠かせない専門的な知識や技術を習得できる。	
成績評価	(1)修士論文の作成において欠かせない専門的な知識や技術を習得できるについては、報告の内容で評価を行う(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	地域文化学特別演習（2 回生）	8 単位 通年
担当教員	専攻教員	
授業概要	地域文化にこめられた歴史的伝統を明らかにし、地域文化の現代的意義を認識し、その研究を深めるために、各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。	
到達目標	(1)修士論文の作成において欠かせない専門的な知識と技術を習得する。	
成績評価	(1)修士論文の作成において欠かせない専門的な知識と技術を習得するについては、報告の内容により評価する(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	地域文化学特別研究（1 回生）	8 単位 通年
担当教員	専攻教員	
授業概要	各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項（研究計画の立案、フィールドワークの技術、作業仮説の設定、データの収集・解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など）を指導する。	
到達目標	(1)地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につける。	
成績評価	(1)地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけるについては、報告の内容に基づいて評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	地域文化学特別研究（2 回生）	8 単位 通年
担当教員	専攻教員	
授業概要	各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項（研究計画の立案、フィールドワークの技術、作業仮説の設定、データの収集・解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など）を指導する。	
到達目標	(1)地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけることができる。	
成績評価	(1)地域研究の手法を身に付け、学術的にレベルの高い修士論文をまとめるための能力を身につけることができるについては、報告の内容で評価する(100%)。100 点満点で 60 点以上を合格とする。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	中国文化史特論	2 単位 前期
担当教員	辻 正博※	
授業概要	中国文化史という広大な領域のうち、今年度は、「変動する「華」と「夷」—「中華」とは何か」を主題として、次の 3 つの話題を取り上げます。 ①「華」と「夷」—中華思想の源流 ②都城とは何か—帝都のもつ意味 ③王化と化外—中華帝国の「外交」	
到達目標	中国文化史の重要な柱の一つである思想史について、華夷思想を中心に理解を深めることを目標とする。ステレオタイプの理解を乗り越えて、本質を把握することに努めてほしい。	
成績評価	評価方法……レポート試験による。 ※授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者は評価対象としない。 割 合 ……レポート試験 100%	
テキスト 指定図書 参考書	教科書はありません。参考文献は講義時に指示します。事前に読んでおく講義内容を理解するのに役立つ図書を 2 冊、挙げておきます。 妹尾達彦『長安の都市計画』（講談社選書メチエ、2001 年） 夫馬進編『中国東アジア外交交流史の研究』（京都大学学術出版会、2007 年）	
履修資格		

科目名	朝鮮史特論 A	2 単位 前期
担当教員	河 かおる	
授業概要	朝鮮近現代史についての理解を深め、同時に、朝鮮近現代史と不可分に結びつき否応なく交差している日本（史）への理解も深める。 ※隔年開講	
到達目標	受講生にとって朝鮮近現代史が専門である場合はもちろん、専門外である場合でも、朝鮮近現代史に関する学術的な論文を読み解き、他者の研究を的確に論評する力を身につける。	
成績評価	課題報告および討論への参加（100%）	
テキスト 指定図書 参考書	第 1 回目の授業で、関連文献リストを示し、受講生の意向を確認しながら、どの文献をテキストとして進めていくかを決める。	
履修資格		

科目名	朝鮮史特論B	2単位	前期
担当教員	田中 俊明		
授業概要	朝鮮古代史の諸問題を取りあげる。特に、朝鮮三国および加耶をめぐって、議論になっている問題を中心とする。ただし全てを取りあげるのではなく、受講生の専門と関連する地域・時代を選ぶ。受講生には、その主要論文を読み、その内容を批判的に紹介してもらい、また史料の読解も進める。		
到達目標	研究論文・漢文史料に対する読解能力の蓄積・養成		
成績評価	授業における報告および討論（100％）		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：論文をコピーして配布 参考書：適宜、指示する。		
履修資格			

科目名	調理科学特論	2単位	前期
担当教員	小川 正※		
授業概要	食物摂取行動の最終段階である「調理」について、食材の選択・購入、調理、食事などの過程を調理科学的視点から講義し、さらに各自のテーマについて調べ発表し全員で討論する。		
到達目標	食事は人間の基本的な行為であり、食材を調理することはどの時代にも重要でありより豊かな生活を送るための手段であることを理解する。		
成績評価	出席、レポート、プレゼンテーション等により総合的に判断する。		
テキスト 指定図書 参考書	調理と理論（同文書院）		
履修資格			

科目名	道具デザイン特論 A	2単位	前期
担当教員	面矢 慎介		
授業概要	道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深めるために、主として近代から現代にいたる生活用具および生活機器のデザイン変遷について、いくつかの事例を選び、その技術的、経済的、社会的、文化的背景からの分析・評価をおこなう。関連資料の探索・収集、資料批判、実物資料（最終製品）の実見のほか、ときにはメーカー関係者やデザイナーからの聞き取り、その道具の使用実態の調査などを含む。		
到達目標	道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深める。そのために探索した資料からの構造化について習熟する。 （１）自分でテーマを探索し決定できる。 （２）テーマに沿った資料探索ができる。 （３）資料にもとづいた中間報告ができる。 （４）各資料を関係づけその相互関係を構造化できる。 （５）資料調査にもとづいた考察を文章にまとめることができる。		
成績評価	授業中の発表（20％）と最終レポート（80％）により評価。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：Bijker, Hughes, and Pinch, The Social Construction of Technological Systems, The MIT Press, 1987 ほか、授業中に指示する。		
履修資格			

科目名	道具デザイン特論 B	2 単位	後期
担当教員	印南 比呂志		
授業概要	日本国内の様々な地域活動や地場産業、アジア、欧州における事例を参考にしながら進める。そして、その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至るまでの実際を学ぶ。講義を通じて、以上の趣旨を理解しかつ道具デザインのための資源発掘や、課題解決に関する方針・計画・ノウハウなどについて理解を図る。		
到達目標	・道具のデザイン開発者の基本姿勢やねらいの持ち方を、地域の課題と関連づけて理解できる。 ・個別の道具紹介事例における、資源発掘、課題発見及び課題解決のプロセスが理解できる。 ・自身の生活環境における道具デザイン上の課題について、学究的な視点により考察していく能力をつける。		
成績評価	最終レポート課題による評価 20%、中間発表の評価 80%		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：「複製技術の時代の芸術」 ヴァルター・ベンヤミン著・晶文社刊		
履修資格			

科目名	道具デザイン特論 C	2 単位	前期
担当教員	南 政宏		
授業概要	多様化しつつあるデザインの役割への知識を深める。デザインによって解決される問題について掘り下げを行い、デザインに求められる現実的なテーマを設定し、商品企画、パッケージ、ブランディング、デザイン、流通など実践的なデザインテーマを通しての分析・考察・提案を行なう。		
到達目標	デザイン手法を用いた問題発見能力、問題解決能力、提案能力、表現力などを習得する。		
成績評価	レポートと成果物により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	特に無し		
履修資格			

科目名	トランス・ヒマラヤ文化論	2 単位	前期
担当教員	棚瀬 慈郎		
授業概要	文化人類学の考え方、調査の方法、基本的な概念などについて、実際の研究例に基づいて論じてゆく。中心となるのは、インドヒマラヤのチベット文化圏であるラホール地方に関する報告である。		
到達目標	文化人類学の方法論の習得。またヒマラヤ地域における文化の伝播、融合の問題についての理解を深める。		
成績評価	小テスト（50%）、レポート（50%）。授業時間の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。		
テキスト 指定図書 参考書	棚瀬慈郎「インドヒマラヤのチベット社会・「女神の園」の民族誌」（明石書店）、山田孝子「ラダック」（京都大学出版会）		
履修資格			

科目名	日本考古学A	2単位 前期
担当教員	定森 秀夫 ・ 中井 均 ・ 花田 勝広※	
授業概要	日本考古学はすでに 100 年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。	
到達目標	日本考古学の内容を理解する。	
成績評価	理解度（50%）、授業態度（10%）、レポート等(40%)	
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。	
履修資格		

科目名	日本考古学B	2単位 前期
担当教員	定森 秀夫 ・ 中井 均 ・ 花田 勝広※	
授業概要	日本考古学はすでに 100 年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。	
到達目標	日本考古学の内容を理解する。	
成績評価	理解度（50%）、授業態度（10%）、レポート等(40%)	
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。	
履修資格		

科目名	日本生活文化論	2単位 前期
担当教員	市川 秀之 ・ 森 隆男※	
授業概要	古来日本人は様々な文化を日常生活のレベルで受容し、それを風土の中でたくみに変容して独自の文化形式を作り上げてきた。そこで、人々の生活の営為の総体としての生活文化の実態を明らかにするとともに、そこに見い出される文化の構造や特質といったものを、地域や時代に即して検討する。	
到達目標	生活文化を具体例に即して理解すること。	
成績評価	発表内容 50% レポート 50%	
テキスト 指定図書 参考書	無し	
履修資格		

科目名	比較行動論特講	2単位	前期
担当教員	細馬 宏通 ・ 上野 有理		
授業概要	行動学では、行動の至近要因（行動の起こるプロセス）と究極要因（行動の進化の基盤）の双方を研究することが基本となる。この講義では、至近要因アプローチの一例として、人間の会話の時間構造を捉える手法とその実践について学ぶ。究極要因アプローチとしてヒトの進化理論について学ぶ。		
到達目標	(1) ことばと身体の相互作用を分析する概念を理解する。 (2) 進化生物学的アプローチにより人間行動を捉える視点を身につける。		
成績評価	(1)、(2) いずれも、講義時に出される課題（40%：(1) 20%、(2) 20%）とレポート(60%：(1) 30%、(2) 30%)で評価する。 100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	講義内で指定する。		
履修資格			

科目名	美術史特論A	2単位	後期
担当教員	亀井 若菜		
授業概要	日本の美術作品を取り上げ、作品を詳しく見、関連文献を購読し、何が、どのように、なぜ、描かれているのかをともに考えていく。また、美術史研究の方法や目的についても、関連する文献を読み、討論を通して、考えていきたい。 言葉とは異なる表現媒体である「イメージ」が何を見せ主張しているのか、「美術」や「イメージ」について考えるとはどういうことなのかを、文献講読、発表、討論を通して探っていく。 なお取り上げる作品や文献は、「美術史特論B」とは異なるものとする。		
到達目標	1 美術の個々の作品が何を見せようとしているのかを、考えることができるようになる。 2 美術史研究の方法について、理解し自ら考えることができるようになる。 3 自分の研究分野において使われるイメージ（視覚的表象）について、分析できるようになる。		
成績評価	1、2については、授業における発言や報告において評価する。3については、各自の発表とレポートにより評価する。1、2が50%、3が50%。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：授業でその都度紹介する。		
履修資格			

科目名	美術史特論B	2単位	後期
担当教員	亀井 若菜		
授業概要	日本の美術作品を取り上げ、作品を詳しく見、関連文献を購読し、何が、どのように、なぜ、描かれているのかをともに考えていく。また、美術史研究の方法や目的についても、関連する文献を読み、討論を通して、考えていきたい。言葉とは異なる表現媒体である「イメージ」が何を見せ主張しているのか、「美術」や「イメージ」について考えるとはどういうことなのかを、文献講読、発表、討論を通して探っていく。なお取り上げる作品や文献は、「美術史特論A」とは異なるものとする。		
到達目標	1 美術の個々の作品が何を見せようとしているのかを、考えることができるようになる。 2 美術史研究の方法について、理解し自ら考えることができるようになる。 3 自分の研究分野において使われるイメージ（視覚的表象）について、分析できるようになる。		
成績評価	1、2については、授業における発言や報告において評価する。3については、各自の発表とレポートにより評価する。1、2が50%、3が50%。		
テキスト 指定図書 参考書	参考書：授業でその都度紹介する。		
履修資格			

科目名	病態栄養学特論	2単位	前期
担当教員	矢野 仁康		
授業概要	近年、我々国民の健康を脅かす疾患として、癌、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧症などの生活習慣病が注目されている。これら生活習慣病の発症と進行を防ぐためには、病気と栄養の関係を明らかにし、栄養の面から疾病の予防や治療に取り組む事が不可欠となる。本講義では、これら生活習慣病の病態についてその分子レベルから臨床病態に至るまでを講義する事で、各々の疾患についての適切な栄養管理はもちろん、これら病気にならないためにどのような栄養摂取をすればよいか予防医学的な見地からも理解を深めていく。		
到達目標	①代謝において疾病の起こる病態を理解できる ②臓器において疾病の起こる病態を理解できる ③栄養、代謝系疾患について理解できる ④栄養管理に不可欠な病態の正確な理解ができる		
成績評価	到達目標で示す、①、②、③は各々課題レポート30%ずつで合計90%、④は10%、合計100点満点で採点を行い、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	特になし。		
履修資格			

科目名	フィールド心理学特講	2単位	後期
担当教員	松嶋 秀明		
授業概要	現代社会における人々の活動は、多くの要因が複雑に入りくみ、からみあったものを志向している。介護・養護を必要とする人々や、被災者への支援、あるいは異文化間交流など、そうした活動にたずさわる人々は、単独で関わるには限界があり協働していくことが求められる。本講義では、司法臨床、学校臨床分野での知見に基づきつつ、社会的に排除されがちな子どもをどのようにまもり、育てるのかを実践的／理論的に考えていく。と同時に、その具体的な研究枠組みとしての質的研究を紹介し、どのような蓄積がなされているのか紹介する。		
到達目標	授業を通して、司法、学校領域を題材としつつ、児童の福祉のために資する実践とはなにかを考え、研究者として実践的に参画できるようになることを目指す。		
成績評価	授業中の発言、小レポート、最終レポートなどから総合的に判断する。		
テキスト 指定図書 参考書	都度、指定する。毎回の授業で学会誌論文や本の一章を読んでくることを前提として講義を行う。		
履修資格			

科目名	服飾デザイン特論 A	2単位	前期
担当教員	森下 あおい		
授業概要	服飾デザインは、人間を取り巻く社会を背景に多様なデザインが生み出される。しかしそうしたデザインを評価することは難しさを伴う。ここでは服飾デザインに表現される感性の実態とその意味に着目し、服飾における創造行為に対して分析的な視点からデザインの事例を学ぶ。後半では各自が選定したテーマを調査し考察する。		
到達目標	1. デザイン評価の視点と手法を学ぶ。 レポート 50% 2. 服飾デザインにおける課題を分析し意見をまとめる。 レポート 50%		
成績評価	提出レポート100%（デザイン評価50%、分析50%）にて評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	プリント資料を配布する。参考書は授業内で紹介する。		
履修資格			

科目名	服飾デザイン特論 B	2 単位	後期
担当教員	横田 尚美		
授業概要	服飾デザインに関する文献研究を進めるのに必要な要素を持つ 4 種類の文献を講読して、研究の基礎となる知識を得るとともに、その背景を理解する。 一次資料の扱い方や、各自の論文制作に役立つ研究方法と論文の構成などについても学ぶ。		
到達目標	(1)19 世紀～20 世紀初めの女性服の現代化について理解できる。 (2)デザインの優れた作品を批評できるようになる。 (3)論文をまとめる力が向上する。		
成績評価	(1)(2)については、それぞれのテーマについての授業態度とレポート提出（各 25%） (3)については、期末のレポート提出（50%）		
テキスト 指定図書 参考書	適宜、講義の中で紹介する。		
履修資格			

科目名	北東アジア地域史 A	2 単位	前期
担当教員	田中 俊明		
授業概要	(本年度は開講しません) 古代の東アジアにおける文化交流をとりあげる。特に、朝鮮半島を軸として、中国王朝と日本との関わりについて追究できる問題、または、朝鮮半島と日本との関わりについて追究できる問題をとりあげる。受講生には、関連論文を読んで、その内容を批判的に紹介してもらう。		
到達目標	論文に対する読解能力の蓄積		
成績評価	授業における報告および討論 (100%)		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：論文をコピーして配布 参考書：適宜、指示する。		
履修資格			

科目名	北東アジア地域史 B	2 単位	前期
担当教員	Borjigin Burensain ・ 河 かおる		
授業概要	モンゴルや内モンゴルを含めた中国東北地方から朝鮮半島に及ぶ北東アジア地域の歴史的展開のうち、近代以後に関する事柄を考察する。近代以後、当該地域では、モンゴルは清朝からの独立を果たし、朝鮮半島は植民地化、中国東北地方は傀儡国家「満州国」を通じて日本に支配された。その過程で日本の支配に抵抗する民族主義が勃興したり、あるいは支配に協力する勢力を生み、人口の移動など激しい社会経済的変動も経験した。本講義では、このような課題を通じて考察する。※隔年開講につき、2015 年度開講、2016 年度不開講。		
到達目標	近現代北東アジア地域における国家と民族の再編や社会変動に関する基本的な視点をもてること。		
成績評価	課題報告および討論への参加（100%）		
テキスト 指定図書 参考書	第 1 回目の授業で、上記以外を含めた関連文献リストを示し、受講生の意向を確認しながら、どの文献をテキストとして進めていくかを定める。		
履修資格			

科目名	マーケティング特論	2 単位	前期
担当教員	山田 歩		
授業概要	消費者のニーズや行動傾向を観察・分析することを通して、製品やサービスの価値をどのように高めることができるのか、あるいは、どのように高めるべきなのかを考える。文献講読のほか、製品・サービスの利用実態調査や消費者行動実験を行うことによって、既存製品・サービスの問題の発見、より良い製品・サービスの提案を行う。		
到達目標	マーケティング・リサーチを用いた問題発見能力と解決能力、および論文によって表現する力を習得する。		
成績評価	授業課題への取り組み（50%）、期末発表（25%）、期末レポート（25%）		
テキスト 指定図書 参考書	参考文献はその都度提示します。		
履修資格			

科目名	モンゴル・ディアスポラ論A	2 単位	後期
担当教員	Borjigin Burensain ・ 島村 一平		
授業概要	いわゆるモンゴル系の民族集団は、モンゴル国のみならず、ロシア（カルムイク共和国、ブリヤート共和国）中国（内モンゴル自治区、青海省、新疆ウイグル自治区）の3カ国に分散居住している。モンゴル・ディアスポラ（離散民族）の特徴は、ホームランドに居住しながらにして、故郷に対する喪失感を持っているところにあるといえる。本講義では、こうしたモンゴル系集団のディアスポラ的状況に至る歴史と現代的諸相を論じていく。		
到達目標	ディアスポラに関する基礎理論とモンゴル系諸族のディアスポラ的状況を歴史・文化的側面から理解する		
成績評価	小テスト(40%)、レポート(60%)		
テキスト 指定図書 参考書	ブレンサイン：和光大学学術調査団『変容するモンゴル世界—国境にまたがる民』新幹社、1999年 島村：ジェームス・クリフォード『ルーツ—20 世紀後期の旅と翻訳』、月曜社、2002 年 J.E.Brazier and A.Mannur(eds.) theorizing diaspora, Blackwell, 2003.		
履修資格			

科目名	モンゴル・ディアスポラ論B	2 単位	後期
担当教員	Borjigin Burensain ・ 島村 一平		
授業概要	いわゆるモンゴル系の民族集団は、モンゴル国のみならず、ロシア（カルムイク共和国、ブリヤート共和国）、中国（内モンゴル自治区、青海省、新疆ウイグル自治区）の3カ国に分散居住している。モンゴル・ディアスポラ（離散民族）の特徴は、ホームランドに居住しながらにして、故郷に対する喪失感を持っているところにあるといえる。本講義では、こうしたモンゴル系集団のディアスポラ的状況に至る歴史と現代的諸相を論じていく。		
到達目標	モンゴル諸民族のディアスポラ的状況の理解		
成績評価	レポートによる		
テキスト 指定図書 参考書	Uladyn Bulag 1998 “Nationalism and Hybridity in Mongolia”, Oxford.そのほか、随時指定。		
履修資格			

科目名	ヨーロッパ地域文化論	2単位	後期
担当教員	外狩 章夫・吉村 淳一・山本 薫・John Rippey・橋本 周子		
授業概要	ヨーロッパ地域の人々が、自らの居住地域を統一的文化圏と捉え、この意識の上に立って、時代時代の政治、社会、思想その他、内外にわたる全体状況に対し、言語文化的にいかに対応したかを、英語、フランス語、ドイツ語の各地域文化圏にわたって多角的視点から、言語、あるいは、文学者とその作品を論及することを通じて考察し、西洋地域文化論の構築を試みる。		
到達目標	(1) ヨーロッパ地域の人々が、時代時代の政治、社会、思想その他、内外にわたる全体状況に対し、言語文化的にいかに対応したかを列挙し説明することができる。 (2) 講義で扱われたテーマのうち興味を持ったものについて論述することができる。		
成績評価	到達目標で示す(1)ヨーロッパ地域の・・・ (2)講義で扱われた・・・ については、レポート(100%：(1)60%, (2)40%) で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト、指定図書、参考書】 授業中に適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	臨床栄養管理特論	2単位	後期
担当教員	奥村 万寿美		
授業概要	急性疾患に対する栄養管理や慢性疾患に対する長期にわたる栄養管理など医療施設における患者の実態把握は栄養アセスメントに不可欠である。患者の病態や病状等に応じた適切な栄養アセスメント、栄養診断により具体的な栄養ケアおよび栄養マネジメントプランを立案し、疾病の治癒・回復に役立てなければならない。患者の社会生活環境や療養環境などのほか医学・医療の場における栄養管理の現状を踏まえ、管理栄養士としてどのような役割を果たしていくのか患者調査や症例研究によって考える。		
到達目標	(1) 管理栄養士として医療（福祉・介護）現場における責務と学部卒生とは異なる使命（NSTにおける栄養専門分野の指導的役割や組織運営力、研究力）であることが理解できる。 (2) 学部で学んだ栄養ケアマネジメント（NCM）および栄養に関する知識と技術を用いて、患者の栄養指導、栄養管理について責任を持って実践できる。 (3) 患者の社会生活環境や療養環境などのほか医学・医療の場における栄養管理の現状を踏まえ、管理栄養士としてどのような役割を果たしていくのか事例（患者調査や症例研究）に研究活動に繋げるていくことができる。		
成績評価	到達目標に示す (1) 10%、(2) 80%、(3) 10%で、各課題におけるレポート評価 100%		
テキスト 指定図書 参考書	必要に応じてプリントを配付する。 【参考書】大学で使用した臨床栄養学分野のテキスト		
履修資格			

◆人間看護学専攻

1 学位授与方針

人間看護学研究科は、看護学に関する高度な専門的知識・技能と高潔な倫理観をもち、人々の健康と安寧に貢献できる人材を育成します。この目的を達成するため、下記のとおり、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。修了に必要な期間在学したうえで、所定単位を修得し、論文等の審査に合格した場合に、その達成とみなし、看護学修士の学位を授与します。

- A.学際的・国際的な視野をもち、生涯にわたって社会に貢献できる基礎的な力を備えている。(興味・関心、技能・技術)
- B.高度な専門的知識と卓越した技能を修得し、質の高い看護を実践できる。(知識・理解、技能・技術)
- C.社会のニーズに基づく研究課題を明確化し、創造的に解決する方策を探究する研究能力を身につけている。(知識・理解、思考・判断、興味・関心)
- D.看護専門職者として深い学識・高潔な倫理観・豊かな人間性を備え、総合的な判断力と調整能力を発揮して指導的役割を担える。(知識・理解、思考・判断、態度・倫理)

2 教育課程の編成・実施方針

人間看護学研究科(人間看護学専攻)は、人材の養成に関する目的を達成するため、3つの分野(基盤看護学分野、生涯健康看護学分野、CNS コース慢性疾患看護学分野)を設け、ディプロマポリシーに基づき下記の教育課程を編成します。

- A.幅広い基礎学力と学際的・国際的な幅広い視野をもち、生涯にわたって社会に貢献できる基礎的な知識を習得するため、「共通科目」を配置する。(DP-A)
- B.高度な専門的知識と卓越した技能を習得するため、より高い専門性を学ぶ「専門科目」を配置する。(DP-B)
 - ・基盤看護学分野と生涯健康看護学分野では、分野ごとに、選択必修科目と選択科目として「特論・演習」を配置する。
 - ・CNS コース慢性疾患看護学分野では、指導的な役割を担える慢性疾患の専門看護師を養成するため、選択必修科目として「特論・演習・実習」を配置する。
- C.社会のニーズに基づく研究課題を明確化し、創造的に解決する方策を探究する研究能力を身につけるため、基盤看護学分野と生涯健康看護学分野には「特別研究」を、CNS コース慢性疾患看護学分野には「課題研究」を配置する。(DP-C)
- D.看護専門職者としての深い学識・高潔な倫理観・豊かな人間性を育み、指導的役割を担える力を養成するため、「共通科目」と「専門科目」を配置する。(DP-D)

3 修士課程修了要件

- ① 2年以上在学すること(休学期間は在学期間に含まない)。
- ② 30単位以上修得すること。

■ 基盤看護学分野／生涯看護学分野：

必修 12 単位および *選択科目 18 単位以上を修得していなければならない。

*共通科目 6 単位以上かつ専門科目 10 単位以上(専攻分野の科目 4 単位以上含む)。

■ CNS コース慢性疾患看護学分野：

必修科目 12 単位・選択科目○印 14 単位以上および 同△印 4 単位以上を修得していなければならない。

③ 修士論文を提出し、論文審査および最終試験に合格すること。

ただし、CNS コースは修士論文に代えて課題研究により論文審査を受けることができる。

註 1： 学部開講の授業科目については、指導教員の指示に従い受講することができるが、修得した単位を修了要件単位数に算入することはできないので注意すること。

註 2： 大学院副専攻「近江環人地域再生学座」を修了した場合の、学座専門科目の主専攻修了要件への算入については近江環人地域再生学座の修了要件を参照すること。

4 年次別科目配当表

授 業 科 目 の 名 称	担 当 教 員	配 当	期 間	単 位 数			備 考
		年次		必修	選択	自由	
(共通科目)							
看護理論	窪田 [好]	1・2	前期	2			
看護研究方法論Ⅰ	甘佐、浅野、他	1・2	前期	2			H21年度以前入学生：看護研究方法論
看護研究方法論Ⅱ	糸島、横井、荒川	1・2	前期		2		○
人類科学特論	—	1・2	前期		2		平成27年度不開講
生体感染特論	—	1・2	前期		2		平成27年度不開講
継続療養特論	森	1・2	前期		2		
臨床対人関係特論	—	1・2	前期		2		平成27年度不開講
家族看護学特論	植村、古株	1・2	後期		2		
看護政策論	小林	1・2	前期		2		△
看護教育論	岩脇、滝下	1・2	前期		2		△
コンサルテーション論	甘佐、吉田	1・2	前期		2		
看護倫理	糸島	1・2	前期		2		△
看護管理論	窪田 [好]、米田	1・2	前期		2		△
薬物治療学	土田	1・2	前期		2		
看護英語論文入門Ⅰ	安原	1・2	前期		2		
看護英語論文入門Ⅱ	安原	1・2	後期		2		
(基盤看護学分野)							
看護技術学特論	伊丹	1・2	前期		2		
看護技術学演習	伊丹	1・2	後期		2		
組織行動マネジメント論特論	—	1・2	前期		2		平成27年度不開講
組織行動マネジメント論演習	—	1・2	後期		2		平成27年度不開講
形態機能・生体機構学特論	安原	1・2	後期		2		平成27年度不開講
形態機能・生体機構学演習	安原	1・2	後期		2		平成27年度不開講
病原微生物制御・疫学特論	—	1・2	前期		2		平成27年度不開講
病原微生物制御・疫学演習	—	1・2	後期		2		平成27年度不開講
精神の健康生活評価法	—	1・2	前期		2		平成27年度不開講
精神看護援助方法論	甘佐、牧野	1・2	後期		2		
精神看護関連技法演習	甘佐、牧野	1・2	後期		2		
メンタルケア展開演習	—	1・2	後期		2		平成27年度不開講
スピリチュアルケア展開演習	甘佐、牧野	1・2			2		平成27年度不開講
公衆衛生看護学特論	小林	1・2	前期		2		
公衆衛生看護学演習	小林	1・2	後期		2		
公衆衛生看護技術特論	小林、植村	1・2	前期		2		
公衆衛生看護技術演習	小林、植村	1・2	後期		2		
公衆衛生看護学実践演習	小林	1・2	後期		2		平成27年度不開講
基盤看護学特別研究(※1)	専攻教員	1～2	通年	8			
(生涯健康看護学分野)							
母性看護学特論	渡邊、古川	1・2	後期		2		
母性看護学演習	渡邊、古川	1・2	後期		2		
小児家族看護学特論	古株	1・2	前期		2		
小児家族看護学演習	古株	1・2	後期		2		
成人継続看護学特論	糸島、横井、荒川	1・2	後期		2		
成人継続看護学演習	糸島、横井、荒川	1・2	後期		2		
成人健康支援特論	森	1・2	後期		2		
成人健康支援演習	森	1・2	後期		2		
老年健康生活特論	望月	1・2	前期		2		
老年看護援助論	望月	1・2	後期		2		
老年健康生活評価演習	平田	1・2	後期		2		
老年看護援助展開演習	平田	1・2	後期		2		
老年サポート技術演習	望月	1・2	前期		2		

生涯健康看護学特別研究(※1)	専攻教員	1~2	通年	8		
(CNSコース慢性疾患看護学分野)						
慢性看護学特論A	横井、荒川、糸島 他	1	前期	2		○
慢性看護学特論B	横井、角野、荒川、 糸島、他	1	後期	2		○
慢性看護支援論A	横井、荒川、糸島、 他	1	前期	2		○
慢性看護支援論B	横井、荒川、糸島、 他	1	後期	2		○
慢性看護支援論C	横井、荒川、糸島、 伊波、他	1	後期	2		○
慢性看護支援論演習	横井、荒川、糸島、 森、他	1	通年	2		○
慢性看護学課題研究(※1)	横井、荒川、糸島	1~2	通年	2		
慢性看護学実習Ⅰ	横井、他	1	後期	2		
慢性看護学実習Ⅱ	横井、他	2	前期	4		
(キャリア教育関連)						
インターンシップC	就職指導担当教員	1	前期		1	
インターンシップD	就職指導担当教員	1	前期		2	

※1 毎年履修登録を行い、指導を受ける必要があります。また、前期末で単位を認定する場合があります。

註1 平成23年度以前の入学生については、「看護臨床的人間形成特論」を「組織行動マネジメント論特論」に、「看護臨床的人間形成特論演習」を「組織行動マネジメント論演習」に、「地域看護学特論」を「公衆衛生看護学特論」に、「地域看護学演習」を「公衆衛生看護学演習」に、「地域看護技術特論」を「公衆衛生看護技術特論」に、「地域看護技術演習」を「公衆衛生看護技術演習」に、「地域看護学実践演習」を「公衆衛生看護学実践演習」にそれぞれ読み替える。

5 修士の学位審査基準

- ① 大学院学則第23条第1項または第2項の条件を満たしていること。ただし修士論文および最終試験については次の②と③の基準を満たしていること。
- ② 修士論文は看護学の新規な知見を含んでいること。かつその内容が看護学の発展に貢献できる学術的価値を有すると判断されること。
- ③ 最終試験により、看護学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づいて看護を実践的・開発的に展開していく能力を有すると認められること。

6 CNSの学位審査基準

- ① 大学院学則第23条第1項または第2項の条件を満たしていること。ただし課題レポートおよび最終試験については次の②あるいは③の基準を満たしていること。
- ② 修士論文については、課題研究レポートの審査をもって修士論文の審査にかえることができる。本レポートは、実習における看護実践を理論に基づいて分析・考察したもので、新たな看護方法の導入・開発を視野に入れた内容であること。かつ、その水準が専門看護師として高度な看護実践を行えると判断されるものであること。
- ③ 最終試験により、看護学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づいて看護を実践的・開発的に展開していく能力を有すると認められること。

※課題研究レポート作成要領・レポート提出方法・必要書類等は、修士論文に準ずる。

7 修士論文の審査プロセス

① 指導教員の決定

指導教員は、主指導教員1名、副指導教員1名または2名〔副指導教員（1）、（2）〕とする。主指導教員は指導体制を決定し、研究科会議に報告する。

なお、主指導教員と副指導教員の資格は別に定める。

② 中間発表会

中間発表会を原則として年2回開催する。大学院生は、在学中に必ず1回は中間発表会で研究計画の内容（構想および実施方法）と進捗状況を発表し、助言を得る。

中間発表会で発表を行っていない者は修士申請論文公聴会での発表資格を失う。

③ 論文審査委員の決定

学位申請予定の学生を指導する主指導教員は、期限内に論文審査委員候補者（主査1名、副査2名）を教務委員会に報告する。なお、主査と副査（1）は、それぞれ主指導教員、副指導教員（1）と同一とする。副査（2）は副指導教員（2）とは異なり、他分野の指導教員資格者から選任する。

④ 修士論文の提出

学位申請者は、期限内に人間看護学部長控室に以下のものを提出する。

教務委員長は論文提出を確認後、各主査に修士論文および修士論文要旨を渡し（主査・副査、計3人分）審査を依頼する。

- | | |
|------------|----|
| i）学位申請書 | 1部 |
| ii）修士論文 | 3部 |
| iii）修士論文要旨 | 4部 |

⑤ 修士申請論文公聴会

最終試験（口頭試問）に先立ち、学位申請者に修士論文公聴会での発表を義務づける。

〔発表時間〕 発表時間は1人15分、質疑応答15分、計30分とする。

〔公聴会の運営〕 各発表者の審査委員（主査・副査）が所定の位置に座り、主査が司会にあたる。教務委員が全体の進行を担当する。

〔公聴会への参加資格〕 助教以上の教員ならびに当日の発表予定者とする。

〔資料の事前配布〕 発表する学生は、事前に発表資料（修士論文要旨）を準備し、当日公聴会参加者に配布する。

⑥ 最終試験

公聴会を終了した学生に、最終試験を義務づける。試験は論文審査委員3名により口頭で行う。試験では、修士論文の内容を審査するとともに、看護学に関する学識を問い、看護学の知識に基づいて看護を実践的・開発的に展開していく力を総合的に判定する。

なお、論文審査の内容は原則として以下のとおりとする。

- 研究内容が看護学の新規な知見を含み、その発展に貢献できる学術的価値を有しているか
- 問題意識から研究目的を定めるまでに充分吟味されているか
- 文献レビューは適切になされているか
- 研究目的を達成するための研究方法が吟味されているか
- 研究方法は適切か（目的、対象、方法に適合性があるか）
- 倫理的配慮は十分になされているか
- 研究目的に沿った結果が導かれているか
- 研究結果の分析および考察が十分になされているか
- 公聴会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問にも的確に答えられたか
- 論文は論理展開が明快であり、指定された書式に従って書かれているか

⑦ 修正論文の提出(必要時)

最終試験の後、必要に応じて論文を修正し、期限内に人間看護学部長控室に以下のものを提出する。

教務委員長は修正論文の提出を確認後、主査に修正修士論文および修正修士論文要旨を渡し(主査・副査、計3名分)、再度審査を依頼する。

i) 修正修士論文 3部

ii) 修正修士論文要旨 4部

⑧ 学位授与の判定

主査は、修士論文審査の結果報告書を期日までに研究科長に提出する。

臨時研究科会議は、修士修正論文審査報告書をもとに修士論文の合否判定を行う。

後日、研究科会議で学位授与の判定を行い、修了者を決定する。

⑨ 修士論文発表会

学位認定後に修士号取得者による研究論文発表会を行う。大学院生が自主的に企画運営する。

履 修 モ デ ル

1. 基盤看護学分野

1-1. 精神看護教員、卒後継続教育担当者あるいは実習指導者として看護教育に携わりたい学生が履修する場合

- ①修士論文テーマ：精神科外来通院者への精神療法的アプローチ開発に関する研究
②履修科目

区 分		＜基盤看護学分野＞ 授 業 科 目	1 年次～2 年次		計
			前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2		4
		看護研究方法論Ⅰ	2		
	選択	看護教育論	2		6
		薬物治療学	2		
		コンサルテーション論	2		
専門科目	選択 必修	精神看護関連技法演習		2	4
		精神看護援助方法論		2	
	必修	基盤看護学特別研究	8		8
	選択	精神の健康生活評価法	2		8
		慢性看護学特論A	2		
		公衆衛生看護学特論	2		
		成人継続看護学特論		2	
計			30		

看護者として、精神科外来通院者への関わりの焦点となる内容には、服薬管理状況・日常生活のリズム・対人関係の調整等があげられる。これら焦点化された内容に対する効果的な関わりには、的確な治療的コミュニケーション、アセスメント技術、他職種とのコンサルテーション力等が必要である。また、効果的な関わりのありようを、精神療法的アプローチとして位置づけ、包括・体系化することが可能であり、包括・体系化することで、新たな精神看護アプローチ法の開発につながる。

精神看護アプローチ法の開発を達成し、この成果を現場に還元していくために、「看護教育論」「コンサルテーション論」を共通科目の中から選択する。また、研究テーマを、幅広い視野から、かつ統合的・論理的に考究するために、「精神の健康生活評価法」「精神看護援助方法論」「精神看護関連技法演習」を学ぶ。さらに、慢性疾患患者の継続支援を探究し、地域支援及び地域連携を視野に入れた援助ができるように、「成人継続看護学特論」「公衆衛生看護学特論」「慢性看護学特論 A」「薬物治療学」を選択履修する。

本学生は将来、実践者及び管理者、院内教育担当者、看護教員を志向している。

1-2. 現在保健師として職を持っている学生が履修する場合

①修士論文テーマ：市町村の行政施策としての健康教育活動に関わる保健師の特性に関する研究

②履修科目（3年間の在学コースを想定）

区分		< 基盤看護学分野 > 授業科目	1 年次～ 3 年次		計
			前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2		4
		看護研究方法論Ⅰ	2		
	選択	看護政策論	2		6
		コンサルテーション論	2		
		家族看護学特論		2	
専門科目	選択必修	公衆衛生看護学特論	2		8
		公衆衛生看護技術特論	2		
		公衆衛生看護学演習		2	
		公衆衛生看護技術演習		2	
	必修	基盤看護学特別研究	8		8
	選択	公衆衛生看護学実践演習		2	4
		老年健康生活特論		2	
計			3 0		

市町村における保健師活動は、地域の特性に基づく的確な保健活動を行うことが求められる。特に、地域における健康問題を解決するための保健師特有の活動方法のひとつに、地域の健康問題を解決するための政策決定への参加、企画等がある。このような保健師特有の活動をエビデンスに基づきながら専門的立場で実践するために、ここでは健康教育に焦点をあて、その活動に関わる保健師に求められる特性とは何かについて追究する。

そのためには、地域看護の対象者や家族を含めて幅広く理解し、先進的な支援方法及び他職種との効果的調整機能を追求するために、「看護政策論」「家族看護学特論」「コンサルテーション論」を学ぶ。加えて、地域看護活動の実践において、地域の健康問題・行政課題を明らかにするための科学的な方法を理解し、的確に活用する能力が必要となる。そこで、「公衆衛生看護学特論」「公衆衛生看護技術特論」「公衆衛生看護学演習」「公衆衛生看護技術演習」「公衆衛生看護学実践演習」を学ぶ。また、高齢化の進む地域への対応に向けて「老年健康生活特論」を選択履修する。2年次後期には特別研究着手の準備にとりかかる。

本学生は、県あるいは市町村における保健活動においてリーダー的役割を担う保健師を志向している。

2. 生涯健康看護学分野

2-1. 母性看護学教員あるいは、助産師の資格を有し女性の健康支援に携わりたい 学生が履修する場合

①修士論文テーマ：働く女性のリプロダクティブヘルスに関する研究

②履修科目

区分		<生涯健康看護学分野> 授 業 科 目	1 年次～2年次		計
			前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2		4
		看護研究方法論Ⅰ	2		
	選択	看護政策論	2		6
		看護倫理	2		
		家族看護学特論		2	
専門科目	選択 必修	母性看護学特論		2	8
		母性看護学演習		2	
		小児家族看護学特論	2		
		小児家族看護学演習		2	
		生涯健康看護学特別研究	8		
	必修			8	
	選択	公衆衛生看護学特論	2		4
		公衆衛生看護学演習		2	
計			3 0		

助産師の活動する場は、分娩を中心とした周産期の援助から、生涯を含めた領域へと拡大している。さらに生殖医療の進歩から、不妊看護、遺伝看護の領域での専門的知識をもったケアが期待されている。こうした活動の展開においては、看護の基本的概念である生命の尊重・倫理、家族社会への深い理解が必須である。

「母性看護学特論」「母性看護学演習」では、すでに助産師であることを踏まえ、さらに女性の健康支援をエビデンスに基づいて実践するための知識、そして女性のヘルスアセスメントに必要な技術の習得をはかる。また「小児家族看護学特論」「小児家族看護学演習」において女性・母性だけでなく小児・家族への支援のあり方を考え、「公衆衛生看護学特論」「公衆衛生看護学演習」では、市町村等を単位として展開する地域看護活動に焦点をあて、個人・家族（夫婦）・集団の問題解決のための教育的介入や学習援助に関するエンパワーメント育成理論の活用について探究する。

本学生は将来、管理職、看護教員、実習指導者を志向している。

2-2. 入院から退院後の生活までを視野に入れた継続看護の観点から、実践の現場で指導的役割を担う看護師を目指す学生が履修する場合

①修士論文テーマ：周手術期における患者の心的状況と術後せん妄発症の関連性及びその予防的ケアに関する研究

②履修科目

区 分		＜生涯健康看護学分野＞ 授 業 科 目	1 年次～ 2 年次		
			前期	後期	
共 通 科 目	必修	看護理論	2		4
		看護研究方法論Ⅰ	2		
	選択	看護政策論	2		6
		継続療養特論	2		
		看護教育論	2		
専 門 科 目	選択 必修	成人継続看護学特論		2	8
		成人継続看護学演習		2	
		成人健康支援特論		2	
		成人健康支援演習		2	
	必修	生涯健康看護学特別研究	8		8
	選択	精神の健康生活評価法	2		4
		看護技術学特論	2		
計			3 0		

術後せん妄に関する研究については、経過パターン、関連因子の把握を試みる研究、患者・家族の心的状況の調査研究など、近年数多く発表されるようになってきているが、発展的な研究を展開するにあたっては、先行研究から得られた知見を系統的に整理するとともに、患者・家族のライフスタイル・家庭環境等を分析し、より高いレベルのエビデンスを構築することが求められる。また、入院中の患者の心的状況に関連する様態急変を抑制するために、入院前のリスクファクター評価・予防対策等が必要となる。

これらを包含した研究を継続させるための知識として、「継続療養特論」「看護教育論」及び「精神の健康生活評価法」「看護技術学特論」を選択し、患者教育を主体とした医療・看護領域で適用できる予防概念等について考察する能力を高める。このような知識を深めることによって、実践的な研究へと発展させていくことができる。

本学生は将来、管理職、看護教員、実習指導者を志向している。

2-3. 老年看護教員、卒後継続教育担当者あるいは実習指導者として看護教育に携わりたい学生が履修する場合

①修士論文テーマ：在宅虚弱高齢者への社会資源活用プログラムに関する研究

②履修科目

区分		＜生涯健康看護学分野＞ 授 業 科 目	1 年次～ 2 年次		計
			前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2		4
		看護研究方法論Ⅰ	2		
	選択	看護教育論	2		6
		看護政策論	2		
		家族看護学特論		2	
専門科目	選択 必修	老年看護援助論		2	8
		老年サポート技術演習	2		
		老年健康生活評価演習		2	
		老年看護援助展開演習		2	
	必修	生涯健康看護学特別研究	8		8
	選択	老年健康生活特論	2		4
		公衆衛生看護学特論	2		
計			3 0		

要援護高齢者が増加する中、虚弱高齢者の寝たきり予防は重要な課題の一つである。特に在宅で過ごされている虚弱高齢者の場合、当事者の日常生活のありようや同居家族（介護者）の健康状態・経済状態等が寝たきり関連因子（内的要因）として示唆されている。また、当事者らが社会資源について十分に認知し、有効に活用しているかという点（外的要因）を究明していくことも、効果的な看護サービスを提供する上で不可欠であると思われる。

ここでは、「看護教育論」「看護政策論」「家族看護学特論」の学びを通して、教育的指導者あるいはケアコーディネーターとしての資質を高めていく。専門科目では、「老年健康生活特論」「老年看護援助論」「老年健康生活評価演習」「老年看護援助展開演習」および「老年サポート技術演習」を履修することで、老年看護領域における高度な実践能力を習得する。さらに、「公衆衛生看護学特論」を選択することによって、地域（在宅）で生活する高齢者のヘルスニーズの把握・評価・援助法、健康生活に欠かせないネットワーク構築等を探究し、研究内容の汎用性をふくらませていく。

本学生は将来、老年看護領域の、実践者及び管理者、院内教育担当者、看護教員を志向している。

3. CNSコース 慢性疾患看護学分野

3-1. 慢性疾患看護学分野の専門看護師として地域で活躍したい学生が履修する場合

① 課題研究テーマ：糖尿病患者の薬物コントロールにおける外来指導の在り方

② 履修科目

区分		CNSコース (慢性疾患看護学分野) 授 業 科 目	1 年次		2 年次		計
			前期	後期	前期	後期	
共通科目	必修	看護理論	2				2
		看護研究方法論Ⅰ	2				2
	選択	看護倫理	2				2
		看護管理論	2				2
		薬物治療学	2				2
専門科目	選択必修	慢性看護学特論A	2				2
		慢性看護学特論B		2			2
		慢性看護支援論A	2				2
		慢性看護支援論B		2			2
		慢性看護支援論C		2			2
		慢性看護支援論演習	2				2
		慢性看護学課題研究	2				2
		慢性看護学実習Ⅰ		2			2
		慢性看護学実習Ⅱ			4		4
計		2 4		6		3 0	

専門看護師は、ある特定の看護分野において「卓越した看護実践能力」を有することを認定される看護職者である。慢性疾患看護専門看護師をめざす者は、日本看護系大学協議会の専門看護師教育課程基準に示される慢性看護の科目の履修が必修となる。さらに自己の課題研究の遂行と、より専門的な実践力の習得のために関連科目の履修が必要である。

「慢性看護学特論A・B」、「慢性看護支援論A・B・C」、「慢性看護実習Ⅰ・Ⅱ」等の専門科目を履修することで、薬物療法と共に生きる糖尿病患者を科学的・論理的に捉え高度な看護実践を行うための方法論を学習することができる。また、慢性疾患患者の薬物療法を効果的に支援するためには、共通科目の中から「看護倫理」、「薬物治療学」といった科目を選択履修することが必要となる。

これらを踏まえ、さらに「慢性看護学課題研究」を履修することで自らの看護実践を研究的に捉え発展させることが可能となる。

本学生は、慢性疾患看護の分野における卓越した看護実践能力と関連職種間の連携調整能力を持ち、地域特性に応じた革新的な活動を担える専門看護師を志向している。

科目名	家族看護学特論	2単位	後期
担当教員	植村 小夜子・古株 ひろみ		
授業概要	看護活動に共通する家族の今日的課題を中心に家族の機能の変遷を探究し、家族システム理論等の諸理論及び家族看護の役割と機能について教授する。		
到達目標	(1)家族看護に関する理論が理解できる。 (2)理論をもちいて、看護実践に応じた家族看護の展開方法について説明することができる		
成績評価	到達目標(1)についてはレポートにて（70%）、(2)についてはプレゼンテーション（30%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	資料配付、適宜提示		
履修資格			

科目名	看護英語論文入門Ⅰ	2単位	前期
担当教員	安原 治		
授業概要	研究とは、過去の知見の上に新しい知見を積み上げて行く行為である。したがって、論文購読は研究活動の中で大きな比重を占めている。とくに看護学を含む生命科学は世界共通の学問であるため、英語論文の購読は看護学研究にとって必要不可欠な作業である。本講義では、各学生が今読まなければならない、あるいは今読みたいと思っている看護英語論文を各自もちよって、相互に読み進めていく。英語論文に慣れ、独力で英語論文が読めるようになることを目標にする。		
到達目標	(1) 英語論文に慣れ、独力で英語論文が読める。 (2) 英語論文を読み、その方法論や論理について批判的な論評を加えることができる。		
成績評価	到達目標(1)(2)を達成するために、毎回持ち回りでプレゼンテーションを行い、これを評価する。出席状況も加味する。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介		
履修資格			

科目名	看護英語論文入門Ⅱ	2単位	後期
担当教員	安原 治		
授業概要	看護英語論文Ⅰに引き続き、英語論文の抄読を進める。英語論文を批判的に読む練習は、研究力をつけるための恰好のトレーニングである。本講義では、看護英語論文Ⅰの内容をさらに深めて、英語論文を批判的に読む練習にまで進めていきたい。各自が看護英語論文をもちよって、相互に読み進める。		
到達目標	(1) 英語論文に慣れ、独力で英語論文が読める。 (2) 英語論文を読み、その方法論や論理について批判的な論評を加えることができる。		
成績評価	到達目標(1)(2)を達成するために、毎回持ち回りでプレゼンテーションを行い、これを評価する。出席状況も加味する。		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介		
履修資格			

科目名	看護管理論（大学院）	2単位	前期
担当教員	窪田 好恵 ・ 米田 照美		
授業概要	看護専門職として高度なマネジメントの基本的能力を修得することを目的として、看護組織論、看護制度・政策論、看護経営と業務管理論、人的資源活用論、看護情報管理について学習する。また、組織内でのリーダーシップやリスクマネジメント内容についても学習を深める。		
到達目標	1. 看護組織とその変革方法 2. 看護に必要なマネジメントの目的と方法 3. キャリア開発の意義と方法 4. 看護制度・政策と病院経営管理との関連性 5. CNSとしての看護管理と今後の展望・・・以上について考察できる		
成績評価	プレゼンテーション 20% デスカッション 20% レポート 60%で総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：随時資料を配布 指定図書：看護管理学学習テキスト①～⑧看護協会出版会・参考書：授業時提示する		
履修資格			

科目名	看護技術学演習	2単位	後期
担当教員	伊丹 君和		
授業概要	看護技術のエビデンスの検証方法、介入方法の検証法を探究する。また、看護技術学に関連する国内外の関連文献ならびに関連領域の研究をクリティークする力を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培う。		
到達目標	(1) 看護技術のエビデンスの検証、介入方法の検証法を探究する。 (2) 看護技術学に関連する国内外の関連文献、関連領域の研究をクリティークする力、方法を養う。 (3) 自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培う。		
成績評価	(1) 課題レポート 30%、(2) ディスカッションおよび課題レポート 40%、(3) 課題レポート 30%		
テキスト 指定図書 参考書	【参考書】①川島みどり：看護技術の現在、勁草書房、2003.②川島みどり、菱沼典子：看護技術の科学と検証、日本看護協会出版会、2002. 他		
履修資格	看護技術学特論を履修していること		

科目名	看護技術学特論	2単位	前期
担当教員	伊丹 君和		
授業概要	専門性の高い科学としての看護を実践するための基盤となる看護技術について、科学と技術の概念、その発達史の概略を理解し、看護技術の位置、その意味と目的を考察する。また、看護技術に携わる者としての社会的役割、責任など倫理的課題について認識を深める。人を対象とする技術の特性、看護技術の基本的な方法論を理解し、エビデンスの検証、現在の研究知見と看護実践および教育への適応について考究する。		
到達目標	(1) 科学と技術の概念と変遷を理解した上で、看護における技術の意味と目的について検証する。 (2) 科学的根拠に基づいた看護技術について、文献をクリティークしながら検証する (3) 看護技術学とは何か、および看護技術に影響する諸因子について考察する		
成績評価	(1) 課題レポート 30%、(2) ディスカッションおよび課題レポート 40%、(3) 課題レポート 30%		
テキスト 指定図書 参考書	【参考書】①メジカルフレンド社編集部編：看護技術論、メジカルフレンド社、1977.②川島みどり：看護技術の現在、勁草書房、2003.③菱沼典子、小松浩子：看護実践の根拠を問う、南江堂、2007. 他		
履修資格			

科目名	看護教育論	2単位	前期
担当教員	岩脇 陽子※・滝下 幸栄※		
授業概要	看護基礎教育および看護継続教育の現状と課題、課題達成の方法について、自己の経験と学習理論、専門職の育成に関する理論を活用して考察する。また、学習者が主体となり学び続けることの意義とその方法についても探求する。		
到達目標	授業で取り上げた看護教育に関する基礎的な知識、理論を自分の言葉で説明できる。また、看護学教育の現状と課題、展望について考察できる。さらに、キャリアマネジメントの意義と方法を理解し、実践を通して専門職として成長し続けるために有効な教育的働きかけについて、自分の言葉で述べることができる。		
成績評価	討論への参加状況(50%)、レポート(50%)		
テキスト 指定図書 参考書	必要時資料を提示する。		
履修資格			

科目名	看護研究方法論Ⅰ	2単位	前期
担当教員	甘佐 京子・渡邊 香織・浅野 弘明※・古株 ひろみ		
授業概要	実践研究に必要な看護学の科学的アプローチの方法を理解し、量的研究および質的研究のプロセスを概観する。		
到達目標	自己の研究目的や方法をより洗練するための効果的な論文クリティークができる。 自分の関心領域の看護現象の概念・キーワードを明確にできる。 探求する現象へのアプローチする方法を選択できる。 アプローチ方法(質的・量的研究方法)の基本を理解できる。 研究倫理について基本的な原則を理解できる。		
成績評価	・成績評価は、各教員が課すレポート等の内容に基づく。 甘佐、渡邊、古株:全体の75% ＜内訳レポート(50%)、授業中の討論への参加度(40%)、出席状況(10%)＞ 浅野:全体の35%		
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】実習で学ぶSPSSと統計学の基礎 浅野弘明、プレアデス出版 バーンズ&グローブ看護研究入門ー実施・評価・活用ー 【指定図書】【参考書】はWebシラバスの「追加情報」を参照すること。		
履修資格			

科目名	看護研究方法論Ⅱ	2単位	後期
担当教員	糸島 陽子・横井 和美・荒川 千登世		
授業概要	専門看護師が、看護研究を進める際に必要な基礎的知識を学習する。様々な臨床データの取り方、処理の仕方、論文作成、プレゼンテーションの方法を学習する。		
到達目標	(1)研究疑問を解決するため、研究計画書を作成することができる。		
成績評価	到達目標(1)については プレゼンテーション(20%) ディスカッション(20%) 課題レポート(60%)で評価する		
テキスト 指定図書 参考書	講義中に紹介		
履修資格			

科目名	看護政策論	2単位	前期
担当教員	小林 孝子		
授業概要	国・都道府県・市町村における社会・医療のニーズに対する看護政策の在り方とその政策過程を理解する。また看護政策が策定される過程を検討し、住民の健康課題の解決に寄与できる看護政策立案に向けて政策策定能力の基礎的能力を養う。		
到達目標	(1)政策とは何かを理解する。 (2)政策の策定過程を理解する。 (3)看護職の抱える課題を理解し、現行の看護政策と関連づけることができる。 (4)課題解決のための行動方針・計画を考えることができる。 (5)課題解決のための看護政策が立案できる。		
成績評価	到達目標(1)(4)(5)：レポート(50%) 到達目標(2)(3)：ディスカッション(30%)、プレゼンテーション(20%)		
テキスト 指定図書 参考書	見藤隆子他「看護職者のための政策過程入門」日本看護協会出版会、看護法令要覧 日本看護協会出版会、井部俊子・中西睦子「看護管理学学習テキスト⑦看護制度・政策論」日本看護協会出版会		
履修資格			

科目名	看護理論	2単位	前期
担当教員	窪田 好恵		
授業概要	看護学の歴史と哲学、論理的推考、理論開発等を探究し、看護現象を把握するための能力を高める。看護理論の発展過程を踏まえながら看護理論の現状について概説し、理論と実践への適用・課題について教授する。また、看護の焦点となる現象と理論を構成する概念との関係について解説し、看護理論を看護実践の機能の中へ組み入れる方法について教授する。		
到達目標	1. 看護学の発展と看護理論の関係、理論の生成とその意味の理解を深める。 2. 看護の基本概念としてのパラダイムの意味を理解し、諸哲学との関係を探求する。 3. 看護モデルや理論の構成要素、概念を明らかにし分析、評価の視点を学び、実践との関連性を探る。		
成績評価	授業でのプレゼンテーション (50%)・レポート (50%)		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：ジャクリン・フセツ著（太田喜久子他訳）：看護理論の分析と評価，廣川書店・バック・スローキム（上鶴重美訳）：看護学における理論思考の本質，日本看護協会出版会 指定図書：・ガートルト・トリス著（横尾京子他訳）：看護理論と看護過程，医学書院． 参考書：適宜、紹介する。		
履修資格			

科目名	看護倫理	2単位	前期
担当教員	糸島 陽子		
授業概要	現代社会における倫理的課題について概観し、人の生と死、個人の尊厳と権利、安全で安寧な生活、健康をめぐる様々な倫理的課題とその解決の方略を検討する。その中で、看護専門職のあり方・役割・責任について、看護倫理学の視点から理論的に考察し探求する。		
到達目標	(1)臨床・教育・研究における倫理的課題と解決のための方略を理解することができる。 (2)倫理的看護実践について理解することができる。		
成績評価	到達目標(1)(2)については 課題レポート (40%：(1)20%(2)20%) プレゼンテーション (20%：(1)10%(2)10%) ディスカッション (40%：(1)20%(2)20%) を総合的に評価する 講義内容は一部変更することもある		
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】 サラ T.フライ（片田範子訳）：看護実践の倫理【第3版】日本看護協会出版会 2010 講義中に紹介		
履修資格			

科目名	基盤看護学特別研究	8単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	基盤看護学分野では、当該領域の専門的な知識と研究方法・技術等を適用し、実証的・開発的な研究を指導する。		
到達目標	①看護学の新規な知見を含み、かつその内容が看護学の発展に貢献できる学術的な論文を作成する ②看護学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づいて看護を実践的・開発的に展開していく能力を身につける		
成績評価	修士論文、修士論文発表会、最終試験の結果を総合して審査する。		
テキスト 指定図書 参考書	担当教員が別途指示する。		
履修資格			

科目名	継続療養特論	2単位	前期
担当教員	森 敏		
授業概要	患者指導に必要な基礎的および専門的知識を獲得するため、疾患の治療法、予防法、さらに食事療法について学ぶ。すなわち、各疾患の成り立ちと治療過程の理解力を養う。		
到達目標	(1) 高齢者の身体・精神特性を説明できる。 (2) 認知症、パーキンソン病、脳血管障害など、日常よく見られる疾患の症候・診断・治療・ケアを説明できる。		
成績評価	出席が前提。 小試験・レポートにて判定。		
テキスト 指定図書 参考書	森敏著「認知症のとりえ方・対応の仕方、改訂4版」(金芳堂) 授業用レジメ		
履修資格	成人健康支援特論、成人健康支援演習を履修する者		

科目名	形態機能・生体機構学演習	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	神経疾患に関連する内外の論文を読み、研究の現状を把握する。その過程で神経疾患の看護に関する研究テーマを発見し、研究デザインを指導する。(平成27年度不開講)		
到達目標	看護研究のテーマをみつけ、研究デザインができる。		
成績評価	レポート		
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。		
履修資格			

科目名	形態機能・生体機構学特論	2 単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	脳と神経の構造と機能を概説し、神経疾患の発症機構、治療、看護の最前線について学習する。(平成 27 年度不開講)		
到達目標	神経系の病気の概略を説明できる。		
成績評価	レポート		
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。		
履修資格			

科目名	公衆衛生看護学演習	2 単位	後期
担当教員	小林 孝子		
授業概要	公衆衛生看護活動の歴史と変遷をふまえた諸理論について検討し、知識を深める。人びとの潜在化した健康課題を顕在化し、個別支援からグループ支援、地域での健康活動へと推進する高度な専門的能力を養成する。また、基礎となる考察力を高めるために文献講読を行う。国内外の活動事例を検証する過程で、その活動の有効性や課題について考察し、研究活動を行う上での資料とする。		
到達目標	到達目標 1：地域の人々の潜在化している健康課題と関連する概念を説明できる。 到達目標 2：健康課題と解決に向けた方法論を説明できる。 到達目標 3：健康課題に関連する論文のクリティークができる。 到達目標 4：文献講読をもとに、課題解決にむけた方法の有効性を説明できる。		
成績評価	到達目標 1： 15% (プレゼンテーション 10%、ディスカッション 5%) 到達目標 2： 15% (プレゼンテーション 10%、ディスカッション 5%) 到達目標 3： 30% (プレゼンテーション 20%、ディスカッション 10%) 到達目標 4： 40% (プレゼンテーション 10%、ディスカッション 10%、レポート 20%)		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する		
履修資格			

科目名	公衆衛生看護学実践演習	2 単位	前期
担当教員	小林 孝子		
授業概要	地域で生活する個人、集団ならびにそれらを取り巻く地域を対象とした総合ケアシステムについての理解を深める。地域の健康課題の明確化、それらを解決するための支援計画、実践、評価という一連の地区活動について実習を行う。保健所・保健センター・地域包括支援センターや企業の健康管理部門などでの実習をとおして、地域で生活する個人、家族、集団を対象とした公衆衛生看護活動を展開するための基礎的能力を養う。特に保健所においては公衆衛生看護管理を、市町においては住民と一体となった公衆衛生看護活動の実践について学ぶ。(平成 27 年度不開講)		
到達目標			
成績評価			
テキスト 指定図書 参考書			
履修資格			

科目名	公衆衛生看護学特論	2単位	前期
担当教員	小林 孝子		
授業概要	公衆衛生看護の発展の歴史から、概念や活動の理論的根拠を理解し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。さらに地域の人びとの健康ニーズの把握・アセスメント・看護活動の計画・実施・評価の過程が理解でき、住民と協働する公衆衛生看護活動のあり方を主体的に学ぶ。		
到達目標	到達目標1：Primary Health Care 及び Health Promotion の理念について、公衆衛生看護の実践と関連付けて説明することができる。 到達目標2：保健師のコンピテンシーについて、自分の考えを述べることができる。 到達目標3：公衆衛生看護活動に用いられる理論を理解し、実践への適応について説明することができる。 到達目標4：公衆衛生看護において課題となる現象を明確化し、課題の解決に向けた方法論を論述できる。		
成績評価	到達目標1： 20%（プレゼンテーション 10%、ディスカッション 10%） 到達目標2： 20%（プレゼンテーション 10%、ディスカッション 10%） 到達目標3： 20%（プレゼンテーション 10%、ディスカッション 10%） 到達目標4： 40%（プレゼンテーション 10%、ディスカッション 10%、レポート 20%）		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する		
履修資格			

科目名	公衆衛生看護技術特論	2単位	前期
担当教員	小林 孝子 ・ 植村 小夜子		
授業概要	公衆衛生看護は、公衆衛生学および看護学に基礎を置き、住民の健康の保持増進を図ることを含め、地域社会に現存する健康問題を把握し、問題解決のために実践する保健・医療・福祉活動を指す。この活動は、地域を巻き込んで教育的・組織的に行う看護活動である。ここでは、公衆衛生看護活動に必要な技術について、個人・家族・集団の健康に影響する環境を踏まえ、保健師がどのような技術を用いて活動すれば、個人から集団までのすべてを包括した地域全体の健康・QOLの向上につながるか、保健活動の現状分析から課題・対策まで検討する。		
到達目標	(1)地域社会に現存する健康問題を説明することができる。 (2)問題解決のために実践する保健・医療・福祉活動について説明することができる。 (3)地域全体の健康・QOLの向上につながる保健師の技術について説明することができる。		
成績評価	(1)(2)(3)について、プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	後日指定 【授業開始までに、各社から出ている「地域看護学」「公衆衛生看護学」「公衆衛生学」「ヘルスプロモーション」に関する文献を読んで参加のこと。又授業の中で参考図書等を指定する】		
履修資格			

科目名	公衆衛生看護技術演習	2単位	後期
担当教員	小林 孝子 ・ 植村 小夜子		
授業概要	公衆衛生看護活動は、地域を巻き込んで教育的・組織的に行う看護活動である。公衆衛生看護活動に必要な技術について、個人・家族・集団の健康に影響する環境を踏まえ、保健師がどのような技術を用いて活動すれば、個人から集団までのすべてを包括した地域全体の健康・QOLの向上につながるか、保健活動の現状分析から課題・対策まで検討した上で、自らの活動の中から、また文献から公衆衛生看護活動の実際を探り、発表をする。更に、その内容について討議をしてそこにある課題について検討する。		
到達目標	(1)地域社会の健康問題について、事例分析と文献検討によって説明することができる。 (2)問題解決のための保健・医療・福祉活動について、事例分析と文献検討によって説明することができる。 (3)公衆衛生看護活動における保健師の技術について、事例分析と文献検討によって説明することができる。		
成績評価	(1)(2)(3)について、プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	後日指定 【授業開始までに、前期の図書とともに、各社から出ている「地域看護学」「公衆衛生看護学」「ヘルスプロモーション」「健康教育」等に関する文献を読んで参加のこと。又授業の中で参考図書等を指定する。】		
履修資格			

科目名	コンサルテーション論	2単位	前期
担当教員	甘佐 京子 ・ 吉田 智美※		
授業概要	コンサルテーションの定義、目的、タイプ、プロセス、評価方、法及び有用な相談プロセスが共有展開できるための方法論等を論じ、医療の専門職や医療従事者が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。		
到達目標	1. コンサルテーションの定義、目的・プロセスについて理解できる 2. 医療の対象者及び医療従事者に対するコンサルテーションの基本的な実践能力を身につける		
成績評価	レポート 70%、ディスカッションでの発言およびプレゼンテーション 30%		
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】適宜紹介する【参考書】E.H.Schein:プロセス・コンサルテーション,宮本真巳:感性を磨く技法4面接技法から学ぶ,日本看護協会出版会. 白桃書房.信田さよ子:アディクションアプローチ 他		
履修資格			

科目名	生涯健康看護学特別研究	8単位	通年
担当教員	専攻教員		
授業概要	生涯健康看護学分野では、対象となる人々とその家族の健康増進および継続的な療養生活を支援・評価するための研究を指導する。		
到達目標			
成績評価	修士論文、修士論文発表会、最終試験の結果を総合して審査する。		
テキスト 指定図書 参考書	担当教員が別途指示する。		
履修資格			

科目名	小児家族看護学演習	2単位	後期
担当教員	古株 ひろみ		
授業概要	障害や疾病がある子どもとその家族の状態について、倫理的配慮を含めて包括的に査定・援助する方法を議論させる。また、子どもとその家族の実態についてフィールドワークなどより理解を深め、その問題点と援助方法を探求し、自己の研究課題・研究方法を明確化させる。		
到達目標	(1) 文献検討や資料からさまざまな健康状態の子どもとその家族における課題について説明できる。 (2) 課題解決に向けた子どもの権利を尊重し、小児の発達をふまえた看護援助方法を考究できる。		
成績評価	到達目標(2)についてはレポート(70%)で、到達目標(1)についてプレゼンテーション(30%)で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	資料配付、適宜提示		
履修資格			

科目名	小児家族看護学特論	2単位	前期
担当教員	古株 ひろみ		
授業概要	代表的な発達理論について解説し、障害や疾病がある子どもとその家族の健康生活・QOL、子どもの成長発達と生活環境、家族の構成・機能・発達・コーピング、ソーシャル・サポートの観点から分析・アプローチする方法をを説明することができる。		
到達目標	(1) 子どもとその家族の理解を深めるため発達理論、家族看護学理論などの理論を説明できる。 (2) 子どもとその家族へのケアに関連する先行研究をクリティークし、子どもの成長発達、家族機能を強めるアプローチ方法が探究できる。		
成績評価	到達目標(2)についてはレポート 50%で、到達目標(1)についてはプレゼンテーション 50%で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	資料配付、適宜提示		
履修資格			

科目名	人類科学特論	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	個体発生を軸にヒトの特性を考える。講義の前半では発生学の英文原著を輪読しながら、発育段階、成長因子、生殖医療などを概観する。後半では、老化を含め、ヒトの発生、成長とその医療に関する英文論文の抄読を行う。(平成 27 年度不開講)		
到達目標	ヒトの発生過程と老化の過程の概略が説明できる。		
成績評価	レポート		
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する。		
履修資格			

科目名	スピリチュアルケア展開演習	2単位	前期
担当教員	甘佐 京子 ・ 牧野 耕次		
授業概要	スピリチュアルな次元(「意気」及び「観念」)に焦点を当てた援助的介入法について模擬実演及び体験学習を通して探究する。(平成 27 年度不開講)		
到達目標			
成績評価	未定		
テキスト 指定図書 参考書	講義初日に提示する。		
履修資格			

科目名	精神看護援助方法論	2単位	後期
担当教員	甘佐 京子 ・ 牧野 耕次		
授業概要	看護介入の基本を提供するため、精神病理のアセスメントと診断のためのパラダイム(理論的枠組み)強調し、「異常」といわれる基本的な特質について学習する。病因学・症候学・病気の経過や見通しに関する研究成果を概念づけるために、相互作用的研究パラダイムについても学習する。		
到達目標	1. 精神病理とそのアセスメントと診断に関する理論を比較・対照できる 2. 研究から得られた、精神疾患の病因学・症候学・病気の経過や見通しに関する知識を習得する。 3. 精神病理とそのアセスメントと診断を看護の視点から批判的に評価判定することができる。		
成績評価	レポート 50%、プレゼンテーション 30%、ディスカッション 20%		
テキスト 指定図書 参考書	講義初日に提示する。		
履修資格			

科目名	精神看護関連技法演習	2単位	後期
担当教員	甘佐 京子 ・ 牧野 耕次		
授業概要	精神看護の関連技法の理論的背景を知り、その知識や技法を看護実践に応用していく方策について検討していく。		
到達目標	精神看護の関連技法の理論的背景を理解し、その知識や技法を看護実践に応用していく方策について自己の考えを述べることができる。		
成績評価	授業終了時レポート課題(100%)		
テキスト 指定図書 参考書	適宜提示		
履修資格			

科目名	成人継続看護学演習	2単位	後期
担当教員	糸島 陽子 ・ 横井 和美 ・ 荒川 千登世		
授業概要	継続的な健康障害を有する人々の心身への状況・生活上の諸問題をアセスメントするための理論とEBNに基づいた支援技術について探究する。		
到達目標	(1)健康障害を有する成人の心身の状況・生活上の諸問題をアセスメントするための理論について理解できる。 (2)継続的な健康障害を有する人々への支援技術について探求できる。		
成績評価	到達目標(1)(2)について プレゼンテーション (20% : (1)10%(2)10%) ディスカッション (20% : (1)10%(2)10%) レポート (60% : (1)30%(2)30%) より総合的に評価		
テキスト 指定図書 参考書	講義中に紹介		
履修資格			

科目名	成人継続看護学特論	2単位	後期
担当教員	糸島 陽子 ・ 横井 和美 ・ 荒川 千登世		
授業概要	健康障害を有する成人とその家族への看護に有用な概念・理論・看護モデルを概観した上で、看護治療技術や評価尺度開発に関連した文献レビュー・クリティークを行い、ディスカッションを通して EBN に基づいた継続看護について探求する。		
到達目標	(1)健康障害を有する成人とその家族への看護に有用な概念・理論・看護モデルについて理解できる。 (2)対象の状況に応じて理論を活用して看護現象を分析し、援助方法について探求できる。		
成績評価	プレゼンテーション (約 20%) ・ ディスカッション (約 20%) ・ 課題レポート (約 60%) より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	講義中に紹介		
履修資格			

科目名	成人健康支援演習	2単位	後期
担当教員	森 敏		
授業概要	「継続療養特論」「成人健康支援特論」で学んだ知識を基に、健康障害を持つ人への具体的な生活支援法を学ぶ。また、演習・実習を通して、患者自らが疾患を自己管理（セルフケア）できるよう指導する能力を養う。		
到達目標	(1) 健康障害を持つ人に対して、生活支援を行える。 (2) 健康障害を持つ人に対して教育的介入を行い、疾患の自己管理ができるように導くことができる。 (3) 食事指導・療養指導・生活指導など、具体的な健康支援策を実践できる。		
成績評価	実践記録ならびにレポートで評価を行う。		
テキスト 指定図書 参考書	随時紹介		
履修資格	継続療養特論、成人健康支援特論を履修済の者		

科目名	成人健康支援特論	2単位	後期
担当教員	森 敏		
授業概要	「継続療養特論」に続いて、さまざまな神経疾患の診断法・治療法・予防法について学ぶ。また、脳神経疾患のフィジカルアセスメント、神経疾患患者に対する食事指導法・生活指導法についても教授する。		
到達目標	(1) 神経系の形態・機能を理解している。 (2) 神経疾患の診断・治療・ケアを説明できる。 (3) 神経疾患の予防法・リハビリテーションを理解し、生活指導に活かすことができる。		
成績評価	出席が前提。 定期試験(90%)、出席点 (10%)。		
テキスト 指定図書 参考書	テキストは随時紹介 授業用レジメ		
履修資格	継続療養特論を履修済みの者		

科目名	精神の健康生活評価法	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	精神の正常・異常と健康・病気は、事例性と疾病性として同じではない。しかし、健康な生活には両方からのアプローチが必要であり、健康増進プログラムの立案、実施、評価のためには、まずアセスメント（査定・評価）が確実に果されることである。ここでは、精神の健康をめぐって様々な評価法の基本を教授し、演習形式で知識と技術の獲得、実習によって実戦能力を養う。（平成 27 年度不開講）		
到達目標	精神の健康生活評価法についての知識、技術が獲得され、応用できるものになったか。		
成績評価	発表(50%) 発表への取り組み（50%）		
テキスト 指定図書 参考書	テキストは指定しない。 指定図書：臨床心理学全書『臨床心理査定学、臨床心理査定 1、2』誠信書房 参考書：心理測定尺度集Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ 山野眞理子他 編 サイエンス社		
履修資格			

科目名	生体感染特論	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	現在の医療現場は、看護分野においても感染についての問題を多くかかえている。その状況に的確に対処するために必要な感染症とその変遷、抗生物質周辺の問題、易感染状態、臓器移植、持続感染・再活性化等のテーマを感染時におこる生体側の反応を中心として深く論議する。（平成 27 年度不開講）		
到達目標	病原体の基本的性質を理解し、あわせて感染に対して生体がどのような反応を起こすかを理解する。		
成績評価	口頭試験 100%		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト「病原体・感染・免疫」（南山堂）		
履修資格			

科目名	組織行動マネジメント論特論	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	組織で働く人々が示す行動や組織の動きについて体系的に学び、それにより人と組織がどのように行動するか探求する。（平成 27 年度不開講）		
到達目標	以下について説明・考察できる。 1・保健医療福祉を取り巻く環境の変化は、社会生活医療サービスなど不断に適応させて最適な組織で進歩と改善を目指し生産性の向上を図っている組織行動 2・生産性は組織の活性化、人的資源の推進や人材育成より達成する組織行動 3・人的資源としての個人の意志決定行動		
成績評価	プレゼンテーション 20% デスカッション 20% 課題レポート 60%で総合的に判断する		
テキスト 指定図書 参考書	参考図書(必要時提示する) ・組織行動のマネジメント：ダイヤモンド社 ・医療の生産性向上と組織行動：診断と治療社 ・行動科学の展開：生産性出版 ・マネジメント：ダイヤモンド社		
履修資格			

科目名	組織行動マネジメント論演習	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	組織行動論において研究された組織コミットメントが組織キャリアの進展によって変化していく様相を探究する。(平成27年度不開講)		
到達目標	組織コミットメントの概念を明らかにしキャリアの発達と組織コミットメントの変化を検討評価できる		
成績評価	プレゼンテーション 60% デスカッション 40%		
テキスト 指定図書 参考書	参考書(適宜提示する) キャリアダイナミックス：白桃書房・キャリアドメイン：千倉書房 キャリアデザインガイド：白桃書房・キャリアアンカー：白桃書房 組織と個人：白桃書房マネジメントの探究：ライフサポート社		
履修資格	組織行動マネジメント論特論を履修していること		

科目名	病原微生物制御・疫学演習	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	看護者として感染制御に必要な知識に基づき、感染、流行に関連する国内外の指針・文献・資料を検討、現状と問題点を把握させる。さらに論議を通じて修士研究につながるテーマを探らせる。(平成27年度不開講)		
到達目標	感染症とその治療と予防についての知識の習得により修士論文作成の基礎とする。		
成績評価	口頭試験 100%		
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】「病原体・感染・免疫」(南山堂)		
履修資格			

科目名	病原微生物制御・疫学特論	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	看護に必要な病原微生物の特性、感染・流行様式についての深い知識の習得をはかる。病原微生物の変異のしくみや微生物検査への学習をすすめる、さらに流行を疫学的立場からの理解を図る。これらの科学的根拠に基づき、感染から医療従事者と患者の安全を確保するための医療施設におけるさまざまな感染制御(ワクチン、物理的、化学的等)の方法について教授する。(平成27年度不開講)		
到達目標	(1)感染予防の知識を得て病原体の感染から身をまもる方法について基本的な説明ができること。特に標準予防策についての最新の知識について理解できること。 (2)現在、どのような感染症が問題になってどのような対策が考えられているかについて説明できること。		
成績評価	口頭試験 100%		
テキスト 指定図書 参考書	【テキスト】「病原体・感染・免疫」(南山堂)		
履修資格			

科目名	母性看護学演習	2単位	後期
担当教員	渡邊 香織 ・ 古川 洋子		
授業概要	女性の健康支援に関する国内外の関連論文を購読し、研究方法を探究するとともに、実践への適用を検討する。		
到達目標	1. 女性のライフステージにおけるリプロダクティブヘルス/ライツに関連した先行研究をcritiqueし、女性の健康維持・増進をもたらす看護援助を深く考察できる。 2. 周産期母子看護に関する国内外の文献を講読し、周産期ケアの研究と実践の動向および今後の課題が把握できる。 3. 学習を通じて習得した知識と方法で、母性看護に活用できる看護支援モデルが検討できる。		
成績評価	到達目標で示す1) 2) 3) については、課題発表・課題レポートで、1) 30%, 2) 30%, 3) 40%で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。		
テキスト 指定図書 参考書	日本助産学会誌、母性衛生、日本看護研究学会誌、日本看護科学学会誌等		
履修資格			

科目名	母性看護学特論	2単位	後期
担当教員	渡邊 香織 ・ 古川 洋子		
授業概要	女性の健康支援に用いられる諸理論や諸概念を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツに関する今日的課題を追求すると共に、ライフステージからみた女性の健康問題や周産期母子及び家族の看護ニーズへの看護援助方法を探究する。		
到達目標	1. 系統的文献検索を基に、女性の健康、リプロダクティブヘルス/ライツにおける主要な理論および概念が理解できる。 2. 女性の各ライフステージにおける健康に影響を与える要因が説明できる。 3. 女性の健康における課題と母性・助産専門家の役割が考察できる。 4. 女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論が理解できる。		
成績評価	1. 系統的文献検索を基に、女性の健康、リプロダクティブヘルス/ライツにおける主要な理論および概念が理解できる。25% 2. 女性の各ライフステージにおける健康に影響を与える要因が説明できる。15% 3. 女性の健康における課題と母性・助産専門家の役割が考察できる。30% 4. 女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論が理解できる。30% 課題発表 70%、課題レポート 30%		
テキスト 指定図書 参考書	【参考文献】 適宜紹介する		
履修資格			

科目名	慢性看護学課題研究	2単位	通年
担当教員	横井 和美 ・ 荒川 千登世 ・ 糸島 陽子		
授業概要	慢性病とともに生活している人々への看護実践活動の分析と評価、効果的な看護展開方法や支援システムの構築等に関する課題をみつけ、研究をすすめる。また、専門看護師が自ら専門機能発揮の基盤を作り出す取り組みにおいて必要となる能力を育成する。		
到達目標	実習施設および自施設における看護実践の現場の状況を素材として、活動の基盤作りおよび体制作りを実地に取り組み、その過程で必要となることを学ぶ。この過程では、取り組みの意図と計画、対応方法と対応結果など、具体的事実をデータ化し、目的に向けた成果など考察し、それらの取り組みを踏まえ、課題研究レポートを作成する。		
成績評価	課題レポート（100%）慢性看護学実習Ⅱでの専門看護師としての実践（卓越した実践・教育・相談・調整・研究・倫理を含む）を、理論に基づき分析・考察している（60%）・専門看護師看護実践の発展に寄与できる新たな看護方法の導入・開発を視野に入れている（40%）		
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する		
履修資格			

科目名	慢性看護学実習Ⅰ	2単位	後期
担当教員	横井 和美 ・ 未定		
授業概要	慢性看護学実習Ⅰでは、慢性病患者をもつ人々との関わりを通し慢性病患者の体験世界に理解を深め、慢性病患者が求める看護ケアを提供するために、臨床で行われている高度で専門的な看護実践について臨地で学習する。		
到達目標	サブスペシャリティの専門看護師が所属する施設で実習を行い、慢性病患者をもつ人々を看護する領域における高度な看護実践の指導（専門看護師）を受けながら、慢性疾患および生活習慣病の予防、健康増進、およびセルフマネジメントに関する看護実践の技術を修得し、看護実践能力を高める。また、専門看護師によるコーディネーションやコンサルテーション、倫理調整を実際から学び、専門的な看護援助能力を培う		
成績評価	理論を基盤とした実習計画の立案（30%） 専門看護師の役割理解（40%） 専門看護師の実践に対する理論的分析（30%）		
テキスト 指定図書 参考書	実習の中で適宜紹介する		
履修資格			

科目名	慢性看護学実習Ⅱ	4単位	前期
担当教員	横井 和美 ・ 未定		
授業概要	慢性看護学実習Ⅱでは、実習Ⅰで獲得した実践技術を活かし、CNSとしての役割獲得ができるようスーパーバイザーの指導を受けながら、学生の関心領域である慢性病および生活習慣病の予防、健康増進および生活調整において、自らが高度な看護実践能力を統合して発揮できるような実習計画を立案し実施することによって、専門看護師に必要な実践能力を高める。		
到達目標	①慢性疾患の予防、健康増進および生活調整に関する高度な看護知識・技術を使って、個人・家族・集団を対象に看護を実践する。 ②看護職者に対して、看護ケアの向上を支えるための教育的機能を果たす。 ③看護職者を含むケア提供者に係わるコンサルテーションを実践する。 ④慢性疾の予防、健康増進および生活調整に関する高度な看護知識・技術を使って、多専門職におけるケアの調整を実践する。 ⑤慢性病者の看護を行う上での倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理調整を実践する。 ⑥看護職者が実践の改革者としてどのように機能していくか、また総合的に組織や人に働きかけていくか実習を通して学び、慢性疾患看護専門看護師の機能や役割について探求する。 ⑦当該実習で深めた内容を踏まえ、計画的・探求的・意図的に行った実践についてまとめる。 慢性疾患看護の関心領域における実践事例をもとに看護課題を焦点化し、研究の手法を用いて探求する。		
成績評価	実習目標の明確化・妥当性(20%) 実習計画の妥当性 (20%) 実習計画の実践状況・目標の達成度(30%) 看護実践活動に対する理論的分析・評価 (30%)		
テキスト 指定図書 参考書	実習の中で適宜紹介する		
履修資格	慢性看護学実習Ⅰを修得している		

科目名	慢性看護学特論 A	2 単位	前期
担当教員	横井 和美 ・ 未定 ・ 荒川 千登世 ・ 糸島 陽子		
授業概要	慢性病者やその家族の心理的特徴や行動の理解を深める諸理論の内容を学習し、慢性看護の実践と研究への活用及び適用を探求する。		
到達目標	慢性病者やその家族の行動や心理的特徴の理解を深める代表的な理論の内容について説明できる。 対象者理解を深めるための、理論活用方法を身につける。		
成績評価	プレゼンテーション（約 20%）・ディスカッション（約 20%）・レポート（約 60%）より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：アイリーン・モロフ・ラブキン、パメラ D. ラーセン著「クロニックイルネス 人と病いの新たななかかわり」医学書院 指定図書：黒江ゆり子 「慢性疾患の病みの軌跡—コービンとストラウスによる看護モデル」医学書院。南裕子訳「慢性疾患を生きる」医学書院。 参考書：授業の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	慢性看護学特論B	2単位	後期
担当教員	横井 和美 ・ 未定 ・ 角野 文彦※ ・ 荒川 千登世 ・ 糸島 陽子		
授業概要	健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用されてきた医療・福祉の制度や体制を学び、今日、慢性病患者を取り巻く様々な場面でのヘルスプロモーションを把握するとともに、今後の課題や新たな医療・福祉制度を追求する。慢性病患者の医療・福祉制度や体制をヘルスプロモーションの変遷の視点でとらえ、慢性病患者が生活している様々な現場に実施されている医療・福祉制度と支援状況を紹介し、今後の医療・福祉制度の変遷を見極め、新たな制度や体制づくりへの創起に役立てる。		
到達目標	1. 健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用されてきた医療・福祉の制度や体制を説明できる。 2. 医療・福祉制度・体制をヘルスプロモーションの変遷の視点で説明できる。 3. 慢性病患者に対するヘルスプロモーションについて今後の課題や新たな医療・福祉制度を検討できる。		
成績評価	プレゼンテーション（約 20%）・ディスカッション（約 20%）・レポート（約 60%）より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	慢性看護支援論A	2単位	前期
担当教員	横井 和美 ・ 未定 ・ 荒川 千登世 ・ 糸島 陽子		
授業概要	慢性病患者を支援するための諸理論やモデルに基づく支援技術とその評価方法を学習し、慢性病患者の事例に適用して、具体的な支援方法や評価方法を検討する。慢性病患者を支援するための諸理論やモデルを講義にて紹介し、支援技術が示された事例や文献レビューを行い、事例の情報を基に理論やモデルから導き出される支援方法を検討する。最終的には学生の関心領域である慢性病患者の特徴を支援する方法や評価方法を検討する。		
到達目標	1. 看護に活用される中範囲理論について、説明できる。 2. 看護現象を看護理論を用いて説明できる。 3. 看護問題を解決するための看護治療技術について、理論を用いて説明できる。		
成績評価	プレゼンテーション（約 20%）・ディスカッション（約 20%）・レポート（約 60%）より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する		
履修資格			

科目名	慢性看護支援論B	2単位	後期
担当教員	横井 和美 ・ 荒川 千登世 ・ 糸島 陽子		
授業概要	慢性病の様々な変化する時期に対応した情緒的支援および症状マネジメントのための支援技術の修得と評価方法について理解を深め、慢性病患者のエンドステージでの支援についても看護のあり方を追求する。慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術について理論を講義にて学び、各病期における主な支援技術方法の習得とその評価方法についてもデータを用いて検討する。		
到達目標	学生の関心のある慢性病患者の新たな支援技術に対する教育的プログラムを立案する。		
成績評価	プレゼンテーション（約 20%）・ディスカッション（約 20%）・レポート（約 60%）より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	慢性看護支援論C	2単位	後期
担当教員	横井 和美・未定・荒川 千登世・糸島 陽子・伊波 早苗※		
授業概要	慢性病者の質の高い生活に向けて、一次予防、二次予防、三次予防における治療環境の整備や、地域支援の現状と課題について検討し、療養生活をよりよく継続しながら社会生活を営むための連携の在り方、地域での療養生活における家族支援や地域社会支援の実践を理解し、円滑に療養生活を送れるための環境調整の方策について学ぶ。		
到達目標	1. 慢性病者の質の高い生活に向けての治療環境について検討できる 2. 慢性病者を支援する継続看護に必要な調整内容について説明できる 3. 治療環境・支援チームの連携のグループ・ダイナミックスについて説明できる 4. 慢性病者を支援するチーム連携と継続看護の方向性について検討できる		
成績評価	プレゼンテーション（約20%）・ディスカッション（約20%）・レポート（約60%）より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	慢性看護支援論演習	2単位	通年
担当教員	横井 和美・未定・荒川 千登世・糸島 陽子・森 敏		
授業概要	フィジカルイグザミネーションの技術習得および検査の見方など身体的アセスメントに必要な知識・技術の修得を基盤に、対象者の心理社会的な側面のアセスメントの視点を学び、さまざまな事例を通して包括的なアセスメントできる能力を身に付ける。		
到達目標	慢性病者の複雑な状態を理解するためのフィジカルアセスメントの知識と技術の習得をはじめ、各発達段階における心理・社会的特徴からのアセスメントの視点を学ぶ。さらに、さまざまな慢性病者の事例の身体・心理・社会面等からのアセスメントの視点や方法を学び、包括的なアセスメント能力を高める。		
成績評価	プレゼンテーション（約20%）・ディスカッション（約20%）・レポート（約60%）より総合的に評価する		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する		
履修資格			

科目名	メンタルケア展開演習	2単位	後期
担当教員	未定		
授業概要	健康維持や増進、回復に必要な人格変容や行動変容を主目的とした対人関係療法的アプローチの基本的枠組みを教授する。そのために、臨床現場で見られる不適応行動や精神病理現象を深層心理学的視点から明らかにし、実践的な援助的対人関係モデルの適用を考究する。（平成27年度不開講）		
到達目標	事例検討によって、事例の見方、関係性の展開、実践的な対人援助など新しい視点の獲得と臨床力を高めること。		
成績評価	事例発表（30%）、事例への取り組み（50%）、レポート（20%）		
テキスト 指定図書 参考書	指定しない。その都度、必要に応じて提示する。		
履修資格			

科目名	薬物治療学	2単位	前期
担当教員	土田 勝晴※ ・ 竹内 孝治※		
授業概要	薬物療法に関する情報は増加の一途にあり、新しい薬理作用を持つ薬物が実地臨床に次々と登場している。種々の疾患に対して安全性と有効性に関する科学的根拠に基づいた薬剤選択を行うためには、多様な薬物に関する情報を的確に整理し活用することが重要であるとともに薬理作用や副作用発現のメカニズムを熟知することが必要である。本講義では慢性疾患に関する薬物治療について学習する。		
到達目標	主要薬剤の適応症、副作用、作用機序を理解する。(レポートと試験で確認)		
成績評価	レポート (50%) と期末試験 (50%) で評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	治療薬イラストレイテッド 山田信博編 羊土社		
履修資格			

科目名	臨床対人関係特論	2単位	前期
担当教員	未定		
授業概要	精神看護の実践領域及び臨床心理学領域において重要な対人関係の形成とその精神病理を明らかにする方法として、英国対象関係論のクライン派精神分析を取り上げ、その理論を教授する。(平成 27 年度不開講)		
到達目標	対象関係のメカニズムと発生病理の理解をクライン派精神分析学から学ぶこと。		
成績評価	講読・演習 (70%)、レポート (30%)		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：「対象関係論を学ぶ クライン派精神分析入門」松木邦裕 岩崎学術出版社 参考図書：その都度、紹介する。		
履修資格			

科目名	老年看護援助展開演習	2単位	後期
担当教員	平田 弘美		
授業概要	様々な場で生活する認知症および身体障がいを持つ高齢者の身体・精神状況をアセスメントし、生活の場の違いによる援助方法を検討する。また、認知症および身体障がいを持つ高齢者への援助方法・システム等を諸外国と比較検討し、総合的な援助実践能力を養う。		
到達目標	1. 高齢者に関する外国の文献を理解し、クリティークすることができる。 2. 自分の意見を理論的にまとめ、ディスカッションすることができる。		
成績評価	到達目標 1 (文献クリティーク 40%) 到達目標 2 (ディスカッション 30%、レポート 30%)		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。		
履修資格	老年看護援助論の履修者または単位取得者		

科目名	老年看護援助論	2単位	後期
担当教員	望月 紀子		
授業概要	健康問題（疾病・障がい）を持つ高齢者とその家族の機能、および在宅・施設（医療施設を含む）におけるケアの現状を、文献や実態から分析し、高齢者看護を実践するために必要な理論・技術を探究する。		
到達目標	(1) 高齢者とその家族の機能について、討議できる。 (2) 看護理論を実践で活用する。 (3) 在宅・施設におけるケアの現状から、看護職の役割・課題を表現できる。		
成績評価	レポート 70%、プレゼンテーション 30% (1) 高齢者とその家族の機能について、討議できる。レポート 10% プレゼン 15% (2) 看護理論を実践で活用するレポ 40%。 (3) 在宅・施設におけるケアの現状から、看護職の役割・課題を表現できる。レ 20% プレ 15%		
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	老年健康生活特論	2単位	前期
担当教員	望月 紀子		
授業概要	高齢者の加齢過程と健康生活についての概念・理論を学び、老いを生きることがを支援する方法を検討する。 （プレゼンテーション・ディスカッションし、老年期の発達の評価と支援方法について導きだす。）（高齢者面接を通して、高齢者の価値観・信条などを含めて、「その人の生き方」についてレポートする。）		
到達目標	(1) 生涯発達における老年期に関する理論を学び、老年期の理解を深める。 (2) 高齢者の心理・社会・身体の側面を評価する方法について検討する。 (3) 高齢者の健康生活を支援する方法について討議する。		
成績評価	(1) 生涯発達における老年期に関する理論を学び、老年期の理解を深める。レポート 20% プレゼン 15% (2) 高齢者の心理・社会・身体の側面を評価する方法について検討する。レ 20% プ 15% (3) 高齢者の健康生活を支援する方法について討議する。レ 10% プ 20%		
テキスト 指定図書 参考書	講義の中で適宜紹介する。		
履修資格			

科目名	老年健康生活評価演習	2単位	後期
担当教員	平田 弘美		
授業概要	高齢者の健康生活に対する評価・介入方法を事例から分析し、家族システム・機能を含めた援助方法について理論と実態から検討する。また、高齢者の QOL を高めるためのケア計画とその評価方法の検討、およびその開発方法について探求する。		
到達目標	1. 高齢者の健康生活に対する評価・介入方法を事例から分析し、家族システム・機能を含めた援助方法について考えることができる。 2. 高齢者の QOL を高めるためのケア計画とその評価方法の検討、およびその開発方法について文献を用いながら探求することができる。 3. 関心のある文献をクリティークし、それを記述しプレゼンテーションすることができる。		
成績評価	到達目標 1（文献クリティーク 20%、ディスカッション 20%） 到達目標 2（文献クリティーク 20%、ディスカッション 20%） 到達目標 3（プレゼンテーション 20%）		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で随時紹介する。		
履修資格	老年健康生活特論の単位取得者		

科目名	老年サポート技術演習	2単位	前期
担当教員	望月 紀子		
授業概要	高齢者を取りまく社会状況および高齢者支援システムについて探究し、看護における課題を検討する。		
到達目標	(1) 高齢者を取りまく社会状況から課題を見出すことができる。 (2) 現代の高齢者支援システムについて、理解できる。 (3) 高齢者支援システムにおける看護職の課題を提示できる。		
成績評価	(1) 高齢者を取りまく社会状況から課題を見出すことができる。レポート・プレゼン 30% (2) 現代の高齢者支援システムについて、理解できる。レポート・プレゼン 30% (3) 高齢者支援システムにおける看護職の課題を提示できる。レポート・プレゼン 40%		
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で適宜紹介する。		
履修資格			

大学院副専攻近江環人地域再生学座の履修について

大学院全研究科共通の副専攻（学座）の設置について

高い専門性の上に、幅広い視野に立って様々な問題を解決へ導く学際的・総合的な知識と実践力を修得するための教育システムとして、全研究科共通の副専攻を設置します。この全研究科共通の副専攻を学座と呼びます。

学座履修の手続き

学座（大学院副専攻コース）を履修し学座提供科目を受講するためには、所定の申請期間中に履修申請し、履修の許可を得ることが必要です。

副専攻修了証書の授与

各自が所属する研究科(主専攻)の修了要件を満たし、学座所定の単位を取得した学生には、主専攻の修了証書とは別に、学長から副専攻の修了証書が授与されます。

近江環人地域再生学座

近江環人地域再生学座では、豊かな自然・歴史・文化に根ざし、環境と調和した持続可能な循環型地域社会の実現を担うリーダー、コーディネーターとしての知識とスキルを修得することができます。近江環人地域再生学座を修了し、検定試験に合格した学生には、学長からコミュニティ・アーキテクト(近江環人)の称号が付与されます(第4章参照)。

学座開講科目と単位について

① 開講科目

<学座専門科目>

必修科目 2科目 4単位	「コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ」	後期・2単位
	「コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ」	前期・2単位

選択必修科目 下記の5科目 10単位から6単位

「地域診断法特論」	前期・2単位
「コミュニティ・マネジメント特論」	前期・2単位
「エコ・テクノロジー特論」	後期・2単位
「地域再生学特論」	後期・2単位
「地域再生システム特論」	前期・2単位

<選択科目>

各研究科(主専攻)から提供される科目（各研究科(主専攻)からの提供科目については下表参照）または学座の選択必修科目の残り科目から合わせて2科目 4単位

② 近江環人地域再生学座（大学院副専攻コース）の修了要件

研究科	課程	専攻	研究部門	学座修了要件単位				学座専門科目 (必修科目4単位を除く)のうち、各研究科で修了要件として認められる単位 (ただし、学座を修了した場合に限る。)	各主専攻から提供される選択科目 (単位数)
				学座専門科目			主専攻科目		
				必修 (※1)	選択必修 (※2)	選択	選択		
環境科学		環境動態学	生態圏環境部門 生物系保全部門 生物生産部門	4単位	6単位 (科目提供する10単位から6単位を取得)	4単位 下記のいずれかから4単位 ①学座の選択必修残4単位 ②学座の選択必修残2単位＋研究科選択科目2単位 ③研究科選択科目4単位	6単位	生物圏環境論(2) 生態系保全特別講義(2) 持続的生物生産論(2)	
		環境計画学	環境意匠部門				10単位	環境造形特論(2) ランドスケープデザイン特論(2) 環境設計特論(2) 居住環境工学(2) 参加型計画運営論(2) 環境政策形成過程論(2)	
			地域環境経営部門						
工学	博士前期	材料科学	無機材料部門 有機材料部門				8単位	天然高分子材料(2)	
		機械システム工学	機械システム工学部門				8単位	信頼性工学(2)	
		電子システム工学	電子工学部門 電子応用部門 情報部門				8単位	荷電粒子ビーム工学(2)	
人間文化学		地域文化学	日本・地域文化論部門 アジア・地域文化論部門 考現学・保存修景論部門				8単位	日本生活文化論(2) 環琵琶湖地域論A、B(各2) 地域産業論A、B(各2) 環琵琶湖保存修景計画論A、B(各2)	
		生活文化学	生活デザイン部門				8単位	住環境デザイン特論B、C(各2) 道具デザイン特論A、B(各2)	
			健康栄養部門				2単位		
			人間関係部門				8単位	社会学特講A、B(各2)	
		人間看護学	基盤看護学分野 生涯健康看護学分野 CNSコース慢性疾患看護学分野				2単位	公衆衛生看護学特論(2)	

(※1)コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ

(※2)地域診断法特論、コミュニティ・マネジメント特論、エコ・テクノロジー特論、地域再生学特論、地域再生システム特論

科目名	エコ・テクノロジー特論	2単位 後期
担当教員	山根 浩二・上田 洋平・河崎 澄・松岡 拓公雄・南川 久人・奥村 進・野間 直彦・高田 豊文・作田 健・芦澤 竜一・未定	
授業概要	サステイナブル・デザインに必要な、省資源、省エネルギー、自然エネルギー、パッシブソーラー、水質浄化などの環境技術、およびそれらを活かして持続可能な環境共生型社会を実現するための技術や制度・政策について体系的に学ぶ。	
到達目標	(1) 主な環境技術の概略を説明できる。 (2) 環境共生型社会の実現に向けた制度・政策の概略を説明できる。 (3) 各種の環境技術や制度を取入れ、活用したまちづくりの提言を行うことができる。 (4) 環境技術の経済性を推算できる。	
成績評価	到達目標に示す「(1) 主な環境技術の概略を説明できる」「(2) 環境共生型社会の実現に向けた制度・政策の概略を説明できる」「(3) 各種の環境技術や制度を取入れ、活用したまちづくりの提言を行うことができる」については課題レポート（65%：毎回の授業レポート13回×5点=65点）、「(4) 環境技術の経済性を推算できる」については期末レポート（35%:35点）により評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	講義内容に応じて、適宜資料を提示・配布する。	
履修資格		

科目名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ	2単位 後期
担当教員	鵜飼 修・上田 洋平	
授業概要	この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。地域での実践をととして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。	
到達目標	(1)自身の適性と能力を的確に把握した上で、目標及び評価基準を的確に設定することができる。 (2)地域診断等の手法を応用して地域課題や地域資源を的確に把握することができる。 (3)地域課題や地域資源の状況に応じて、必要な手法を的確に採用しながらプロジェクトを遂行することができる。 (4)自身の役割や立場を明確にしたうえで、関係者の合意を形成しながらプロジェクトを遂行することができる。 (5)人材を含む地域資源、時間、予算等の与件をマネジメントしながら計画的にプロジェクトを遂行すること、及び現実の遂行段階における状況変化に的確に対応することができる。 (6)地域課題の解決や地域再生に資する結果を適切に総括し、客観的に評価し、今後の展開・発展のために取りまとめることができる。	
成績評価	到達目標に示す、(1) については自己評価シート（40%）、(2) ～ (5) についてはゼミでの報告（40%）、(6) については成果報告資料及びプレゼンテーション（20）により評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	各ゼミにおいて適宜配布する。	
履修資格		

科目名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ	2単位 前期
担当教員	松岡 拓公雄・上田 洋平・河崎 澄・山根 浩二・高田 豊文・鵜飼 修	
授業概要	エコ・テクノロジー特論と関連してその内容を実践的に修得することをねらいとする。実習では、主にサステイナブル・デザインに必要な自然エネルギー利用技術、パッシブソーラーを取り入れた木造建築技法などについて課題を抽出し、その解決能力を養う。	
到達目標	(1) エネルギー系：バイオディーゼル燃料の特性及びその活用のあり方について理解し説明することができる。 (2) エネルギー系：太陽光発電の特性について理解し、地域の条件に応じた活用方法をシミュレーションすることができる。 (3) 木工系：土や木をはじめとする自然素材の特性とその利用技術について理解し応用することができる。	
成績評価	エネルギー系 50点＋木工系 50点＝合計 100点満点で評価し、60点以上を合格とする。到達目標に示す(1)(2)については実験及びシミュレーションを踏まえたレポート（50%）により、(3)については、木工制作（50%）により評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。	
履修資格		

科目名	コミュニティ・マネジメント特論	2単位	前期
担当教員	鵜飼 修・近藤 隆二郎・細馬 宏通・上田 洋平		
授業概要	まちや地域のダイナミックスを創り上げている「人的、文化的、自然的」リソースに着目し、それらをうまく活用する社会的、制度的、経済的な仕組みを理解し、活用する方法について学ぶ。コミュニティ・アーキテクト（以下CA）の活動には、様々なコミュニティとの対話やネットワークの構築が必須である。本講座では、様々なコミュニティ・マネジメントの実践者を講師として招き、多様なコミュニティの①概要把握、②特性把握、③マネジメント手法、④創造手法を学び、実際のプロジェクトにおいて関係するコミュニティをマネジメントできるCAの育成をめざす。		
到達目標	コミュニティ・アーキテクト（以下CA）の活動には、様々なコミュニティとの対話やネットワークの構築が必須である。本講座では、様々なコミュニティ・マネジメントの実践者を講師として招き、多様なコミュニティの①概要把握、②特性把握、③マネジメント手法、④創造手法を学び、実際のプロジェクトにおいて関係するコミュニティをマネジメントできるスキルを獲得する。		
成績評価	成績は、各回授業でのミニレポート（学習内容と考察）の提出（15回除く。2,3回、4,5回、8,9回、12,13回はあわせて1回分。計10回）100%とする。やむを得ず授業を欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポート提出を行うこと。定期試験における合否判定で「合」の場合のみ単位を付与する。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：「3日でマスターできるコミュニティ・ビジネス起業マニュアル」細内信孝・鵜飼修、ぎょうせい,2002 指定図書：「プロフェッショナルの原点」P.F.ドラッカー他,上田惇生訳,ダイヤモンド社,2008 その他、講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布。		
履修資格			

科目名	地域再生学特論	2単位	後期
担当教員	上田 洋平・布野 修司・濱崎 一志		
授業概要	地域固有の自然・歴史・文化に根差した地域再生の思想、仕組み、仕掛け（手法）及びそれを担う人材について、滋賀県内各地で現に展開中の生まの取り組みを取り上げ、事例研究により学ぶとともに、各地の取り組みを主導し支えるキーパーソンとの議論を通じて理解を深める。併せて、地域再生を担うリーダー・コーディネーターとしての「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について議論し学ぶ。		
到達目標	(1) 滋賀県各地域の自然、歴史、文化の特性と地域課題とその解決の方向性について理解し説明できる。 (2) 滋賀県下における風土に根差した地域再生の取り組みについて理解し説明できる。 (3) 地域再生に取り組む「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割、求められる能力について説明できる。		
成績評価	到達目標に示す(1)については期末試験(30%)、(2)及び(3)については毎回のレポート(70%)により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	指定図書 「地域再生～滋賀の挑戦 エコな暮らし・コミュニティ再生・人材育成」近江環人 地域再生学座編 新評論 各講義内容に応じて、資料等を提示、配布する。		
履修資格			

科目名	地域再生システム特論	2単位	前期
担当教員	鵜飼 修・上田 洋平・轟 慎一		
授業概要	地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。具体的な地域再生の事例を参考に、フィールドワークやワークショップの企画、実施、地域再生策の提案までの過程に主体的に取り組む。こうした実践を通して、フィールドワークやワークショップの技法、ファシリテーション及び合意形成の手法、地域課題の把握から解決策の提案までのノウハウを修得する。		
到達目標	(1) 地域課題の把握から解決に向けた計画の作成、解決に向けたアクションとその評価・改善までの一連の流れを理解し説明することができる。 (2) 地域の関係者とのコミュニケーションを通じて地域の現状・課題を的確に把握することができる。 (3) 地域資源や地域課題の現状に即した適切なフィールドワークやワークショップを企画し実施することができる。 (4) 地域の関係者の意見を適切に引き出し整理して適確な地域再生提案を作成することができる。		
成績評価	到達目標に示す(1)については中間レポート(30%)により、(2)(3)(4)については最終レポート(50%)及びプレゼンテーション(20%)により評価する。		
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：近江環人地域再生学座編「地域再生 滋賀の挑戦 エコな暮らし・コミュニティ再生・人材育成」新評論 指定図書：近江環人地域再生学座編「地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目」新評論 指定図書：近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメー学生力で地域が変わる」(株)ラトルズ		
履修資格			

科目名	地域診断法特論	2単位	前期
担当教員	鵜飼 修・高田 豊文・水野 章二		
授業概要	地域再生への取り組みは、初めに地域特性を適切に把握・評価することから始まる。この授業では、地域における、環境、文化、経済等の特性を、さまざまな側面にわたる調査データおよび既存データを駆使して読み解く技術と、分析、評価するための手法を示す。また、地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対処療法的な技術ではなく、諸要素の状況を総合的に分析して、地域の問題・課題の本質を把握し、解決策を提案する能力を習得することが目標である。 具体的には地域診断の基本理念と手法を学んだ後、特定地域の課題解決を念頭に地域を構成する様々な属性（レイヤ）毎の診断・評価手法を学び、最後には、履修生自身が各講座で得られた知見を踏まえて総合的な診断を実施し、それらの診断をもとにした地域再生提案をとりまとめる。		
到達目標	地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対処療法的な技術ではなく、諸要素の状況を総合的に分析して、地域の問題・課題の本質を把握し、解決策を提案する能力を習得することが目標である。		
成績評価	各回授業でのミニレポート（第14回、15回を除く。なお、2,3回、4,5回、6,7回、12,13回は2コマで1回分とする。計9回×6点＝54点満点）、各グループで制作した成果物及びプレゼンテーション（46点満点）にて評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポート提出を行うこと。学期末試験は学力を確認するためのもので100点満点で60点以上を合格とし、合格したもののみ単位を付与する。		
テキスト 指定図書 参考書	近江環人地域再生学座編『地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目』新評論, 2011 各週の講義内容に応じて、資料を提示、配布する。参考図書等は、適宜紹介する。		
履修資格			

【第 3 章 博士後期課程の講義概要】

本手引の「講義概要」は抜粋版です

詳しい「講義概要」については、Web ポータルで確認してください

環境科学研究科博士後期課程 科目履修の手引

1 学位授与方針

(1) 環境動態学専攻

環境動態学専攻は、自然生態系の保全あるいは持続可能な生物生産や資源利用に関して提言できる人材を育成する目的に立ち、下記の通り課程修了時において学生が身につけるべき能力を定めます。所定の単位を修得し、提出された修士あるいは博士論文の審査および最終試験の合格により、博士(環境科学)の学位を授与します。

- A. 最新の研究動向を把握し、批判的に評価できる。(知識・理解、思考・判断、興味・関心)
- B. 研究成果を専門外の人に説明することができる。(知識・理解、技術・技能)
- C. 自ら研究計画を立て、調査・観測・実験を行い、論理的な結論を導くことができる。(知識・理解、思考・判断、技術・技能)
- D. 研究成果を国際的な学会等で発表する能力を有する。(知識・理解、技術・技能)
- E. 研究成果を学術論文としてまとめることができる。(知識・理解、技術・技能、思考・判断)

(2) 環境計画学専攻

<環境意匠研究部門>

環境計画学専攻環境意匠研究部門は、博士後期課程の修了時点において学生が身につけるべき能力(教育研究上の目的)を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境計画学専攻・環境意匠研究部門の定める学位論文審査基準を充足する学位論文を提出した者には博士(環境科学)の学位を授与します。

- A. 環境意匠の各分野における先端的で高度な専門知識と調査・実験・分析技術を身につける。
- B. 独創性、新規性をもつ学術研究をおこない、その成果を各専門分野において評価される論文としてまとめ、発表できる。

<地域環境経営研究部門>

環境計画学専攻地域環境経営研究部門は、人材の養成の目的を達成するため、下記のとおり、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

所定単位の修得と論文等の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、博士学位を授与します。

- A. 持続可能な地域環境をマネジメントできる高度な専門知識を身につける。
- B. 地域環境マネジメントに関する新規性のある学術研究を行い、対外的に評価された成果を含めて論文としてまとめ、的確な発表・質疑ができる。

2 教育課程の編成・実施方針

(1) 環境動態学専攻

環境動態学専攻は、自然生態系の保全あるいは持続可能な生物生産や資源利用に関して提言できる人材を育成するため、下記の教育課程を編成しています。

研究を立案・遂行し、成果を国内外の学会等で発表し、論文にまとめるため、部門ごとに特別演習と特別研究を、そして研究成果を専門外の人に説明できるように環境科学特論を配置しています。また、それぞれの研究部門ごとに、最新の研究動向を把握し、批判的に評価できるようにするため、生物圏環境特論、生態系保全特論、生物生産特論を配置しています。

(2) 環境計画学専攻

<環境意匠研究部門>

環境計画学専攻環境意匠研究部門は、自然環境と調和し、持続可能な社会の実現に資することができる人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成しています。

- A. 環境意匠に関する高度に専門的・先端的な知識と研究手法を修学する。
- B. 上記の知見をもって独創性・新規性をもつ学術研究をおこない、博士論文としてまとめる。

<地域環境経営研究部門>

環境計画学専攻地域環境経営研究部門は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

環境科学および地域環境経営に関する先端的な課題や知見の講義や演習、研究方法に関する科目を配置する。これらの科目の体系的な学修により、人材の養成に関する目標を達成する。

3 履修方法

- ① 入学時に研究部門を選び、主指導教員の指導のもとに履修計画をたてる。
- ② 主指導教員と相談の上、自らの研究の方向に基づきコミティの他のメンバー(副指導教員)の指導を受けることができる。
- ③ いずれかの研究部門において4単位および研究科共通選択科目から4単位以上を履修する。
- ④ 博士論文指導には、指導教員があたる。

4 研究指導の方法

- ① 研究指導は、原則としてコミティ制により行う。主指導教員は、演習指導ならびに博士論文指導の全般を担当する。
- ② 特別演習の履修を義務付ける。
- ③ 主指導教員は、各セメスターの終了時に各人の研究の進捗状況をチェックした上で研究計画の修正など必要な措置を取り、博士論文の作成に向けて、研究指導を進める。

5 年次別配当表

	授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数又は時間数			備 考
			必 修	選 択	自 由	
授 業 科 目 の 概 要	【環境科学研究科環境動態学専攻】 (生物圏環境研究部門)					【修了要件】 いずれかの研究部門において 4単位および研究科共通選択 科目から4単位以上を修得し、 かつ博士論文を提出し論文審 査および最終試験に合格する こと。
	生物圏環境特別演習Ⅰ	1		2		
	生物圏環境特別演習Ⅱ	2		2		
	生物圏環境特別研究	1～3		—		
	(生態系保全研究部門)					
	生態系保全特別演習Ⅰ	1		2		
	生態系保全特別演習Ⅱ	2		2		
	生態系保全特別研究	1～3		—		
	(生物生産研究部門)					
	生物生産特別演習Ⅰ	1		2		
	生物生産特別演習Ⅱ	2		2		
	生物生産特別研究	1～3		—		
	【環境科学研究科環境計画学専攻】 (環境意匠研究部門)					
	環境意匠特別演習Ⅰ	1		2		
	環境意匠特別演習Ⅱ	2		2		
	環境意匠特別研究	1～3		—		
	(地域環境経営研究部門)					
	地域環境経営特別演習Ⅰ	1		2		
	地域環境経営特別演習Ⅱ	2		2		
	地域環境経営特別研究	1～3		—		
	【研究科共通選択科目】	1・2・3		2		
	環境科学特論	1・2・3		2		
	生物圏環境特論	1・2・3		2		
	生態系保全特論	1・2・3		2		
	生物生産特論	1・2・3		2		
	環境意匠特論	1・2・3		2		
	地域環境経営特論	1・2・3		2		

6 学位論文審査基準

環境科学研究科の学位論文(博士後期課程)に係る審査は、以下のとおりとする。

- (1) 学位論文の審査は、大学院学則第 24 条第 1 項および第 2 項の条件を満たす者について、審査委員会が行う。
- (2) 審査委員会は、学位規程第 7 条に基づいて 3 名以上の委員で構成する。
- (3) 審査は、各研究分野における新たな知見を含み、学位に相当する水準にあると判断される研究成果について、執筆されている学位論文について行う。学位申請要件の基準および審査の内容については専攻または研究部門において別途定める。
- (4) 審査の過程で学位論文の内容に誤りが指摘された場合、審査委員長は期日までに再提出させる。
- (5) 最終試験は、学位規程第 8 条に基づいて審査委員会が学位論文に関する事項について、学位論文発表会または報告会で口頭により行う。

学位申請要件の基準

<環境動態学専攻>

生物圏環境研究部門

査読付き筆頭著者論文を 1 編以上公表すること。

生態系保全研究部門

査読付き筆頭著者論文を 1 編以上公表すること。

生物生産研究部門

査読付き筆頭著者論文が 2 報以上あること。ただし、同時に提出された博士論文について長期にわたるフィールド研究等を行ったと認められる者は、査読付き筆頭著者論文が 1 報以上あること。

補足:論文が受理されていれば公表したものとみなす。

<環境計画学専攻>

地域環境経営研究部門

査読付筆頭著者論文を 2 編以上もしくは、学術書を含めたそれに相当する業績があること。

環境意匠研究部門

申請時に査読付筆頭著者論文を 1 編以上もしくは、作品を含めたそれに相当する業績があること。論文等の掲載の決定をもって公表とみなす。

審査の内容

<環境動態学専攻(部門共通)>

- (1) 論文の体裁(構成、書式)が整っており、論理展開が明快であること。
- (2) 研究の目的・方法が明確で、新たな知見を含んでいること。
- (3) 十分な調査・実験に基づき、結果の分析と考察が十分に行われていること。
- (4) 研究内容が国内外の学会誌に掲載できる学問的水準に達していること。
- (5) 学位申請者が学術研究における倫理性を有していること。
- (6) 発表会または報告会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問に対する的確に答えられたこと。

<環境計画学専攻>

地域環境経営研究部門

- (1) 研究の目的が明確で、研究としての新規性(オリジナリティ)があること(先行研究の十分なレビューを含む)。
- (2) 論文(目的から調査分析、結論までの流れ)の論理展開が明快で、不整合や飛躍はないこと。
- (3) 研究の目的達成のために十分な調査がなされていること。
- (4) 調査結果の分析と調査分析結果の考察が十分になされていること。
- (5) 結論が社会的あるいは学術的に意義のある(有用な)知見を含んでいること。
- (6) 論文が、わかりやすく、誤字脱字がなく、指定された書式に従って書かれていること。
- (7) 公聴会において、制限時間内にわかりやすく発表し、質問にも的確に答えられたこと。

環境意匠研究部門

- (1) 研究の目的が明確で、内容が独創性や新規性を有していること。
- (2) 研究が学術的あるいは社会的に有用な知見を含んでいること。
- (3) 実験・調査データや文献資料等が信頼性を有し、分析、考察が適切であること。
- (4) 論理構成や展開が明解で、妥当な結論が得られていること。
- (5) 最終試験において、課された質問等に的確に答えられたこと。
- (6) その他審査委員会が別に定める審査項目について要件を満たしていること。

科目名	環境意匠特別演習Ⅰ	2単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	自然環境・社会環境の理解に基づいた持続可能なミクロとマクロの空間形成に関連する意匠学・建築学の創造性、先端性を習得させ、自然環境を生かした新たな空間形成を目指した総合性、普遍性のある研究指導を行う。	
到達目標	指導教員により示される	
成績評価	指導教員により示される。(100%)	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される	
履修資格		

科目名	環境意匠特別演習Ⅱ	2単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	研究課題の特殊性に合わせた、研究対象の把握・分析方法、およびその結果の総合的視点からの解釈など、環境意匠分野の複合性の中での適切な方法論を中心とした研究指導を行う。	
到達目標	指導教員により示される	
成績評価	指導教員により示される	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される	
履修資格		

科目名	環境意匠特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	自立した研究者、デザイナーとなるために必要な研究計画能力、総合設計能力を涵養するために意匠学、建築学に関する個別の研究課題について、指導教員との討論を行いながら博士論文作成のための理論・実践に関する研究指導を行う。	
到達目標	指導教員により示される	
成績評価	指導教員により示される	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される	
履修資格		

科目名	環境意匠特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	学生の研究テーマに合わせて、関連する分野に関わる先端的な課題や知見について講義を行う。	
到達目標	指導教員より履修生へ個別に提示される。	
成績評価	指導教員より履修生へ個別に提示される。(100%)	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員より履修生へ個別に提示される。	
履修資格		

科目名	環境科学特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	自らの研究内容を、専門の学会等で発表する能力を身につけるとともに、環境科学全般にかかわる講演会等で、特に専門としない者に対しても理解できるような発表能力を身につけることを目的とする。また、学会誌への投稿論文の作成能力とともに、その研究成果を一般メディアへ発表するための文章能力を身につけることを目的とする。これらの目的のために、環境科学部が主催する講演会やセミナー、関連学会および環境科学全般に関連する講演会等に参加し、その内容を記録し、批評を行う。	
到達目標	自らの研究テーマについて論文としてまとめる能力を高めるとともに、研究成果を一般の人々にも理解できるような形で提供できるようになる。また専門領域外の研究成果についても理解できるようになる。	
成績評価	レポートおよび発表論文によって評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	特になし。	
履修資格		

科目名	生態系保全特別演習 I	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	陸域・集水域・水域生態系の生物多様性・相互作用と物質循環過程等の解明、そして望ましい生態系の保全・修復・維持管理手法を理解・習得させるための野外と室内の観察・実験、研究文献の調査と講読、研究論文の作成に関する演習を行う。	
到達目標	指導教員により示される	
成績評価	指導教員により示される	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される	
履修資格		

科目名	生態系保全特別演習Ⅱ	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生態系保全特別演習Ⅰに引き続き、野外と室内の観察・実験、研究文献の調査と講読、研究論文の作成に関して究講・演習する。さらに学術雑誌への欧文論文作成ならびに博士申請論文の作成などの能力涵養と実践について指導する。	
到達目標	指導教員により示される	
成績評価	指導教員により示される	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される	
履修資格		

科目名	生態系保全特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	陸域・集水域・水域生態系の生物多様性・相互作用と物質循環過程等の環境動態を、人間活動による生態系変容を含めて解明・解析し、それぞれの生態系の保全・修復に必要な生態系管理の評価手法の確立をめざした研究指導を行う。	
到達目標	指導教員により示される	
成績評価	指導教員により示される	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員により示される	
履修資格		

科目名	生態系保全特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	陸圏・水圏および集水域の生態系動態・物質動態・水質汚濁および生物群集の相互関係などについて、自然資源の持続的利用と環境管理に不可欠な生態系と水環境の保全および自然と人間の共生圏の創生に関する理論と研究手法の最前線をセミナー形式で講義する。	
到達目標	決定したテーマに関する書籍の内容を十分に理解すること。下級生などへの指導力やゼミ運営能力を会得すること。	
成績評価	担当回の講読準備内容 50%、毎回のゼミでのパフォーマンス 50%	
テキスト 指定図書 参考書	第1回のテーマ設定時に決定する。	
履修資格		

科目名	生物圏環境特別演習Ⅰ	2単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生態環境を構成する大気、水、地圏の物理、化学、生物過程、またはその管理手法の最適化のための工学的手法を理解し、取得させる実験、野外調査・観察（測）の実施、文献調査、文献講読、研究論文の作成に関する演習を行う。	
到達目標	論文作成に必要な手法、知識を会得すること。	
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること。	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること。	
履修資格		

科目名	生物圏環境特別演習Ⅱ	2単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生物圏環境特別演習Ⅰに引き続き、実験、野外調査・観察観測の実施、文献調査、研究論文の作成に関する演習を行う。演習Ⅱでは特に、投稿論文作成および博士論文作成に関連した内容に力点を置いて指導する。	
到達目標	論文作成に必要な手法と技術を習得する。	
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること。	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること。	
履修資格		

科目名	生物圏環境特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	生態研究における大気大循環の地球規模の変動にかかる諸過程、水循環・水環境の動態解明と低投入型管理手法の最適化、および持続的な生物生産技術の開発にかかる研究指導を行う。	
到達目標	国内外の学会誌などへの投稿、博士論文の作成に十分な結果と考察を習得する。	
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること	
履修資格		

科目名	生物圏環境特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生物圏環境に関する研究を推敲するために、特に力を入れて学習すべきテーマを受講者相互で決め、それにふさわしい書籍を探し（英文文献であることが望ましい）、その書籍に基づいた学生主体型授業を行う。博士前期過程の学生も同席させ、彼らにも主体的学習に参加させることが望ましい。学生主体でのゼミ運営になるため、学習内容の定着はもとより、ゼミ運営能力および下級生への指導力も取得することを期待する。	
到達目標	決定したテーマに関する書籍の内容を十分に理解すること。下級生などへの指導力やゼミ運営能力を会得すること。	
成績評価	担当回の講読準備内容 50%，毎回のゼミでのパフォーマンス 50%	
テキスト 指定図書 参考書	第1回のテーマ設定時に決定する。	
履修資格		

科目名	生物生産特別演習Ⅰ	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	持続的かつ高い生物生産体系を確立、新しい遺伝資源の開発、生産管理技術の開発にかかる手法を理解し、取得させるための実験、野外調査、観察（測）の実施、文献調査、講読、研究論文の作成に関する演習を行う。	
到達目標	論文作成に必要な手法、知識を会得すること	
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること	
履修資格		

科目名	生物生産特別演習Ⅱ	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	博士後期課程1年時に実施した研究内容を学会誌等に投稿するための論文作成について指導するとともに、研究をより発展させるための実験、文献調査、英語について指導する。	
到達目標	論文作成に必要な手法と技術を習得する	
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること	
履修資格		

科目名	生物生産特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	環境負荷が少なく、持続的かつ高い生物生産体系の確立を目指して、新しい動植物資源の開発・栽培・管理、動植物・微生物を制御する生産環境管理技術の高度化の攻究にかかる研究指導を行う。	
到達目標	国内外の学会誌などへの投稿、博士論文の作成に十分な結果と考察を習得する。	
成績評価	指導教員のガイダンスを受けること	
テキスト 指定図書 参考書	指導教員のガイダンスを受けること	
履修資格		

科目名	生物生産特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生物生産に関する研究を推敲するために、特に力を入れて学習すべきテーマを受講者相互で決め、それにふさわしい書籍を探し（英文文献であることが望ましい）、その書籍に基づいた学生主体型授業を行う。博士前期過程の学生も同席させ、彼らにも主体的学習に参加させることが望ましい。学生主体でのゼミ運営になるため、学習内容の定着はもとより、ゼミ運営能力および下級生への指導力も取得することを期待する。	
到達目標	決定したテーマに関する書籍の内容を十分に理解すること。下級生などへの指導力やゼミ運営能力を会得すること。	
成績評価	担当回の講読準備内容 50%、毎回のゼミでのパフォーマンス 50%	
テキスト 指定図書 参考書	第1回のテーマ設定時に決定する。	
履修資格		

科目名	地域環境経営特別演習 I	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	既往の研究成果を国際的な地域も視野に入れた地域経営的な視点で再整理・分析評価し、特定の研究課題を総合的に研究する方法に習熟させる。	
到達目標	各学生の指導教員によって示される。	
成績評価	各学生の指導教員によって示される。	
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。	
履修資格		

科目名	地域環境経営特別演習Ⅱ	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	既往の研究成果を国際的な地域も視野に入れた地域経営的な視点で再整理・分析評価し、特定の研究課題を総合的に研究する方法に習熟させる。	
到達目標	各学生の指導教員によって示される。	
成績評価	各学生の指導教員によって示される。	
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。	
履修資格		

科目名	地域環境経営特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	地域環境経営に関する研究を進めるために、学習すべきテーマを指導教員との相談の上で受講者が決め、それにふさわしい書籍・文献を探し、その書籍・文献に基づいた文献講読をゼミ形式で行う。 ゼミ形式の授業になるため、学習内容の定着はもとより、ゼミ運営能力を習得することも期待する。	
到達目標	決定したテーマに関する書籍・文献の内容を十分に理解すること。	
成績評価	担当回の講読準備内容 50%，各回の授業でのパフォーマンス 50%	
テキスト 指定図書 参考書	第 2 回の書籍・文献の設定時に決定する。	
履修資格		

科目名	地域環境経営特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	地域環境経営を国際的なフィールドにまで拡大することを前提にして、地域環境経営特別演習ⅠⅡで示唆されたような特定の研究課題について仮説設定からその検証に至る過程の研究指導を行い、博士論文にまとめさせる。	
到達目標	博士論文の完成。	
成績評価	各学生の指導教員によって示される。	
テキスト 指定図書 参考書	各学生の指導教員によって示される。	
履修資格		

工学研究科博士後期課程 科目履修の手引

1 学位授与方針

先端工学専攻は、人材の養成の目的を達成するため、下記のとおり、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

本専攻において、所定単位の修得あるいは学力試験によって学力を確認し、論文および最終試験の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、博士の学位を授与します。

- A. 材料科学、機械システム工学、電子システム工学およびその関連分野に関する深い学識に裏打ちされた幅広い知識および視野を身につける。(知識・理解)
- B. 材料科学、機械システム工学、電子システム工学およびその関連分野において、社会にとって有意義な新規課題を見出し、その研究に自らの手法を提案して取り組み、一定の制約の下で合理的に課題を解決できる能力を身につける。(技術・技能、思考・判断)
- C. 自らの行った研究について、その課題の重要性および研究成果の学術的・工学的意義を説明できる。(技術・技能、興味・関心)
- D. 自らの行った研究について、その内容を科学的・論理的かつ判り易く纏め、社会に対して説明できる能力を身につける。(技術・技能、興味・関心)

2 教育課程の編成・実施方針

先端工学専攻は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

材料科学、機械システム工学、電子システム工学およびその関連分野に関する深い学識に裏打ちされた幅広い知識および視野を身につけ、それらを最先端の工学に応用する能力を獲得するために、講義科目として、これら3つの工学に関する総合的内容の必修科目1科目と、材料科学関係2科目、機械システム工学関係2科目、電子システム工学関係2科目の選択科目を配置している。

また、材料科学、機械システム工学、電子システム工学およびその関連分野において自ら新規研究課題を見出し、その研究方法を開発して高い水準の研究を遂行できる能力を身につけるために、必修科目として「先端工学特別研究」を配置している。

さらに、自らの行った研究課題の重要性および研究の学術的・工学的意義を説明でき、また研究の内容を正確で論理的かつ判り易く纏め上げ、様々な学術的基盤を持つ人に対して説明できる能力を身につけるために、必修科目として「先端工学特別演習」を配置している。

最後に、博士論文の作成および公表によって、高度な研究者として自立し社会に貢献できる能力を身につける。

これらの科目の体系的な学修により、人材の育成に関する目標を達成する。

3 履修方法

- ① 学生の希望する研究内容、将来の進路等により指導教員を定め、その指導に基づき履修計画をたてる。
- ② 必修科目として先端工学特論、先端工学特別演習2科目(計4単位)および先端工学特別研究1科目を履修する。
- ③ 先端工学専攻選択科目・他研究科科目から4単位以上を履修する。なお、他研究科科目の履修については所属専攻の許可を得るものとする。
- ④ 指導教員の研究指導に基づき博士論文を作成する。

4 研究指導の方法

研究指導は、定められた指導教員が行う。指導教員の編成は、学生の希望する研究内容を考慮して行い、その構成は、研究指導に直接責任を負う主指導教員1名ならびに研究内容に関連する2名の副指導教員とする。主指導教員は研究テーマの設定から学位論文の作成まで、副指導教員の緊密な連携のもとに学生の指導にあたる。

主指導教員は、定期的に各人の研究の進捗状況をチェックし、研究計画の修正および調整など必要な措置を取り、博士論文の作成に必要な実験等についても計画的に進行するよう指導する。

5 年次別配当表

授 業 科 目 の 概 要	授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数			備 考
			必 修	選 択	自 由	
	【工学研究科先端工学専攻】					【修了要件】 先端工学専攻必修科目 4 単位 および先端工学専攻選択科目 ・他研究科科目から 4 単位以 上を修得し、かつ博士論文の 審査および最終試験に合格す ること。
	無機材料特論	1～2		2		
	有機材料特論	1～2		2		
	機械工学特論	1～2		2		
	機械システム工学特論	1～2		2		
	電子システム特論	1～2		2		
	電子情報特論	1～2		2		
	先端工学特論	1～2	2			
	先端工学特別演習	1～2	2			
	先端工学特別研究	1～3	—			

6 学位論文審査基準

(1) 審査基準

- ① 当該専攻に所定の年限在学し、所定の授業科目を履修、単位を修得し、かつ、研究指導を受け、退学(退学後3年以内)、または、修了見込みであること。
- ② 博士論文は、学会・協会等が定期刊行する査読付き論文集に掲載された学術論文、又は掲載が決定された学術論文、及び学会・協会等が主催する定例的な国際会議のプロシーディングに審査を経て掲載された学術論文を基礎とした一連の研究について、独自に作成したものであること。
- ③ 博士論文および当該論文に関連する事項についての質問に的確に説明できること。
- ④ 当該専攻を修了せずに博士の学位の授与を申請した者にあつては、本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すること。
- ⑤ 詳細は、別に定める。

(2) 審査プロセス

- ① 研究科会議において、博士後期課程の研究指導を担当する資格を有する主査1名および副査2名よりなる審査委員会を設立し、当該委員会は、提出された博士論文の審査、公聴会の開催、最終試験および必要に応じて学力確認を行う。
- ② 審査委員会は審査結果を研究科会議に報告し、研究科会議は博士の学位の授与の可否を決定する。
- ③ 一連の審査において、博士論文に不備等が指摘されれば、不備を修正した後、再度審査を行うことができる。
- ④ 詳細は、別に定める。

科目名	機械工学特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	環境と人間に融合した機械を開発・設計する技術を修得させる。エネルギー消費が少なくクリーンな動力システム、流体エネルギーの有効利用に向けた流れの予測・制御法、機械の長寿命化を目指した表面改質技術と寿命評価法、使いやすく振動や騒音の少ない機械の設計法を理解させる。	
到達目標	エネルギー消費が少なくクリーンな動力システムを理解できる。流体エネルギーの有効利用に向けた流れの予測・制御法を理解できる。機械の長寿命化を目指した表面改質技術と寿命評価法を理解できる。使いやすく振動や騒音の少ない機械の設計法を理解できる。	
成績評価	講義内容に関するレポートにより評価する。(100%)	
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	機械システム工学特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	将来の知的生産システムを視野におき、ネットワーク時代の CAD/CAM と智能化ソフトウェア、ロバストシステム、ロボット等のハードウェアとその制御、非線形システムの解析方法を数学的理論によって理解させる。	
到達目標	CAD/CAM と智能化ソフトウェアについて理解できる。ロバストシステム、ロボット等のハードウェアとその制御、非線形システムの解析方法を数学的理論によって理解できる。	
成績評価	講義内容に関するレポート等により評価する。(100%)	
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	先端工学特別演習	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	指導教員との議論を通じて、自立した研究者となるために必要な研究計画、遂行能力とその総合評価能力を培わせるとともに、先端工学の理論・実験等に関する特別演習を行う。	
到達目標	みずから研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。	
成績評価	研究報告の内容について審査する。	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：既往の研究に関連した論文など	
履修資格		

科目名	先端工学特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を涵養するために、個別の研究課題について、指導教員との討論を行いながら博士論文作成のための理論・実験などに関する特別研究を行う。	
到達目標	自ら研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。	
成績評価	研究報告の内容について審査する。	
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する	
履修資格		

科目名	先端工学特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	近年の工学の発展は、材料科学、機械システム工学および電子システム工学の分野を超えて、互いに融合する新たな先端工学分野が求められるようになってきている。さらに、これらの学問分野は従来の工学的手法と異なる創造的破壊を伴う新機軸の発想と実行が求められている。このため、実際の例をもとに、異なる工学分野を融合した先端工学という創造的学問体系について近年の工学的発展の背景をもとに理解させる。	
到達目標	自ら研究計画を立案し、その計画を遂行し、結果について総合的に評価できる。	
成績評価	研究報告の内容について審査する。	
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する	
履修資格		

科目名	電子システム特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	電子システム工学を支える種々の要素のうち、電気製品を動作させる電子回路、半導体等の電子デバイスの機能とその作製プロセス、発電や次世代エネルギーを扱うパワーエレクトロニクスについて、最新の研究成果を交えて講義する。	
到達目標	電子回路、半導体デバイスと超微細加工プロセス、パワーエレクトロニクスの3分野について、互いに関係を持ちながら進展していることが理解できる。	
成績評価	授業内容に関するレポートにより評価する（100%）。	
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	電子情報特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	電子工学や情報工学によって支えられる情報・通信技術およびその周辺技術について、最新の研究成果を交えて講義する。対象とする範囲は、ディジタルシステム、情報システム、コンピュータハードウェア・ソフトウェア、複雑系ネットワーク、センシングシステムなどである。	
到達目標	ディジタルシステムの基礎と応用、センシングシステムにおける信号処理、適応信号処理、通信システム、複雑系ネットワークなど、さまざまな情報関連技術が理解できる。	
成績評価	授業内容に関するレポートにより評価する（100%）。	
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	無機材料特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	環境やエネルギー問題の解決につながる金属材料の高機能化、次世代のセラミックス材料の設計、エネルギー環境材料の応用を視野において、無機材料を高性能化し、新機能を付加するための作製プロセス、新材料の特性評価、物性と構造の相関性などを理論的および実践的成果をもとに理解させる。	
到達目標	無機材料の基礎から応用まで理解し、実際の材料に適用できる。	
成績評価	レポート評価 100%	
テキスト 指定図書 参考書	適宜指定する	
履修資格		

科目名	有機材料特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生物はその生存や行動の基盤を光に負っており、光反応の重要性は古くから認識され、近年は情報伝達の技術に、合成・加工キープロセスとして、また生命現象の解明にと多様な面をもつ光化学反応を、基礎的立場と方法論に基づき、その特徴的な励起状態分子の挙動に関して有機化学の立場から概説する。さらに本講では、我々の身近にある高分子材料について合成法、構造、物性について概観し、電気・電子、エネルギー、医療、環境などの分野での近年の応用について述べる。	
到達目標	有機材料全体を俯瞰でき、平易に説明できる。	
成績評価	レポート評価 100%	
テキスト 指定図書 参考書	必要な資料は配布する。	
履修資格		

人間文化学研究科博士後期課程 科目履修の手引

1 学位授与方針

(1) 地域文化学専攻

地域文化学専攻は、人材の養成の目的を達成するため、下記の通り、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

所定単位の修得と論文等の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、博士学位を授与します。

- A. 日本とアジアの歴史、そして現在の文化について幅広い知識を身につけることができ、地域の歴史・文化を深く理解することができる。(知識・理解)
- B. 日本とアジアにおける多様な地域文化に関心をもち、博士課程後期で学んだことを基に日本やアジアを対象とする広範な課題を設定し、それを解決しようとする姿勢を持つ。(思考・判断)
- C. 日本やアジアを中心とする現地調査を通じて、各々の地域社会や地域文化に関する研究を深め、自らの見解を形成し発表できる。(興味・関心)

(2) 生活文化学専攻

生活文化学専攻各部門は、人材養成の目的を達成するため、下記の通り、修了時点において学生が身につけるべき能力を定めます。

所定単位の修得と学位論文等の審査基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、博士学位を授与します。

<生活デザイン論研究部門>

- A. 生活に関わるデザインについて広範な知識を身につけ、適切なデザインを実現する方法について理解することができる。(知識・理解)
- B. 生活に関わるデザインのあり方に広い関心を持ち、自ら学んだ事を基に課題を設定し、それを解決しようとする姿勢を持つ。(興味・関心)
- C. 独創性・新規性のある学術研究をおこない、その成果を各専門分野において評価される論文としてまとめ、対外的に発表できる。(思考・判断)(技能・技術)

<健康栄養論研究部門>

- A. 栄養学の未知の領域を拓くための深い学識と高度な実験技術と分析能力を身につけている。(知識・理解)(技能・技術)
- B. 自ら研究計画を立てることができ、その計画を遂行できる。(思考・判断)(技能・技術)
- C. 自らの成果を世界に向けて発信できる。(知識・理解)(思考・判断)(技能・技術)

<人間関係論研究部門>

- A. 人間関係論にかかわる研究成果を学び、それらを評価するための総合的思考力と批判的判断力を身につけている。(知識・理解)(思考・判断)
- B. 人間関係論の新たな地平を拓くための深い学識と高度な調査・実験能力および分析能力を身につけている。(知識・理解)(技能・技術)
- C. 自らの研究成果を幅広く、多様な人々と交流するためのコミュニケーション、プレゼンテーションや論文執筆の能力を身につけている。(思考・判断)(技能・技術)

2 教育課程の編成・実施方針

(1) 地域文化学専攻

地域文化学専攻は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

研究者として必要な研究方法や理論的知識の取得、学位論文の執筆などの観点から、日本・地域文化論特別演習、日本・地域文化論特別研究、研究方法特論などの科目を配置している。これらの科目の体系的な学修により、人材の養成に関する目標を達成する。

(2) 生活文化学専攻

生活文化学専攻各部門は、人材の養成に関する目的の達成のため、下記のような教育課程を編成します。

＜生活デザイン論研究部門＞

研究者として必要な研究方法や理論的知識の取得、学位論文の執筆等の観点から、生活デザイン論特別演習、生活デザイン論特別研究、研究方法特論などの科目を配置する。

＜健康栄養論研究部門＞

栄養学の指導者に必要となる知識・研究方法を与える。強い責任感、高い倫理感を養成するための教育を行う。また、常に新しい研究成果と意義を議論できる能力を習得させる。

＜人間関係論研究部門＞

人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や社会システムの構築において、リーダーシップを発揮する市民、研究者に必要な、学際的な知見や研究方法を習得するために、人間関係論特別演習、人間関係論特別研究、研究方法特論などの科目を配置する。

3 履修方法

- ① 研究テーマの追究に当たって、本来の専門領域にかかわる主たる指導教員の研究指導を重点的に受けるが、必要に応じて関連領域を担当する教員の指導をも受けさせ、多角的に研究を展開することによってオリジナリティの高い成果が得られるような教育を行う。
- ② 「特別研究」の指導は、このような重点的ならびに副次的な指導体制に基づいて行う。
- ③ 「特別演習」は、各研究部門ごとに設定し、担当する指導教員の密接な連携のもとで、学際的な立場から学生の指導に当たる。

4 年次別配当表

	授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数又は時間数			備 考
			必 修	選 択	自 由	
授 業 科 目 の 概 要	【人間文化学研究科地域文化学専攻】					【修了要件】 必修科目4単位および選択科目4単位以上を修得し、かつ博士論文を提出し論文審査および最終試験に合格すること。
	(日本・地域文化論研究部門)					
	日本・地域文化論特別演習	1～2		4		
	日本・地域文化論特別研究	1～3		—		
	(アジア・地域文化論研究部門)					
	アジア・地域文化論特別演習	1～2		4		
	アジア・地域文化論特別研究	1～3		—		
	(考現学・保存修景論研究部門)					
	考現学・保存修景論特別演習	1～2		4		
	考現学・保存修景論特別研究	1～3		—		
	【人間文化学研究科生活文化学専攻】					
	(生活デザイン論研究部門)					
	生活デザイン論特別演習	1～2		4		
	生活デザイン論特別研究	1～3		—		
	(健康栄養論研究部門)					
	健康栄養論特別演習	1～2		4		
	健康栄養論特別研究	1～3		—		

(人間関係論研究部門) 人間関係論特別演習 人間関係論特別研究	1～2 1～3		4 —		
【研究科共通科目】 研究方法特論 リサーチ・ワークショップ	1 1	2 2			

5 学位論文審査基準

人間文化学研究科の学位論文（博士後期課程）に係る審査は、以下の通りとする。

- (1) 学位論文の審査は、大学院学則第24条第1項および第2項の条件を満たす者について、審査委員会が行う。
- (2) 審査委員会は、学位規定第7条に基づいて3名以上の委員で構成する。
- (3) 審査は、各研究分野における新たな知見を含み、学位に相当する水準にあると判断される研究成果について執筆されている学位論文について行う。学位申請要件の基準および研究成果については専攻または研究部門において別途定める。
- (4) 審査の過程で学位論文の内容に誤りが指摘された場合、審査委員長は期日までに再提出させる。
- (5) 最終試験は、学位規定第8条に基づいて審査委員会が学位論文に関する事項について、学位請求論文公聴会で口頭により行う。

地域文化学専攻

審査方法について

- 学位論文の審査は、学位規程第7条に基づく3名以上の委員で構成される審査委員会が行う。
- 最終試験は、学位規程第8条に基づいて審査委員会が学位論文に関する事項について、学位論文発表会で口頭により行う。

審査内容について

- 学位論文の分量は、日本語で120000字を基本とする。
- 学位論文の審査にあたっては、原則として下記のような項目を想定する。
 - ①テーマや研究方法の選択が、先行研究を踏まえて着実に行為れ、学界において一定の評価が得られること。
 - ②選択したテーマと研究方法に従ってデータ・資料などを的確に収集・処理・分析していること。
 - ③新しいデータ・資料の発見・利用や、着眼点や分析方法の斬新さなど、独創的な内容を有し、当該分野の研究に新たな知見を加える研究であること。
 - ④論理的に一貫した構成と内容を有し、表現力も確かであること。
- 学位論文は、上記の評価項目に照らし合わせ、全体として高い水準にあると客観的に認められる成果、具体的には査読制度のある学術誌掲載論文1本以上に値する成果を含むことを基準とする。

審査結果について

- 審査委員会は、上記審査内容に照らし合わせて審査を行い、審査結果を研究科会議に報告する。
- 審査の過程で学位論文に不備が指摘された場合、審査委員長は期日までに再提出させる。

生活文化学専攻

学位申請要件の基準について

<生活デザイン論研究部門>

筆頭著者で査読有りの学術雑誌に掲載された論文があることが望ましいが、これを学位申請の要件とはしない。

<健康栄養論研究部門>

筆頭著者で査読有りの学術雑誌(英文)に掲載された論文が2報+筆頭著者で査読有りの学術雑誌に投稿中の論文が1報以上を原則とする。但し、評価のきわめて高い学術雑誌の場合は1報でもよい。

<人間関係論研究部門>

筆頭著者で査読有りの学術雑誌に掲載された論文が2報以上を原則とする。但し、評価のきわめて高い学術雑誌の場合は1報でもよい。

科目名	アジア・地域文化論特別演習	4 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	専攻する地域（アジア）・時代の論文や調査報告書を精読する。また、現地調査を実施させ、その際に作成したフィールドノートをもとに討議する。	
到達目標	(1)海外地域（アジア）研究の手法を身に付け、論文や調査報告書の作成につなげられる力を習得することができる。	
成績評価	(1)海外地域（アジア）研究の手法を身に付け、論文や調査報告書の作成につなげられる力を習得することができるについては、報告の内容と討論の内容による(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	アジア・地域文化論特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	現地調査と文字資料、歴史史料などを総合することで、アジアの地域文化の形成、発展、現状を分析し、実態解明を図る。また、その成果を高めるべく、比較研究を進めさせる。	
到達目標	(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができる。	
成績評価	(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができるについては、研究報告の内容により評価する(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	研究方法特論	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	学生が幅広い視野の元に研究を進めていけるよう、関連する研究領域の研究方法について、主たる指導教員以外からも指導を受けられる機会をつくる。学生は研究テーマの追求にあたって、それに関連する領域を担当する複数の教員（主たる指導教員以外の教員）の研究室を訪問し、研究テーマ、研究方法、研究倫理、そのほか研究者として必要な技法や理論的知識について個別指導を受ける。	
到達目標	(1)複数教員からの指導をもとに研究テーマを追求し、幅広い視野を身に付けることができる。	
成績評価	(1)複数教員からの指導をもとに研究テーマを追求し、幅広い視野を身に付けることができるについては、報告の内容により評価する(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	健康栄養論特別演習	4 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	健康栄養論に関する知見の進歩・国際比較を考慮に入れて、最新の研究論文・総説を紹介させ、質問と討論を行う。	
到達目標	研究分野に関する知見から研究動向を把握し、また研究方法を修得することによって、問題の所在、研究の方向性を洞察できる能力を身につけることができる。	
成績評価	研究分野における最新知見（研究論文・総説など）を紹介するプレゼンテーション内容から、また質問と討論の内容をまとめたレポートなどから評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	特に指定せず、適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	健康栄養論特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	健康栄養論に関する知見の進歩・国際比較を考慮に入れて、最新の研究論文・総説を紹介させ、質問と討論を行う。	
到達目標	研究分野に関する知見から研究動向を把握し、また研究方法を修得することによって、問題の所在、研究の方向性を洞察できる能力を身につけることができる。	
成績評価	研究分野における最新知見（研究論文・総説など）を紹介するプレゼンテーション内容から、また質問と討論の内容をまとめたレポートなどから評価する。	
テキスト 指定図書 参考書	特に指定せず、適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	考現学・保存修景論特別演習	4 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	考現学、保存修景論、地域展開論などの分野の論文を読み、また、これらの分野に応じた現地調査・実習も行う。さらに、その成果を素材として討論を行う。	
到達目標	(1)考現学・保存修景論分野の専門的な研究遂行力を高めることができる。	
成績評価	(1)考現学・保存修景論分野の専門的な研究遂行力を高めることができるについては、報告・討論の内容による(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	考現学・保存修景論特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	地域文化の歴史的展開、現状、展望（将来的に想定される意味）を明らかにすることはもちろん、望ましい伝統文化については、その保存修景の方策を考察する。	
到達目標	(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができる。	
成績評価	(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができるについては、研究報告の内容により評価する(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	生活デザイン論特別演習	4 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	生活デザイン論のなかでインテリア、住居、都市、地域を含む住環境デザイン、道具デザイン、服飾デザインの各分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、紹介し、そして討論し、それらの分野の知見と研究動向を把握させ、研究方法を更に修得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。	
到達目標	研究分野に関する知見と研究動向を把握し、研究方法を修得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を身につける。	
成績評価	授業に対する取り組みや発表内容・討論による。	
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	生活デザイン論特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	住環境デザイン、道具デザイン、服飾デザインなど生活デザインの各分野並びにこれらの横断的な分野に関するテーマについて、複数の教員によって指導し、その成果を博士論文にまとめさせる。	
到達目標	研究分野において、新たな研究の方向を自律的に探求し、独創的かつ専門的な博士論文を作成する。	
成績評価	研究への取り組みや研究成果による。	
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	日本・地域文化論特別演習	4 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	専門分野・隣接分野について、日本の各地域・各時代を扱った研究論文等を精読し、基礎理論、方法論および先行研究の成果に関する理解を深める。	
到達目標	(1)研究テーマにおける問題の所在や専門分野の研究動向に対する洞察力を涵養する。	
成績評価	(1)研究テーマにおける問題の所在や専門分野の研究動向に対する洞察力を涵養するについては、報告と討論の内容による(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	日本・地域文化論特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	日本における地域文化の領域について、歴史的・国際的視点に立脚し、理論的・応用的な研究課題を設定させ、分析方法、調査方法、研究成果のまとめ方などについて高度な指導を行う。	
到達目標	(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができる。	
成績評価	(1)独創的かつ専門的な博士論文を作成させるための能力を身につけることができるについては、研究報告の内容により評価する(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	教員の指示による。	
履修資格		

科目名	人間関係論特別演習	4 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	心理学、社会学、教育学など人間関係論に関わる諸分野において、最新の研究成果である各種文献を読み、討論する。これにより、諸分野の知見や研究方法を習得させ、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。	
到達目標	研究分野に関する知見と研究方法を習得し、問題の所在や新たな研究の方向を洞察する能力を養成する。	
成績評価	授業に対する取組や発表内容、討論による。	
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	人間関係論特別研究	
担当教員	専攻教員	
授業概要	心理学、社会学、教育学など人間関係論に関わる諸分野、ならびにこれらの分野を横断的に扱う固有のテーマを選定し、研究をおこないその成果を博士論文にまとめさせる。	
到達目標	関連の研究分野において、新たな研究の方向を自律的に探究し、独創的かつ専門的な博士論文を作成する。	
成績評価	研究への取組や研究成果による。	
テキスト 指定図書 参考書	授業内で適宜紹介する。	
履修資格		

科目名	リサーチ・ワークショップ	2 単位
担当教員	専攻教員	
授業概要	学生の研究を個々の専門分野の垣根を越えて組織的、多面的に指導・支援するために、履修者全員と担当教員全員が出席するワークショップを年2回ほど開催する。履修者は事前に報告要旨を提出し、その上で自らの研究計画・研究報告を発表し、質疑を受ける。ワークショップ終了後、質疑応答の結果を踏まえて改善した研究計画書および論文執筆計画書をまとめる。	
到達目標	(1)自身の研究を多面的にとらえ、研究の遂行と論文執筆に取り組むための能力を身につけることができる。	
成績評価	(1)自身の研究を多面的にとらえ、研究の遂行と論文執筆に取り組むための能力を身につけることができるについては、発表・討論の内容により評価する(100%)。	
テキスト 指定図書 参考書	なし。	
履修資格		

【第4章 資格取得等の手引】

1. 教育職員専修免許の取得について

本学大学院博士前期課程では、「中学校教諭専修免許」、「高等学校教諭専修免許」および「栄養教諭専修免許」の取得が可能になります。

(1) 免許取得の要件

これらの免許を取得するためには、次の要件が具備されていなければなりません。

① 基礎資格として、「修士」の学位を有すること（一年以上在学し、30単位以上修得した場合を含むものとする。）。

② (ア) 一種免許状取得者および一種免許状取得要件を満たす者

免許取得に必要な単位数として、本学大学院の各研究科・専攻ごとに示す授業科目（次ページ以降参照）のうち、24単位以上を修得すること。

(イ) 一種免許状取得要件を満たさない者

一種免許状取得要件を満たす単位数と、本学大学院の各研究科・専攻ごとに示す授業科目（次ページ以降参照）のうち24単位以上を併せて修得すること。

(2) 免許の種類

各研究科・専攻ごとの取得可能な免許の種類については、次のとおりです。

研 究 科	専 攻 名	免 許 の 種 類
環境科学研究科	環 境 動 態 学 専 攻	中学校教諭専修免許（理科） 高等学校教諭専修免許（理科）
	環 境 計 画 学 専 攻	高等学校教諭専修免許（公民）
工 学 研 究 科	材 料 科 学 専 攻	高等学校教諭専修免許（工業）
	機械システム工学専攻	高等学校教諭専修免許（工業）
	電子システム工学専攻	高等学校教諭専修免許（工業） ^{②④}
人間文化学研究科	地 域 文 化 学 専 攻	中学校教諭専修免許（社会） 高等学校教諭専修免許（地理歴史）
	生 活 文 化 学 専 攻	中学校教諭専修免許（家庭） 高等学校教諭専修免許（家庭） 中学校教諭専修免許（社会） 高等学校教諭専修免許（公民） 栄養教諭専修免許 ^③

○内の数字は、平成の年度を表し、その年度以降の入学者でないと当該免許・資格が取得できません。

(3) 各研究科・専攻における教育職員専修免許の取得について

免許取得に必要な単位として、一種免許状を取得し、かつ本学大学院の授業科目のうちから「教科に関する科目」（栄養教諭専修免許状は、「栄養に係る教育に関する科目、またはそれに準ずる科目」）を24単位以上修得する必要があります。各研究科・専攻ごとに履修しなければならない科目が異なりますので、次ページから研究科・専攻別に説明します。

◇環境科学研究科 ◆環境動態学専攻

中学校教諭専修免許（理科）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（理科）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
G I S／リモートセンシング論		2	選択科目より24単位 以上を修得すること。
物質循環論		2	
地圏環境論		2	
水圏生態系動態論		2	
森林生態学特論		2	
集水域環境論		2	
生態系影響論		2	
生物社会共生論		2	
水資源環境論		2	
陸面過程論		2	
土壌圏環境論		2	
化学物質動態論		2	
持続的生物生産論		2	
植物遺伝資源論		2	
動物生産環境論		2	
生産環境管理論		2	
植物資源管理論		2	
魚類栄養学特論		2	
環境動態学特別演習Ⅰ		4	
環境動態学特別演習Ⅱ		4	
環境動態学特別研究Ⅰ		4	
環境動態学特別研究Ⅱ		4	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇環境科学研究科 ◆環境計画学専攻

高等学校教諭専修免許（公民）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
環境リスク論		2	選択科目より、24単位 以上を修得すること。
国際農林環境政策論		2	
都市計画特論		2	
構造設計特論		2	
居住環境工学		2	
廃棄物とリサイクル		2	
地域資源経営論		2	
資源循環と国際貿易		2	
参加型計画運営論		2	
環境政策形成過程論		2	
環境開発論		2	
環境計画学特別研究Ⅰ		4	
環境計画学特別研究Ⅱ		4	
(環境意匠研究部門)			ⅠA、ⅠBのいずれかを選択
環境計画学特別演習ⅠA		4	
環境計画学特別演習ⅠB			ⅡA、ⅡBのいずれかを選択
環境計画学特別演習ⅡA		4	
環境計画学特別演習ⅡB			(地域環境経営研究部門)
環境計画学特別演習Ⅲ		4	
環境計画学特別演習Ⅳ		4	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇工学研究科 ◆材料科学専攻

高等学校教諭専修免許（工業）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
金属材料物性		2	選択科目より24単位以上を修得すること。
金属機能材料プロセッシング		2	
非晶質無機材料		2	
構造・化学機能セラミックス		2	
高分子固体構造		2	
無機ナノ粒子工学		2	
機能界面化学		2	
複合材料工学		2	
高分子材料物性		2	
高分子材料合成		2	
天然高分子材料		2	
生体機能化学特論		1	
遺伝子生化学		1	
有機材料設計		2	
環境機能材料		2	
材料科学特別実験		5	
材料科学特別演習		5	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇工学研究科 ◆機械システム工学専攻

高等学校教諭専修免許（工業）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
熱システム工学		2	選択科目より24単位以上を修得すること。
応用流体力学		2	
燃焼工学		2	
混相流工学		2	
強度設計工学		2	
機械運動論		2	
応用メカトロニクス論		2	
非線形制御論		2	
最適化システム論		1	
信頼性工学		2	
バイオマスエネルギー変換論		2	
応用流体機械		2	
動的システム論		2	
NC工作機械		2	
切削加工学		2	
機械システム工学特別実験		5	
機械システム工学特別演習		5	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇工学研究科 ◆電子システム工学専攻

高等学校教諭専修免許（工業）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
電子制御論		2	選択科目より24単位 以上を修得すること。
電力エネルギー工学		2	
超伝導デバイス		2	
荷電粒子ビーム工学		2	
人工知能		2	
ロバスト設計論		2	
現代数理概論		2	
集積システム設計論		2	
確率過程論		2	
電磁応用工学		2	
光物性特論		2	
画像情報処理		2	
音響工学		2	
光デバイス		2	
複雑ネットワーク概論		2	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別担当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆地域文化学専攻

中学校教諭専修免許（社会）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（地理歴史）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
異文化接触論		2	選択科目より24単位 以上を修得すること。
ヨーロッパ地域文化論		2	
日本生活文化論		2	
日本考古学A		2	
日本考古学B		2	
環琵琶湖地域論A		2	
環琵琶湖地域論B		2	
女性史・ジェンダー論A		2	
女性史・ジェンダー論B		2	
美術史特論A		2	
美術史特論B		2	
社会学特論A		2	
社会学特論B		2	
地域産業論A		2	
地域産業論B		2	
中国文化史特論		2	
北東アジア地域史A		2	
北東アジア地域史B		2	
朝鮮史特論A		2	
朝鮮史特論B		2	
アジア考古学A		2	
アジア考古学B		2	
モンゴル・ディアスポラ論A		2	
モンゴル・ディアスポラ論B		2	
トランス・ヒマラヤ文化論		2	
現代中国特論A		2	
現代中国特論B		2	
環琵琶湖保存修景計画論A		2	
環琵琶湖保存修景計画論B		2	
地域文化遺産調査・情報論		2	
地域文化学特別演習		8	
地域文化学特別研究		8	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆生活文化学専攻

中学校教諭専修免許（家庭）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（家庭）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
住環境デザイン特論B		2	選択科目より24単位以上を修得すること。
住環境デザイン特論A		2	
道具デザイン特論A		2	
服飾デザイン特論A		2	
服飾デザイン特論B		2	
栄養制御論		2	
健康運動学特論		2	
栄養応答論		2	
病態栄養学特論		2	
臨床栄養管理特論		2	
(生活デザイン部門)			
生活文化学特別演習（生活デザイン分野）		8	
生活文化学特別研究（生活デザイン分野）		8	
(健康栄養部門)			
生活文化学特別演習（健康栄養分野）		8	
生活文化学特別研究（健康栄養分野）		8	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆生活文化学専攻

中学校教諭専修免許（社会）に係る「教科に関する科目」

高等学校教諭専修免許（公民）に係る「教科に関する科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
現代生活論Ⅱ		2	選択科目より24単位以上を修得すること。
学校教育論特講		2	
教育制度論特講		2	
比較行動論特講		2	
行動発達論特講		2	
社会学特講A		2	
社会学特講B		2	
生活文化学特別演習（人間関係分野）		8	
生活文化学特別研究（人間関係分野）		8	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

◇人間文化学研究科 ◆生活文化学専攻

栄養教諭専修免許に係る「栄養に係る教育に関する科目」および「それに準ずる科目」

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		要 件
	必修	選択	
児童健康問題特論		2	選択科目より24単位 以上を修得すること。
地域食育実践学特論		2	
学校栄養教育実践特論		2	
食文化特論		2	
小児医学特論		2	
栄養疫学特論		2	
運動処方学特論		2	
行動学特論		2	
食品機能論		2	
栄養教育特論		2	
調理科学特論		2	
栄養機能科学特論		2	
食品栄養特論		2	

※開講年度等については各研究科専攻の科目別配当表を参照してください。

2. 建築士試験の受験資格にかかる大学院での実務経験について

建築士法では、国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めて大学等を卒業した者で、その卒業後建築に関する実務経験を所定の年限以上有する者に、建築士試験の受験資格が与えられることになっています。

本学では、環境科学研究科環境計画学専攻で開講されている以下の科目について、所定の単位を取得すれば、建築士受験資格での「実務経験1年」として認められます。

授業科目の名称	単位数		必要単位数
	選択必修	選択	
環境造形特論		2	8単位以上
建築設計特論		2	
建築デザイン特論		2	
建築計画特論		2	
居住環境工学		2	
建築構造特論		2	
建築技術特論		2	
環境計画学特別演習ⅠB		4	4単位
環境計画学特別演習ⅡB		4	4単位

3. 近江環人（コミュニティ・アーキテクト）の称号取得について

コミュニティ・アーキテクト(近江環人)とは、湖国近江の風土、歴史、文化を継承し、環境と調和した循環型地域社会を形成するために、地域診断(環境、防災、土地利用、景観、資源、エネルギー等)からまちづくり(コミュニティ活性化、環境改善、市街地再生、地域文化育成等)への展開をオーガナイズする新たな職能として定義し、滋賀県立大学が称号を付与するものです。

大学院全研究科共通の副専攻として設置される近江環人地域再生学座の大学院副専攻コース(本学大学院生)および社会人コース(社会人等)を修了した学生を対象に、検定試験を実施し、合格したものに「コミュニティ・アーキテクト(近江環人)」の称号を付与します。

4. キャリア教育について

みなさんの社会的・職業的自立に向けたキャリア形成意識を涵養するため、本学ではインターンシップを実施しています。

- 1) インターンシップとは、学生が自らの専攻や将来希望する職業に関連した職場で業務を体験することである。本学では、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育み、自己の適性や志向に照らして進路を考え、キャリア意識を高めることを目的に、単位認定型のインターンシッププログラムを実施しています。
- 2) インターンシップの基本理念
 - ① 本学の教育理念「人が育つ」に基づき、学生の「学習」と「社会人としての成長」を促す。
 - ② 社会体験を通じて、学問への社会的要請と意義を理解する。
 - ③ 社会や職業における諸課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を高める。
- 3) インターンシップの基本方針
 - ① 専門知識の有用性や学習を意識づける契機とする。
 - ② ガイダンスを経て、事前研修・就業体験・事後研修を含むものとし、学生のキャリア形成を促進する教
学プログラムの一環である。
- 4) インターンシップの種類
大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本とする。
ほかに、企業・団体が独自に公募するインターンシップに学生が自ら応募する「自由応募型インターンシ
ップ」、研究科・専攻からの紹介で専門的分野の「学部学科・研究科等専門型インターンシップ」がある。
- 5) 単位認定されるインターンシップの内容
 - ① 対象： 大学院博士前期課程 1 回生
 - ② 実施時期： 4 月のガイダンス、6 月～7 月事前研修、夏季休業期間に就業体験、
10 月事後研修（報告会）
 - ③ 授業科目名：
「インターンシップC」（就業体験が 5 日以上である。） 1 単位
「インターンシップD」（就業体験が 10 日以上である。） 2 単位
*自由科目とし、修了要件単位には加えない。
 - ④ 履修登録：受入先決定後行うので Web 登録は不要。インターンシップガイダンスで説明する。
 - ⑤ 保険の加入義務：実習中の事故に備え、全員、賠償責任保険に加入する。
 - ⑥ 成績評価：就業体験に原則として全て出席していることを前提に「事前学習レポート」「実習日誌」
「受入担当者報告書（評価書）」「報告書レポート」の 4 点を総合的に評価する。
 - ⑦ その他：実習にかかる報酬等は支払われない（無報酬である）。交通費、食費は自己負担である。
ただし、受入企業・団体が交通費等を補助する場合は、この限りではない。
 - ⑧ 注意：インターンシップに申込をした後は、特別な事情がない限り辞退できない。

滋賀県立大学インターンシップの流れ

	学生	大学	受入先(企業・団体)
1月～3月	受入問合せ・有無、要件の確認【大学→←受入先】		
4月下旬	ガイダンス・体験者の発表		
	応募票・ガイダンスブック配布【学生←大学】		
5月1日～	応募票受付、申込先の決定(必要に応じて選考)【学生⇄大学】		
5月～6月	申込手続き 5月～6月(順次)		
	申込書(履歴書)・学長への同意書・賠償責任保険確認書(手続)・誓約書 事前レポートの提出【学生→大学】		
	受入の依頼 5月～6月(順次)		
	依頼文書・申込書・誓約書・覚書(協定書)・事前レポート 研修プログラム(様式)の送付【大学→受入先】		
	受入の承諾(選考の場合も)		
	承諾書・研修プログラム・協定書受領【大学←受入先】		
実習プログラム通知【学生←大学】			
7月	事前研修Ⅰ(マナー講座) 6月下旬または7月上旬		
	事前研修Ⅱ(就業体験心得・手続き等確認) 7月下旬		(場合によって打合せ)【受入先と学生】
	実習日誌・その他文書等配布【学生←大学】		
8月～9月	インターンシップ参加	受入先訪問	インターンシップ受入
	実習日誌の記録	就業体験参観等	就業体験指導
	実習報告レポート・(実習日誌)の提出【学生→大学】		
			評価書・実習日誌の送付【大学←受入先】
10月下旬	報告会・グループディスカッション【参加学生全員】		
11月	インターンシップ単位認定		

インターンシップ参加者は、次の①～④に必ず出席すること(必修)

- ① ガイダンス 2回実施(いずれか1回必修)
- ② 事前研修Ⅰ(マナー講座等) 2回実施(いずれか1回必修)
- ③ 事前研修Ⅱ 1回実施(必修)
- ④ 報告会 3回実施(いずれか1回必修)

科目名	インターンシップC	1単位	前期
担当教員	就職指導担当教員		
授業概要	この授業は以下の3セクションから構成される。 1) 事前学習 (学内): 事前レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。 2) 就業体験 (学外): 同一企業・団体等で5日以上9日間までの就業体験をする。 3) 事後学習 (学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。		
到達目標	就業体験することを通して、勤労観や社会感を育む。 自己の適性や志向に照らして進路を考える。		
成績評価	就業体験に原則として全て参加していることを前提に、事前レポート20%、就業体験(実習日誌を含む)50%、実習レポート30%		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: ビジネスマナー研修テキストを配付		
履修資格			

科目名	インターンシップD	2単位	前期
担当教員	就職指導担当教員		
授業概要	この授業は以下の3セクションから構成される。 1) 事前学習 (学内): 事前レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。 2) 就業体験 (学外): 同一企業・団体等で10日間以上までの就業体験をする。 3) 事後学習 (学内): 実習報告レポートの提出と報告会に出席する。		
到達目標	就業体験することを通して、勤労観や社会感を育む。 自己の適性や志向に照らして進路を考える。		
成績評価	就業体験に原則として全て参加していることを前提に、事前レポート20%、就業体験(実習日誌を含む)50%、実習レポート30%		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: ビジネスマナー研修テキストを配付		
履修資格			

科目名	ナノテクノロジーキャリアアップ特論	2単位	前期
担当教員	柳澤 淳一		
授業概要	ナノテクノロジー関連分野で豊富な学識と経験を持つ社会人を各回ごとに講師に招いて大阪大学で開講される「ナノテクキャリアアップ特論」の講義を、ライブ配信システムを用いて本学でも新たな講義として開講し、講義を聴くとともに講師への質疑応答をその場で行なう。		
到達目標	(1)社会におけるナノテクノロジーの活用や課題の最先端の実状が理解できる。 (2)日々の学業や研究活動の位置付け、あるいは社会におけるナノテクノロジーの重要性が理解できる。		
成績評価	各回の講義から自身が学んだ内容等のレポートを毎回課し、本学の担当者が評価する。講義中に講師へ質問することも評価に加える。 なお、出席が10回に満たない場合は評価の対象としない。		
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 使用しない。必要な講義資料は事前に各自でダウンロードしてもらう。		
履修資格			

【索 引】

	科目名	担当教員	頁
E	Environmental Sciences in Japan	井手 慎司・村上 修一・高橋 卓也 ほか	19
G	GIS／リモートセンシング論	岩間 憲治・井上 一字※	19
J	Japanese Culture and Civilization	石田 法雄※・富島 義幸※・Walter Klinger ほか	86
N	NC工作機械	未定	52
あ	アジア考古学A	定森 秀夫・濱崎 一志	86
	アジア考古学B	定森 秀夫・濱崎 一志	86
	アジア・地域文化論特別演習	専攻教員	172
	アジア・地域文化論特別研究	専攻教員	172
い	遺伝子生化学	松岡 健※	52
	異文化接触論	呉 凌非・Walter Klinger・小栗 裕子 ほか	87
	インターンシップC	就職指導担当教員	188
	インターンシップD	就職指導担当教員	188
う	運動処方学特論	未定	87
え	栄養疫学特論	村上 健太郎	87
	栄養応答論	福渡 努	88
	栄養機能科学特論	吉田 宗弘※・渡辺 達夫※・吉村 徹※	88
	栄養教育特論	廣瀬 潤子	88
	栄養制御論	柴田 克己	89
	エコ・テクノロジー特論	山根 浩二・上田 洋平・河崎 澄 ほか	149
お	応用メカトロニクス論(2単位)	安田 寿彦・山野 光裕	52
	応用流体機械	南川 久人	53
	応用流体力学	安田 孝宏	53
	音響工学	坂本 眞一	53
か	化学物質動態論	須戸 幹	19
	確率過程論	宮城 茂幸	54
	画像情報処理	畑中 裕司	54
	家族看護学特論	植村 小夜子・古株 ひろみ	126
	学校栄養教育実践特論	大谷 貴美子※	89
	学校教育論特講	木村 裕	89
	荷電粒子ビーム工学	柳澤 淳一	54
	環境意匠特別演習Ⅰ	専攻教員	156
	環境意匠特別演習Ⅱ	専攻教員	156
	環境意匠特別研究	専攻教員	156
	環境意匠特論	専攻教員	157
	環境開発論	高橋 卓也・未定	20
	環境科学特論	専攻教員	157
	環境機能材料	北村 千寿	55
	環境計画学特別演習ⅠA(環境意匠)	専攻教員	20
	環境計画学特別演習ⅠB(環境意匠)	専攻教員	20
	環境計画学特別演習ⅡA(環境意匠)	専攻教員	21
	環境計画学特別演習ⅡB(環境意匠)	専攻教員	21
	環境計画学特別演習Ⅲ(地域環境経営)	専攻教員	21
	環境計画学特別演習Ⅳ(地域環境経営)	専攻教員	22
	環境計画学特別研究Ⅰ(環境意匠)	専攻教員	22
	環境計画学特別研究Ⅱ(環境意匠)	専攻教員	22
	環境計画学特別研究Ⅰ(地域環境経営)	専攻教員	23
	環境計画学特別研究Ⅱ(地域環境経営)	専攻教員	23
	環境政策形成過程論	松本 健一・平山 奈央子	23
	環境設計特論	川井 操	24
	環境造形特論	松岡 拓公雄	24
	環境動態学特別演習Ⅰ	専攻教員	24
	環境動態学特別演習Ⅱ	専攻教員	25
	環境動態学特別研究Ⅰ	専攻教員	25
	環境動態学特別研究Ⅱ	専攻教員	25
	環境動態学プレゼンテーションⅠ	専攻教員	26
	環境動態学プレゼンテーションⅡ	専攻教員	26
	環境リスク論	井手 慎司	26
	看護英語論文入門Ⅰ	安原 治	126

	科目名	担当教員	頁
か	看護英語論文入門Ⅱ	安原 治	126
	看護管理論(大学院)	窪田 好恵・米田 照美	127
	看護技術学演習	伊丹 君和	127
	看護技術学特論	伊丹 君和	127
	看護教育論	岩脇 陽子※・滝下 幸栄※	128
	看護研究方法論Ⅰ	甘佐 京子・渡邊 香織・浅野 弘明※・古株 ひろみ	128
	看護研究方法論Ⅱ	糸島 陽子・横井 和美・荒川 千登世	128
	看護政策論	小林 孝子	129
	看護理論	窪田 好恵	129
	看護倫理	糸島 陽子	129
	環琵琶湖地域論A	水野 章二・武田 俊輔・東 幸代	90
	環琵琶湖地域論B	水野 章二・武田 俊輔・東 幸代	90
	環琵琶湖保存修景計画論A	濱崎 一志・石川 慎治	90
	環琵琶湖保存修景計画論B	濱崎 一志・石川 慎治	91
き	機械運動論	栗田 裕	55
	機械工学特論	専攻教員	165
	機械システム工学特別演習(1回生)	専攻教員	55
	機械システム工学特別演習(2回生)	専攻教員	56
	機械システム工学特別実験(1回生)	専攻教員	56
	機械システム工学特別実験(2回生)	専攻教員	56
	機械システム工学特論	専攻教員	165
	機能界面化学	秋山 毅	57
	基盤看護学特別研究	専攻教員	130
	教育制度論特講	杉浦 由香里	91
	強度設計工学	田邊 裕貴	57
	居住環境工学	伊丹 清	27
	魚類栄養学特論	杉浦 省三	27
	金属機能材料プロセッシング	宮村 弘	57
	金属材料物性	未定	58
け	継続療養特論	森 敏	130
	形態機能・生体機構学演習	未定	130
	形態機能・生体機構学特論	未定	131
	研究方法特論	専攻教員	172
	健康運動学特論	中井 直也	91
	健康栄養論特別演習	専攻教員	173
	健康栄養論特別研究	専攻教員	173
	現代数理概論	未定	58
	現代生活論Ⅱ	大橋 松行・竹下 秀子・細馬 宏通・松嶋 秀明	92
	現代中国特論A	横田 祥子	92
	現代中国特論B	横田 祥子	92
	建築技術特論	陶器 浩一	27
	建築計画特論	Jimenez Verdejo Juan Ramon	28
	建築構造特論	高田 豊文	28
	建築史特論	未定	28
	建築設計特論	芦澤 竜一	29
	建築デザイン特論	高柳 英明	29
	建築パッシブデザイン特論	未定	29
	建築論特論	迫田 正美	30
こ	考現学・保存修景論特別演習	専攻教員	173
	考現学・保存修景論特別研究	専攻教員	174
	公衆衛生看護学演習	小林 孝子	131
	公衆衛生看護学実践演習	小林 孝子	131
	公衆衛生看護学特論	小林 孝子	132
	公衆衛生看護技術特論	小林 孝子・植村 小夜子	132
	公衆衛生看護技術演習	小林 孝子・植村 小夜子	132
	構造・化学機能セラミックス	吉田 智	58
	構造設計特論	永井 拓生	30
	酵素化学	北村 千寿・竹原 宗範	59
	行動学特論	上野 有理・細馬 宏通	93

	科目名	担当教員	頁
こ	行動発達論特講	竹下 秀子	93
	高分子固体構造	竹下 宏樹	59
	高分子材料合成	谷本 智史	59
	高分子材料物性	徳満 勝久	60
	国際環境マネジメント特論	丸尾 雅啓・原田 英美子・高橋 卓也	30
	国際農林環境政策論	高橋 卓也・増田 清敬	31
	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ	鵜飼 修・上田 洋平	149
	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ	松岡 拓公雄・上田 洋平・河崎 澄 ほか	149
	コミュニティ・マネジメント特論	鵜飼 修・近藤 隆二郎・細馬 宏通・上田 洋平	150
	コンサルテーション論	甘佐 京子・吉田 智美※	133
	混相流工学	南川 久人	60
さ	最適化システム論(1単位)	安田 寿彦	60
	材料科学特別演習(1回生)	専攻教員	61
	材料科学特別演習(2回生)	専攻教員	61
	材料科学特別実験(1回生)	専攻教員	61
	材料科学特別実験(2回生)	専攻教員	62
	材料プロセス熱力学	松岡 純	62
	参加型計画運営論	近藤 隆二郎・小野 奈々	31
し	資源循環と国際貿易	林 幸司・村上 一真	31
	持続的生物生産論	泉 泰弘・畑 直樹	32
	児童健康問題特論	奥村 万寿美	93
	社会学特論A	武田 俊輔	94
	社会学特論B	武田 俊輔	94
	社会学特講A	丸山 真央・大橋 松行・中村 好孝	94
	社会学特講B	大橋 松行・中村 好孝・丸山 真央	95
	住環境デザイン特論A	宮本 雅子	95
	住環境デザイン特論B	藤木 庸介	95
	住環境デザイン特論C	佐々木 一泰	96
	集水域環境論	後藤 直成・肥田 嘉文・細井 祥子	32
	集積システム設計論	岸根 桂路	62
	生涯健康看護学特別研究	専攻教員	133
	小児医学特論	多賀 崇※・高野 知行※・松井 克之※・澤井 俊宏※	96
	小児家族看護学演習	古株 ひろみ	133
	小児家族看護学特論	古株 ひろみ	134
	食品栄養特論	小西 洋太郎※・伏木 亨※・木戸 康博※	96
	食品機能論	今井 絵里	97
	植物遺伝資源論	清水 顕史・原田 英美子	32
	植物資源管理論	泉 泰弘・上町 達也	33
	食文化特論	堀越 昌子※	97
	女性史・ジェンダー論A	京楽 真帆子	97
	女性史・ジェンダー論B	京楽 真帆子	98
	人工知能	奥村 進	63
	信頼性工学	高松 徹	63
	森林生態学特論	野間 直彦・未定	33
	人類科学特論	未定	134
す	水圏生態系動態論	伴 修平・永淵 修・北澤 大輔※	33
	スピリチュアルケア展開演習	甘佐 京子・牧野 耕次	134
せ	生活デザインプロジェクト演習	専攻教員	98
	生活デザイン論特別演習	専攻教員	174
	生活デザイン論特別研究	専攻教員	174
	生活文化学特別演習(健康栄養分野)(1回生)	専攻教員	98
	生活文化学特別演習(健康栄養分野)(2回生)	専攻教員	99
	生活文化学特別演習(生活デザイン分野)(1回生)	専攻教員	99
	生活文化学特別演習(生活デザイン分野)(2回生)	専攻教員	99
	生活文化学特別演習(人間関係分野)(1回生)	専攻教員	100
	生活文化学特別演習(人間関係分野)(2回生)	専攻教員	100
	生活文化学特別研究(健康栄養分野)(1回生)	専攻教員	100
	生活文化学特別研究(健康栄養分野)(2回生)	専攻教員	101
	生活文化学特別研究(生活デザイン分野)(1回生)	専攻教員	101

	科目名	担当教員	頁
せ	生活文化学特別研究(生活デザイン分野)(2回生)	専攻教員	101
	生活文化学特別研究(人間関係分野)(1回生)	専攻教員	102
	生活文化学特別研究(人間関係分野)(2回生)	専攻教員	102
	生産環境管理論	鈴木 一実・高倉 耕一	34
	精神看護援助方法論	甘佐 京子・牧野 耕次	135
	精神看護関連技法演習	甘佐 京子・牧野 耕次	135
	成人継続看護学演習	糸島 陽子・横井 和美・荒川 千登世	135
	成人継続看護学特論	糸島 陽子・横井 和美・荒川 千登世	136
	成人健康支援演習	森 敏	136
	成人健康支援特論	森 敏	136
	精神の健康生活評価法	未定	137
	生体感染特論	未定	137
	生体機能化学特論	井上 善晴※	63
	生態系影響論	浦部 美佐子・丸尾 雅啓	34
	生態系保全特別演習Ⅰ	専攻教員	157
	生態系保全特別演習Ⅱ	専攻教員	158
	生態系保全特別研究	専攻教員	158
	生態系保全特別講義	未定	34
	生態系保全特論	専攻教員	158
	生物圏環境特別演習Ⅰ	専攻教員	159
	生物圏環境特別演習Ⅱ	専攻教員	159
	生物圏環境特別研究	専攻教員	159
	生物圏環境特論	専攻教員	160
	生物圏環境論	堀野 治彦※・柳 哲雄※	35
	生物社会共生論	西田 隆義	35
	生物生産特別演習Ⅰ	専攻教員	160
	生物生産特別演習Ⅱ	専攻教員	160
	生物生産特別研究	専攻教員	161
	生物生産特論	専攻教員	161
	生物多様性論	本庄 三恵※	35
	切削加工学	未定	64
	先端工学特別演習	専攻教員	165
	先端工学特別研究	専攻教員	166
	先端工学特論	専攻教員	166
	先端複合材料科学	嘉数 隆敬※	64
	先端無機材料科学	高橋 亮治※	64
	先端有機材料科学	山下 敬郎※	65
そ	組織行動マネジメント論特論	未定	137
	組織行動マネジメント論演習	未定	138
ち	地域環境経営特別演習Ⅰ	専攻教員	161
	地域環境経営特別演習Ⅱ	専攻教員	162
	地域環境経営特論	専攻教員	162
	地域環境経営特別研究	専攻教員	162
	地域再生学特論	上田 洋平・布野 修司・濱崎 一志	150
	地域再生システム特論	鶴飼 修・上田 洋平・轟 慎一	150
	地域産業論A	塚本 礼仁	102
	地域産業論B	塚本 礼仁	103
	地域資源経営論	増田 佳昭	36
	地域食育実践学特論	小澤 恵子	103
	地域診断法特論	鶴飼 修・高田 豊文・水野 章二	151
	地域文化遺産調査・情報論	濱崎 一志・石川 慎治	103
	地域文化学特別演習(1回生)	専攻教員	104
	地域文化学特別演習(2回生)	専攻教員	104
	地域文化学特別研究(1回生)	専攻教員	104
	地域文化学特別研究(2回生)	専攻教員	105
	地圏環境論	倉茂 好匡・堂満 華子	36
	中国文化史特論	辻 正博※	105
	朝鮮史特論A	河 かおる	105
	朝鮮史特論B	田中 俊明	106

	科目名	担当教員	頁
ち	超伝導デバイス	作田 健	65
	調理科学特論	小川 正※	106
て	電子・光機能セラミックス	吉田 智	65
	電磁応用工学	福岡 克弘	66
	電子システム工学特別演習(1回生)	専攻教員	66
	電子システム工学特別演習(2回生)	専攻教員	66
	電子システム工学特別実験(1回生)	専攻教員	67
	電子システム工学特別実験(2回生)	専攻教員	67
	電子システム特論	専攻教員	166
	電子情報特論	専攻教員	167
	電子制御論	稲葉 博美	67
	天然高分子材料	廣川 能嗣	68
	電力エネルギー工学	乾 義尚	68
と	道具デザイン特論A	面矢 慎介	106
	道具デザイン特論B	印南 比呂志	107
	道具デザイン特論C	南 政宏	107
	動的システム論	大浦 靖典	68
	動物生産環境論	平山 琢二	36
	都市計画特論	轟 慎一	37
	土壌圏環境論	皆川 明子	37
	トライボロジー特論	熊田 喜生※・神谷 荘司※	69
	トランス・ヒマラヤ文化論	棚瀬 慈郎	107
な	ナノテクノロジーキャリアアップ特論	柳澤 淳一	188
に	日本考古学A	定森 秀夫・中井 均・花田 勝広※	108
	日本考古学B	定森 秀夫・中井 均・花田 勝広※	108
	日本生活文化論	市川 秀之・森 隆男※	108
	日本・地域文化論特別演習	専攻教員	175
	日本・地域文化論特別研究	専攻教員	175
	人間関係論特別演習	専攻教員	175
	人間関係論特別研究	専攻教員	176
ね	熱システム工学	山根 浩二	69
	燃焼工学	河崎 澄	69
は	バイオマスエネルギー変換論	山根 浩二	70
	廃棄物とリサイクル	金谷 健	37
ひ	比較行動論特講	細馬 宏通・上野 有理	109
	光デバイス	山田 逸成	70
	光物性特論	一宮 正義	70
	光量子物性論	奥 健夫	71
	美術史特論A	亀井 若菜	109
	美術史特論B	亀井 若菜	109
	非晶質無機材料	松岡 純	71
	微生物学特論	入江 俊一・泉津 弘佑	38
	非線形制御論	安田 寿彦	71
	病原微生物制御・疫学演習	未定	138
	病原微生物制御・疫学特論	未定	138
	病態栄養学特論	矢野 仁康	110
ふ	フィールド心理学特講	松嶋 秀明	110
	複合材料工学	山下 義裕	72
	複雑ネットワーク概論	酒井 道	72
	服飾デザイン特論A	森下 あおい	110
	服飾デザイン特論B	横田 尚美	111
	物質循環論	永淵 修・未定・倉茂 好匡・尾坂 兼一	38
ほ	北東アジア地域史A	田中 俊明	111
	北東アジア地域史B	Borjigin Burensain・河 かおる	111
	母性看護学演習	古川 洋子・渡邊 香織	139
	母性看護学特論	渡邊 香織・古川 洋子	139
ま	マーケティング特論	山田 歩	112
	慢性看護学課題研究	横井 和美・荒川 千登世・糸島 陽子	139
	慢性看護学実習 I	横井 和美・未定	140

	科目名	担当教員	頁
ま	慢性看護学実習Ⅱ	横井 和美・未定	140
	慢性看護学特論A	横井 和美・未定・荒川 千登世・糸島 陽子	140
	慢性看護学特論B	横井 和美・未定・角野 文彦※ ほか	141
	慢性看護支援論A	横井 和美・未定・荒川 千登世・糸島 陽子	141
	慢性看護支援論B	横井 和美・荒川 千登世・糸島 陽子	141
	慢性看護支援論C	横井 和美・未定・荒川 千登世 ほか	142
	慢性看護支援論演習	横井 和美・未定・荒川 千登世 ほか	142
み	水資源環境論	金木 亮一※	38
む	無機材料特論	専攻教員	167
	無機ナノ粒子工学	Balachandran Jeyadevan	72
め	メンタルケア展開演習	未定	142
も	モンゴル・ディアスポラ論A	Borjigin Burensain・島村 一平	112
	モンゴル・ディアスポラ論B	Borjigin Burensain・島村 一平	112
や	薬物治療学	土田 勝晴※・竹内 孝治※	143
ゆ	有機材料設計	井上 吉教	73
	有機材料特論	専攻教員	167
よ	ヨーロッパ地域文化論	外狩 章夫・吉村 淳一・山本 薫 ほか	113
ら	ランドスケープデザイン特論	村上 修一	39
り	陸面過程論	大久保 卓也	39
	リサーチ・ワークショップ	専攻教員	176
	臨床栄養管理特論	奥村 万寿美	113
	臨床対人関係特論	未定	143
ろ	老年看護援助展開演習	平田 弘美	143
	老年看護援助論	望月 紀子	144
	老年健康生活特論	望月 紀子	144
	老年健康生活評価演習	平田 弘美	144
	老年サポート技術演習	望月 紀子	145
	ロバスト設計論	奥村 進	73

